

鳴門市役所東側付属棟改修工事

図面番号	図面名称	図面番号	図面名称	図面番号	図面名称	図面番号	図面名称
A- 01	特記仕様書(1)	A- 26	事務所棟 R階 梁伏図	S- 01	倉庫棟 地盤改良図	E- 01	電気設備工事 特記仕様書
A- 02	特記仕様書(2)	A- 27	事務所棟 現況 建具配置図	S- 02	倉庫棟 基礎伏図	E- 02	盤類結線図 改修前後
A- 03	特記仕様書(3)	A- 28	事務所棟 建具リスト	S- 03	倉庫棟 2階梁伏図	E- 03	凡例
A- 04	特記仕様書(4)	A- 29	事務所棟 金庫扉詳細図	S- 04	倉庫棟 軸組図(1)	E- 04	照明器具姿図 改修前後
A- 05	特記仕様書(5)	A- 30	事務所棟 金庫廻り詳細図	S- 05	倉庫棟 軸組図(2)	E- 05	電灯設備 改修後
A- 06	配置図、付近見取図	A- 31	事務所棟 現況 0Aフロア割付図	S- 06	倉庫棟 鉄骨架構図(1)	E- 06	電灯設備 改修前
A- 07	事務所棟 仕上表	A- 32	事務所棟 防犯スクリーン詳細図	S- 07	倉庫棟 鉄骨架構図(2)	E- 07	コンセント設備 改修後
A- 08	事務所棟 現況・撤去 平面図	A- 33	事務所棟 ハイカウンター詳細図	S- 08	倉庫棟 鉄骨架構図(3)	E- 08	コンセント設備 改修前
A- 09	事務所棟 改修後 平面図	A- 34	倉庫棟 仕上表	S- 09	倉庫棟 開口部廻り軸組図ほか	E- 09	弱電設備 改修後
A- 10	事務所棟 立面図	A- 35	倉庫棟 現況・撤去 平面図	S- 10	鉄骨構造基準図7-1	E- 10	弱電設備 改修前
A- 11	事務所棟 現況・撤去 矩計図(1)	A- 36	倉庫棟 改修後 平面図	S- 11	鉄骨構造基準図7-2	E- 11	(倉庫)電灯設備 改修後
A- 12	事務所棟 改修後 矩計図(1)	A- 37	倉庫棟 増築部 立面図	S- 12	鉄骨構造基準図7-3	E- 12	(倉庫)電灯設備 改修前
A- 13	事務所棟 現況・撤去 矩計図(2)	A- 38a	倉庫棟 立面図(1)	S- 13	鉄骨構造基準図7-4	E- 13	(倉庫)弱電設備 改修前
A- 14	事務所棟 改修後 矩計図(2)	A- 38b	倉庫棟 立面図(2)	S- 14	鉄骨構造基準図7-5		
A- 15	事務所棟 断面詳細図(1)	A- 39	倉庫棟 現況・撤去 矩計図(1)	S- 15	鉄骨構造基準図7-6	W- 01	機械設備工事 特記仕様書
A- 16	事務所棟 改修後 1階平面詳細図	A- 40	倉庫棟 改修後 矩計図(1)	S- 16	鉄骨構造基準図7-7	W- 02	給排水衛生設備 1階 改修前後
A- 17	事務所棟 改修後 2階平面詳細図	A- 41	倉庫棟 現況・撤去 断面詳細図	S- 17	P柱アンカーボルト標準図	W- 03	冷暖房設備 改修後
A- 18	事務所棟 現況・撤去 展開図(1)	A- 42	倉庫棟 改修後 断面詳細図	S- 18	合成スラブデッキプレート標準図	W- 04	冷暖房設備 改修前
A- 19	事務所棟 現況・撤去 展開図(2)	A- 43	倉庫棟 建具リスト			W- 05	換気設備 改修後
A- 20	事務所棟 現況・撤去 展開図(3)	A- 44	倉庫棟 部分詳細図			W- 06	換気設備 改修前
A- 21	事務所棟 改修後 展開図(1)						
A- 22	事務所棟 改修後 展開図(2)						
A- 23	事務所棟 改修後 展開図(3)						
A- 24	事務所棟 現況・撤去 天井伏図						
A- 25	事務所棟 改修後 天井伏図						

1章 一般共通事項

6. 化学物質を発散する建築材料等
- ◎本工事に使用する建築材料は、設計図書に規定する所要の品質及び性能を有するものとし、次の1）から5）を満たすものとする。
- 合板、木質系フローリング、構造用合板、集成材、単板積層材、MDF、パーティクルボード、その他の木質建材、ウレタン樹脂板及び仕上げ塗料は、ホルムアルデヒドを発散しないか、発散が極めて少ないものとする。
 - 保温材、緩衝材、断熱材は、ホルムアルデヒド及びアミンを発散しないか、発散が極めて少ないものとする。
 - 接着剤は、アクリル酸エステル系及びアクリル酸エステル系を含有しない揮発性の可塑剤を使用し、ホルムアルデヒド、7エトキシベンゼン、トルエン、キシレン、エチルベンゼンを発散しないか、発散が極めて少ないものとする。
 - 塗料は、ホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼンを発散しないか、発散が極めて少ないものとする。
 - 1）、3）及び4）の建築材料等を使用して作られた家具、書架、実験台、その他の什器等は、ホルムアルデヒドを発散しないか、発散が極めて少ないものとする。

7. 施 工
- ◎工事現場監督員は常駐できないので、疑問な点、その他打合せ決定を要する事項は、監督員の出向いた時に問い合わせ、工事に遺漏のないようにすること。
- ◎施工にあたっては、設計図書に従って忠実に施工すること。不都合な工法等を発見した場合は、工事が進行済みであっても根本的な手直しを命ずるので、注意して施工すること。手直し工事は、請負業者の責任において実施し、それに要する費用は請負業者の負担とする。
- ◎工事期間については、契約の工期を順守すること。
- ◎工事の円滑な進行を計るため、監督員の指示により、工事期間中定期に、各工事責任者を招集し、打ち合わせを行うものとする。
- ◎工事現場監督員は常駐できないので、疑問な点、その他打合せ決定を要する事項は、監督員の出向いたに問い合わせ、工事に遺漏のないようにすること。

- ◎施工にあたっては、設計図書に従って忠実に施工すること。不都合な工法等を発見した場合は、工事が進行済みであっても根本的な手直しを命ずるので、注意して施工すること。手直し工事は、受注者の責任において実施し、それに要する費用は受注者の負担とする。

◎他工事と取り合い区分

項 目	建築工事	電気工事	管 工 事	空調工事	そ の 他
梁、壁、床スリープ入れ		○	○	○	
同上穴埋補修		○	○	○	
床開口補強(鉄筋)	○				
同上(リンブレン等)					
床、天井点検口	○				
設備機器天井開口塞出		○	○	○	
同上切込み及び開口補強	○				
衛生器具取付のブロック壁			○		
空洞部分のモルタル埋					
機種(汎まで)					
壁、便器等の箱入れ		○	○	○	
同上補強	○				
給排水ガ拉里取り付け					
空調機器類の基礎工事					

- ◎他工事と取り合う区分については、設備機器の位置、取り合い等を検討した施工図を提出して、監督員の承認を得ること。
- ◎図中に示された壁、天井に取り付く仕上げ材、手摺、物品、サイン、家具、その他取付に必要な下地、補強等は図面へ記入の有無に関わらず本工事に含むものとし、請負者の責任において強度等をチェックの上、監督員の承諾を得た上で施工するものとする。なお、当該工事に要する費用は請負業者負担とする。
- ◎設備開口補強については、施工に必要なものは図面への記入箇所数の多少に関わらず全て本工事に含むものとする。
- ◎コンクリート、モルタル等の撤去部分の境目は、原則としてダイヤモンドカッター切りとする

8. 技能士の適用
- ◎本工事の施工にあたっては、各工事にかかる当該業種の1級及び2級技能士の有資格者をつとめて活用すること。
9. 工事検査及び技術検査
- ◎鳴門市工事検査規定及び鳴門市工事検査基準に基づき検査を受けること。
- ◎設計図書(各施工計画書を含む)に定められた工程が完了した時、報告書を提出し、監督員の検査を受け、承諾を受けて次の工程に進むこと。
- ◎試験等によらなければ、確認できない工事(製品)については、試験等計画書(施工計画書に記載)を提出し、監督員の承諾を受けて試験を行い、その結果を報告し承認を得ること。
- ◎工事写真の撮影は、国土交通省大臣官庁官庁営繕部監修「差繕工事写真撮影要領」によること。
- ◎工事写真はしゅん工、着工前、機材、施工状況の順に写真帳に整理し、指定の様式1部提出する。しゅん工については、工事目的物の状態が、また、機材、施工状況については、不可視部分の出来形が、写真で的確に確認できること。

区分	分類・規格	提出部数
着工前	カラー・手札版又はサービスサイズ	指示部数
工事中	カラー・手札版又はサービスサイズ	指示部数
竣工	カラー・手札版又はサービスサイズ	指示部数

- ◎工事完成撮影は、専門家に（よる「**とらえない**」）ものとする。

- ◎竣工時、請負業者は、監督員の指示により、CADデータ・竣工図及び使用材料一覧表（1部、うち電子データ1部）、保全に関する資料等を提出すること。竣工図はA2版2部、A3版1部とする。竣工図は関係図面(原図貸与)を修正して作成すること。竣工図データは、関係図面（データ貸与）を修正して作成し、CD-Rに保存したものである。

- ◎対象物
- 工事目的物及び検査済材料（支給材料を含む）について付保すること。
- ◎付保除外工事
- 次に掲げる単独工事については、付保を除外できる。
- 杭及び基礎工事
 - コンクリート躯体工事
 - 屋外付帯工事
 - その他実状を判断のうえ必要がないと認めた場合（外壁補修工事等）
- ◎付保する時期及び金額
- 鉄筋コンクリート造の場合は躯体工事完了時に、木造及び鉄骨造の場合は基礎工事完了時に、請負金額相当額を付保する。また、模様替え工事等については、工事着手時に請負金額相当額を付保する。
- ◎保険終期
- 工事完成期日に14日を加えた期日とする。なお、工事延伸した場合には、保険の期間も延長すること。
- ◎その他
- 建設工事保険に付保した場合は、火災保険に付保したものとみなす。
 - 請負業者賠償責任保険に付保すること。
 - 付保する時期以降に出来高払いを行う場合は、請負者は保険契約の証券の写しを出来高払いの書類に添付すること。

12. 室内空気中の化学物質の濃度測定
- ◎建物の用途により以下の物質の室内濃度を測定すること。
- 学校以外：ホルムアルデヒド・トルエン・キシレン・スチレン・エチルベンゼン
- 採取器具は請負業者にて用意すること。
- | 階 | 測定対象室 | 測定箇所数 | 階 | 測定対象室 | 測定箇所数 |
|----|-------------------------|-------------------|----|---------------|------------|
| 1階 | 土木課分室兼倉庫
会議室
女子分団 | 1箇所
1箇所
1箇所 | 2階 | 職員組合
従業員組合 | 2箇所
1箇所 |

- 測定は、次のいずれかにより行う。
- 住宅の品質確保の促進等に関する法律に基づく評価方法基準(平成13年 国土交通省告示第1347号)第56-~3(3)「ロ 測定の方法」において定められた方法
 - パッシブ型採取機器を用いる方法
 - パッシブ型採取機器を用いる場合は、次の要領により行う。
 - 30分間換気

測定対象室のすべての窓及び扉(造り付け家具、押入等の収納部分の扉を含む)を開放し、30分換気する。
 - 5時間閉鎖
 - の後、測定対象室の全ての窓及び扉を5時間閉鎖する。ただし、造り付け家具、押入等の収納部分は解放したままとする。
 - 測定
 - の状態のままで測定する。
 - 測定時間は、原則として24時間とする。ただし、工程等の都合により、24時間測定が行えない場合は、8時間測定とする。なお、8時間測定の場合は、午後2時～3時が測定時間の中央となるよう、10時30分～18時30分までの時間帯で測定する。
 - 測定回数は1回とし、複数回の測定は不要とする。
 - ※(1)、(2)、(3)において、換気設備又は空気調和設備は稼働させたままとする。ただし、局所的な換気扇等で常時稼働させないものは停止させたままとする。
 - 測定結果の提出

測定後、測定結果を監督員に提出すること。

2章 改修仮設工事

1. 一般事項
- ◎着工に先立ち、敷地境界、既存構造物及び地下埋設物の確認、近隣建築物及び工作物の現状確認、排水経路及び配水管の流末処理の確認並びに敷地周辺の状況確認を行うこと。
2. ベンチマーク
- ◎監督員の指示により設計図書を参照にして既設に合わせること。
3. 足場等
- ◎仮設機材及び経年仮設機材の使用については、次の規格又は認定基準(以下「規格等」という。)に適合するものを使用すること。
- 労働安全衛生法に基づく構造規格
 - (社)仮設工業会の認定基準
- また、厚生労働省の「経年仮設機材の管理指針」の基づく(社)仮設工業会の「通用工場制度」による登録工場及び指定工場等の活用に努めるとともに、前記規格等に定めるもの以外の使用に当たってはあらかじめ強度等を確認した書類を監督員に提出し、承諾を得ること。
- ◎外部足場（種類：ブラケット一側足場）
- 壁つなぎ間隔(水平方向:7.5m以下、鉛直方向:5.5m以下)
- ◎内部足場　　一般部（種類：脚立足場）
- ◎仮囲い仕様：波形亜鉛鉄板H=1.8(m) (図示)
- ◎仮囲い等は関係者より要望のあった場合は速やかに移動、配置換えを行うこと。
- ◎ゲート仕様：キャスターゲート(図示)
- ◎足場等の設置業者は、別契約の関係請負業者に無償で使用させること。また、安全管理も実施すること。

- ◎受注者は、つり足場(ゴンドラのつり足場を除く。)、張出し足場又は高さが5メートル以上の構造の足場の組立て、解体又は変更の作業において、材料、器具、工具等を上げ、又はおろすときは、つり綱、つりの組立て、解体又は変更の作業において、材料、器具、工具等を上げ、又はおろすときは、つり綱、つり袋等を労働者に使用させなければならない。また、作業主任者を選任し、その氏名、職務を掲示すること。
- ◎既存部分はビニルシート等により適切に養生を行うこと。
- ◎既存設備機器類等について、工事期間中に損傷を与えないよう十分に注意し適切な養生を行うこと。
- ◎監督員事務所は設ない。
- ◎既存電力利用(出来る、「**出来ない**」、電力料金(「**有償**」無償))
- ◎既存水利用(出来る、「**出来ない**」、用水料金(「**有償**」無償))　ただし、既存用水は施設管理者と協議できれば可とする。
- ◎同用地は、(図示の場所に「**用意していないので業者にて**」)設けること。

3章 土工事

1. 根切り
- ◎周辺の状況、土質、地下水の状態等に適した工法を採用し、工事中の異常沈下、法面の滑動、その他による災害が発生しないよう、災害防止上必要な処置をすること。
- ◎敷地内に埋設が予想される設備配管類等について十分調査し、支障がないようにすること。
- ◎根切り底は、地盤をかく乱しないよう、手作業(深さ30cm程度)とするか、バケットに特殊アタッチメントを取りつけた機械掘りとする。なお、かく乱した場合は、自然地盤と同等以上の強度となるように適切な処置を定め、監督職員の承諾を受ける。
- ◎工事に支障を及ぼす雨水、わき水等は、適正な排水溝、集水ます等を設置し、支障がないようにすること。
- ◎埋め戻し使用土は〔A種・**B種**・C種・D種〕、盛土使用土は〔**A種**・B種・C種・D種〕はとし、機器により締め固める。
- ◎場外適正処分とする。

T I T L E	D A T E	N O
鳴門市役所東側付属棟改修工事		A-02
N A M E	S C A L E	
特記仕様書(2)		
株式会社 川建設	1級建築士登録 第126265	川端壮一郎

4章 地業工事

- 砂利・砂・割り石及び捨コンクリート地業等

◎材料は、市場品とする。

◎砂利及び砂地業
・砂利は、（切込砂利・切込砕石・再生クラッシャーラン）とする。

種 別	使用部位	厚 さ	粒度範囲
切込砕石	新設F65	100mm	C-30
再生クラッシャーラン	土間コンクリート	120, 150mm	R C-40

・締固めは、ランマー3回突き、振動コンパクター2回締め又は振動ローラー締めとする。締固めによる凹凸は目づぶし砂利で上均しをする。
・厚さが300mmを超える場合は、300mmごとに締固めを行う。

◎締め固め機械の選定に当たっては、地質の状況を検討し監督員の承諾を得ること。

◎床下防湿層は、ポリエチレンフィルム厚さ0.15mm以上、重ね合せ及び基礎梁際のみみ込みは250mm、断熱材のある場合のみみ込みは400mm以上とする。

◎防湿層の位置は、土間スラブの直下とする。ただし、断熱材がある場合は、断熱材の直下とする。

3章 鉄筋工事

- 材料

規格番号	規格名称	種類の記号	径 (mm)
JIS G 3112	鉄筋コンクリート用棒鋼	S D 2 9 5 A	D10、D13、16
-		S D 3 4 5	D19
-	建築基準法の規定に基づき認定を受けた鉄筋	-	
JIS G 3551	溶接金網及び鉄筋格子	網目の形状：4'×5'寸法：150目	径：6φ

- 材料試験

◎材料試験は行わない。
ただし、規格証明書を提出し、監督員の承諾を得ること。

- 加工及び組立て

◎鉄筋の継手は（**重ね継手**）・**D19以上はガス圧接継手** ・機械式継手 ・溶接継手）とする。
◎結束線の端部は内側に折り曲げる。

- 鉄筋のかぶり厚さ及び間隔

◎柱、梁の鉄筋の加工に用いるかぶり厚さは、標仕表5.3.6の数値に10mmを加えた数値とする。
◎各部の配筋は、図示による。図示されていない場合は、標仕参考図【1節-基礎及び基礎梁の配筋】～【7節-梁貫通孔その他配筋】による。

- 配筋検査

◎主要な配筋は、コンクリート打込みに先立ち、種類、径、数量、かぶり、間隔、位置等について、監督職員の検査を受ける。

- あと施工アンカー工事（耐震改修工事に伴うものを除く）

◎あと施工アンカー作業における技能者は、あと施工アンカー工事の施工に関する十分な経験と技能を有するものとし、これらを証明する資料を提出し、監督員の承諾を受けること。

◎埋込み配管等に当たった場合は、直ちに穿孔を中止し、監督員に報告し指示を受けること。

◎鉄筋等に当たった場合は、穿孔を中止し、付近の位置に再穿孔を行うこと。中止した孔は、モルタルで充填すること。

◎あと施工アンカーは（**金属系アンカー** ・接着系アンカー ）とする。

◎施工確認試験を（**行う** ・**行わない**）。

◎**フカ**確認強度 （既存コクリート設計計基準強度＝18.0（N/mm2）

フカ種類	フカ径及びフカ筋呼び名	有効埋込み長さ	確認引張強度 [単位：KN/本]	備 考
金属系	D10 (SD295A)	40mm	3.42	土間等（共通）

4章 コンクリート工事

- 一般事項

◎設計基準強度

コンクリートの種類	設計基準強度 Fc(N/mm2)	調合管理強度 Fn(N/mm2)	スランプ (cm)	強度試験の有無	種別	気乾単位容積重量 (t/m3)	適用箇所
普通	2 1	2 1 + (S)	1 8	有		2.3t/m3程度	鉄骨架台基礎、床
普通	1 8	1 8 + (S)	1 5	無		2.3t/m3程度	土間コクリト復旧部

◎構造体コンクリートの調合管理強度は、設計基準強度(Fc)に構造体強度補正值(S)を加えた値とする。
なお、構造体強度補正值(S)は、標仕 表6.3.2Iによりセメントの種類及びコンクリートの打込みから材齢28日までの予想平均気温に応じて定める。

◎コンクリートの強度試験
コンクリートの強度試験については、次のとおり取扱うものとする。

・第4週強度確認
原則、第3者機関にて、主任技術者又は現場代理人立会いの上、行うこと。
ただし、第3者機関以外で行う場合は、工事監理者又は監督員立会いの上、行うこととする。
なお、試験機関を選定した際には、すみやかに監督員に報告すること。

- コンクリートの仕上がり

◎コンクリート部材の位置及び断面寸法の許容値は、標仕 表6.2.3Iによる。

◎合板せき板を用いる打放し上げの種別は（ A ・ **B** ・ C ）種とする。

◎コンクリートの仕上がりの平たんさは、標仕 表6.2.5Iによる。

- 普通コンクリート

◎セメントの種類は、（**普通ポルトランドセメント** ・混合セメントA種 ・高炉セメントB種 ・フライアッシュセメントB種 ）とする。

◎骨材は、標仕6.3.1(2)による。

◎細骨材としてフェロニッケルスラグ使用（できる ・ **できない**）。

◎細骨材に含まれる塩化物量は、NaCl換算で0.04%以下とする。

◎コンクリート中の塩化物量は、0.3kg/m53以下とし、試験方法は標仕6.5.4Iによる。

4章 コンクリート工事

- 普通コンクリート

◎試験りは（**行う** ・ **行わない**）。

◎所要空気量は4.5％±1.5％とする。

◎受注者は、コンクリートの使用にあたってアルカリ骨材反応を抑制するため、次の3つの対策の中のいずれか1つについて確認をとらなければならない。

- コンクリート中のアルカリ総量の抑制
アルカリ量が表示されたポルトランドセメント等を使用し、コンクリート1㎡に含まれるアルカリ総量をNa2O換算で3.0kg以下にする。
- 抑制効果のある混合セメント等の使用
JIS R 5211高炉セメントに適合する高炉セメント [B種またはC種] あるいはJIS R 5213フライアッシュセメントに適合するフライアッシュセメント [B種またはC種] もしくは混和材をポルトランドセメントに混入した結合材でアルカリ骨材反応抑制効果の確認されたものを使用する。
- 安全と認められる骨材の使用
骨材のアルカリシリカ反応性試験(化学法またはモルタルバー法)の結果で無害と確認された骨材を用する。
試験方法は、JIS A 1145骨材のアルカリシリカ反応性試験方法(化学法)またはJIS A 5308(レディミクストコンクリート)の付属書7「骨材のアルカリシリカ反応性試験方法(化学法)」、JIS A 1146骨材のアルカリシリカ反応性試験方法(モルタルバー法)またはJIS A 5308(レディミクストコンクリートの付属書8「骨材のアルカリシリカ反応性試験方法(モルタルバー法)」による。

◎混和材料を使用する場合の種類は標仕6.3.1(4)によることとし、監督員の承諾を受けること。

◎コンクリートの打継ぎ目地の寸法は、標仕9.7.3〔目地寸法〕(a) (1)による。

- レディミクストコンクリート工場の指定

- 型枠

◎型 枠は、（**合板** ・金属製 ・樹脂系 ・打込み型 枠 ・ブロック ）とする。

型枠の種類	仕上げ種別	塗装の有無	材質	厚さ	適用箇所
6.8.2 (2) (f)	B種	なし	合板	12mm	鉄骨架台基礎、床

- 無筋コンクリート

◎無筋コンクリートは、次の場合に適用する。
・捨コンクリート
・補強筋を必要としないコンクリート

◎設計基準強度（ 1 8 ）N/mm2 ，スランプ（ 1 5 ）cm

◎適用箇所：捨てコン

5章 鉄骨工事

- 一般事項

◎製作工場は、国土交通大臣の認定による (R) グレード工場とし、その証明となる資料を監督職員に提出する。

◎鉄骨製作工場には施工管理技術者を（**置く**、置かなくともよい）

◎工事現場には、鉄骨製作工場名等を記載した板(30～35×45cm) (H.4.9.30住指発第347号)を掲示すること。

2.材料

◎鋼材は次による。

種類の記号	規格番号・規格名称等	適用箇所
BGR295	建築構造用冷間成形角型鋼管	柱
SS400	JIS G3101 一般構造用圧延鋼材	大梁・小梁、階段柱脚BPL
SN490C	JIS G3136 一般構造用圧延鋼材	適しダイヤフラムPL、柱脚BPL
SSC400	JIS G3350 一般構造用軽量形鋼	鋼縁、その他

◎高力ボルトは、トルシア形高力ボルトとする。径、使用箇所は図示による。

規格番号等	規格名称等	セットの種類
建築基準法に基づき指定又は認定	トルシア形高力ボルト	2種 (S10T)

◎トルシア形高力ボルトは、建築基準法により認定された製品とする。

◎普通ボルト及びナットの材質は、（JIS付属品(JIS B 1180及びJIS B 1181)・JIS本体規格品(ISO規格)）とする。径、使用箇所は図示による。

◎間柱用構造用アンカーボルトの材質は(ABR400)とする。

◎溶接材料は、母材の種類、寸法及び溶接条件に相応したJIS規格品とする。

◎合成スラブデッキプレート
材質(S D P 1 T、S D P 2、S D P 2 G)形状及び寸法は図示による。めっきはZ-12とする。形状及び寸法は図示による。

◎柱底均しモルタルは無収縮モルタルとする。
・セメントは、JIS R 5210による普通又は早強ポルトランドセメントとする。
・混和材は、セメント系(酸化カルシウム、カルシウムサルファルミート等によって膨張する性質を利用するもの)とする。
・砂、配合比等は、製造所の仕様による。
・無収縮モルタルの品質及び試験方法は、標仕表7.2.6Iによる。

3.材料試験等

◎JIS規格品は、材料試験を行わない。
ただし、規格証明書を提出し承諾を受けること。

◎トルシア形高力ボルトは、製品に対する製造管理方法及び品質監理試験の結果を、監督員に提出し承諾を受けること。

◎板厚方向の引張試験を（**行う**、**行わない**）。

T I T L E	D A T E	N O
鳴門市役所東側付属棟改修工事		A-03
N A M E	S C A L E	
特記仕様書(3)		
株式会社 川建設	1級建築士登録 第126265	川端壮一郎

5章 鉄骨工事

4. 工作一般

◎高力ボルト及び普通ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等は図示による。

◎床書き現寸図は作成（する・**しない**）。

◎鉄骨の製作精度は、改修標準仕様書7.3.3及びH12建告第1464号第二号イによる。

◎仮設のため、鉄骨に補助材等を取り付け及び貫通孔等を設ける場合は、工場溶接 を原則とし、現場溶接となる場合は監督員の承諾を得ること。

◎仮組を（実施する・**実施しない**）。

5. 高力ボルト接合

◎すべり係数試験は（行う・**行わない**）。

◎ショットブラスト又はケブラストにより摩擦面の表面粗度を50μmRz以上確保する場合の表面粗度の確認方法は次のいずれかによる。

- 表面粗度測定機による測定
- ブラスト機器の性能表による確認
- ASTM A747プレート販売元からの表面粗度検査結果証明書による確認

上記の方法により確認できない場合は、すべり係数試験(サンプル試験)を行い、すべり係数値0.45以上を確認すること。

◎高力ボルトを工事現場に搬入後、JIS形高力ボルトは、トルク係数値の確認試験を（行う・**行わない**）。

◎確認試験の数量は、呼び径ごとに代表ロットを選び、その中から任意に取り出した5セットとする。

◎締付け施工法の確認は、JASS66.3〔締付け施工法の確認〕に準じる。

6. 普通ボルト接合

◎普通ボルトの戻止めは二重ナットによる。また施工が難しい場所は監督員に承諾を得て溶接とする。ただし母屋、胴縁類の取付用ボルトは、戻止めを省略する。

7. 溶接接合

◎溶接作業は、工場作業を原則とする
ただし、やむを得ない場合は監督員の承諾を得ること。

◎溶接技能者に対して、技量付加試験を（行う・**行わない**）。

◎開先の形状は、構造図による。

◎溶接部の余盛り高さは、JASS6 付則6〔鉄骨精度検査基準〕付表3〔溶接〕による。

◎スカラップの形状は、図示による。

◎見隠れとなるエンドタブで疲労応力を受ける部分、又は配筋上支障となる部分は、5～10mmを残して切除する。

◎完全溶込み溶接部は超音波探傷試験を（**行う**、行わない）。

試験を行う場合の平均出検品質限界（AQL）は（**2.5%**、4％）とする。

試験の種類	試験箇所	試験数	備考
超音波探傷試験	突合せ溶接部	標仕7.6.12	

8. スタッド溶接及びプレート溶接

◎デッキプレートを鉄骨部材に溶接する工法は、次による。
（アークスポット溶接 ・ 隅肉溶接 ・ **焼抜き栓溶接**）

◎スタッド溶接完了後は、試験記録を作成し、監督員の承認を得ること。

9. 錆止め塗装

◎素地ごしらは、標仕 表18.2.2(A・B・**C**)種とする。

※A種及びB種は製作工場で行うものとする。

◎塗料種別 鉄面 標準仕様書 表18.3.1の（**A**・B）種

◎塗料塗り種別 鉄面 標準仕様書 表18.3.3の（**A**・B）種
(工場1回、現場1回)

10. 工事現場施工

◎鉄骨建方の精度は、（社）日本建築学会「建築工事標準仕様書6鉄骨工事付則6鉄骨精度検査基準」による。

ただし以下のものは図面による。

- 特に精度を必要とする構造物あるいは構造物の部分。
- 軽微な構造物あるいは構造物の部分。

◎建方用アンカーボルトを（使用する・**使用しない**）。

◎構造用アンカーボルトを（使用する・使用しない）。

◎構造用アンカーボルト及びアンカーフレームの形状及び寸法は図示による。

◎アンカーボルトの保持及び埋込み工法は(A・**B**・C)種とする。

◎柱底均しモルタル工法は（**A**・B）種とし、厚さは図示による。A種の場合の無収縮モルタルは、評価名簿による。

6章 防水改修工事

1. シーリング

◎シーリング材は、JIS A5758 の規格品とする。

◎プライマーは、被着体及びシーリングの種類により使い分けること。

◎監督員に、シーリング材の有効期限が切れていないことの確認を受けること。

◎外部に面するシーリング材は、施工に先立ち（**簡易接着性試験**、引張接着性試験）を行う。

◎種類及び施工箇所

記号	材質	施工箇所	寸法	接着試験
MS-2	変成シリコン系	新設サッシ回り、看板等撤去跡		無

7章 建具改修工事

1. 一般事項

2. 改修工法等

◎施工に先立ち、改修範囲を確認し、設計図書との相違等があれば、監督員と協議すること。

区 分	かぶせ工法	撤去工法
撤去の範囲		図示による
既存建具の種類		木製建具
新設建具の種類		木製建具、アルミ製建具
建具周囲の補修工法及び範囲		図示による
シーリングの種類		――
サッシアンカー		――
養生範囲		建具周囲

3. 木製建具

◎建具材の含水率の種別は、（A・**B**・C）種とする。

◎見込み寸法は、（ 36 ）mmとする。

◎フラッシュ戸の表面材の合板の品質について、ホルムアルデヒドの発散量は、F☆☆☆☆とする。ただし、正当な理由により確保が困難である場合等、ホルムアルデヒドの発散量が、F☆☆☆☆のフラッシュ戸を使用できない場合には、監督員と協議するものとし、監督員の承諾を得るものとする。

その他は、標仕16. 7. 2(2)(3)による。

表面板の厚さは、（ 2.5 ）mmとする。

4. アルミニウム製建具

種別	耐風圧性	気密性	水密性	枠の見込み寸法	使用箇所	表面処理	備考
B種	S-5	A-3	W-4	70	図面参照	B-1	

◎建具には製作者名を表示すること。

5. 建具用金物

◎金物の種類及び見え掛り部の材質は、改標仕表5.7.1による。

◎既製又はこれに準ずる建具の建具金物は、建具製作所の仕様による。

6. ガラス

◎板ガラスの種類は図面による。

◎外部に面する網入り板ガラス等の下辺小口及び縦小口下端に防錆処置を行うこと。

◎ガラス・アルミパネルのとめ材の種類

建具の種類	材種	ガラス溝の大きさ
アルミニウム製建具	SR-1両面	標仕図16.14.3

7. ガラス用フィルム

名称	施工場所	種類	張り面
カッティングシート(すりガラス調)	事務所棟AD2 事務所棟AD3		張り面 片面 内張り

◎品質はJIS A 5759による。

8章 内装改修工事

1. 一般事項

◎工事に先立ち、改修部分の隠蔽部の調査を行い、設計図書と照合し、支障があった場合は、速やかに監督員に報告し、指示を受けること。

◎各部の撤去により、下地及び構造躯体にひび割れ及び欠陥部が発見された場合は、速やかに監督員に報告し指示を受けること。

2. 撤去並びに下地補修

◎各改修工事の仕様は、仕様・仕上げ表による。

①床改修

・既設床仕上げ材の除去 改標仕6.2.2(a)参照

種類	撤去工法	撤去範囲
ビニル床シート(タイル)	改標仕6.2.2(1)による	図示による

・コンクリート又はモルタル面の下地処理 改標仕6.3.2(1)参照

下地の状況	下地処理方法	備考
凹凸部処理	サンダー掛け ホリヤセメントモルタル	
欠損部	モルタルで補修し乾燥後	塗厚さ及び下地の風化状況により、モルタル補修が
下地モルタル撤去部	デンプラシ等で清掃	困難な場合は、おむす系樹脂モルタル及びノロ等の補修

②壁改修

・ボード仕上げ 改標仕6.3.2(2)参照

種類	撤去工法	撤去範囲
LGS下地 ボード	改標仕6.3.2(2)による	図示による

③天井改修 改標仕6.4.2参照

撤去区分	既存壁取合の補修範囲及内容
天井仕上げ 一部	図示による

T I T L E	D A T E	N O
鳴門市役所東側付風機改修工事		A-04
N A M E	S C A L E	
特記仕様書(4)		
株式会社 川建設	1級建築士登録 第126265	川端壮一郎

8章 内装改修工事

3. 木 工 事

◎工事現場搬入時の含水率はA種とする。

◎材 質

- 製材は、「針葉樹の構造用製材の日本農林規格」、「針葉樹の造作用製材の日本農林規格」、「針葉樹の下地用製材の日本農林規格」及び「広葉樹製材の日本農林規格」による。
- 丸太は、「素材の日本農林規格」による皮はぎ材とする。
- 保存処理木材は、日本農林規格に規定する保存処理の処理区分のうち、K3以上の保存処理(JIS K1570(木材保存剤)に規定する木材保存剤(ただし、カワト油は有害物質を含有する家庭用品の既製に関する法律(昭和48年法律第112号)に適合したものとす。)、これと同等の薬剤を用いたK3以上の薬剤の浸潤度及び吸収量を確保する工場処理その他これと同等の性能を有する処理を含む。)が施されているもの又は認証木材建材(AQマーク表示)として認定された保存処理材を使用するものとする。
- 樹種及び等級

施 工 箇 所		樹種	材料の等級	表面の仕上げ	備 考
造作材	木製枠	杉	上小節	B	

◎木材の断面を表示する寸法は、構造材及び下地材はひき立て寸法、造作材は仕上がり寸法とする。

4. 軽量鉄骨壁下地

◎JIS A 6517の規格品とする。

◎スタッド、ランナーの種類は、(65,75形)とし、改標仕表6. 7. 11による。

5. 軽量鉄骨天井下地

◎JIS A 6517の規格品とする。

◎野縁等の種類は、屋内19種 屋外25型とし、改標仕表6. 6. 11による。

◎既存の埋め込みインサートの使用は、改標仕6.6.4(1)(ウ)による引き抜き試験を行い、強度を確認したうえ使用すること。

材質	材 種		色柄	厚さ	幅 木			接着剤	施工箇所	備 考
	種類	記号			材質	厚さ	高さ			
ビニ床シート (JIS A 5705)	織布積層	F S	マーブル	2.5	ビニル巾木		75,100	球*紗	休憩室、女子分団、廊下、2階各室	熱溶接工法
ビニ床タイル (JIS A 5705)	ビニ床タイル	K T		2.0	ビニル巾木		75	球*紗	会議室	
及びゴム床タイル張り	帯電防止 コホジション	K T		4.0	ビニル巾木		75	球*紗	会議室	

7. せっこうボードその他 ボード及び合板張り

材種・規格品	施工箇所	工法	厚さ (mm)	不燃材等 の区分	小ねじ・釘 ・接着剤の 種類	下地の 種類	備 考
せっこうボード JIS A 6901の規格品	壁	継目処理 突付け	12.5 9.5	不燃 準不燃	改標仕6.13.2(d)(e)	L G S	GB-R
化粧せっこうボード トラバーチン模様 JIS A 6901の規格品	天井	突付け	9.5 910×910	準不燃	改標仕6.13.2(d)(e)	L G S	GB-D
ロックウール化粧 吸音板 JIS A 6301の規格品	天井	突付け	12	不燃	改標仕6.13.2(d)(e)	L G S	

◎合板、パーティクルボード及びMDFのホルムアルデヒド放散量は、F☆☆☆☆とする。ただし、正当な理由により確保が困難である場合等、ホルムアルデヒドの放散量が、F☆☆☆☆の合板、パーティクルボード及びMDFを使用できない場合には、監督員と協議するものとし、監督員の承諾を得るものとする。

7. 壁紙張り JIS A 6921

施工箇所	種類	素地ごしらえ	表面	備 考
図示	ビニルクロス			既設品に合わせること

8. フローリング張り

◎ホルムアルデヒドの発散量は、F☆☆☆☆とする。ただし、正当な理由により確保が困難である場合等、ホルムアルデヒドの発散量が、F☆☆☆☆のフローリングを使用できない場合には、監督員と協議するものとし、監督員の承諾を得るものとする。

種別	樹種	厚さ	寸法	工法	釘、接着剤の種類	表面仕上	施工箇所
複合1種フローリング	ブナ	15程度	単板2mm	90～120程度	接着工法	標仕19.5.5	女子分団

◎製造所 woodone程度

9. 接着剤

◎壁紙施工用でん粉系接着剤、ユリア樹脂等(ユリア樹脂、メラミン樹脂、フェノール樹脂、レゾルシノール樹脂又はホルムアルデヒド系防腐剤)を用いた接着剤のホルムアルデヒドの放散量はF☆☆☆☆とする。ただし、正当な理由により確保が困難である場合等、ホルムアルデヒドの放散量がF☆☆☆☆の接着剤を使用できない場合には、監督員と協議するものとし、監督員の承諾を得るものとする。

9章 塗装改修工事

1. 一般事項

◎防火材料又は建築基準法に基づく指定又は認定を受けたものとする。

◎塗料はホルマリン不検出のもの及び有機溶剤の含有量が少ないものとする。

◎ユリ7樹脂等(ユリ7樹脂、メラミン樹脂、フェノール樹脂、レゾルシノール樹脂又はホルムアルデヒド系防腐剤)を用いた塗料のホルムアルデヒドの発散量は、F☆☆☆☆とする。ただし、正当な理由により確保が困難である場合等、ホルムアルデヒドの発散量が、F☆☆☆☆の塗料を使用できない場合には、監督員と協議するものとし、監督員の承諾を得るものとする。

区分	種 別	素地ごしらえ	備 考
木部	標仕表18.4.1 B種	A種	
鉄部	標仕表18.4.2 B種	A種	

3. 合成樹脂塗床 (防塵塗装)

◎ウレタン樹脂系 塗厚0.3mm程度 防塵

10章 ユニット及びその他工事

1. 天井点検口

材種	寸法	形式	外枠	内枠
アルミ	4 5 0 角	屋内用	顔縁がイ'	顔縁がイ'

◎製作所： 評価名簿による。

2. SUS音措

◎材種:SUS304、寸法:40×20、厚1.2、長さ:図示、仕上:ヘアライン

3. への字押さえ、見切

◎材種:SUS304、幅25、厚1.5、長さ:図示、仕上:ヘアライン

4. EXP-Jカバー

◎材質 ステンレス製(床) クリアランス100

◎製造所(日本アルミ、ABC商会、三洋工業程度)

5. 目地板

◎選青貫板製

11章 防水改修工事

1. シーリング

◎シーリング材は、JIS A5758の規格品とする。

◎プライマーは、被着体及びシーリングの種類により使い分けること。

◎監督員に、シーリング材の有効期限が切れていないことの確認を受けること。

◎外部に面するシーリング材は、施工に先立ち(簡易接着性試験、引張接着性試験)を行う。

◎種類及び施工箇所

記号	材質	施工箇所	改修工法	寸法
MS-Z	変成シリコーン系	新設サッシ回り、水切り	新設	15×10程度

T I T L E	D A T E	N O
鳴門市役所東側付風棟改修工事		A-05

N A M E	S C A L E
特記仕様書(5)	

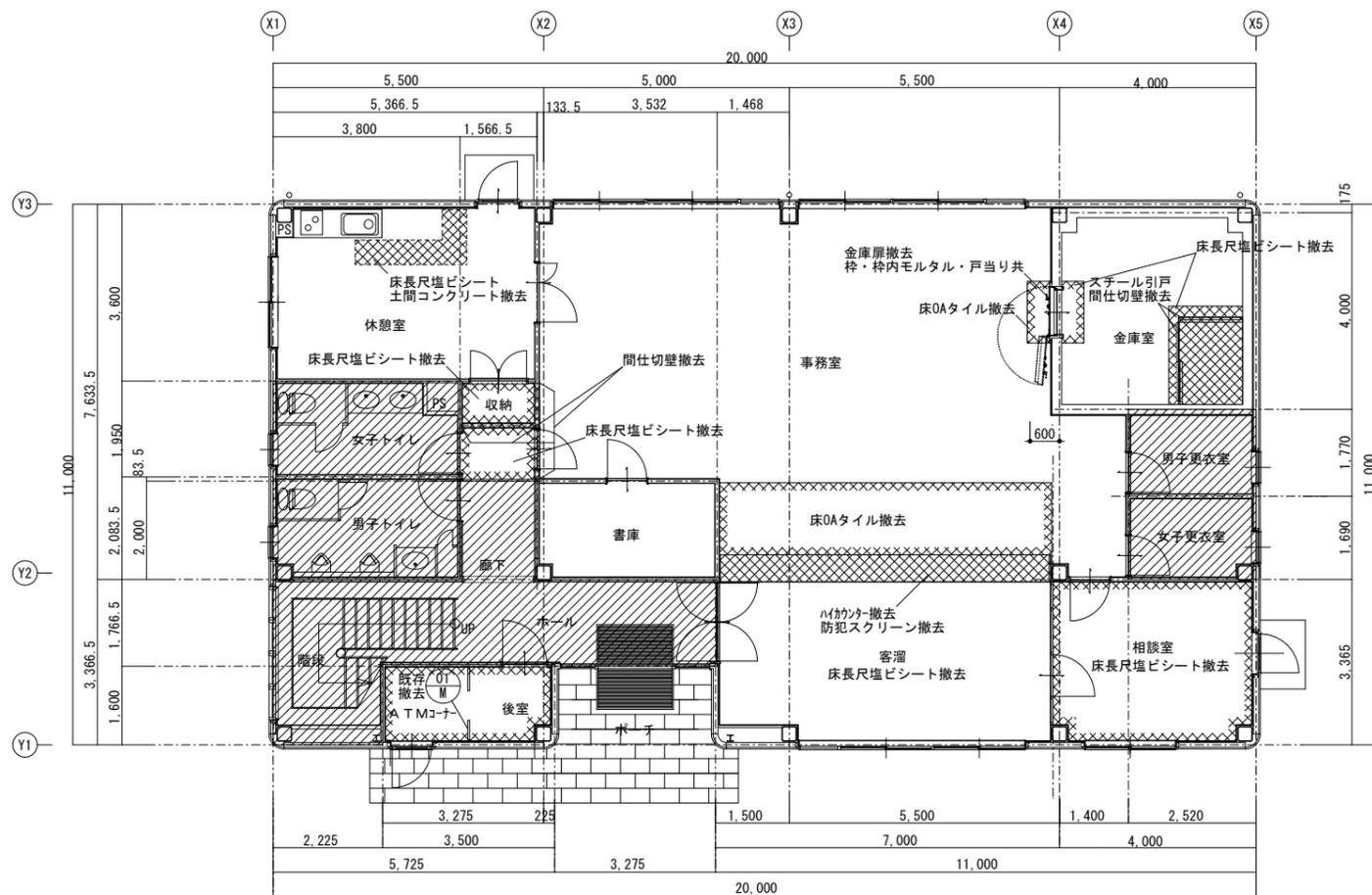
株式会社	川建設	1級建築士登録 第126265	川端壮一郎
------	------------	--------------------	--------------

外部仕上表

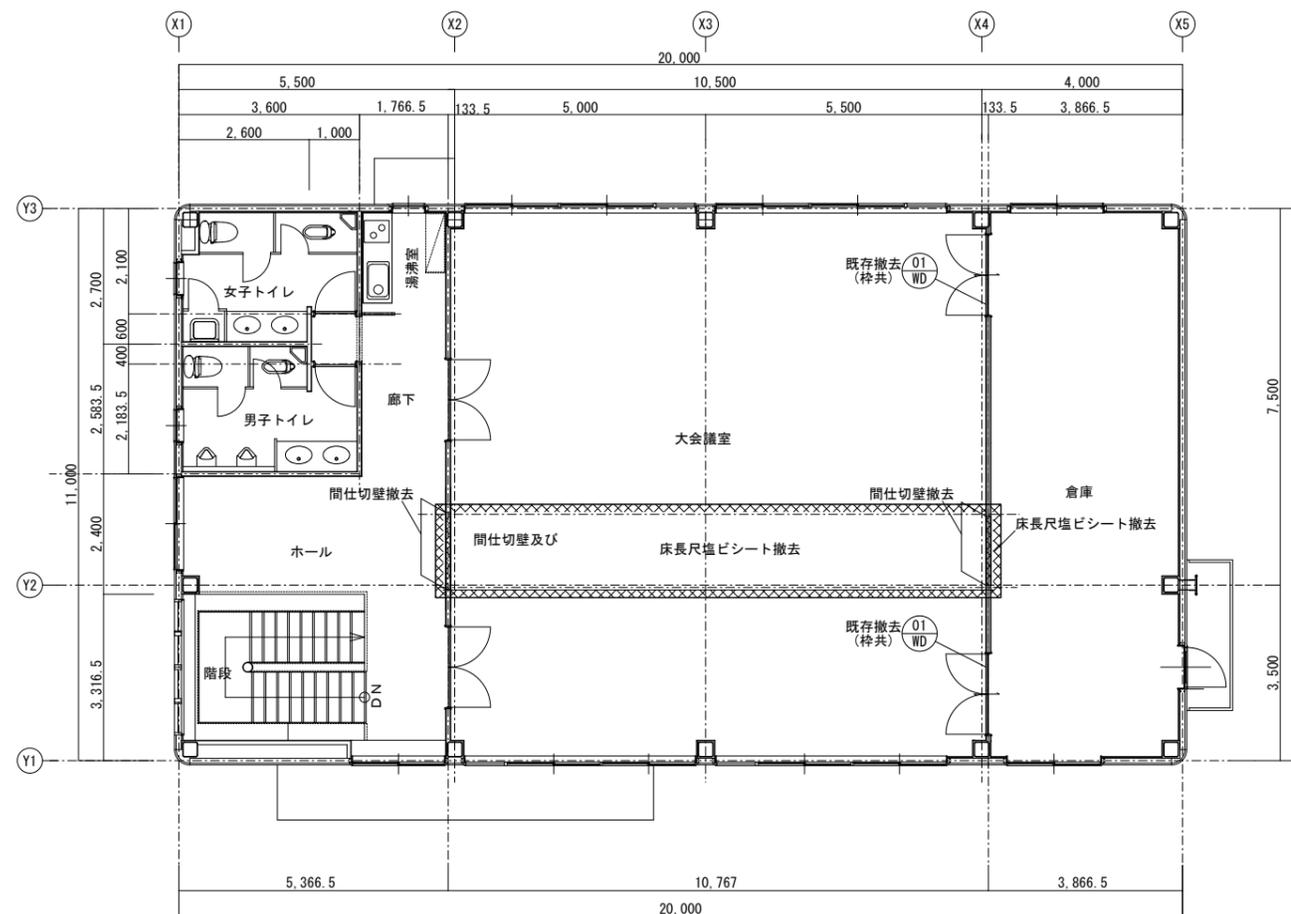
	現況	改修後
外壁	IG断熱ヴァンドGX型35+透湿防水シート厚0.17、R型出隅35使用、窓上カット部サッシ周囲三方見切35使用 下地 鉄骨タテ筋縁:C-100×50×20×2.3φ500、ジョイント部:2C-100×50×20×2.3	ステンレス箱文字撤去、撤去後シーリング打ち 袖看板撤去

内部仕上表

階	室名	床		巾木		腰・壁		天井		備考				
		改修前	改修後	改修前	改修後	改修前	改修後	改修前	改修後					
1	事務室(改修前) ↓ 土木課分室兼倉庫(改修後)	0Aタイル厚4.5帯電防止500x500 OAフロアー(H100) (下地)土間コンクリート金鍍押さえ	既存のまま	ソフト巾木H=75 部分撤去	ビニル巾木H=75	ビニルクロス貼り 石こうボード厚12.5 (下地)LGS75形	部分撤去	ビニルクロス貼り 石こうボード厚12.5+9.5 (下地)LGS65形	部分撤去	ロックウール吸音板厚12 石こうボード厚9.5 鋼製天井下地	部分撤去	ロックウール吸音板厚12 石こうボード厚9.5 復旧	ハイカウンター撤去 防犯スクリーン撤去	
	事務室(改修前) ↓ 廊下(改修後)	0Aタイル厚4.5帯電防止500x500 部分撤去 (下地)土間コンクリート金鍍押さえ	下地調整の上、 置敷きビニル床タイル厚4.0(帯電防止)	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	
	事務室(改修前) 客溜(改修前) ↓ 会議室(改修後)	事務室部分: 0Aタイル厚4.5帯電防止500x500 撤去 客溜部分: 長尺塩ビシート厚2.5(マーブル) 撤去 (下地)土間コンクリート金鍍押さえ	置敷きビニル床タイル厚4.0(帯電防止)新設 下地調整の上、ビニル床タイル厚2.0貼り	ソフト巾木H=75 撤去	ビニル巾木H=75	ビニルクロス貼り 石こうボード厚12.5 (下地)LGS75形	部分撤去	ビニルクロス貼り 石こうボード厚12.5+9.5 (下地)LGS65形	同上	同上	同上	同上	同上	同上
	相談室(改修前) ↓ 女子分団(改修後)	長尺塩ビシート厚2.5(マーブル) 撤去 (下地)土間コンクリート金鍍押さえ	フローリング厚15 直張り接着工法 樹脂モルタル薄塗り厚5 踏込: 下地調整の上、ビニル床シート厚2.5貼り	同上	ビニル巾木H=100	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	下足箱 新設
	休憩室	長尺塩ビシート厚2.5(マーブル) 部分撤去 (下地)土間コンクリート金鍍押さえ 部分撤去	ビニル床シート厚2.5 土間コンクリート 復旧	ソフト巾木H=75	既存のまま	ビニルクロス貼り 石こうボード厚12.5 (下地)LGS75形	同上	既存のまま	ロックウール吸音板厚12 石こうボード厚9.5 鋼製天井下地	同上	同上	同上	洗濯機パン 新設	
	金庫室 ↓ 倉庫1(改修後)	長尺塩ビシート厚2.5(マーブル) 部分撤去 (下地)土間コンクリート金鍍押さえ	一部 下地調整の上、ビニル床シート厚2.5貼	ソフト巾木H=75 部分撤去	ビニル巾木H=75	コンクリート打放しの上、防カビ塗装	同上	既存のまま 既存金庫扉撤去部: 石こうボード厚12.5+9.5の上、EP-G塗 (下地)LGS65形	コンクリート打放しの上、防カビ塗装	同上	同上	同上	同上	スチール引き戸・間仕切壁 撤去 金庫扉撤去 枠・枠内モルタル・戸当り共
	ATMコーナー (改修前) ↓ 倉庫3(改修後)	同上	同上	同上	同上	ビニルクロス貼り 石こうボード厚12.5 (下地)LGS75形	同上	既存のまま	ロックウール吸音板厚12 石こうボード厚9.5 鋼製天井下地	同上	同上	同上	同上	同上
	収納(改修前) ↓ 廊下(改修後)	同上	同上	同上	同上	ビニルクロス貼り 石こうボード厚12.5 (下地)LGS75形	部分撤去	ビニルクロス貼り 石こうボード厚12.5+9.5 (下地)LGS65形	部分撤去	ロックウール吸音板厚12 石こうボード厚9.5 鋼製天井下地	部分撤去	ロックウール吸音板厚12 石こうボード厚9.5 復旧	同上	同上
2	大会議室(改修前) ↓ 職員組合(改修後) 従業員組合(改修後) 廊下(改修後)	長尺塩ビシート厚2.5(マーブル) 部分撤去 (下地)コンクリート金鍍押さえ	下地調整の上、ビニル床シート厚2.5貼り	ソフト巾木H=75 部分撤去	ビニル巾木H=75	ビニルクロス貼り 石こうボード厚12.5 (下地)LGS75形	部分撤去	ビニルクロス貼り 石こうボード厚12.5+9.5 (下地/新設間仕切壁)LGS65形 (下地/既存間仕切壁復旧部分)LGS75形	撤去	ロックウール吸音板厚12 石こうボード厚9.5 鋼製天井下地	撤去	ロックウール吸音板厚12 石こうボード厚9.5 鋼製天井下地	同上	同上
	ホール	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上
	倉庫(改修前) ↓ 防災倉庫(改修後)	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	化粧石こうボード厚9.5 鋼製天井下地	撤去	化粧石こうボード厚9.5 鋼製天井下地	同上	同上	同上
	男子トイレ 女子トイレ トイレ前室	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上



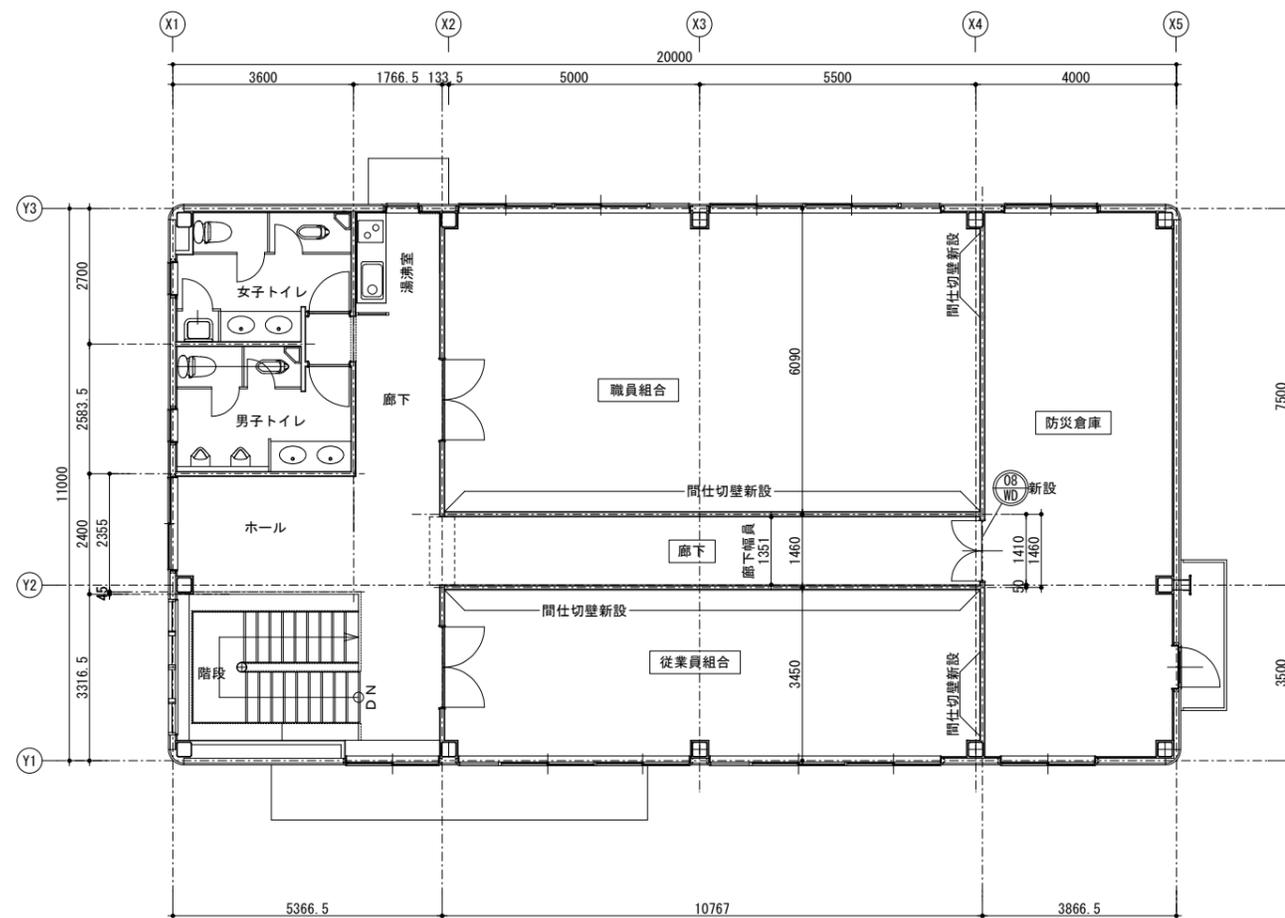
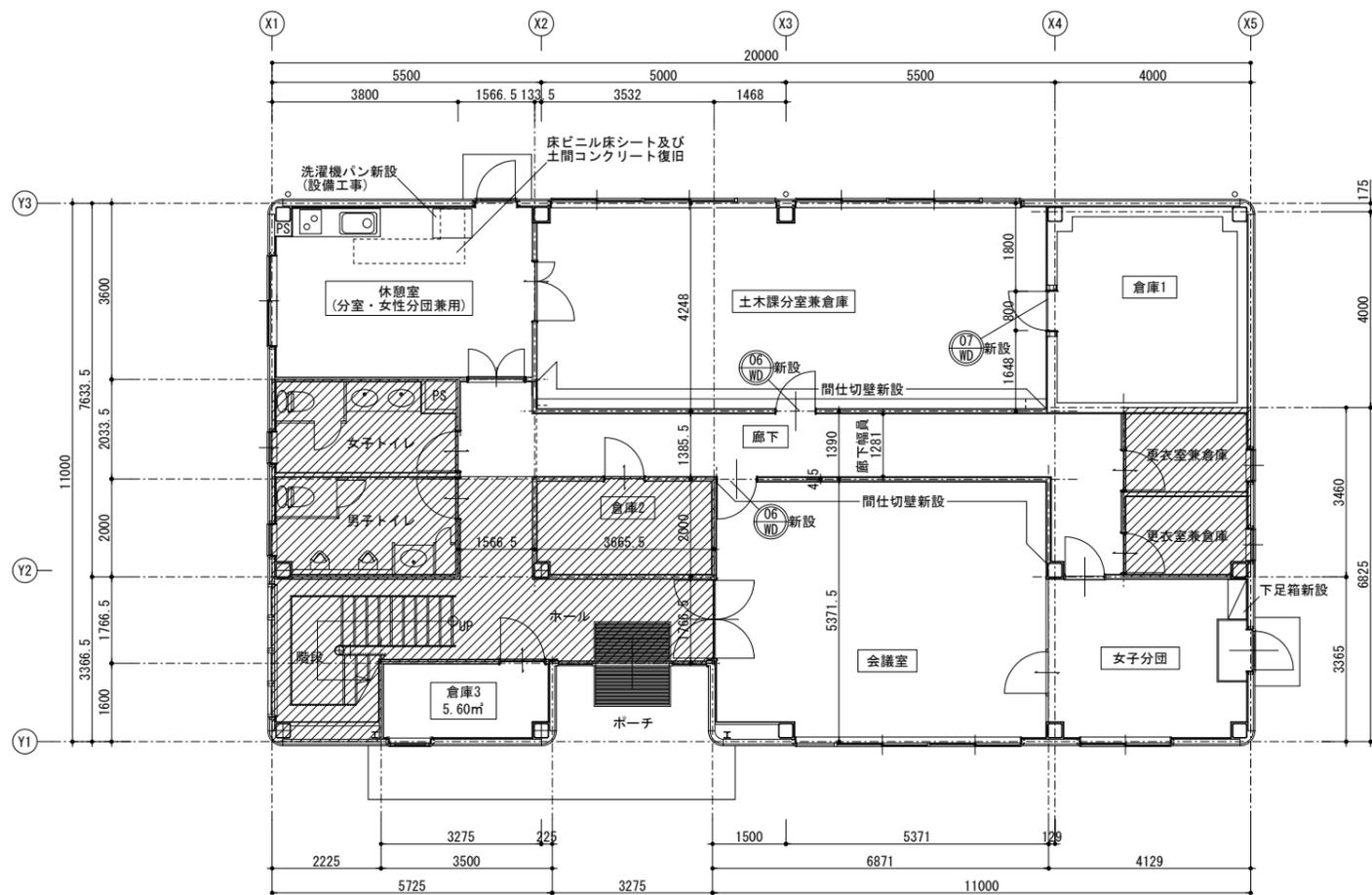
1階 平面図



2階 平面図



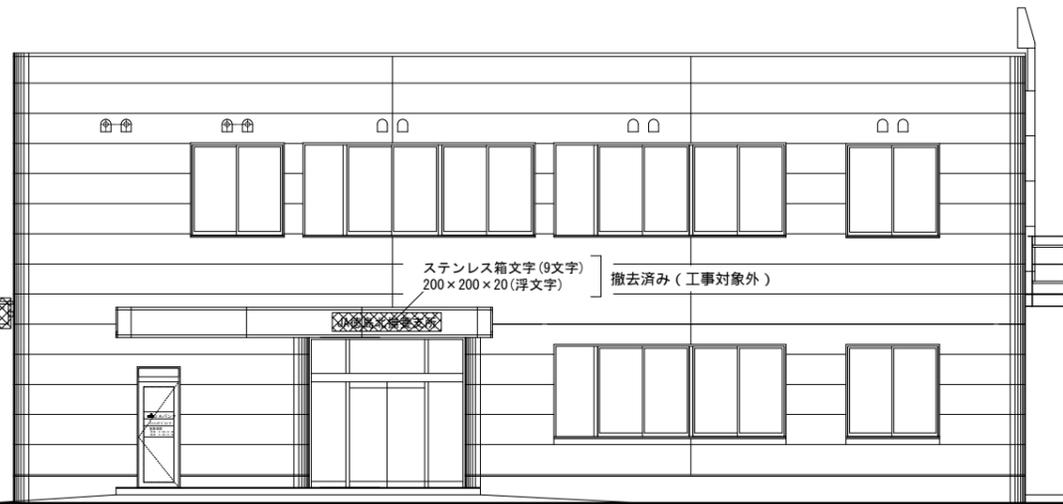
TITLE	DATE	NO
鳴門市役所東側付風機改修工事		A-08
NAME	SCALE	
事務所棟 現況・撤去 平面図		1/100
株式会社 川建設	1級建築士登録 第126265	川端壮一郎



改修範囲外

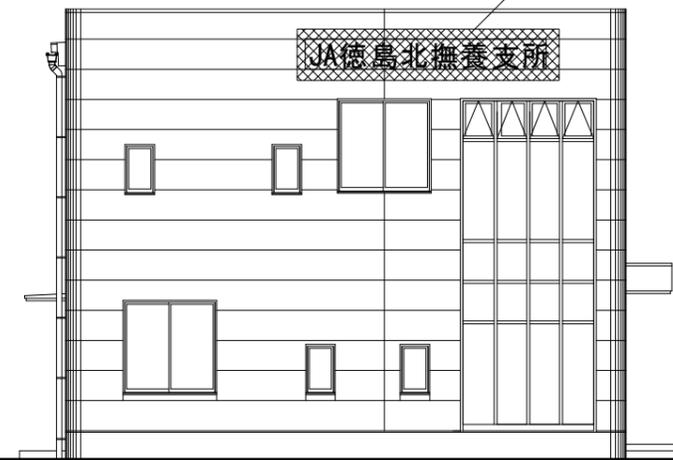
TITLE	DATE	NO
鳴門市役所東側付風機改修工事		A-09
NAME	SCALE	
事務所棟 改修後 平面図		1/100
株式会社 川建設	1級建築士登録 第126265	川端壮一郎

袖看板撤去済み
(工事対象外)

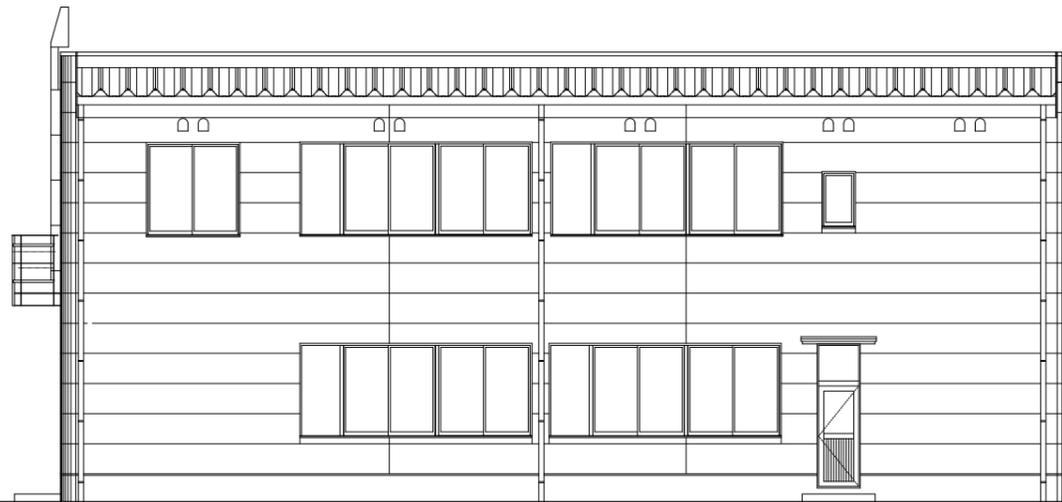


南立面図 1 / 100

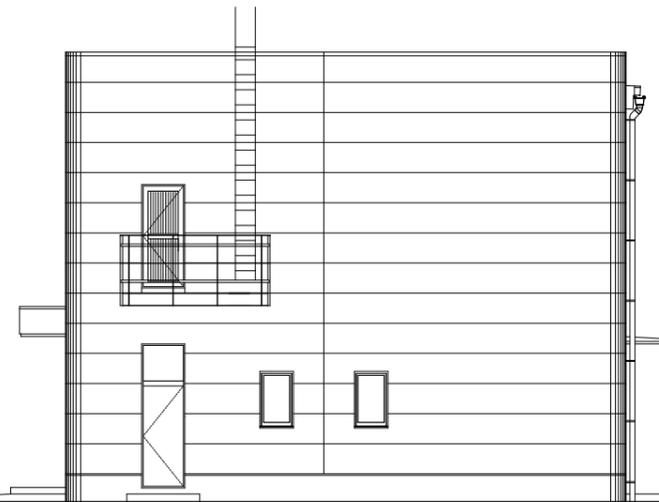
ステンレス箱文字 (9文字)
400×400×30 (浮文字) } 撤去済み (工事対象外)



西立面図 1 / 100

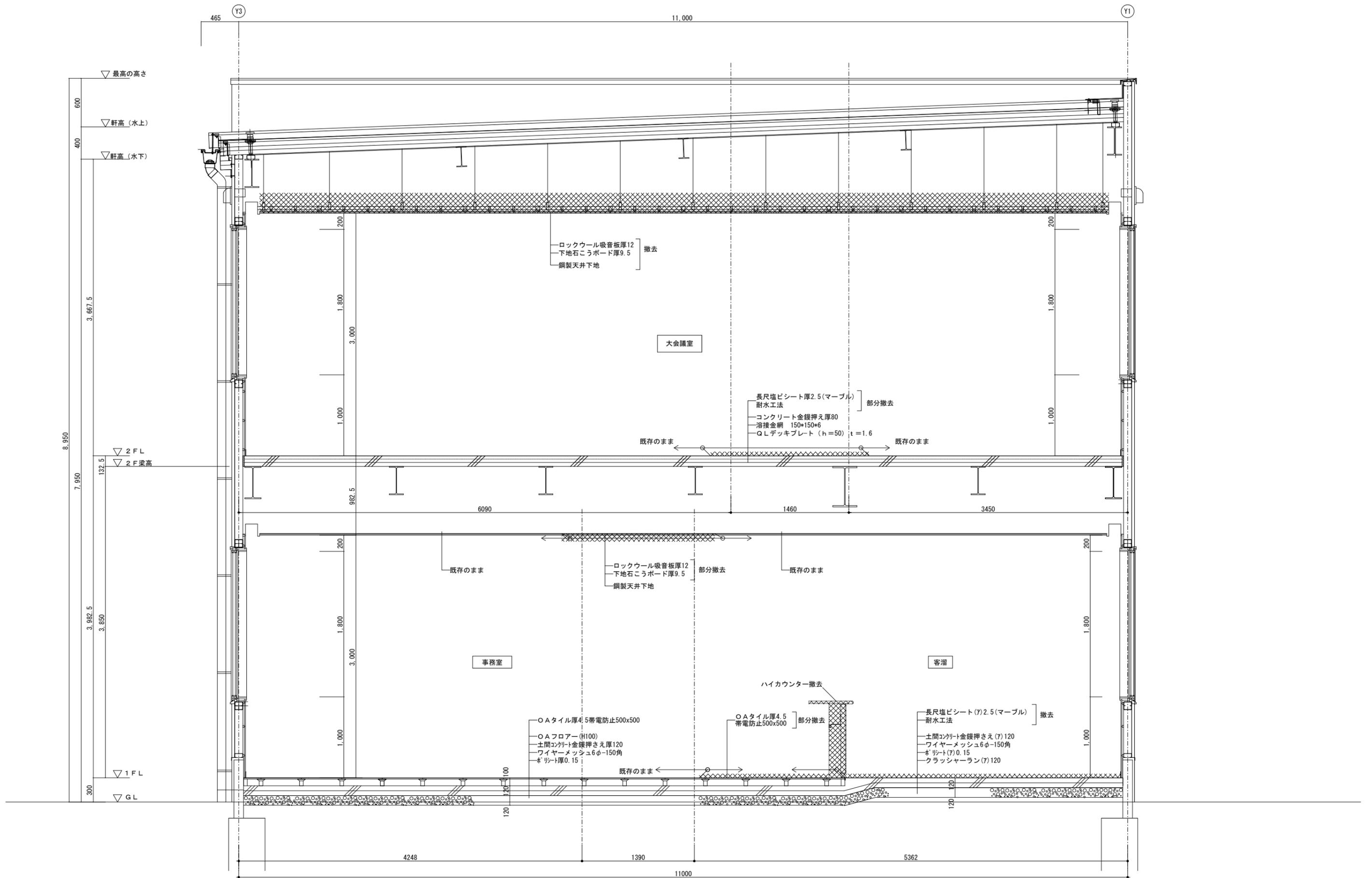


北立面図 1 / 100

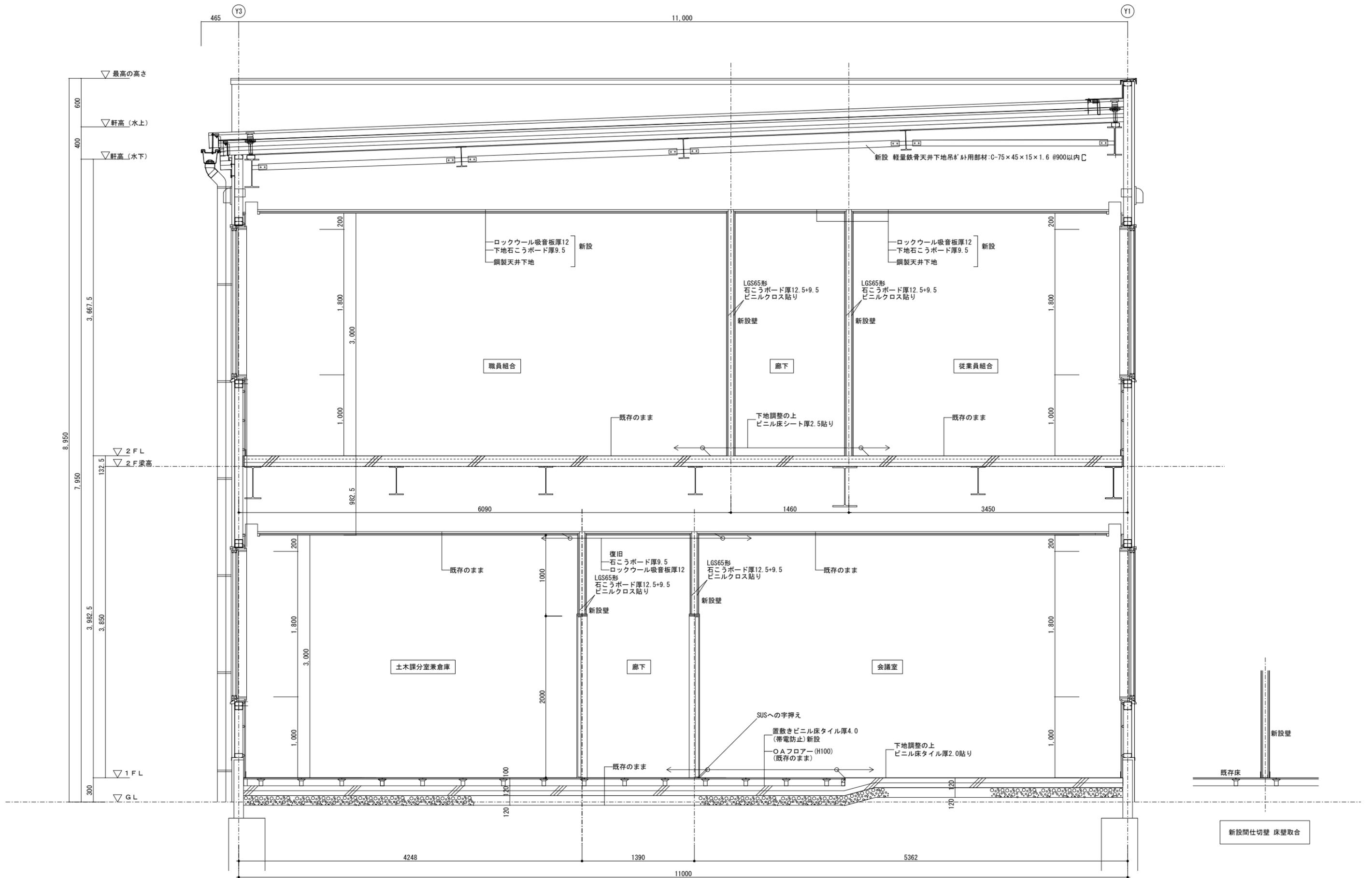


東立面図 1 / 100

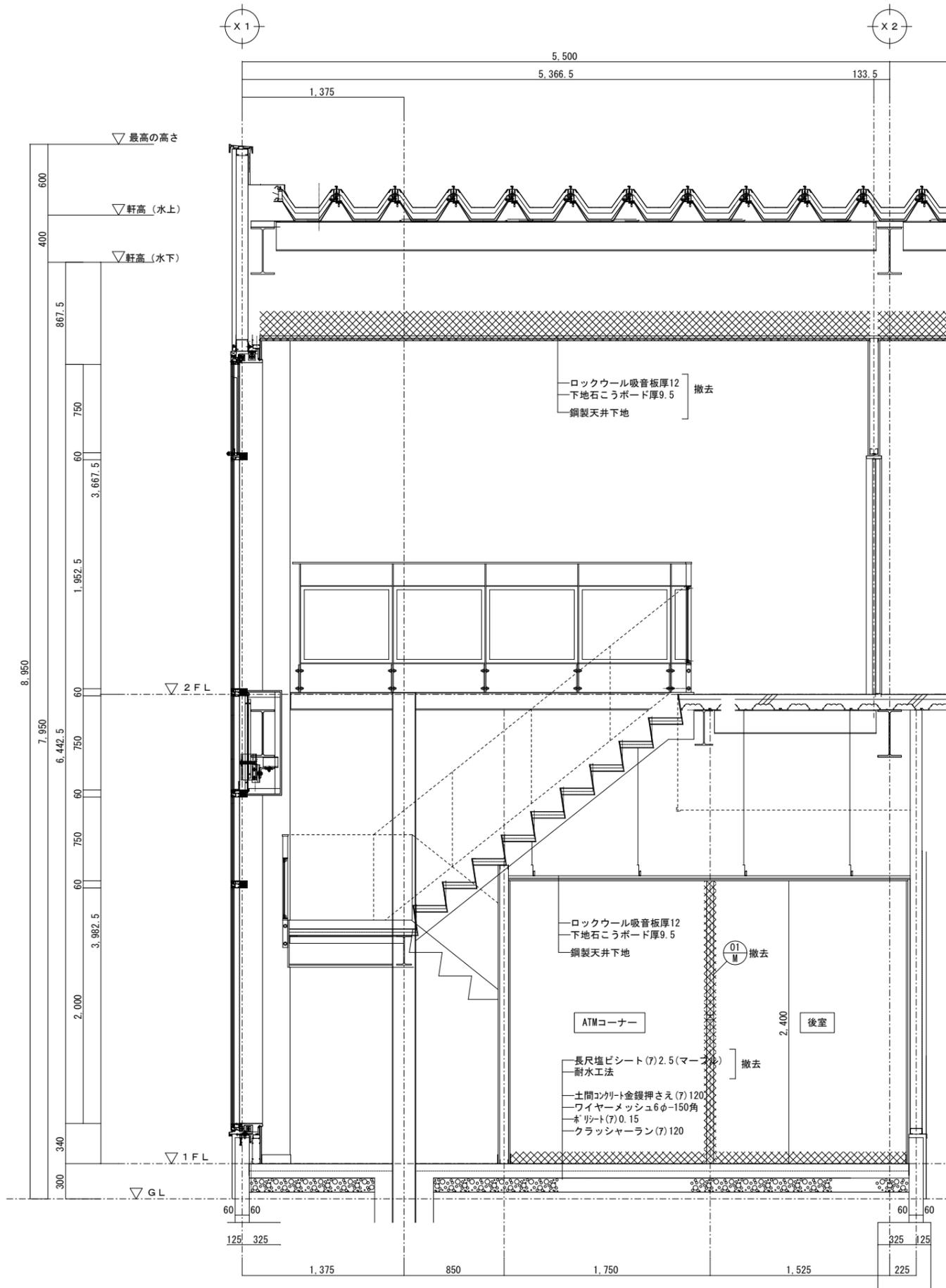
TITLE	DATE	NO
鳴門市役所東側付風棟改修工事		A-10
NAME	SCALE	
事務所棟 立面図	1/100	
株式会社 川建設	1級建築士登録 第126265	川端壮一郎



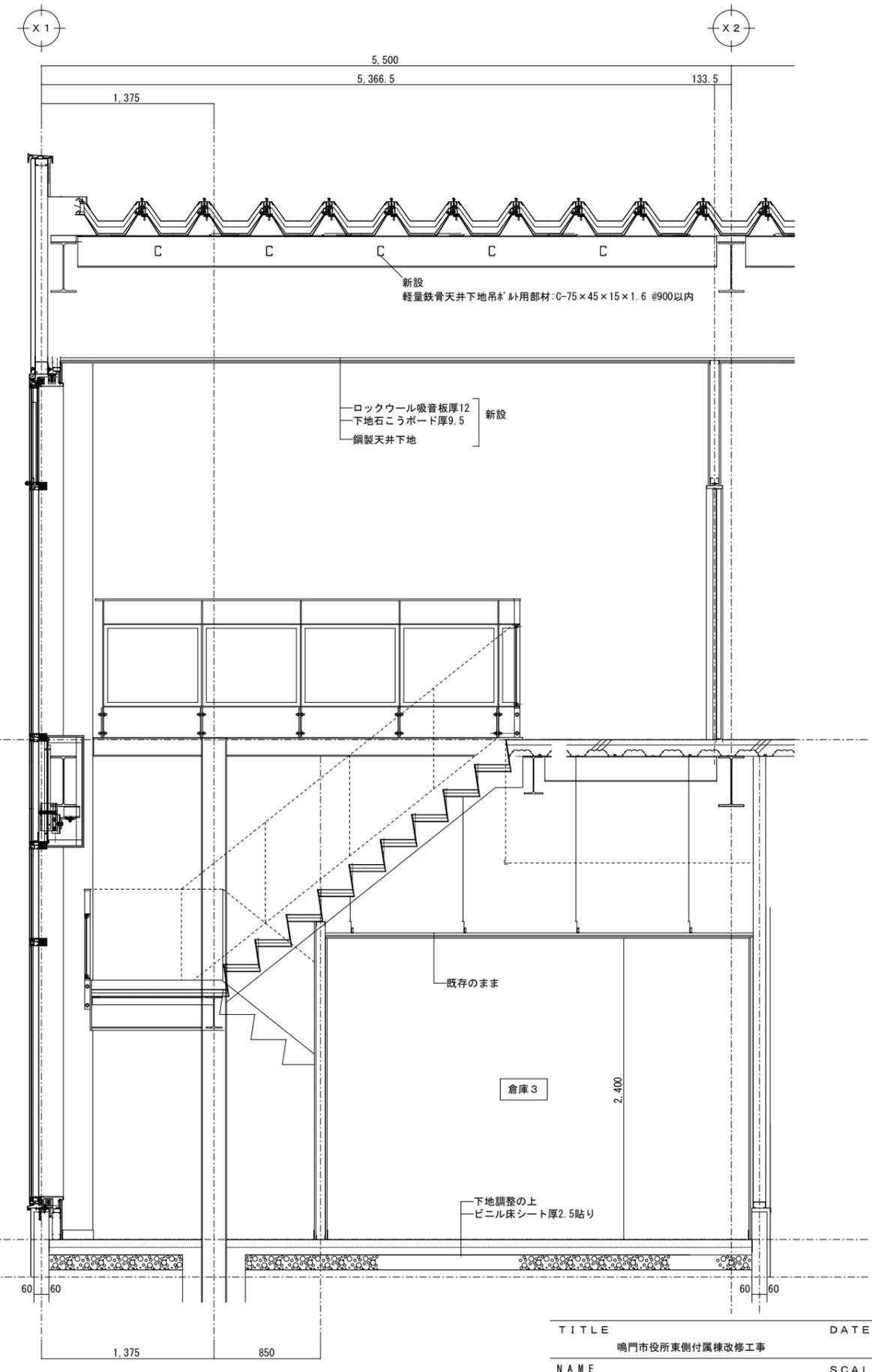
TITLE	DATE	NO
鳴門市役所東側付風機改修工事		A-11
NAME	SCALE	
事務所棟 現況・撤去 矩計図(1)		1/30
株式会社 川建設	1級建築士登録 第126265	川端壮一郎



TITLE	DATE	NO
鳴門市役所東側付風機改修工事		A-12
NAME	SCALE	
事務所棟 改修後 矩計図(1)		1/30
株式会社 川建設	1級建築士登録 第126265	川端壮一郎

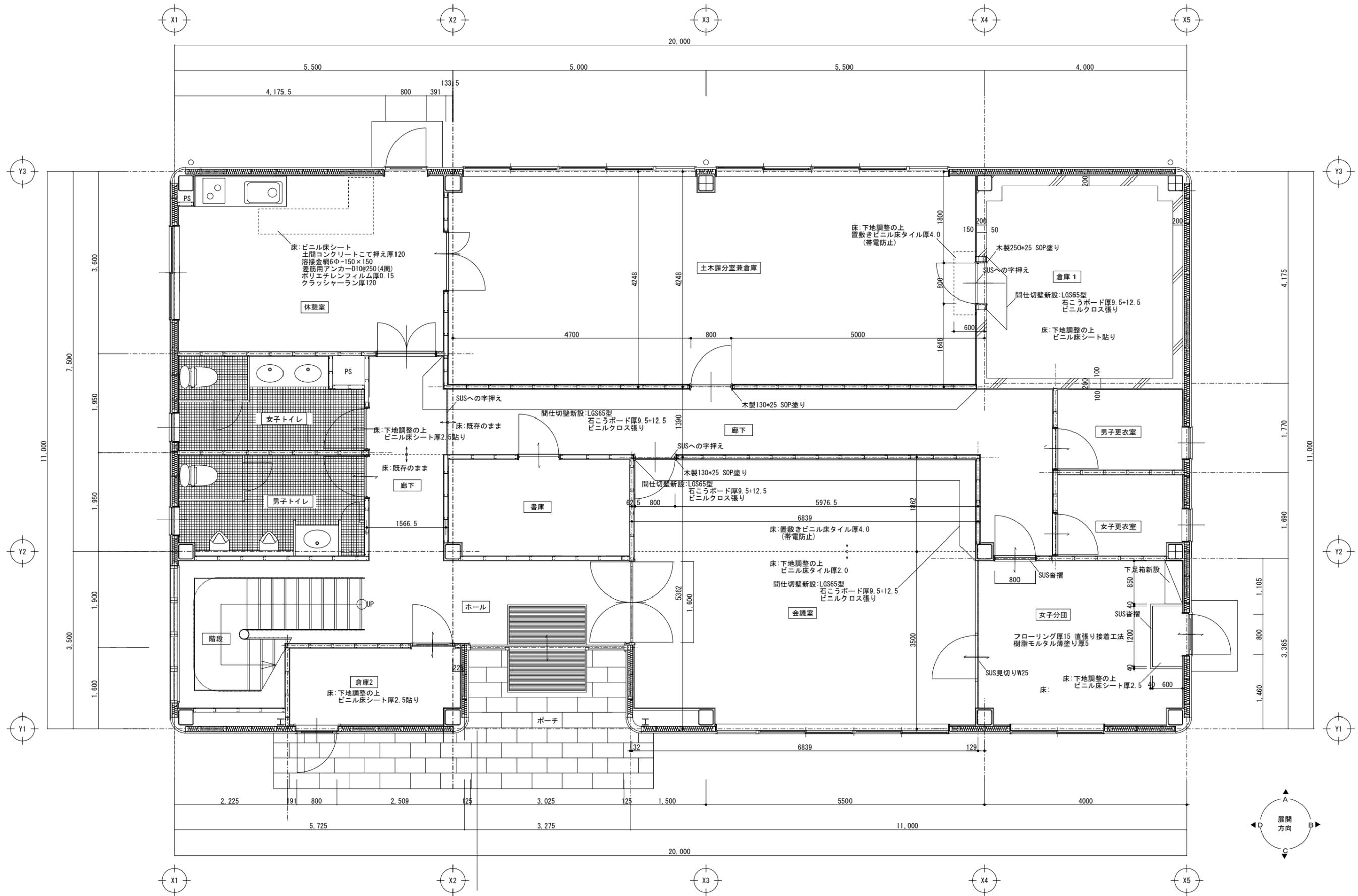


現況・撤去 断面図 1/30

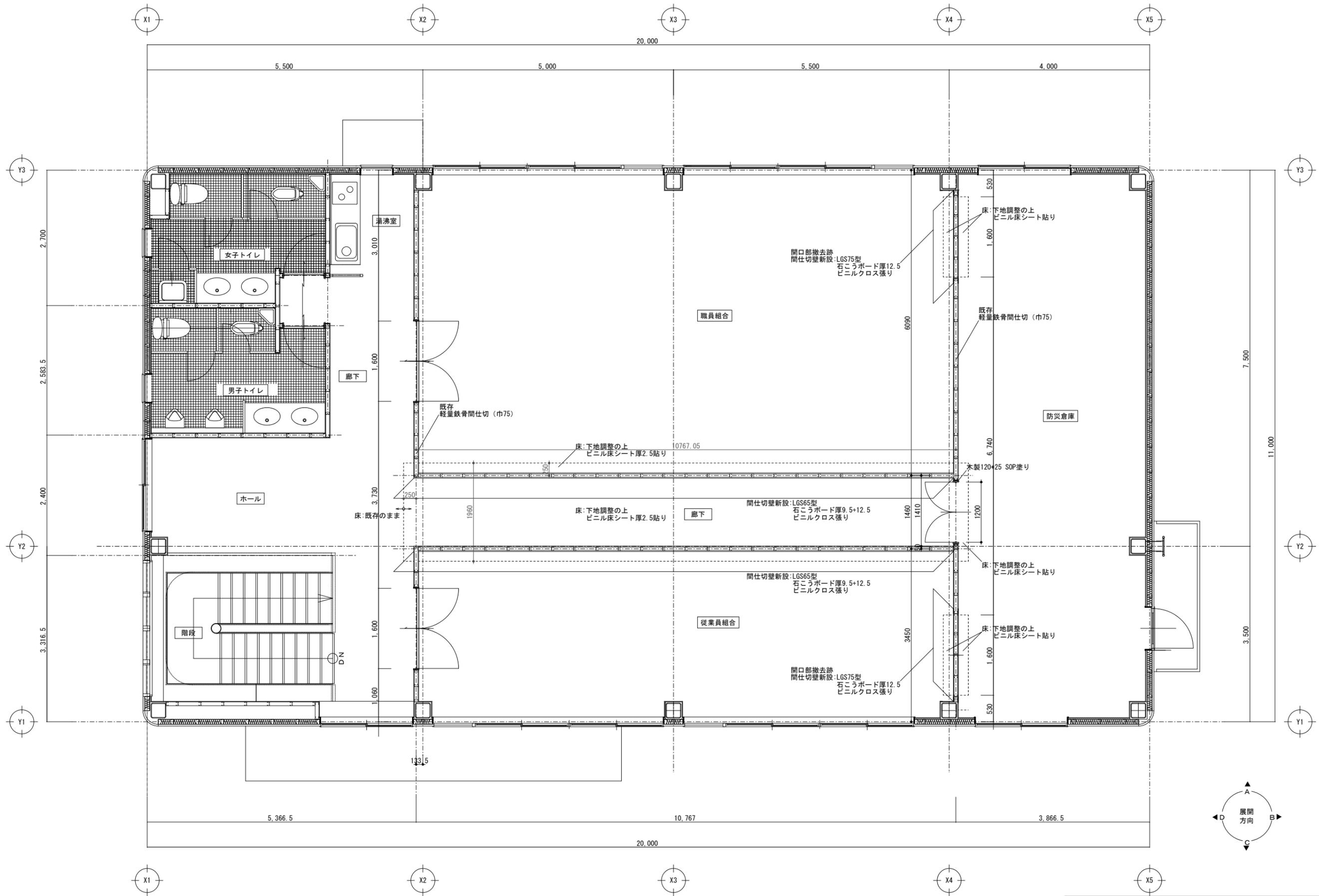


改修後 断面図 1/30

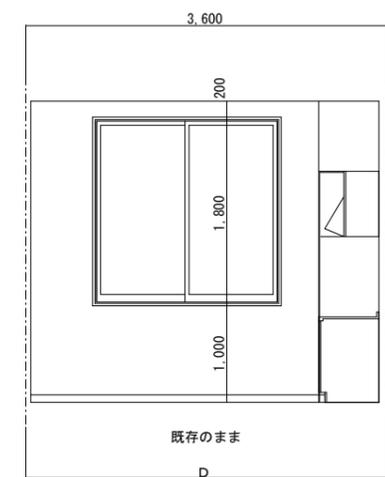
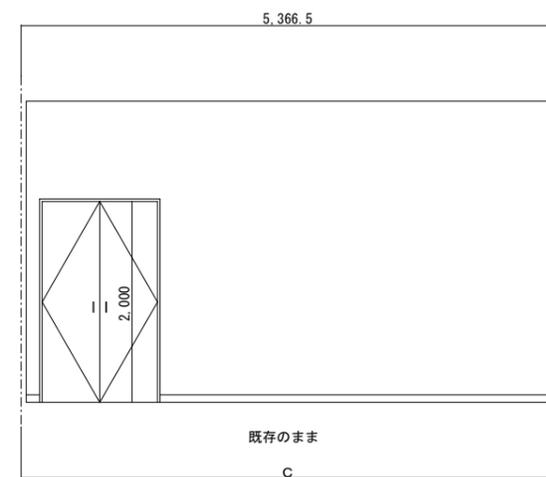
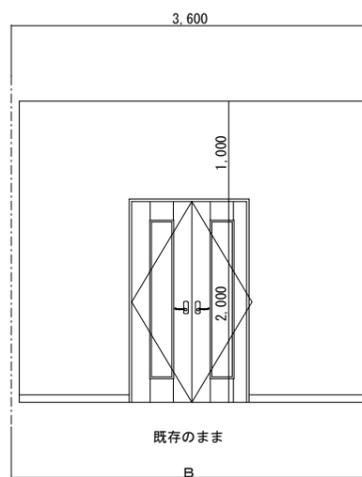
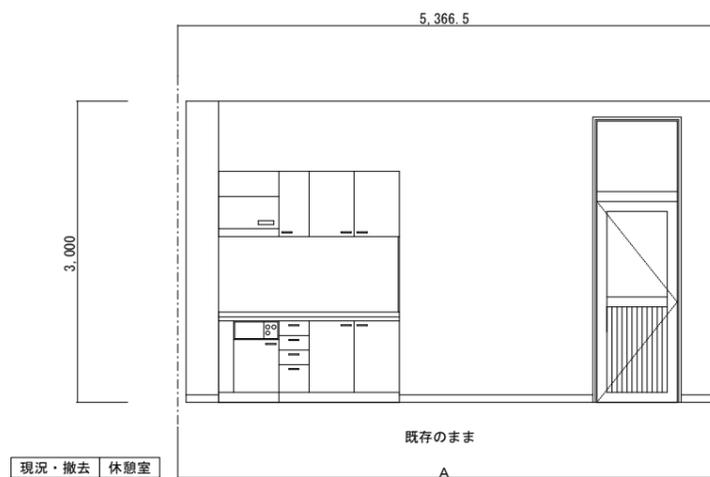
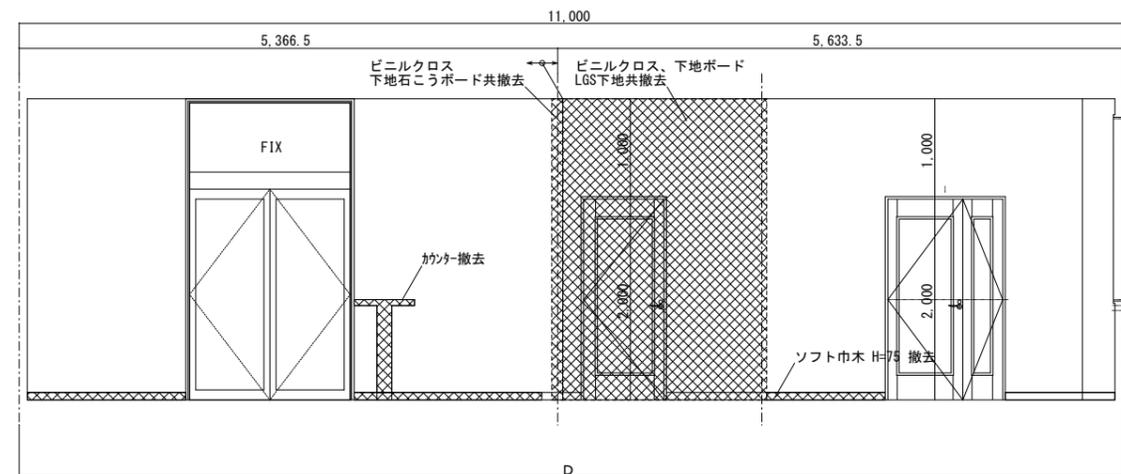
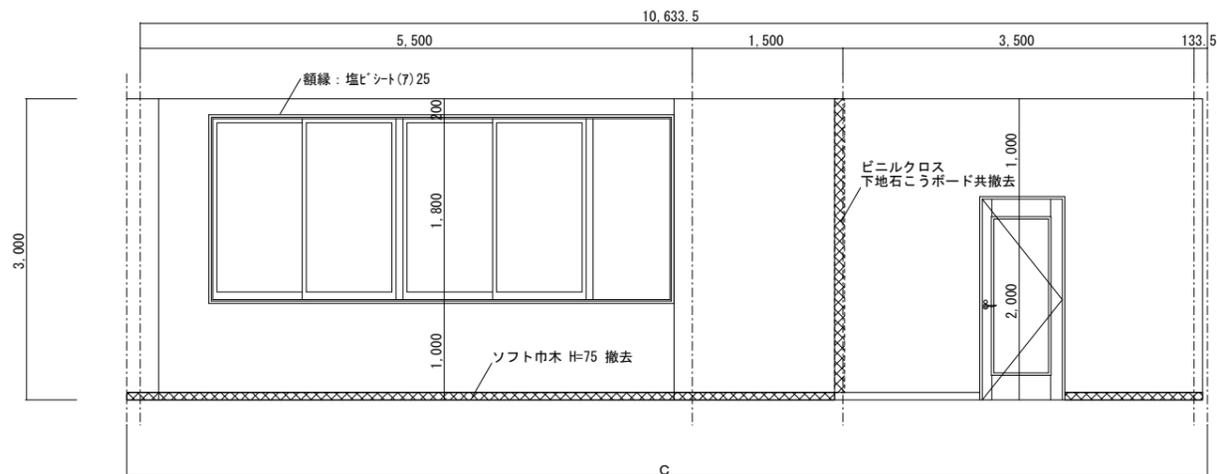
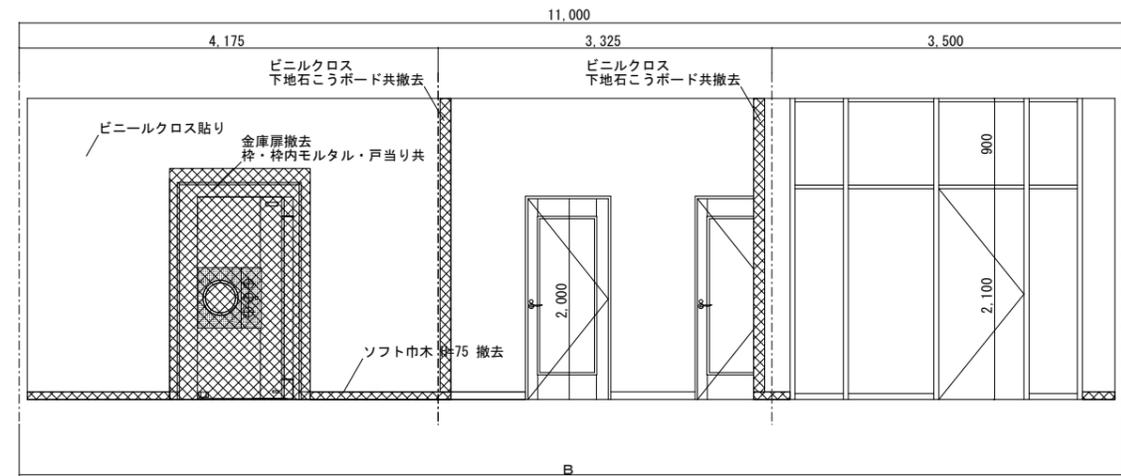
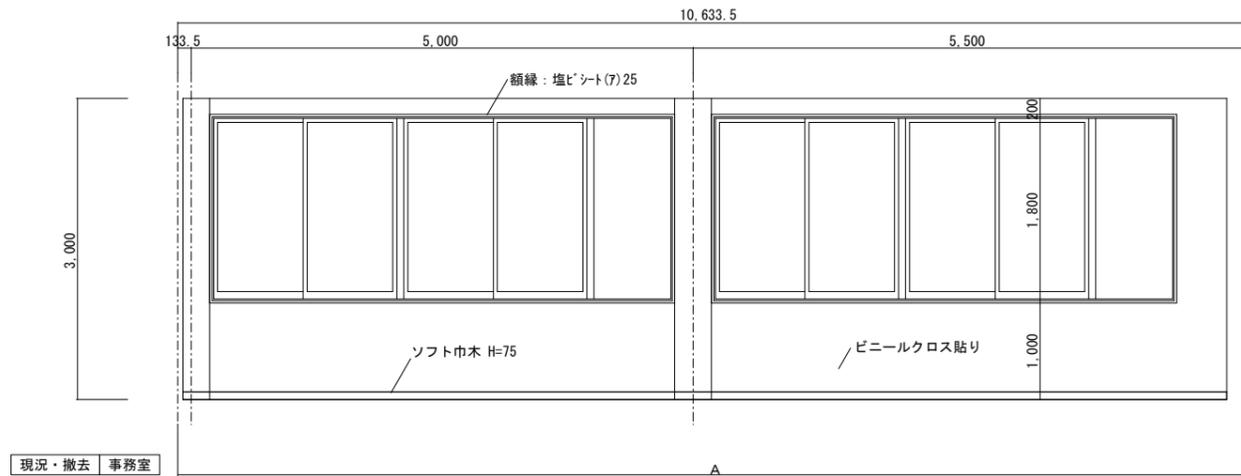
TITLE	DATE	NO
鳴門市役所東側付風機改修工事		A-15
NAME	SCALE	
事務所棟 断面詳細図 (1)		1/30
株式会社 川建設	1級建築士登録 第126265	川端壮一郎



TITLE	DATE	NO
鳴門市役所東側付風機改修工事		A-16
NAME	SCALE	
事務所棟 改修後 1階平面詳細図	1/50	
株式会社 川建設	1級建築士登録 第126265	川端壮一郎

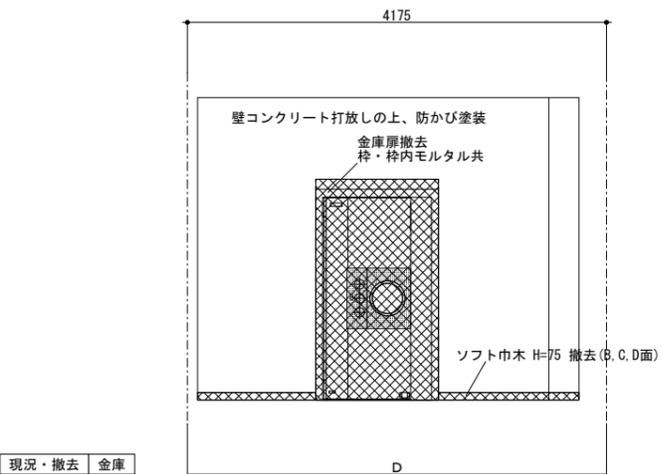
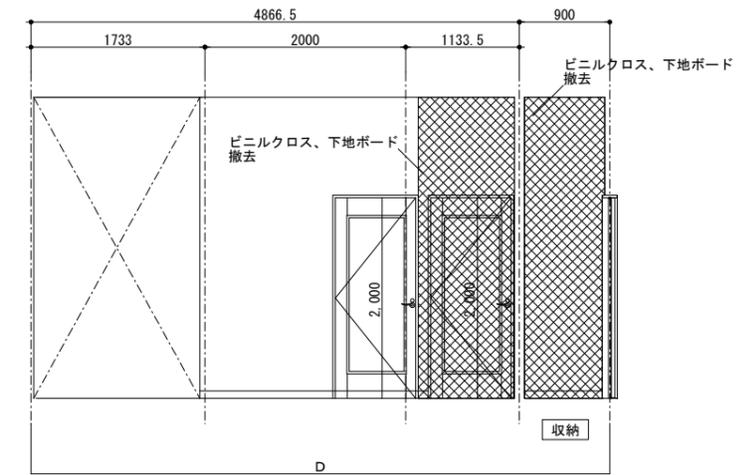
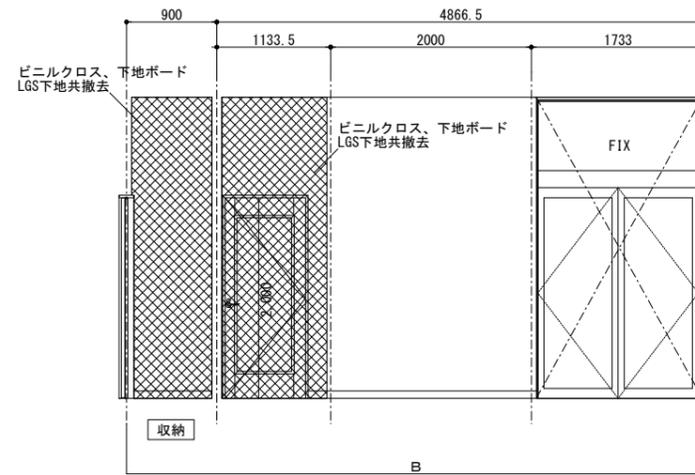
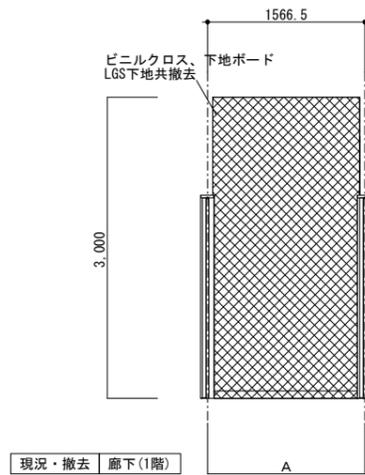
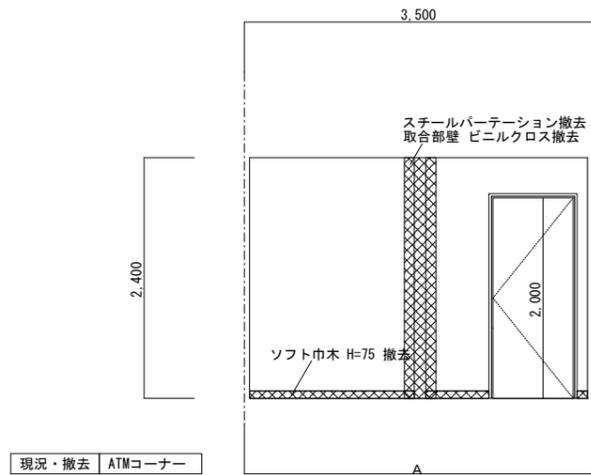
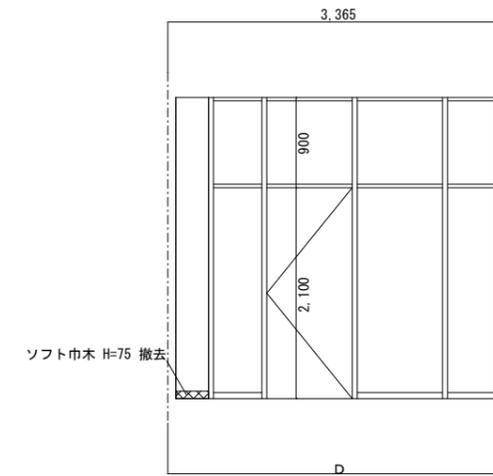
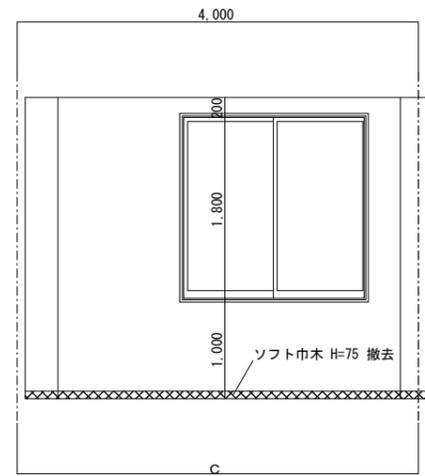
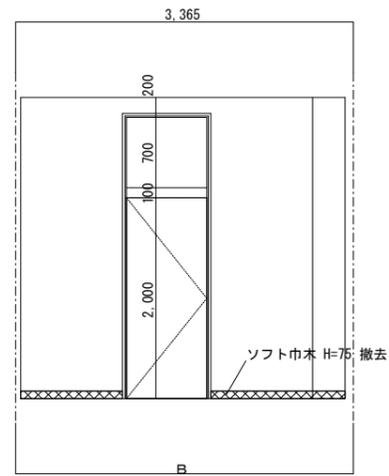
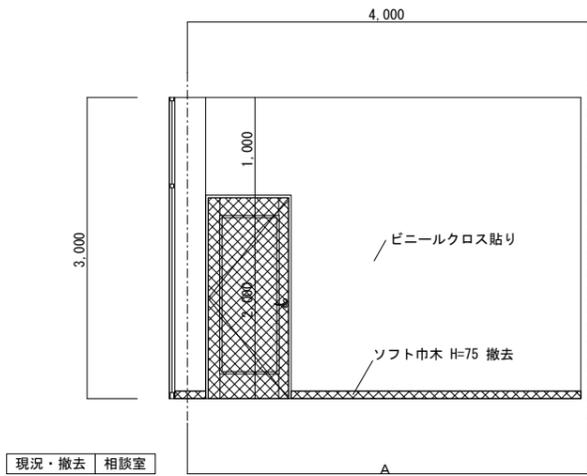


TITLE	DATE	NO
鳴門市役所東側付風機改修工事		A-17
NAME	SCALE	
事務所棟 改修後 2階平面詳細図	1/50	
株式会社 川建設	1級建築士登録 第126265	川端壮一郎



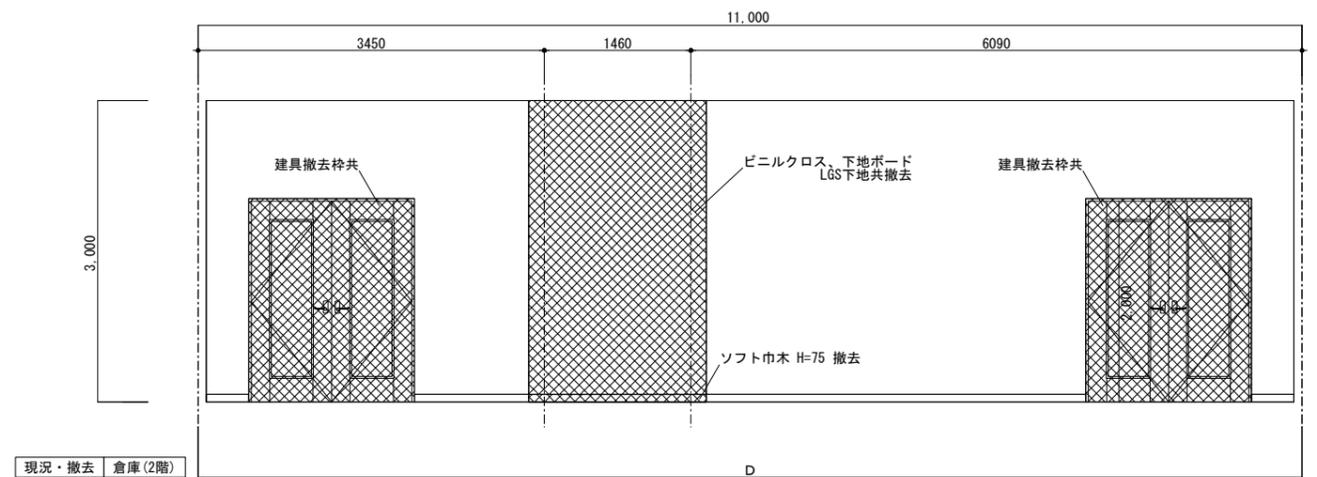
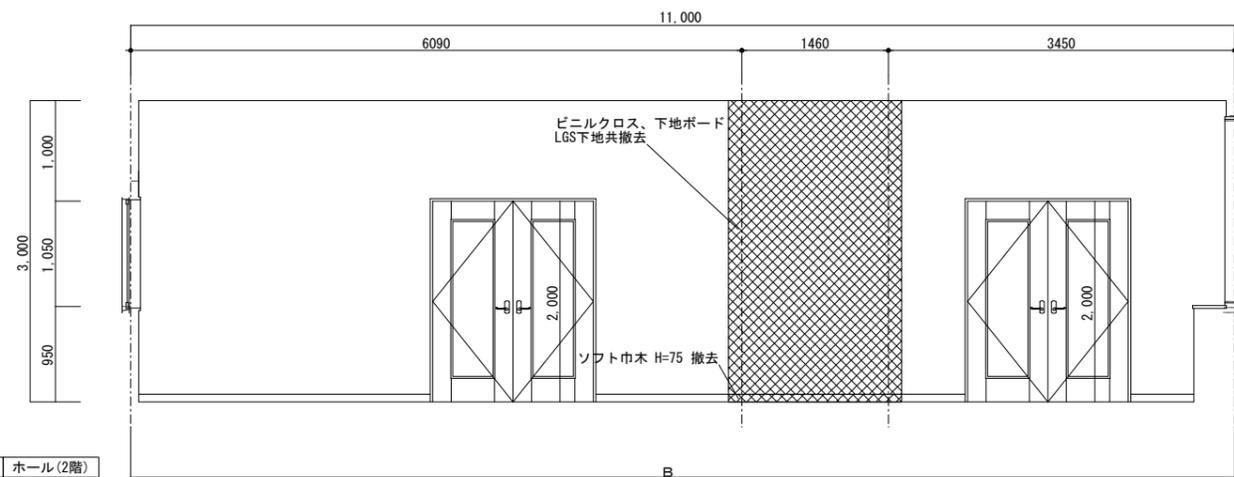
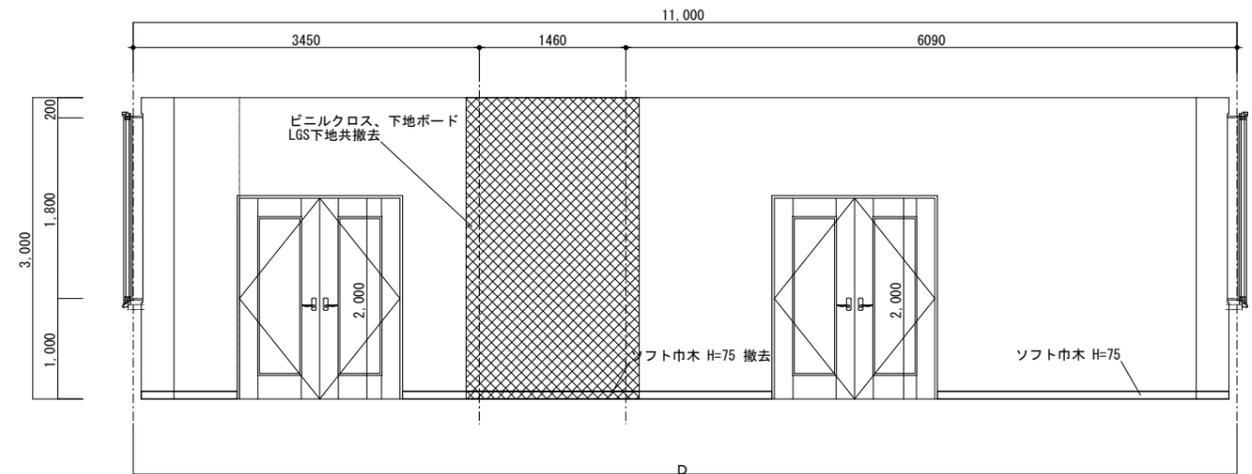
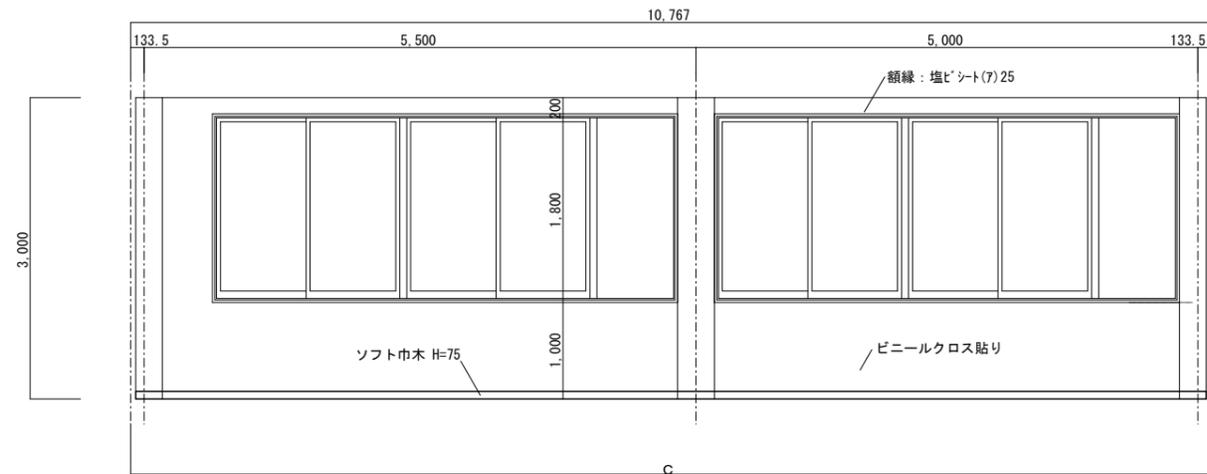
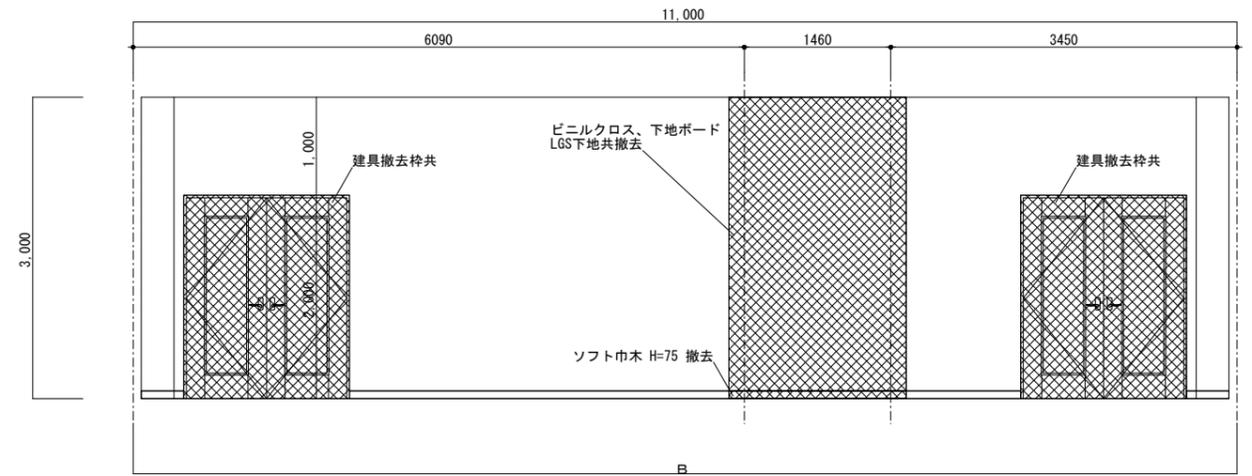
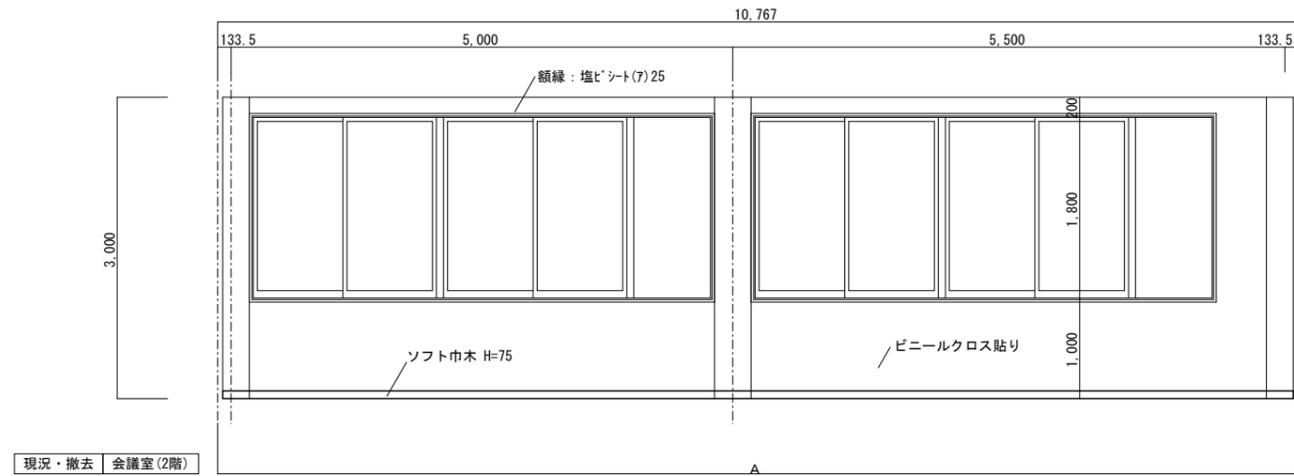
 : 撤去範囲を示す

TITLE	DATE	NO
鳴門市役所東側付風棟改修工事		A-18
NAME	SCALE	
事務所棟 現況・撤去 展開図(1)		1/50
株式会社 川建設	1級建築士登録 第126265	川端壮一郎



 : 撤去範囲を示す

TITLE	DATE	NO
鳴門市役所東側付風棟改修工事		A-19
NAME	SCALE	
事務所棟 現況・撤去 展開図(2)	1/50	
株式会社 川建設	1級建築士登録 第126265	川端壮一郎

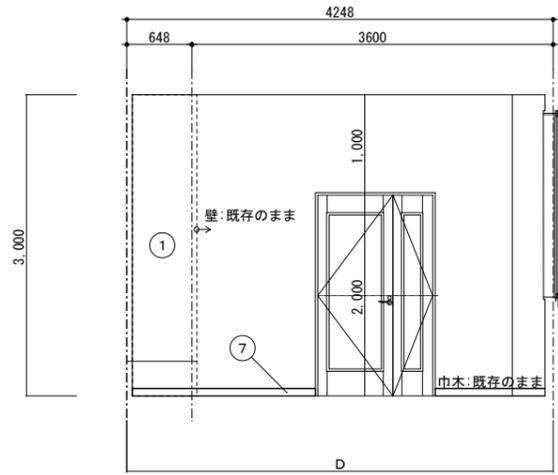
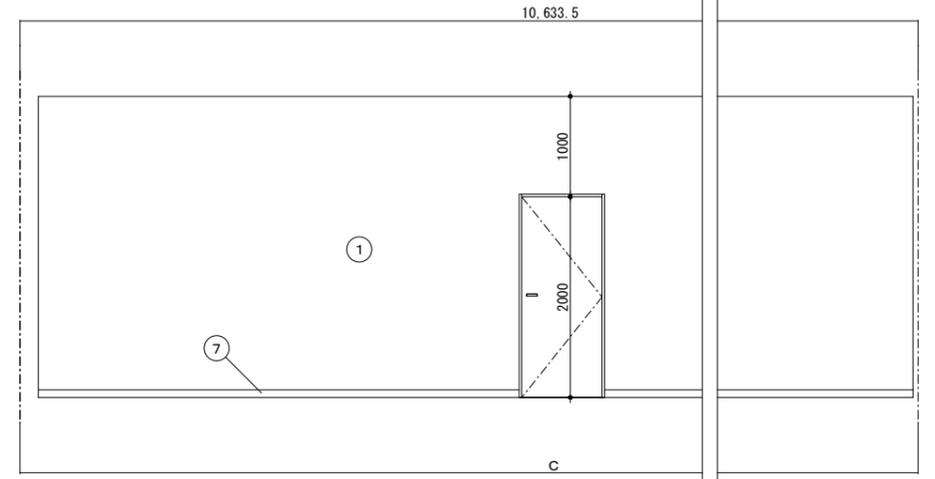
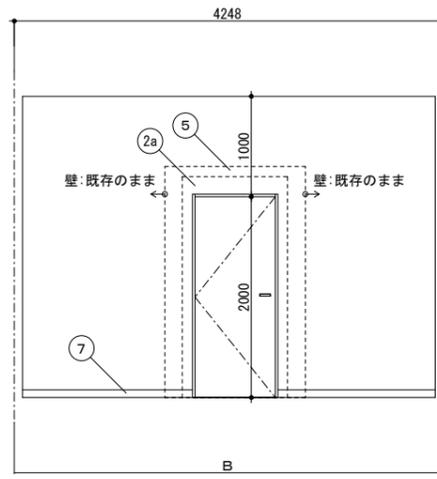
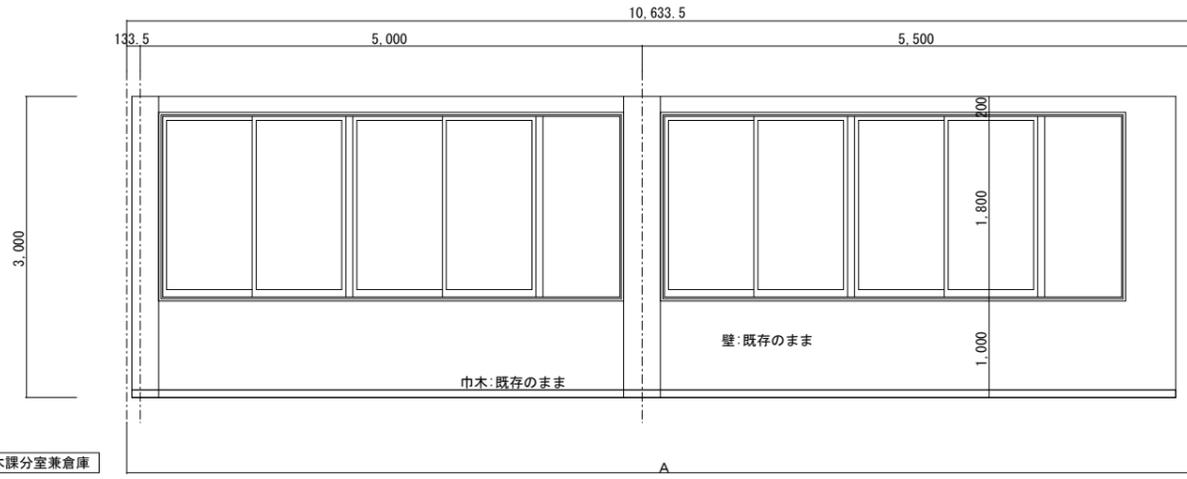


現況・撤去 ホール(2階)

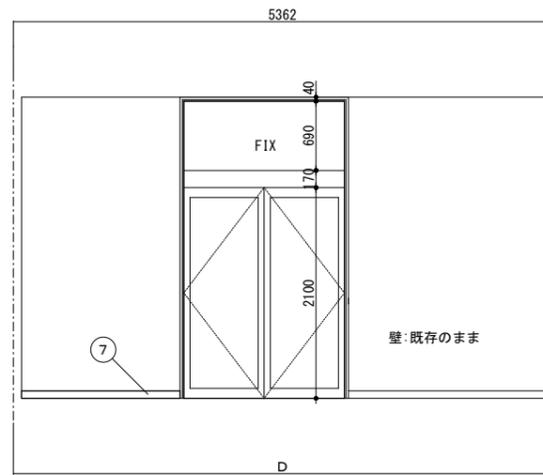
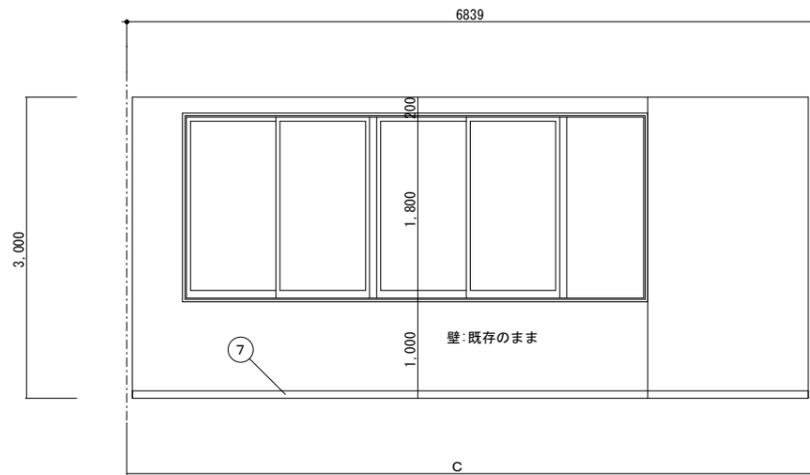
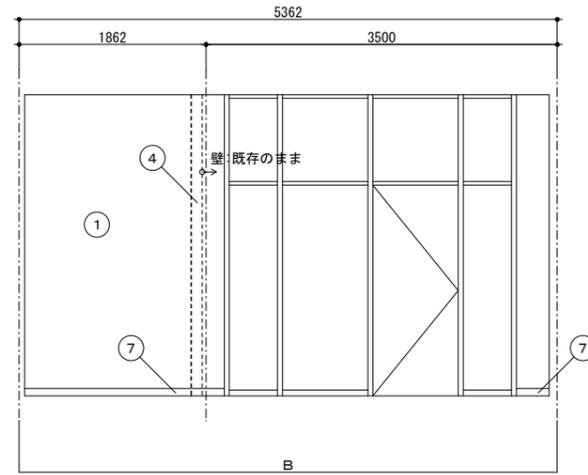
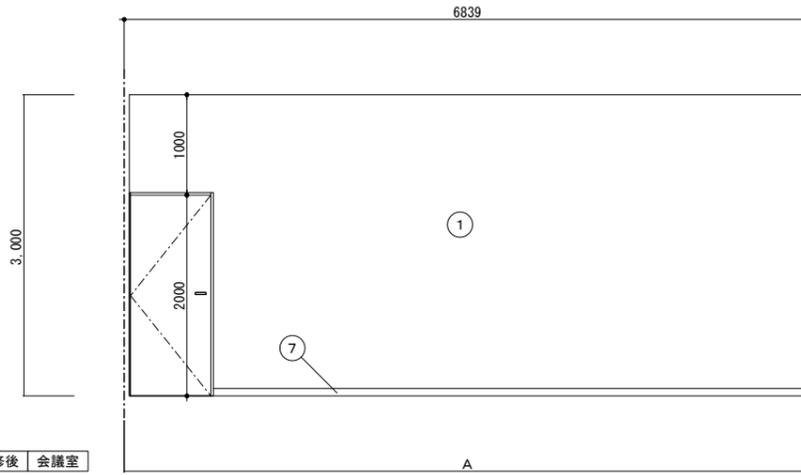
現況・撤去 倉庫(2階)

TITLE	DATE	NO
鳴門市役所東側付風機改修工事		A-20
NAME	SCALE	
事務所様 現況・撤去 展開図(3)		1/50
株式会社 川建設	1級建築士登録 第126265	川端壮一郎

改修後 土木課分室兼倉庫

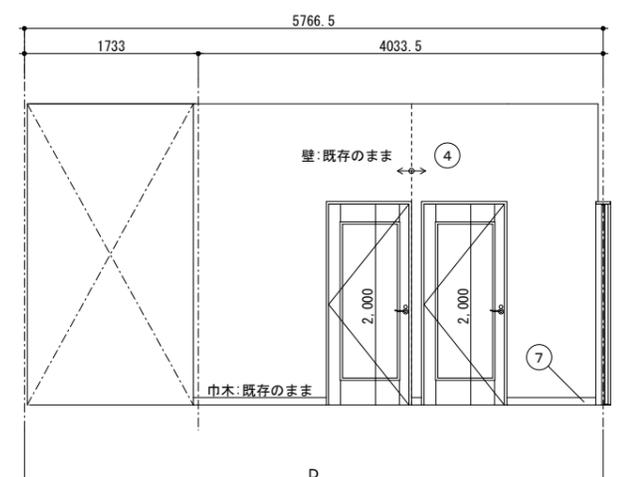
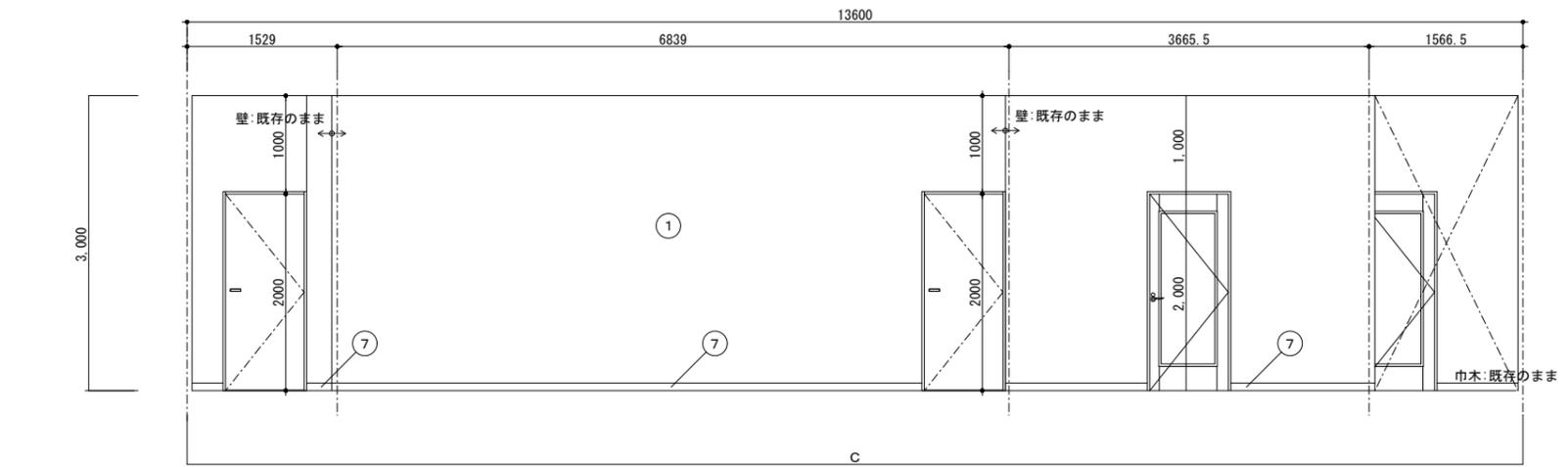
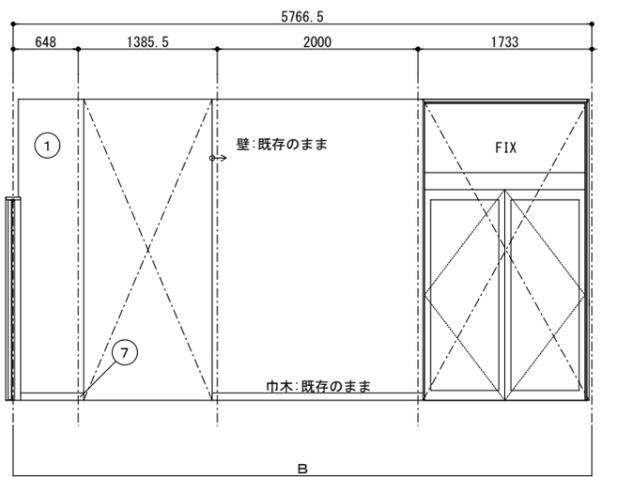
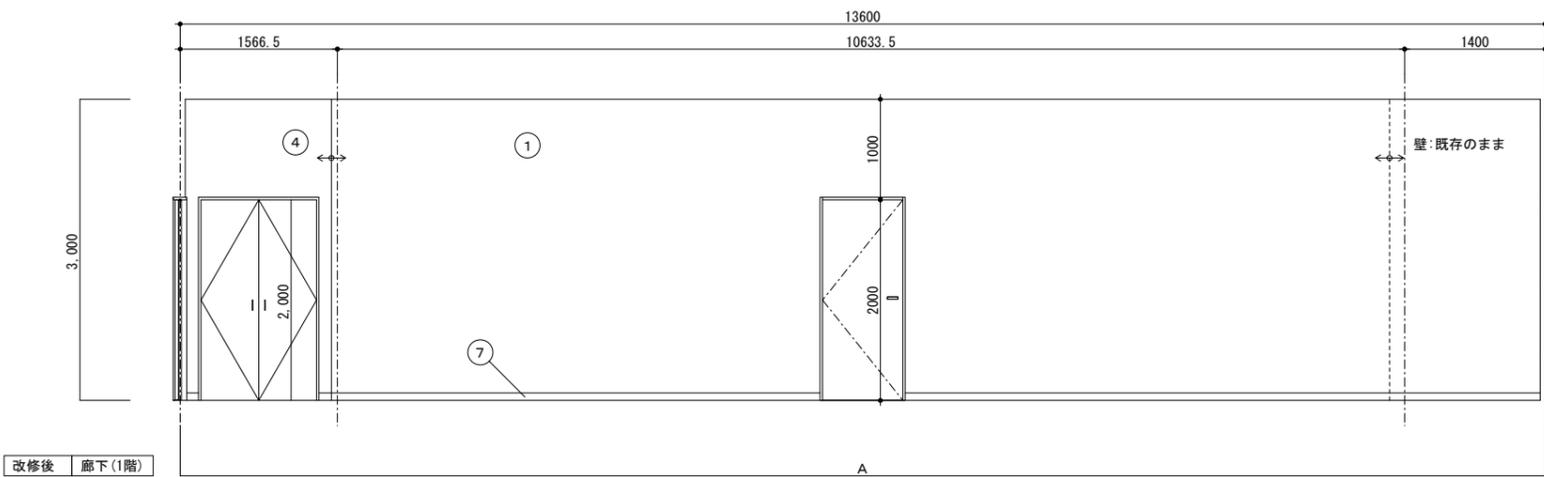
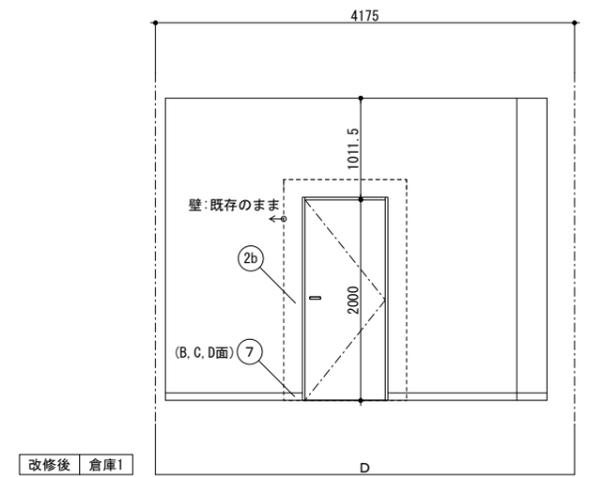
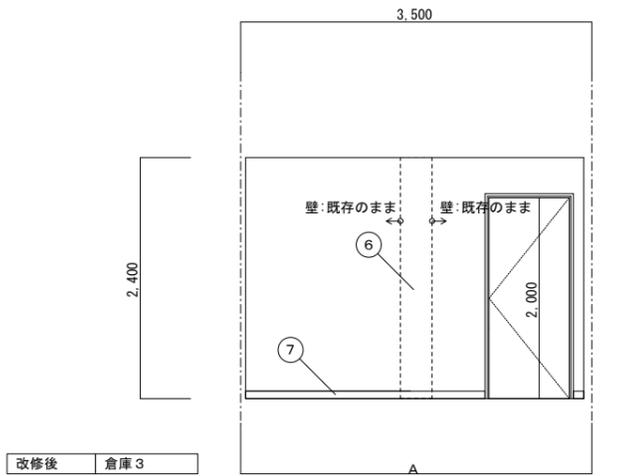
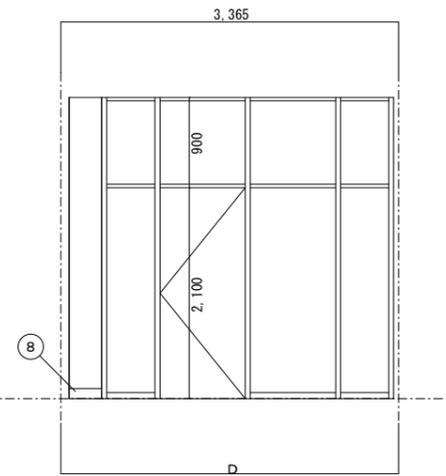
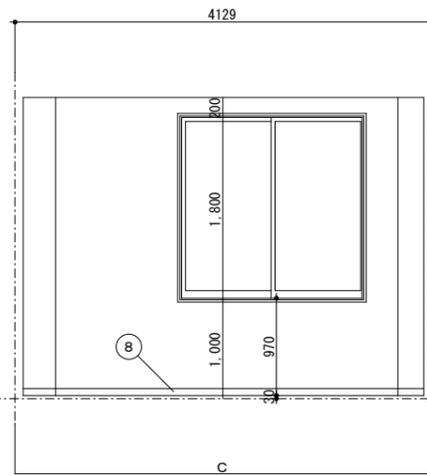
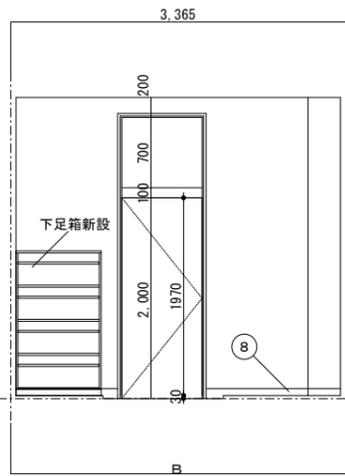
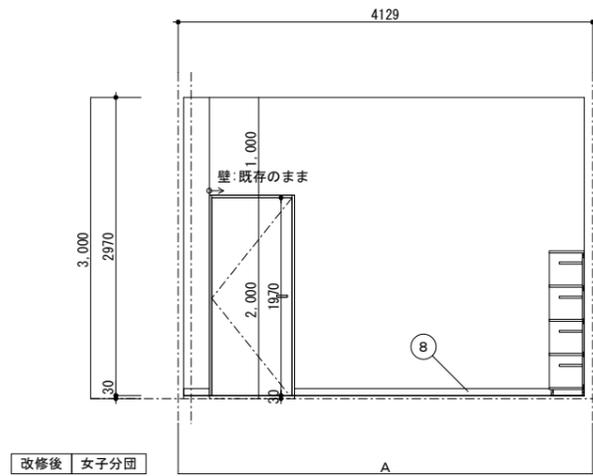


改修後 会議室

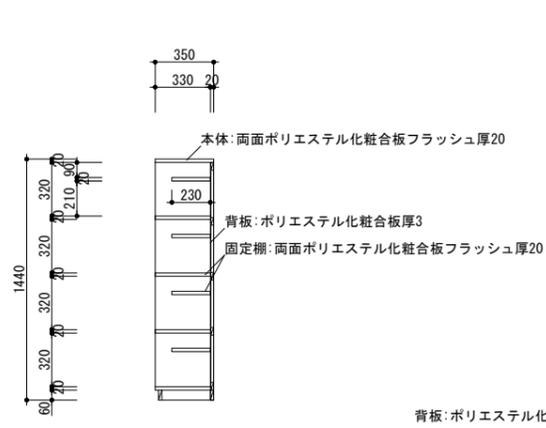


記号	部位	下地	仕上げ
①	壁	LGS65型 新設	石こうボード厚12.5+9.5の上、ビニルクロス貼り
②a	壁	LGS50型 新設	石こうボード厚12.5+9.5の上、ビニルクロス貼り
②b	壁	LGS50型 新設	石こうボード厚12.5+9.5の上、EP-G塗
③	壁	LGS75型 新設	石こうボード厚12.5の上、ビニルクロス貼り
④	壁	既存LGS	石こうボード厚12.5の上、ビニルクロス貼り
⑤	壁	GL工法	石こうボード厚12.5の上、ビニルクロス貼り
⑥	壁		既存せつこうボードの上、ビニルクロス貼り
⑦	巾木		ビニル巾木 H=75
⑧	巾木		ビニル巾木 H=100

 : 撤去範囲を示す

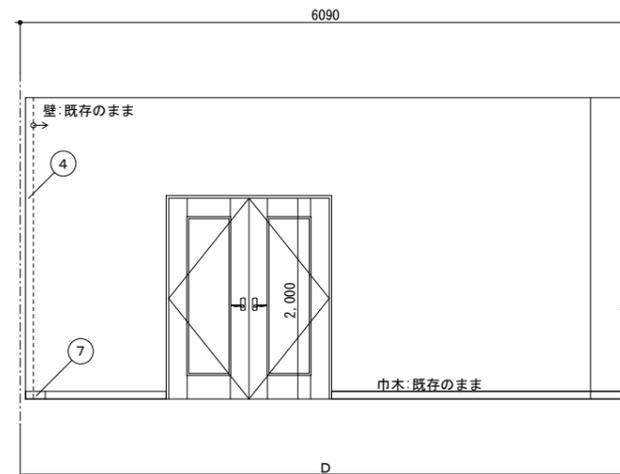
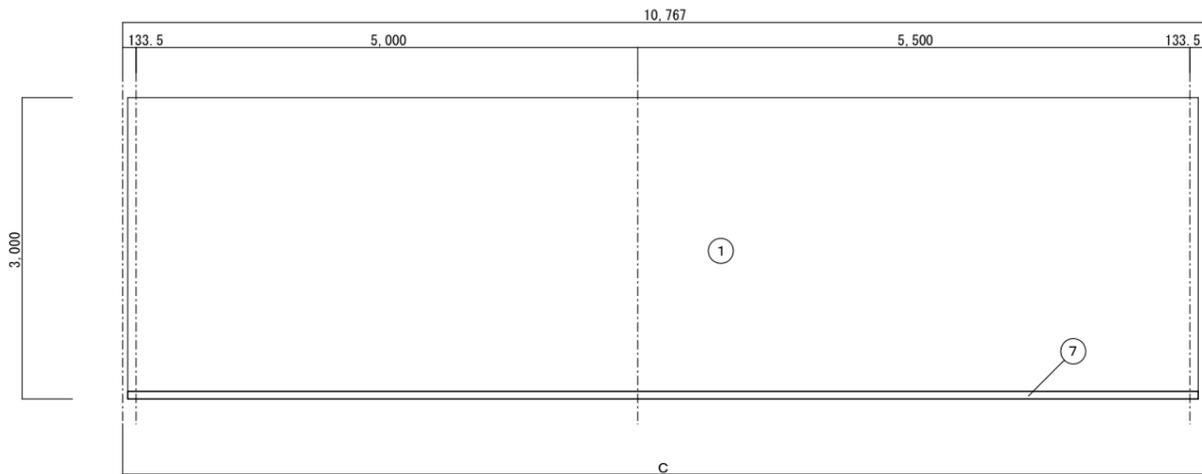
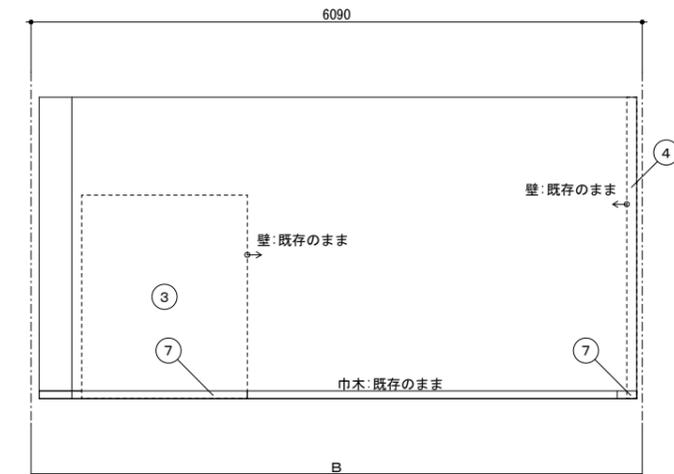
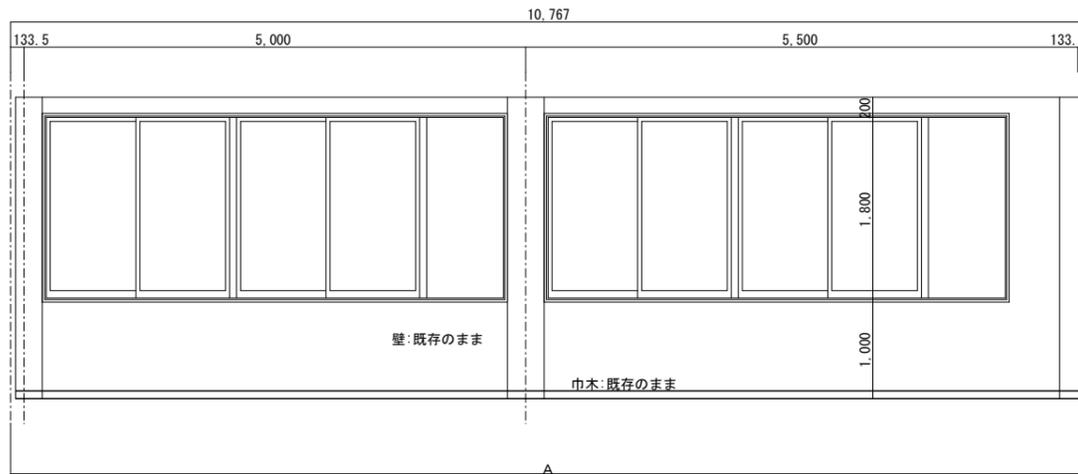


記号	部位	下地	仕上げ
①	壁	LGS65型 新設	石こうボード厚12.5+9.5の上、ビニルクロス貼り
②a	壁	LGS50型 新設	石こうボード厚12.5+9.5の上、ビニルクロス貼り
②b	壁	LGS50型 新設	石こうボード厚12.5+9.5の上、EP-G塗
③	壁	LGS75型 新設	石こうボード厚12.5の上、ビニルクロス貼り
④	壁	既存LGS	石こうボード厚12.5の上、ビニルクロス貼り
⑤	壁	GL工法	石こうボード厚12.5の上、ビニルクロス貼り
⑥	壁		既存せこうボードの上、ビニルクロス貼り
⑦	巾木		ビニル巾木 H=75
⑧	巾木		ビニル巾木 H=100

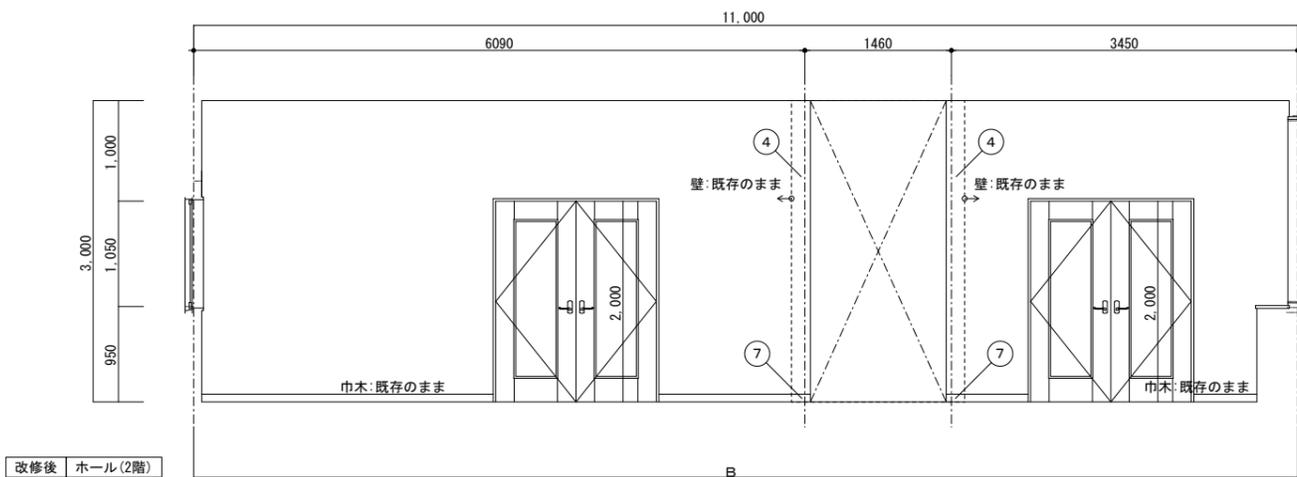


下足箱新設(女子分団) 1/30

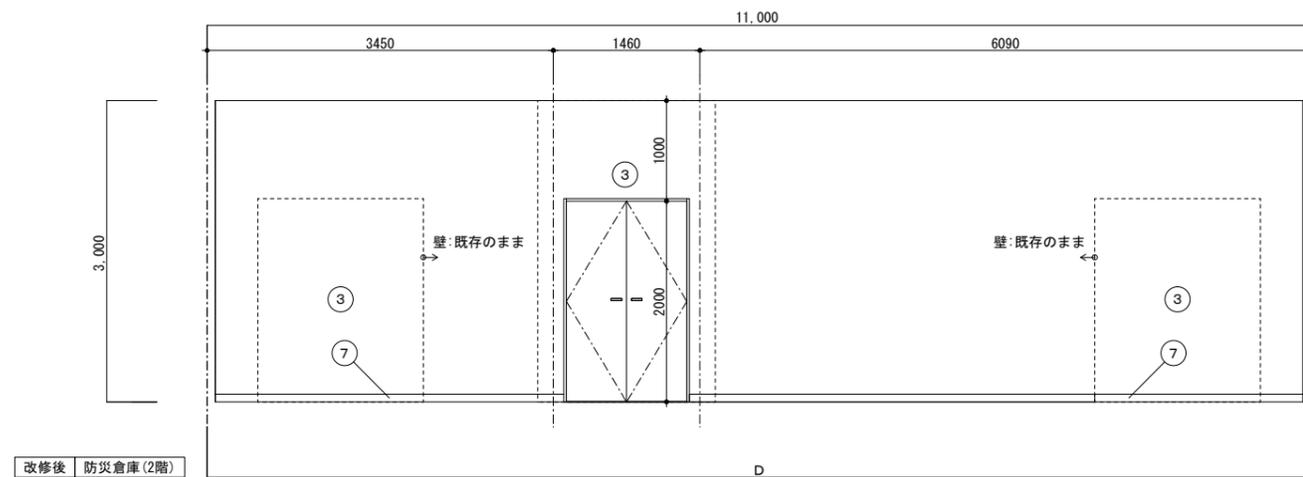
改修後 職員組合



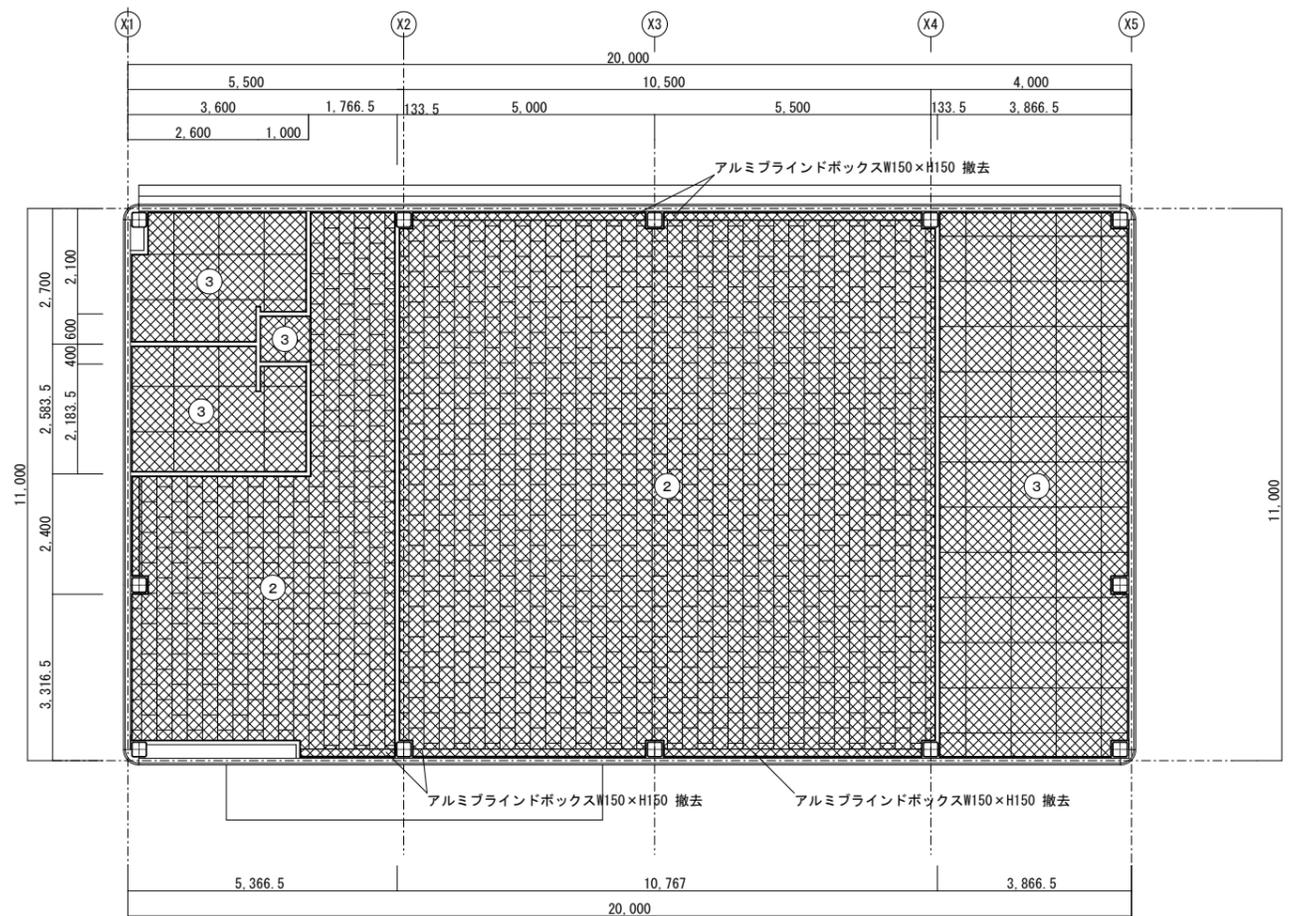
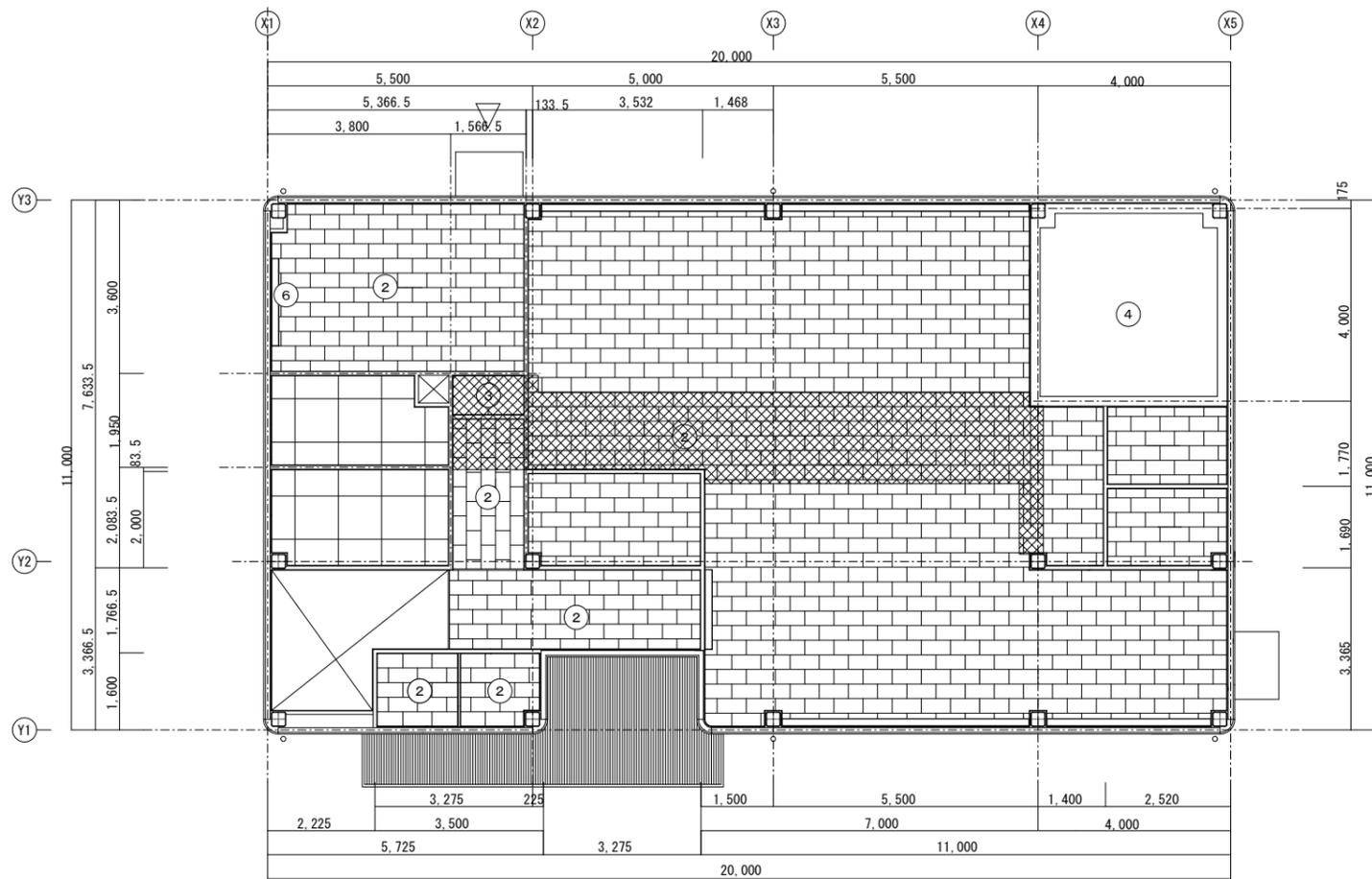
記号	部位	下地	仕上げ
①	壁	LGS65型 新設	石膏ボード厚12.5+9.5の上、ビニルクロス貼り
②a	壁	LGS50型 新設	石膏ボード厚12.5+9.5の上、ビニルクロス貼り
②b	壁	LGS50型 新設	石膏ボード厚12.5+9.5の上、EP-G塗
③	壁	LGS75型 新設	石膏ボード厚12.5の上、ビニルクロス貼り
④	壁	既存LGS	石膏ボード厚12.5の上、ビニルクロス貼り
⑤	壁	GL工法	石膏ボード厚12.5の上、ビニルクロス貼り
⑥	壁		既存せっこうボードの上、ビニルクロス貼り
⑦	巾木		ビニル巾木 H=75
⑧	巾木		ビニル巾木 H=60



改修後 ホール(2階)



改修後 防災倉庫(2階)



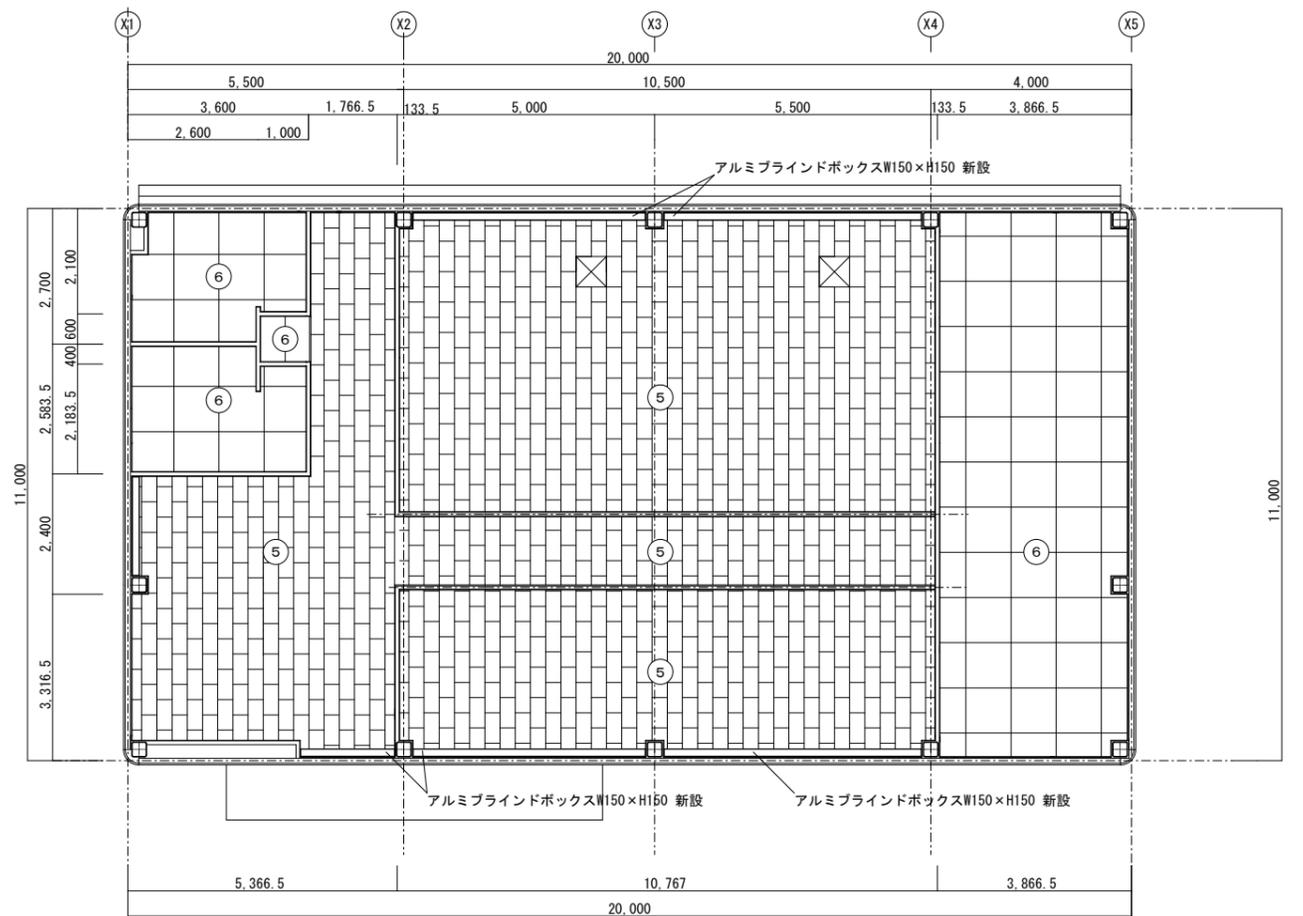
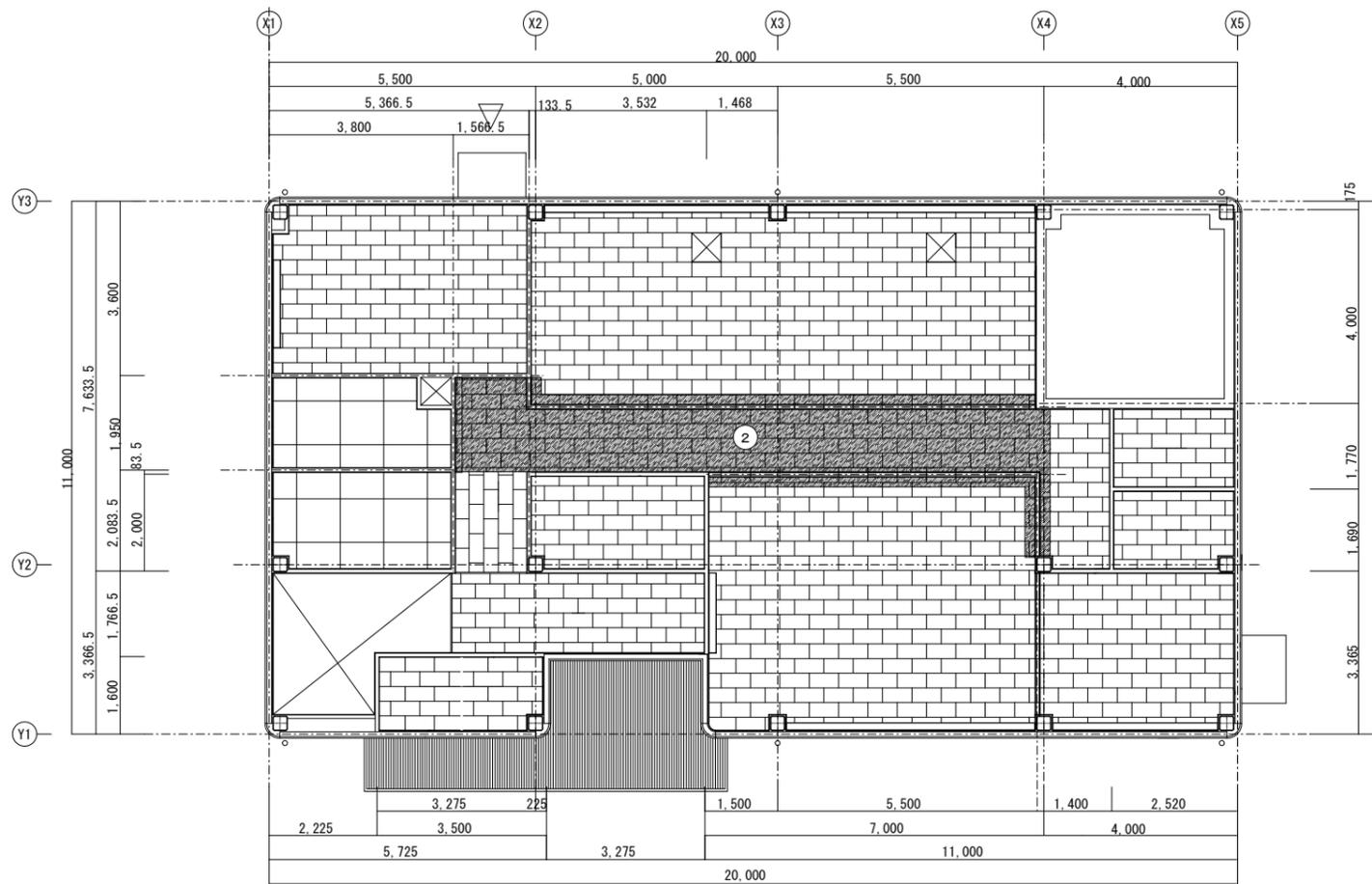
1階天井伏図 1 / 100

2階天井伏図 1 / 100

現況 天井仕上表		
	下 地	仕 上
②	鋼製天井下地 PB(7)9.5	ロックウール吸音板(7)12
③	鋼製天井下地	化粧PB(7)9.5-900角
④	コンクリート打放し補修	防カビ塗装
特記 ・2階天井仕上材撤去後、LGS下地の現況調査を行い、報告書を作成の上、監督員に提出すること。		

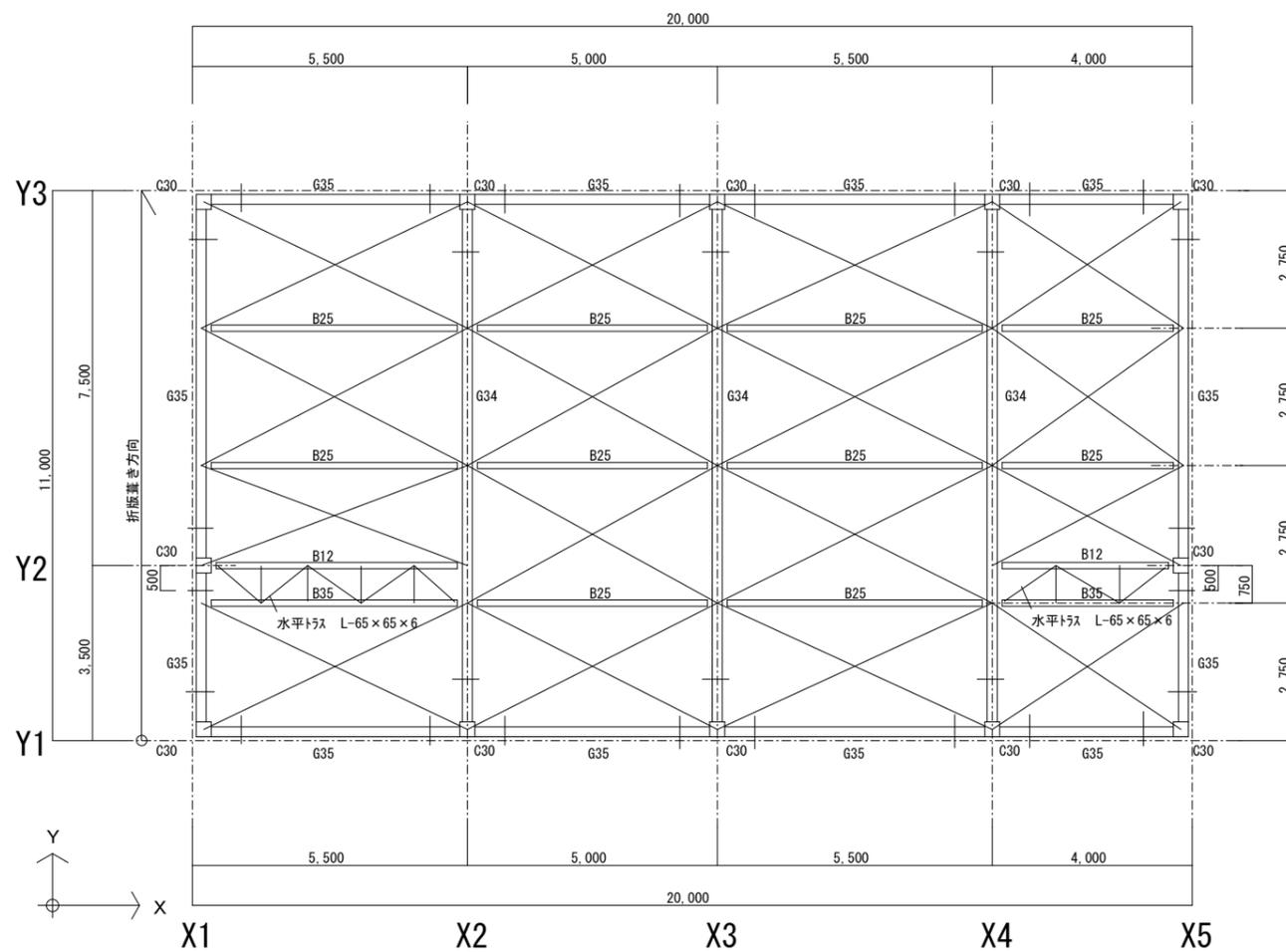
 : 撤去範囲を示す
 1階 仕上げのみ撤去
 2階 LGS下地共撤去

TITLE	DATE	NO
鳴門市役所東側付風機改修工事		A-24
NAME	SCALE	
事務所棟 現況・撤去 天井伏図	1/100	
株式会社 川建設	1級建築士登録 第126265	川端壮一郎



改修後 天井仕上表	
②	範囲 : 復旧 石こうボード厚9.5の上 ロックウール吸音板厚12張り
⑤	LGS下地 石こうボード厚9.5の上 ロックウール吸音板厚12張り
⑥	LGS下地 化粧せっこうボード厚9.5 900角 張り
⊗	: 天井点検口600角新設

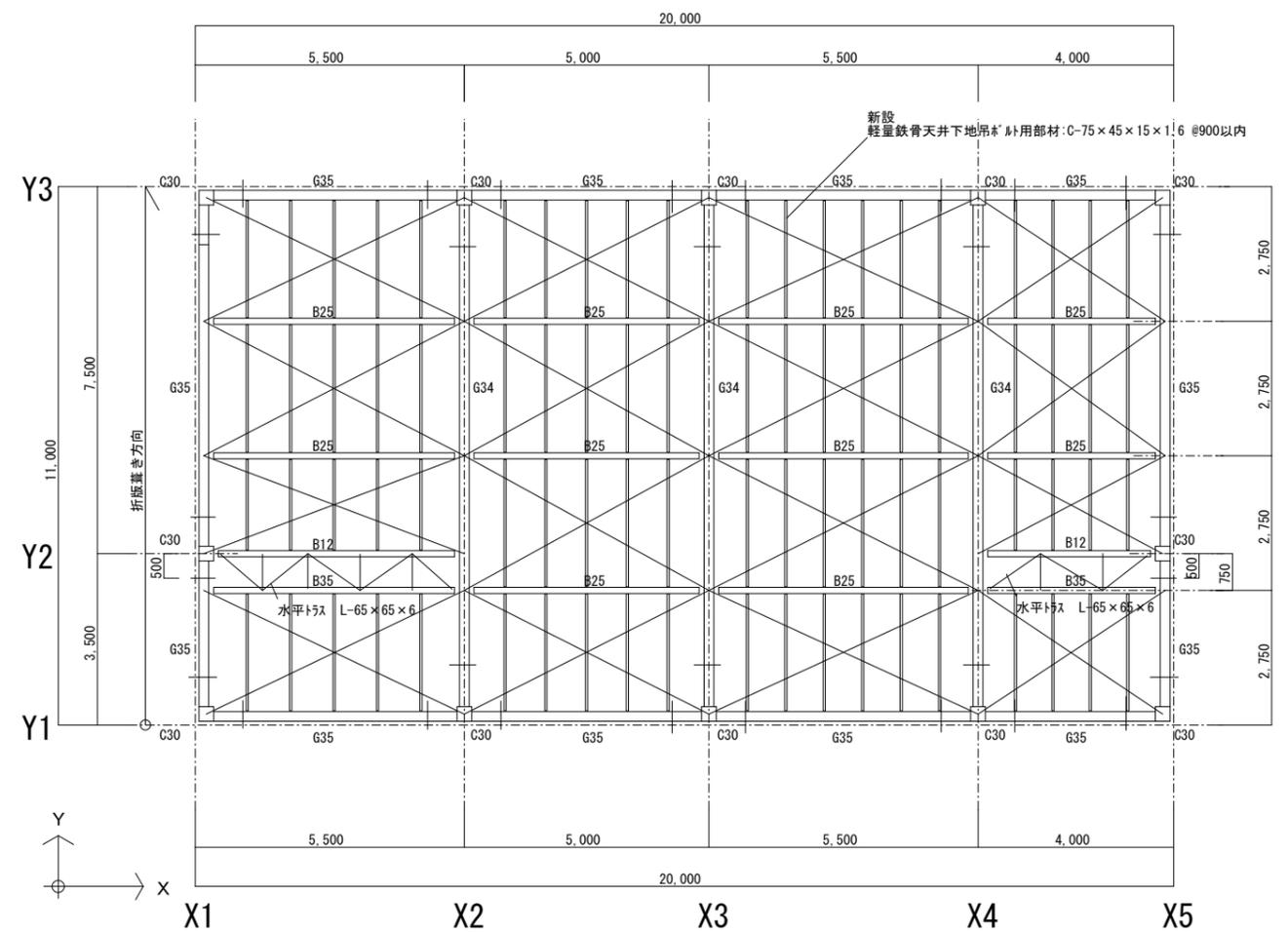
TITLE	DATE	NO
鳴門市役所東側付風機改修工事		A-25
NAME	SCALE	
事務所棟 改修後 天井伏図		1/100
株式会社 川建設計	1級建築士登録 第126265	川端壮一郎



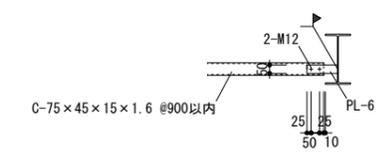
現況 R階梁伏図 S=1/100

現況 鉄骨断面表

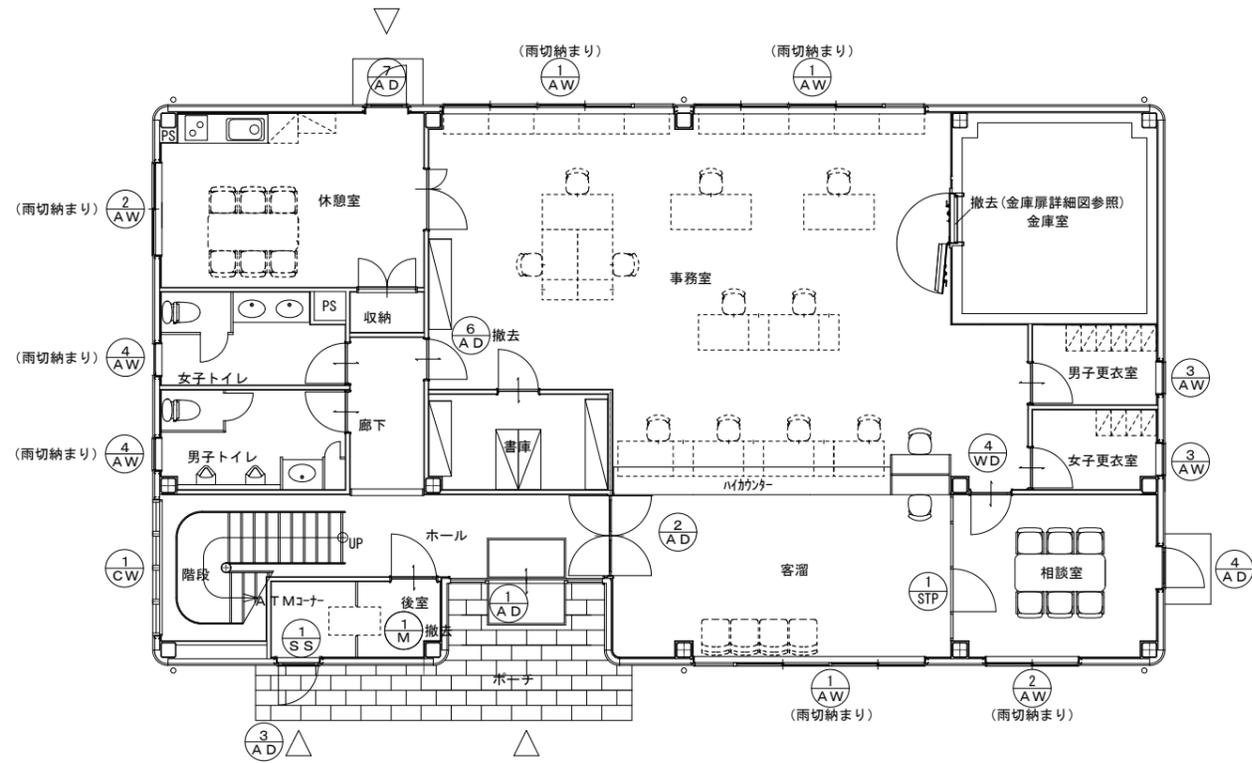
G35	H-350×175× 7× 11	胴縁	C-100× 50× 20×2.3
G34	H-340×250× 9× 14		@500
B35	H-350×175× 7× 11		
B25	H-250×125× 6× 9		
B12	H-125×125×6.5× 9		
C30	□-300×300 t=12		
R階屋根用ブレース M-20			



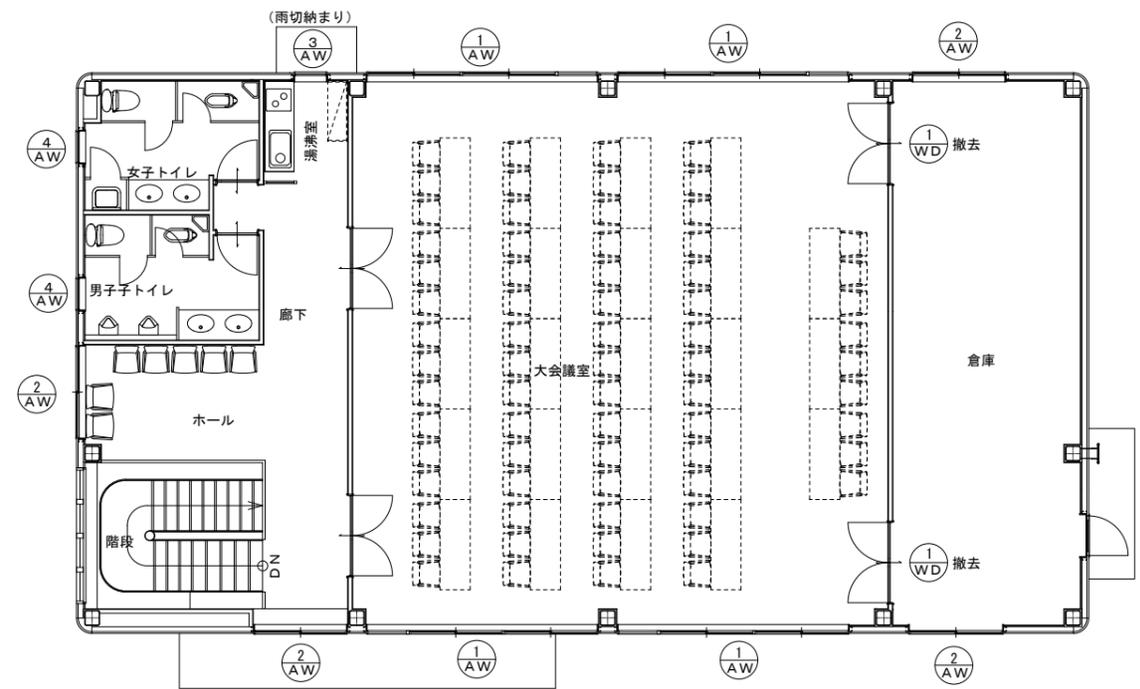
改修後 R階梁伏図 S=1/100



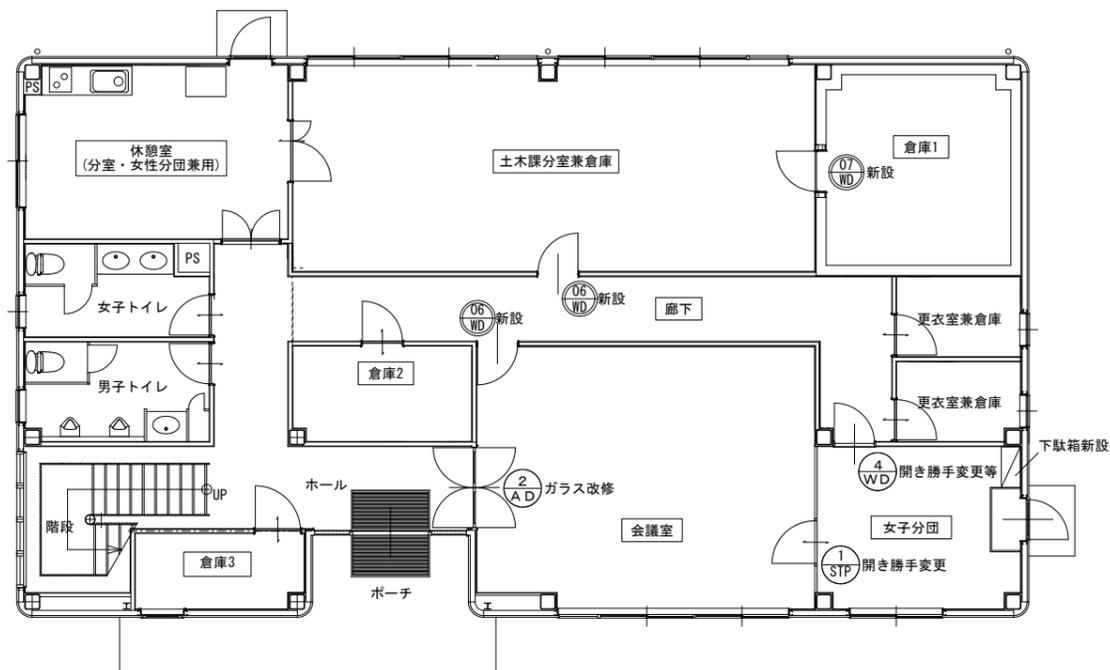
新設 軽量鉄骨天井地下吊り 用部材



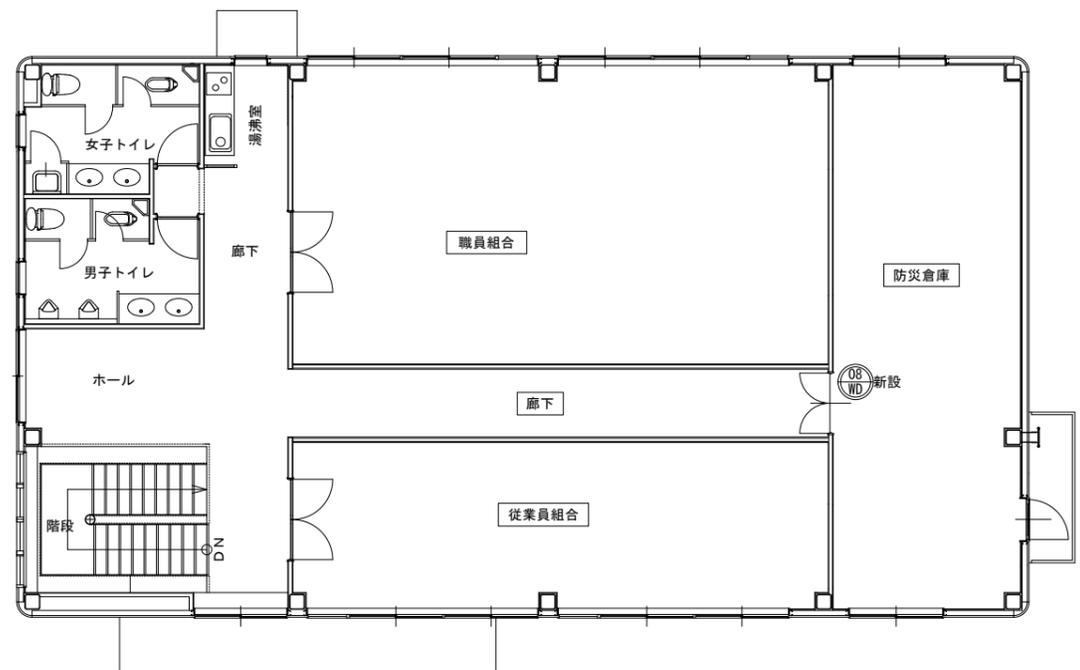
現況・撤去 1階建具配置図 1 / 100



現況・撤去 2階建具配置図 1 / 100



改修後 1階建具配置図 1 / 100



改修後 2階建具配置図 1 / 100

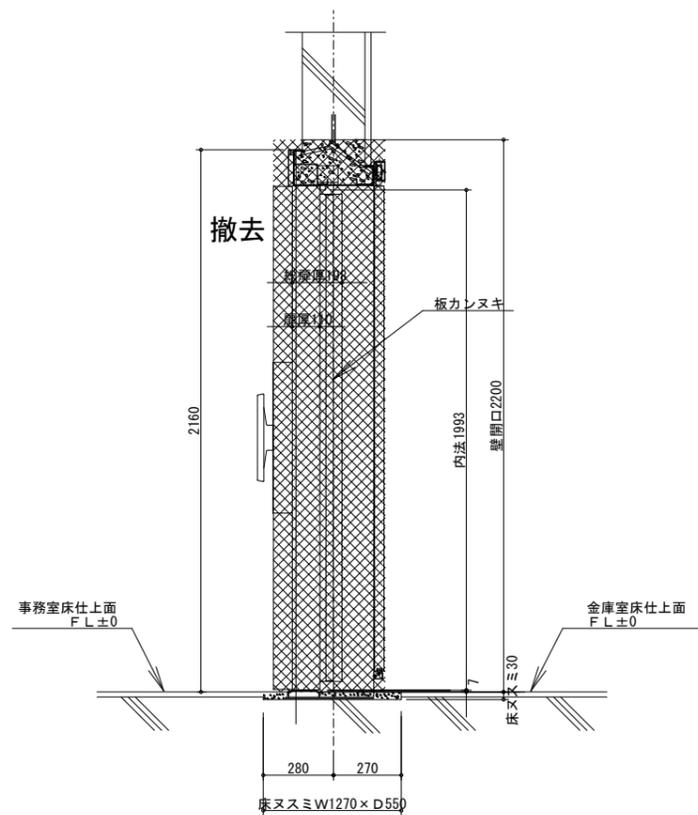
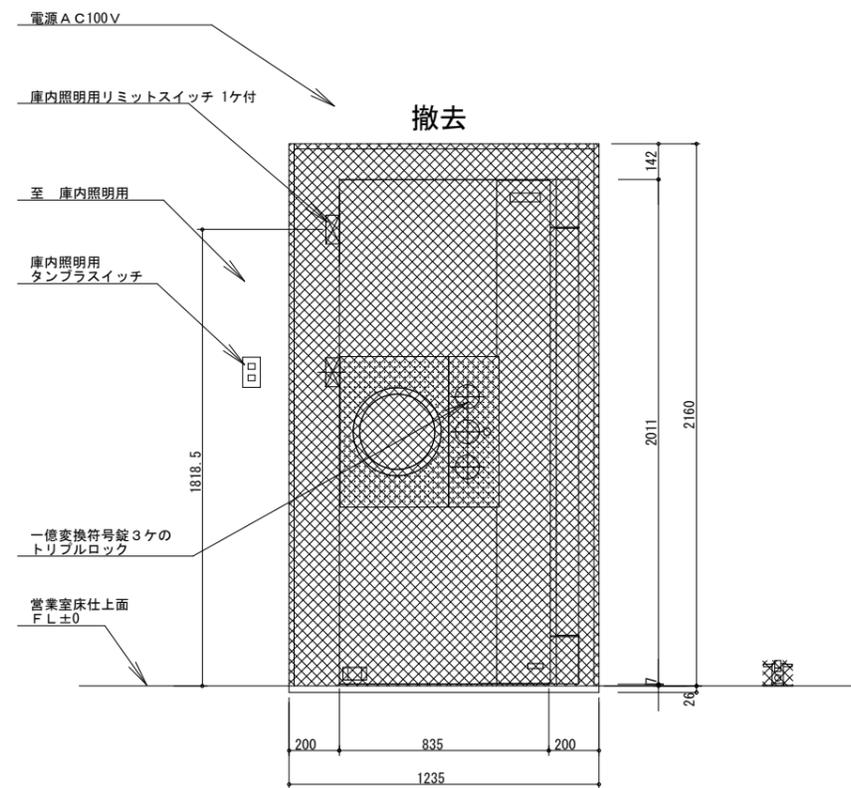
TITLE	DATE	NO
鳴門市役所東側付風機改修工事		A-27
NAME	SCALE	
事務所棟 現況 建具配置図		1/100
株式会社 川建設	1級建築士登録 第126265	川端壮一郎

記号	① AD	② AD ガラス改修	③ AD ガラス改修	④ AD	① SS	① AW	① CW
図面							
型式	欄間付引分け自動ドア	欄間FIX付両開きドア	欄間付片開きドア	欄間付片開きドア	軽量電動シャッター	FIX付2連引き違い窓	
材質(見込)	アルミカラー	アルミカラー	アルミカラー	アルミカラー	スラット厚1.0(焼付鋼板)	アルミカラー	
室名(数量)	1階ホール (1)	1階ホール (1)	1階ATMコーナー (1)	1階相談室 (1)	1階ATMコーナー (1)	1階事務室、客溜、2階大会議室 (7)	
ガラス改修		ドア部ガラス面:カッティングシート貼り(すりガラス調)	ドア部ガラス面:カッティングシート貼り(すりガラス調)				
シーリング改修							
備考							
記号	② AW	③ AW	④ AW	⑥ AD 撤去	⑦ AD	① WD 撤去(枠・SUS沓摺共)	
図面							
型式	引き違い窓	すべり出し窓	すべり出し窓	片開きドア	欄間付片開きドア	両開きドア	跳ね上げ窓付カーテンウォール
材質(見込)	アルミカラー	アルミカラー	アルミカラー	アルミカラー	アルミカラー	塩ビシート (36)	アルミカラー
室名(数量)	1階休憩室、相談室、2階ホール、倉庫 (6)	1階男子更衣室、女子更衣室、2階湯沸室 (3)	1、2階男子便所、女子便所 (4)	1階事務室 (1)	1階休憩室 (1)	2階倉庫 (2)	階段室 (1)
ガラス改修							
シーリング改修							
備考							
記号	④ WD 開き勝手変更、戸当りヤリ替え	① STP 開き戸:開き勝手変更	① M 撤去	⑥ WD 新設	⑦ WD 新設	⑧ WD 新設	
図面							
型式	片開きドア	スチールパーテーション	スチールパーテーション	片開きフラッシュドア	片開きフラッシュドア	片開きフラッシュドア	
材質(見込)	塩ビシート	スチールパーテーション EX同等(コマニー)	スチールパーテーション EX同等(コマニー)	ポリ合板両面フラッシュ (36)	ポリ合板両面フラッシュ (36)	ポリ合板両面フラッシュ (36)	
室名(数量)	1階相談室 (1)	1階相談室 (1)	1階ATMコーナー (1)	1階土木課分室兼倉庫、会議室 (2)	1階倉庫1 (1)	2階防災倉庫 (1)	
ガラス改修	レバーハンドル、CL、DC、戸当り、附属金物一式 リフト付オートロック錠(相談室/1ヶ所)			型板強化ガラス4mm			
シーリング改修				ピボットヒンジ、ドアクローザー、レバーハンドル シリンダー錠 他一式	ピボットヒンジ、ドアクローザー、レバーハンドル シリンダー錠 他一式	ピボットヒンジ、ドアクローザー、レバーハンドル シリンダー錠 他一式	
備考							

特記事項

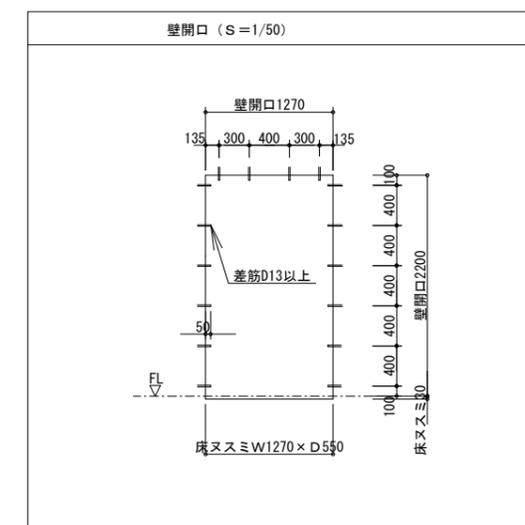
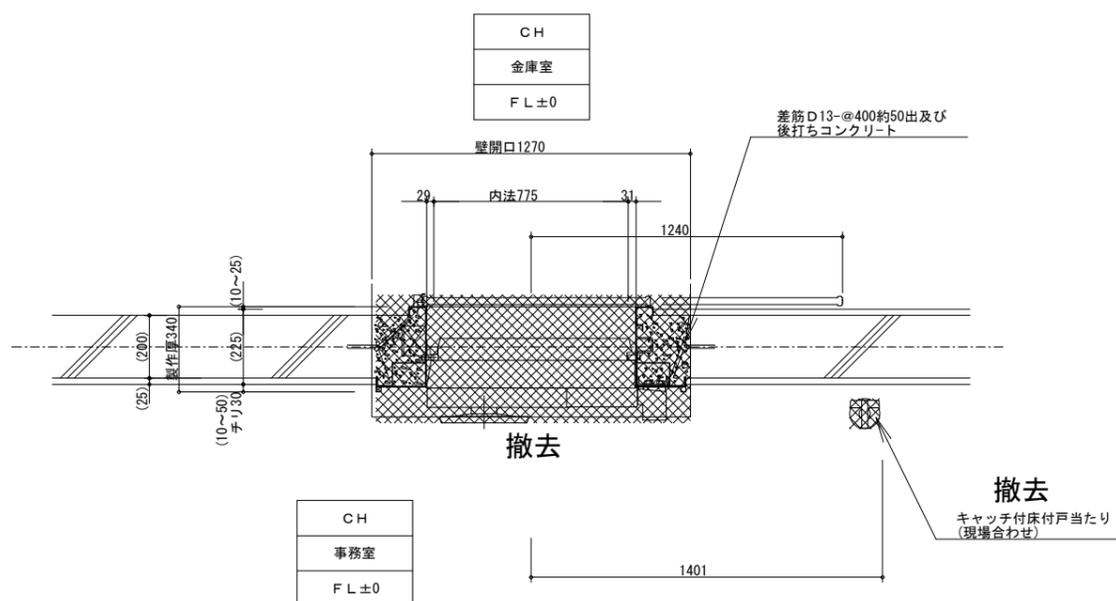
- ・屋外ガラス面に貼られた広告物はすべて撤去すること
- ・屋外ガラス面は内外ガラスクリーニングを行うこと。ただし、AW3、AW4、CW1の外画は除く。

TITLE	DATE	NO
鳴門市役所東側付風機改修工事		A-28
NAME	SCALE	
事務所棟 建具リスト		1/100
株式会社 川建設	1級建築士登録 第126265	川端壮一郎

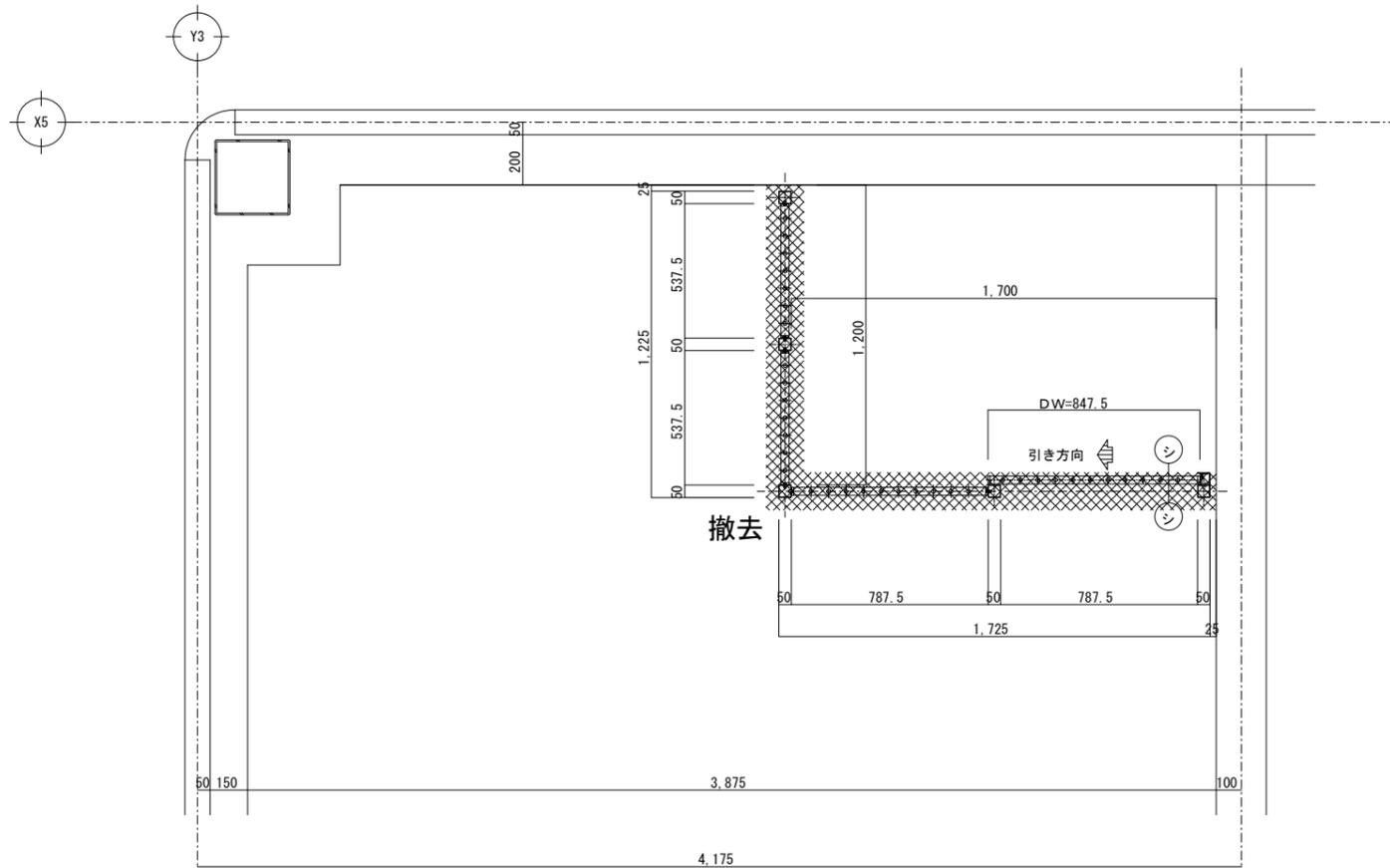


仕様		
出入口扉	EN20110 (重量750kg)	1台
枠内法	W775×H1993	
製作厚	340mm	
防犯材	クマヒアラロイ	
施錠	一億変換符号錠3ヶのトリプルロック	
カンスキリミットスイッチ	1ヶ付 (接点容量200V15A)	
仕上げ	全面ステンレス鋼ヘアライン仕上	
	(操作壁のみ ステンレス鋼パイブレーション仕上)	
	(施工手順及び施工範囲)	
1. コンクリート打開口 (差筋及び床ヌスミを含む)	建築工事	
2. 搬入及び据付 (養生材取付を含む)	金庫工事	
3. 仮枠及び後打ちコンクリート打ち	建築工事	
4. 壁、床及び天井等の仕上げ	建築工事	
5. 鉄扉仕上げ、調整及び引き渡し	金庫工事	
	(注) 庫内照明関係 (スイッチを含む) は電気工事	

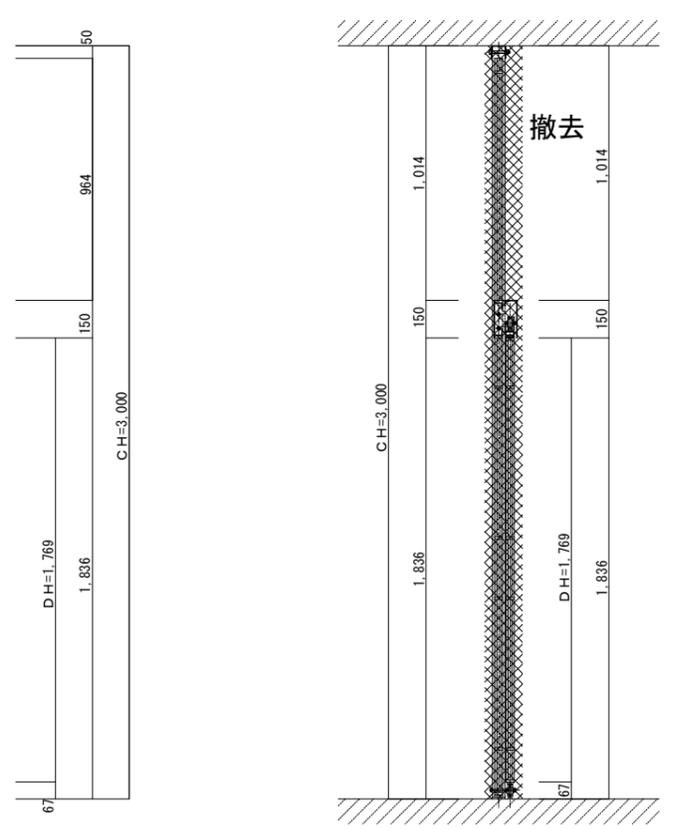
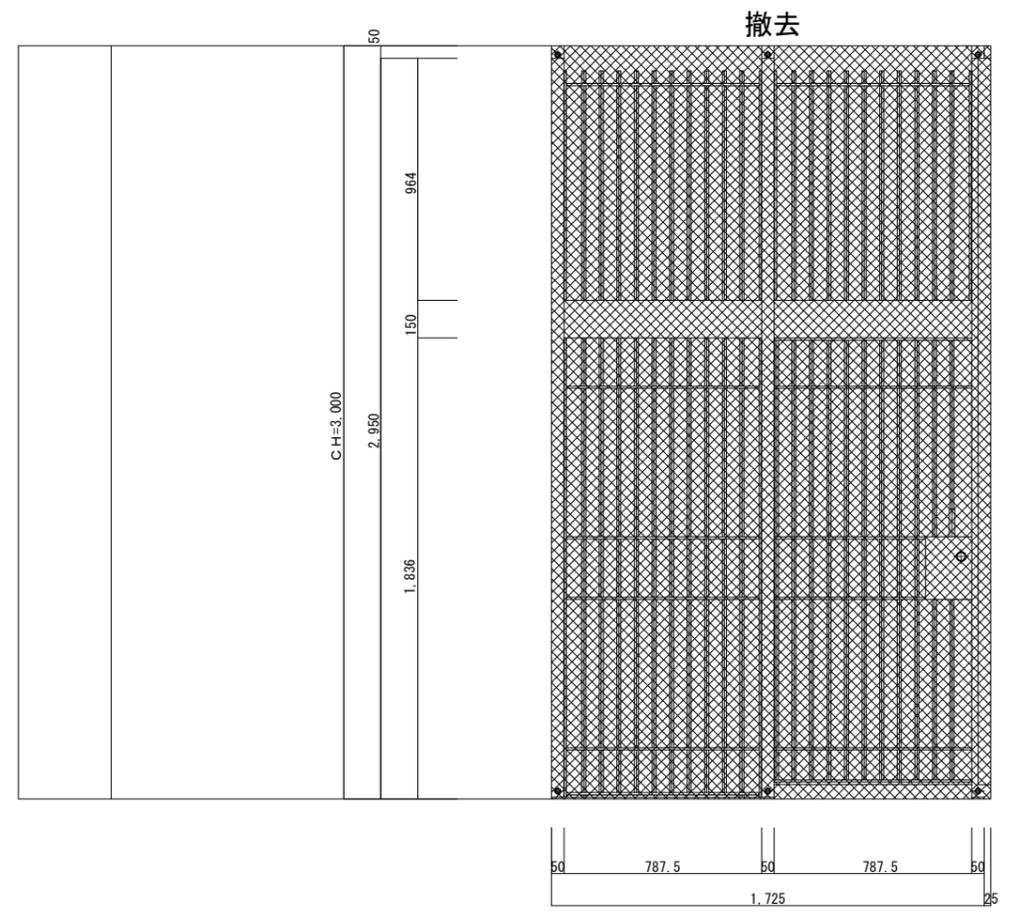
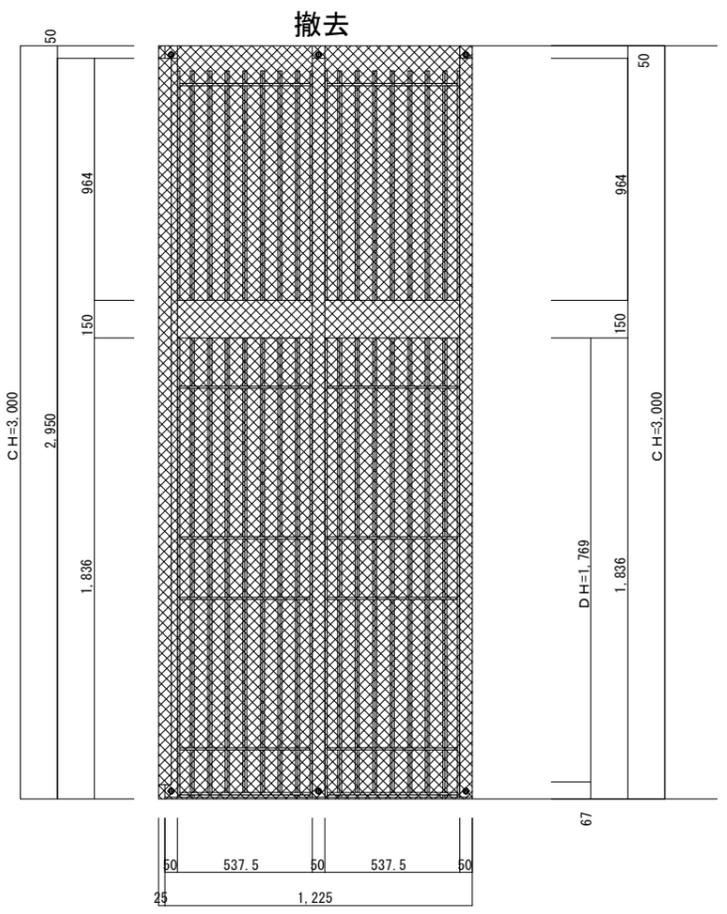
主なオプション	
引格子戸 (手動) ・開格子戸 (手動)	

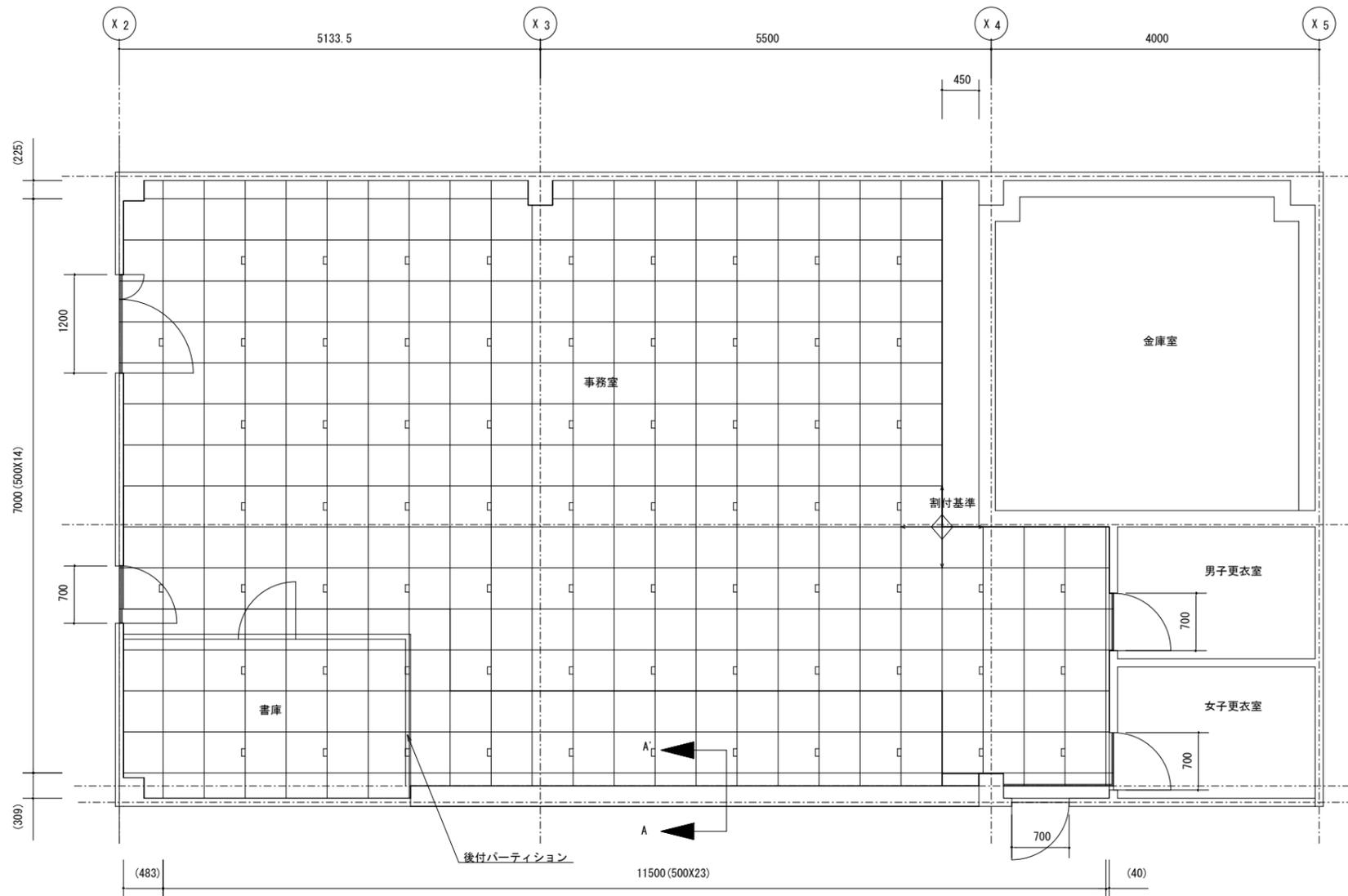


TITLE	DATE	NO
鳴門市役所東側付風機改修工事		A-29
NAME	SCALE	
事務所棟 金庫扉詳細図		1/20
株式会社 川建設計	1級建築士登録 第126265	川端壮一郎



符号	数	取付場所		
—	1	金庫室		
材質・仕上げ	スチール 焼付塗装 普通曲げ			
金物		品番	数	
引戸錠	MIWA	FG-4 BS51	1	
戸車(振れ止め)	ヨコヅナ	WHP-0506	1	
戸車	ヨコヅナ	CMS-0508 溝R型	2	

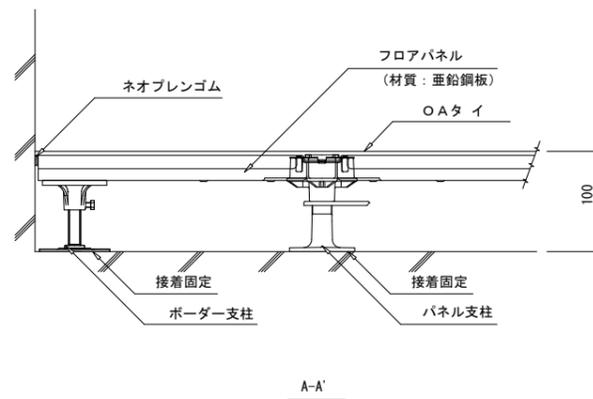




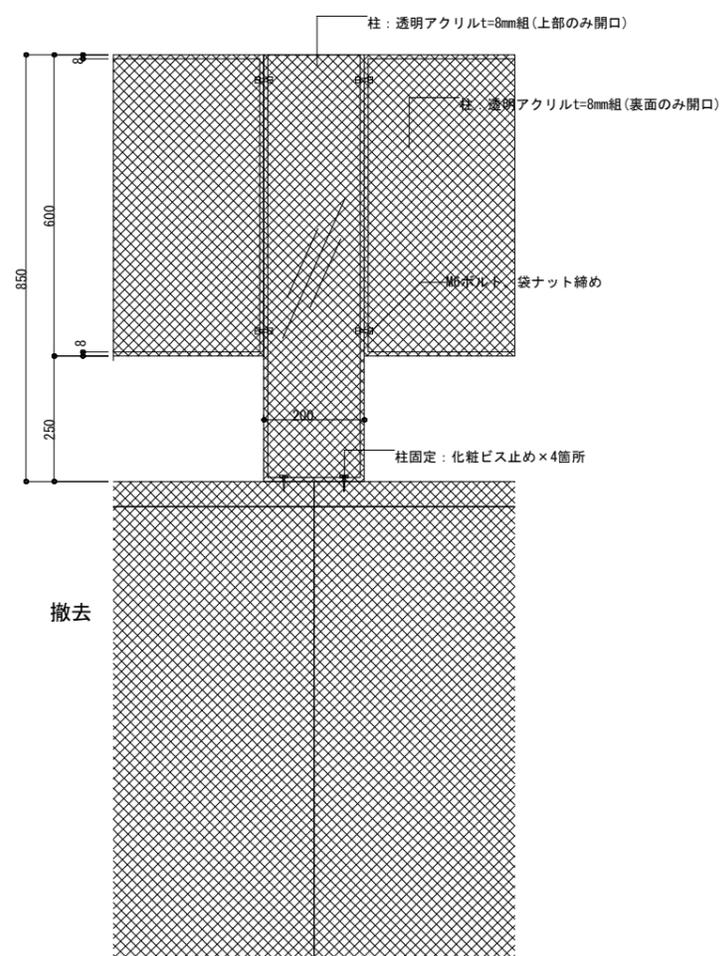
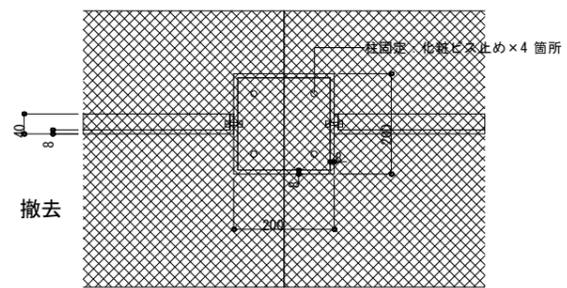
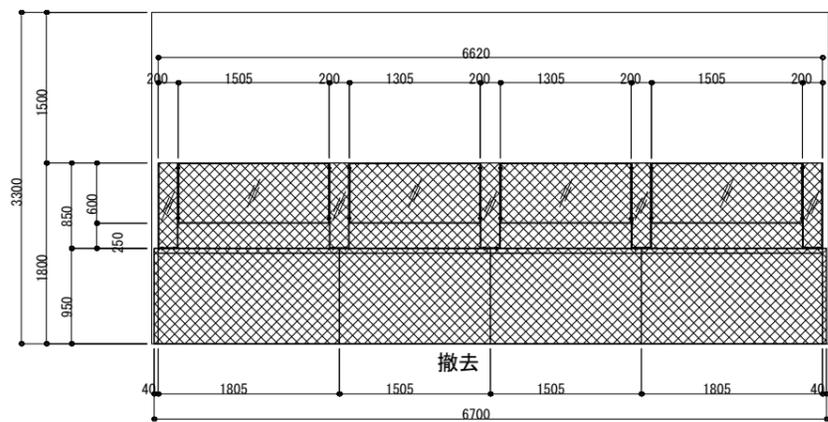
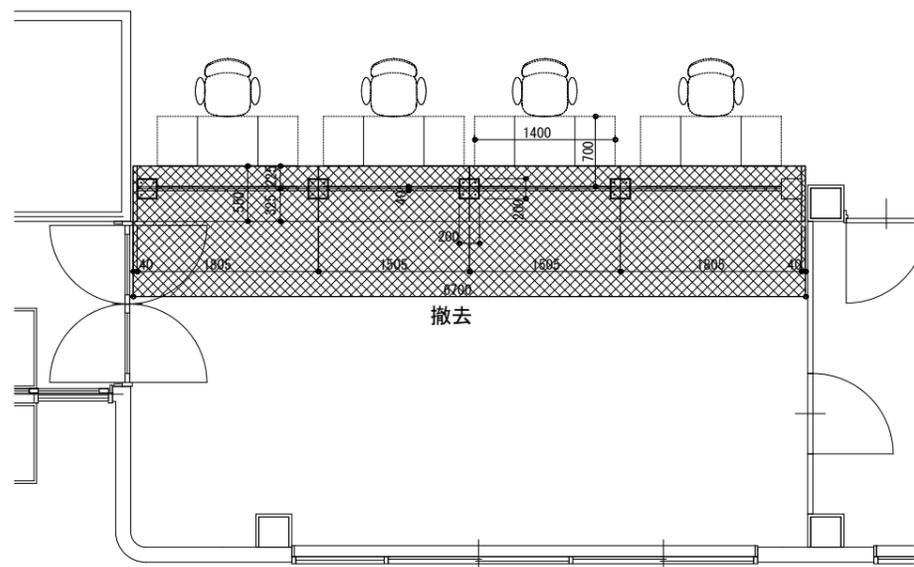
支柱接着用接着剤
<p>パネル支柱・ポーター支柱・コーナー支柱接着用 (金属とコンクリート用接着剤)</p> <p>例) タイルメント社製FU-7 トヨーポリマー社製ルビロン302 など</p> <p>(注) 接着剤の種類と支持脚接着床面の状態(防塵・防水材の塗布など)によって、接着性能が異なります。接着剤の採用に当たっては、充分ご検討の上、用途に適した接着剤を選定してください。</p>
タイルカーペット用粘着
<p>タイルカーペット粘着用</p> <p>● 標準品 (NE6802K) 以外を使用する場合は、 ☆☆☆ (フォースター) を選定してください</p>
<p>本仕様は、 3000N/m² * 1.0G 仕様となっております。</p>
<p>タイプLS300 (実用荷重3000N 床仕上げ高さ100mm)</p>
コンセント設備パネル基本配置
<p>*ポーター部のパネルは、通線パネルとする。</p>

注1) 現場の状況により、多少割付を変更する場合があります。

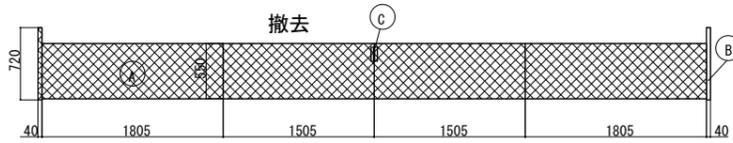
(仕様)
 ○Aフロアー (H=100) : パナソニック電工 LS3000 スチール製 耐荷重3000N
 ○Aタイ : 東リ L L7J-50



TITLE	DATE	NO
鳴門市役所東側付風機改修工事		A-31
NAME	SCALE	
事務所棟 現況 OAフロア割付図		1/50
株式会社 川建設	1級建築士登録 第126265	川端壮一郎



TITLE	DATE	NO
鳴門市役所東側付風棟改修工事		A-32
NAME	SCALE	
事務所棟 防犯スクリーン詳細図		1/50
株式会社 川建設	1級建築士登録 第126265	川端壮一郎



①

1	天板	木製	・1	メラミン化粧板+ストフォーム
2	天板エッジ	ABS樹脂	・1	・
3	フロントパネル	鋼板SPCC	・1	メラミン焼付塗装
		表面：カラー鋼板	・	NE色
4	巾木	鋼板SUS	・1	ヘアライン仕上げ
5	本体フレーム	鋼板SPCC	・1	焼付塗装
6	アジャスタ	PA樹脂+鉄	・2	・
7	カクシカバー	鋼板SPCC	・1	焼付塗装
8	カバーレール	鋼板SPCC	・1	焼付塗装

■仕様及び色調

	天板	フロントパネル	本体フレーム
S-W7B7	メラミン化粧板 MA-W7	焼付塗装 B7 ソフトブルー	焼付塗装 NE
S-W7E7	ホワイトグレーW	焼付塗装 E7 リップルグリーン	ニュートラルライト

■各部寸法

商品記号	W	D	H
559T	1505	550	950
859T	1805	550	950

■記事

- フロントパネル ケンドン着脱式
- ケーブルクランプ 4個付属

②

1	パネル本体	木製	・1	シート貼り
2	笠木	木製	・1	シート貼り
3	巾木	鋼板SUS	・1	ヘアライン仕上げ
4	エンドアーム	鋼板SPCC	・1	焼付塗装
5	エンド縦支柱	鋼板SPCC	・1	焼付塗装

■仕様及び色調

	パネル本体 笠木	エンドアーム エンド連結支柱
-97	ポリエステルシート 97 フェアメープル	
-W9	塩ビシート W9 ホワイトW	焼付塗装 NE ニュートラルライト
-W7	塩ビシート W7 ホワイトグレーW	

■記事

- 本図は右エンド用 NSA-069RB-□□を示す。
左エンド用 NSA-069LB-□□は本図対称。

③

1	補助パネル	鋼板SPCC	・1	焼付塗装
2	アジャスタ	PA樹脂	・2	・

■仕様及び色調

	補助パネル
NE	焼付塗装 NE ニュートラルライト

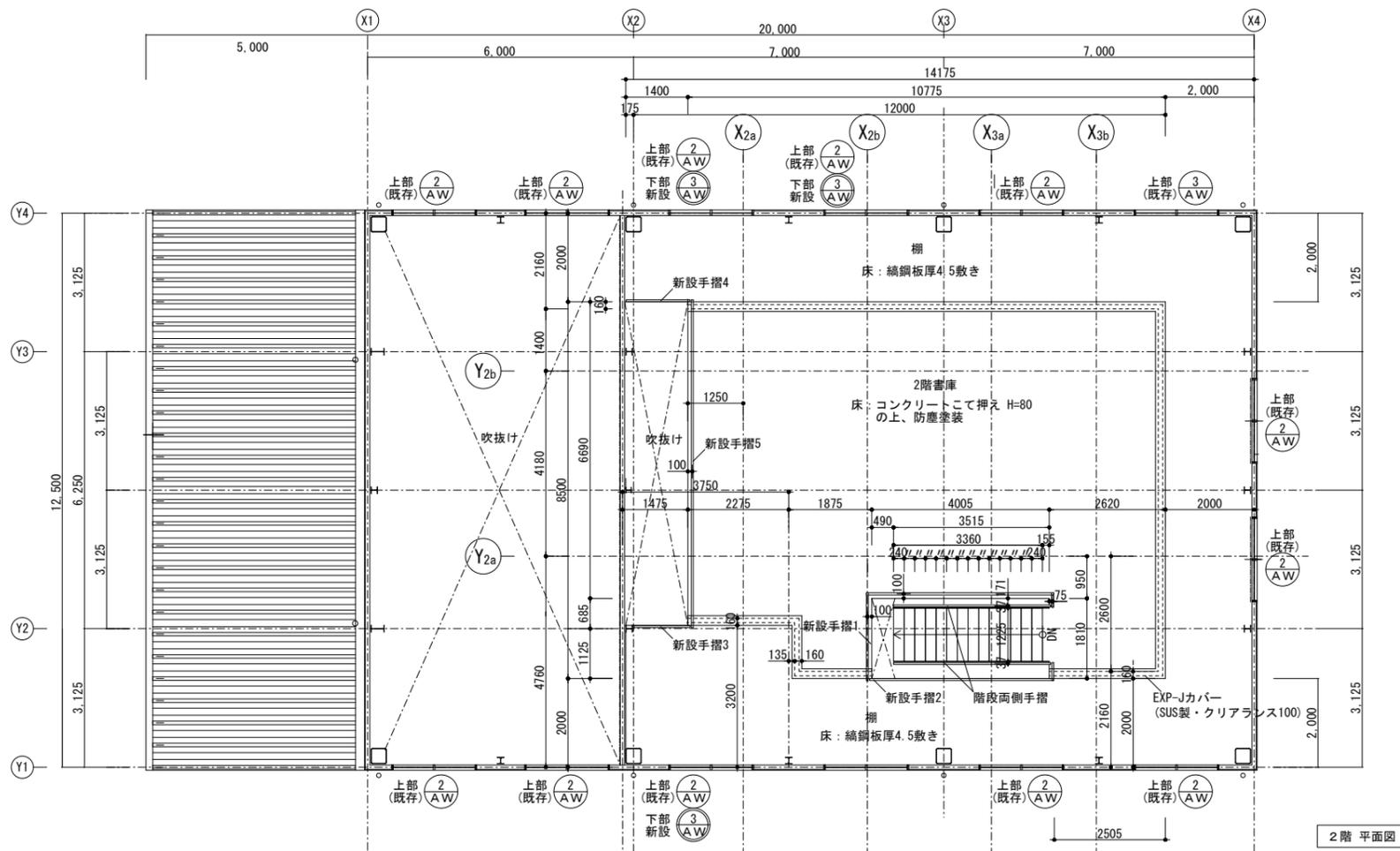
ハイカウンタータイプ (W1805×D550×H950)	NSG-859TS-W7E7	2台	(トキ同等品)
ハイカウンタータイプ (W1505×D550×H950)	NSG-559TS-W7E7	2台	
補助パネル用 (W60×D180×H918)	NSP-9K-NE	1枚	
連結フレーム用 (W60×D220×H813)	NSP-9C	3個	
エンドパネル用左用 (W70×D720×H960)	NSA-069LB	1枚	
エンドパネル用右用 (W70×D720×H960)	NSA-069RB	1枚	

外部仕上表

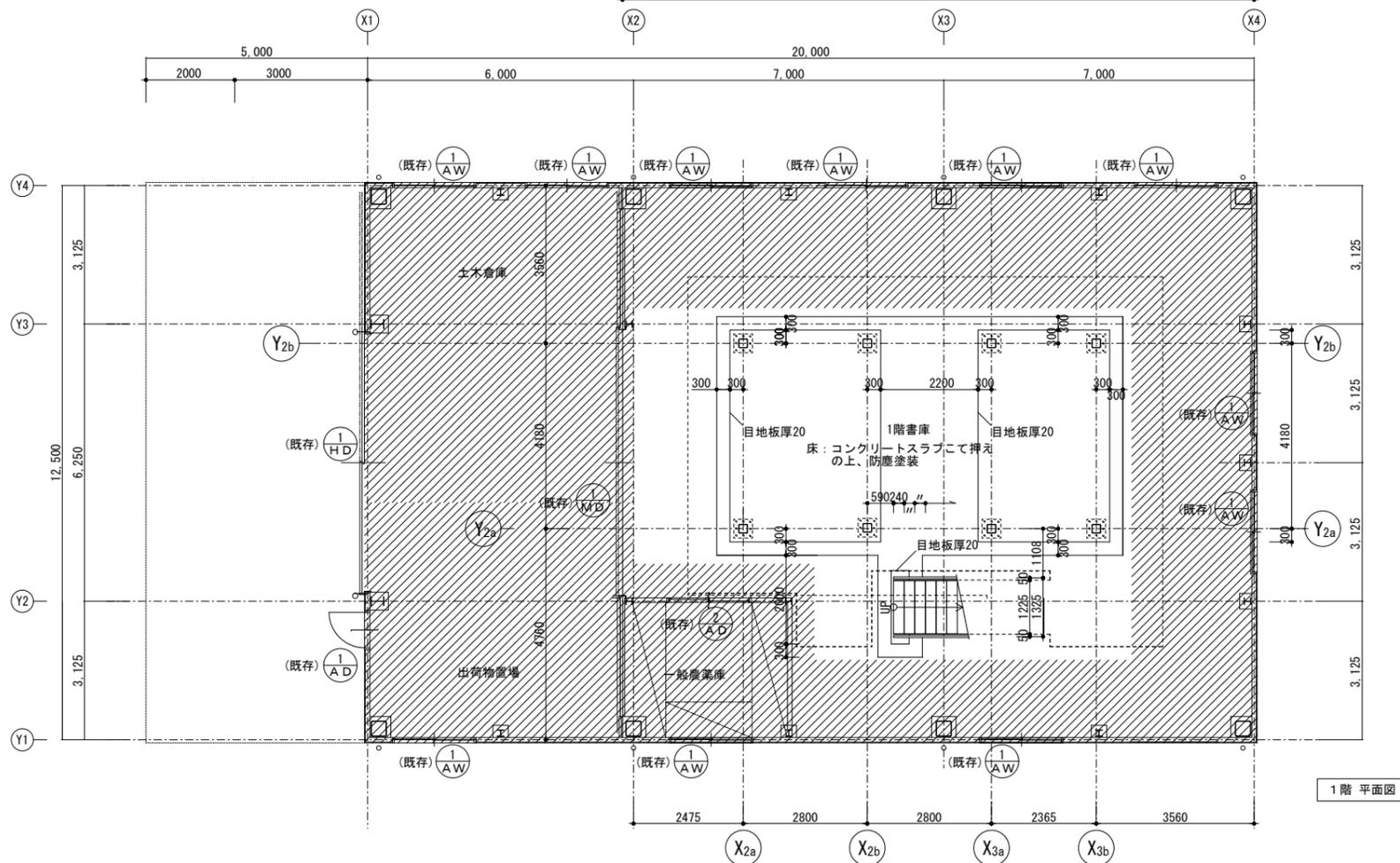
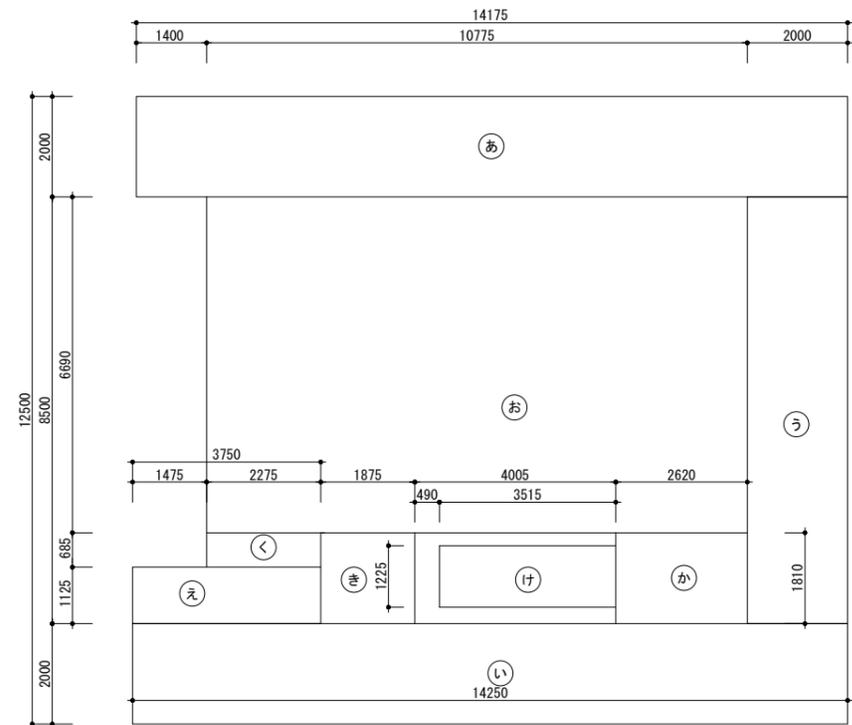
	改修	改修後
外壁	角波サイディングS カラーガルバリウム鋼板厚0.5、けい酸カルシウム板厚6.0 部分撤去	角波サイディングS カラーガルバリウム鋼板厚0.5、けい酸カルシウム板厚6.0 復旧

内部仕上表

階	室名	床		巾木		腰・壁		天井		備考
		改修前	改修後	改修前	改修後	改修前	改修後	改修前	改修後	
1	出荷物置場(改修前) ↓ 土木倉庫(改修後)	コンクリートこて押えの上、 防塵塗装(セミキュア)	既存のまま	コンクリート打放し	既存のまま	外壁現し	既存のまま	屋根現し	既存のまま	メッシュフェンス新設
	購買倉庫(改修前) ↓ 1階書庫(改修後)	防塵塗装(セミキュア) コンクリートこて押え厚150 ワイヤーメッシュφ150角 ビニールシート厚0.1 クラッシュラン厚150	防塵塗装 コンクリートこて押え厚150 ワイヤーメッシュφ150角 ポリエチレンフィルム厚0.15 クラッシュラン厚150 コンクリートスラブこて押え厚680 捨てコンクリート厚100 表層改良	同上	同上	同上	同上	同上	デッキプレート現し	
	一般農薬庫	コンクリートこて押えの上、 防塵塗装(セミキュア)	既存のまま	コンクリート打放し 木製巾木H=150	既存のまま	けい酸カルシウム板厚8.0	既存のまま	デッキプレート現し	既存のまま	
2	棚	デッキプレート(亜鉛メッキ)	編鋼板厚4.5敷き	_____	_____	外壁現し	既存のまま	屋根現し	既存のまま	新設手摺3、4
	2階書庫	_____	防塵塗装 コンクリートこて押え H=80 溶接金網 φ100×100 合成スラブデッキプレートH=50 t=1.2(Z12)	_____	_____	_____	_____	屋根現し	既存のまま	新設手摺1、2、5



2階 平面図

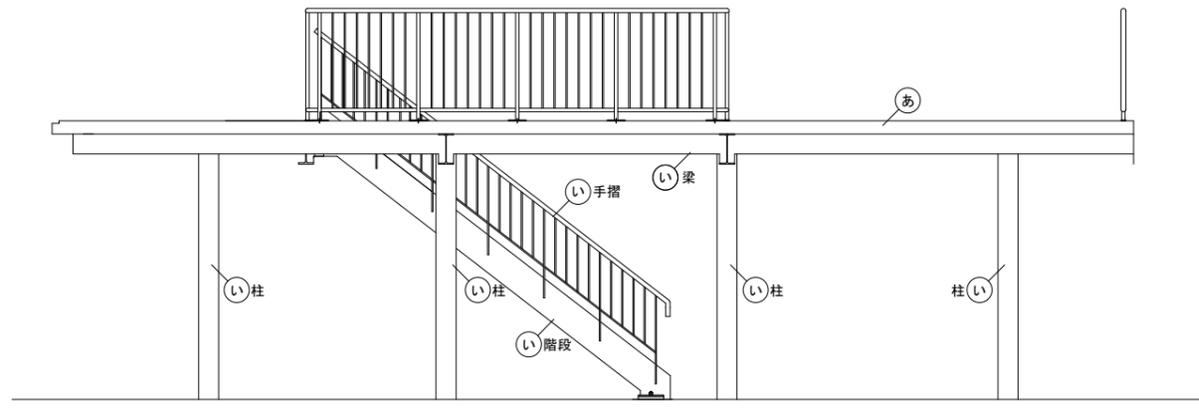


1階 平面図

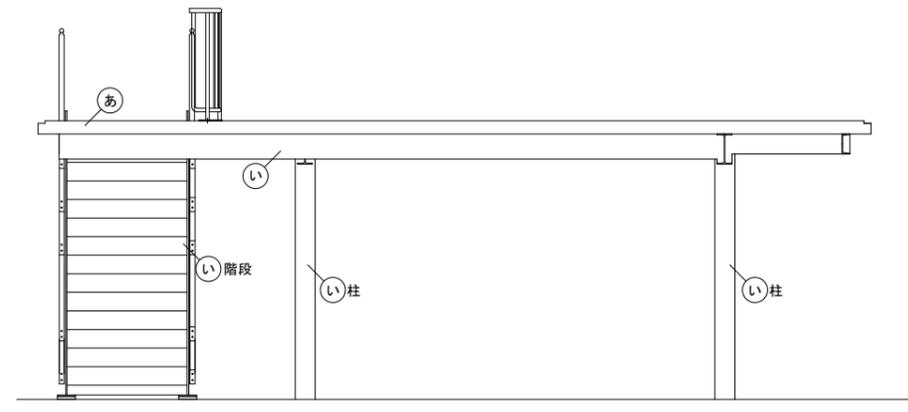
延床面積 計算表

1階		$23.00 \times 12.50 =$	287.50
2階	既存床	あ	$14.175 \times 2.00 = 28.35$
	既存床	い	$14.250 \times 2.00 = 28.50$
	既存床	う	$2.00 \times 8.50 = 17.00$
	既存床	え	$3.75 \times 1.125 = 4.21875$ 78.07
	新設床	お	$10.775 \times 6.69 = 72.08475$
	新設床	か	$2.62 \times 1.81 = 4.7422$
	新設床	き	$1.875 \times 1.81 = 3.39375$
	新設床	く	$2.275 \times 0.685 = 1.558375$
	新設階段	け	$3.515 \times 1.225 = 4.305875$ 86.08 164.15
合計			451.65 (㎡)

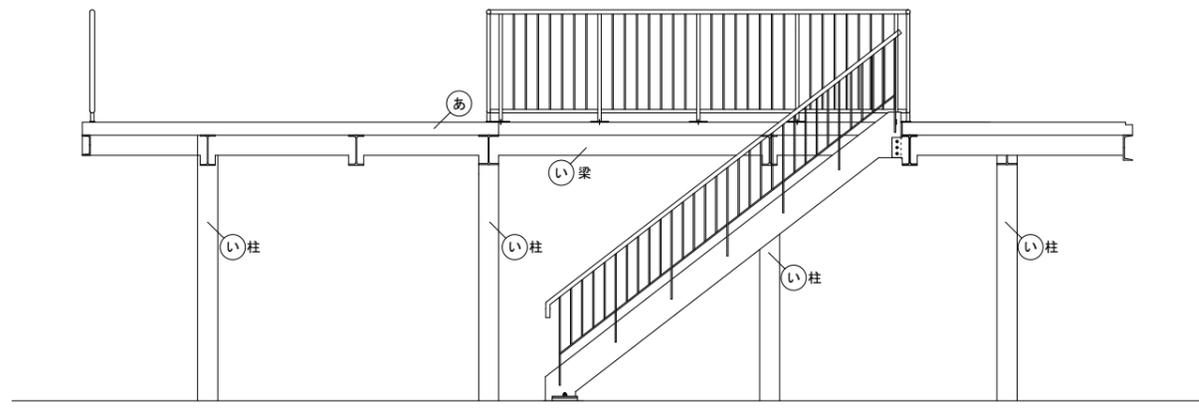
: 現況のまま



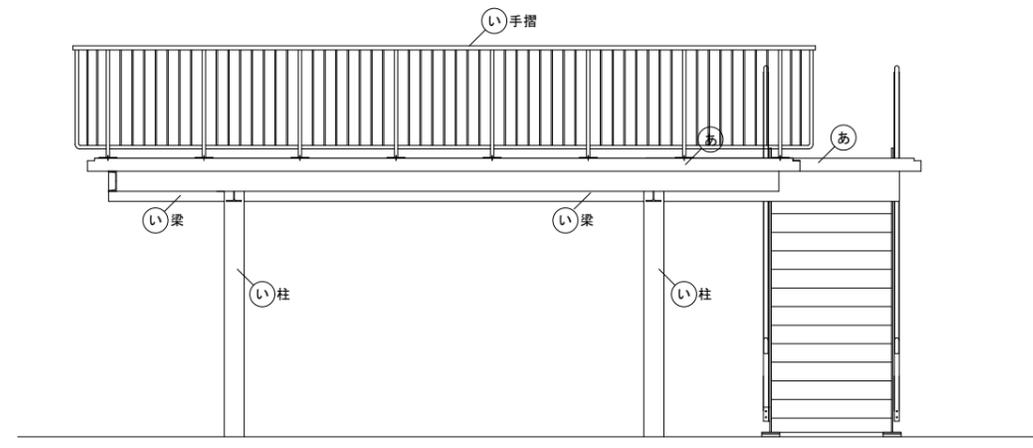
北側 立面図



東側 立面図



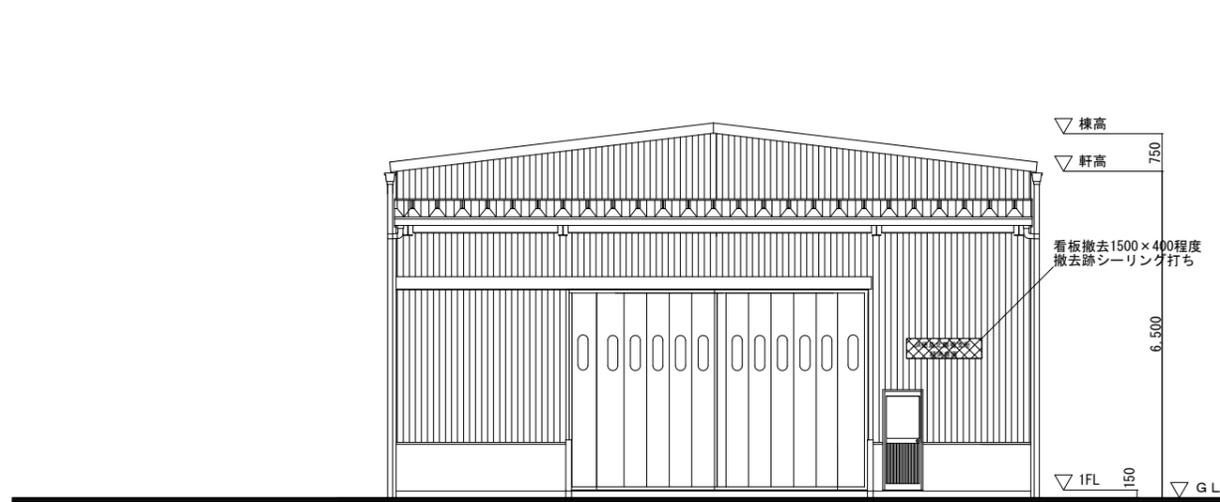
南側 立面図



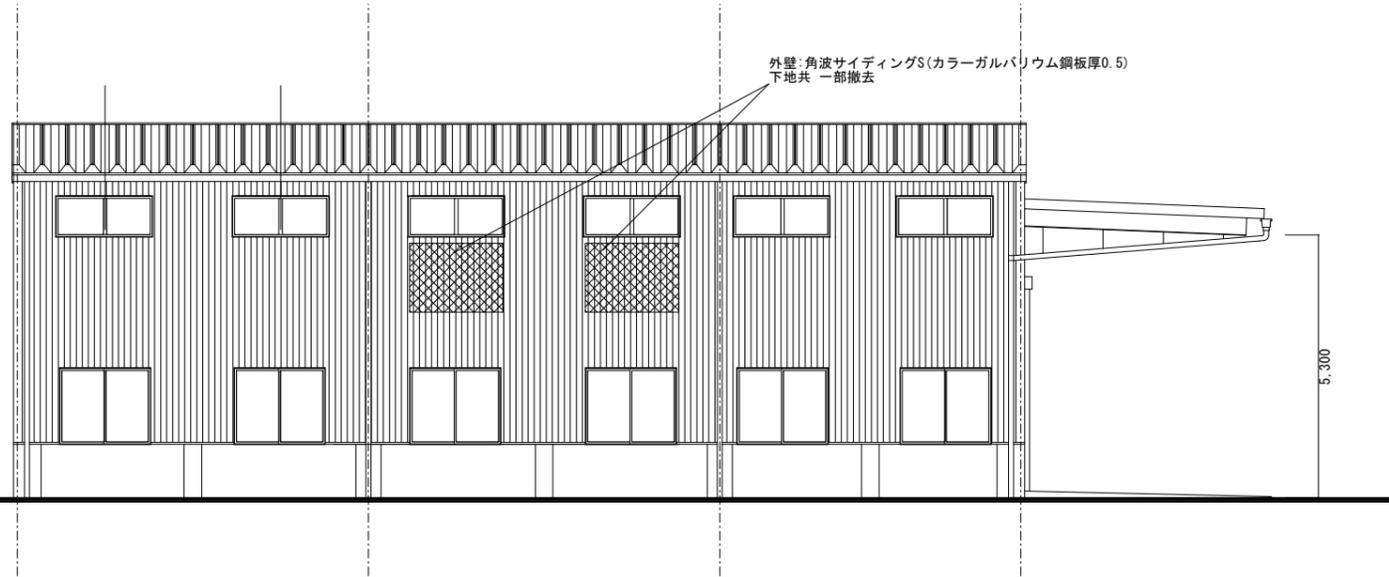
西側 立面図

仕上げ表	
あ	コンクリート打放し
い	鉄部 SOP 塗

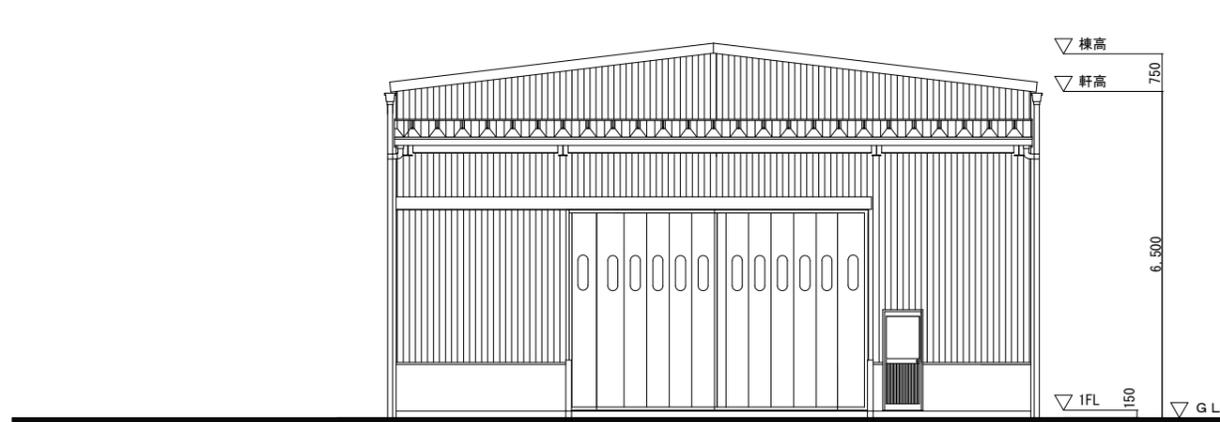
TITLE	DATE	NO
鳴門市役所東側付風棟改修工事		A-37
NAME	SCALE	
倉庫棟 増築部 立面図	1/50	
株式会社 川建設	1級建築士登録 第126265	川端壮一郎



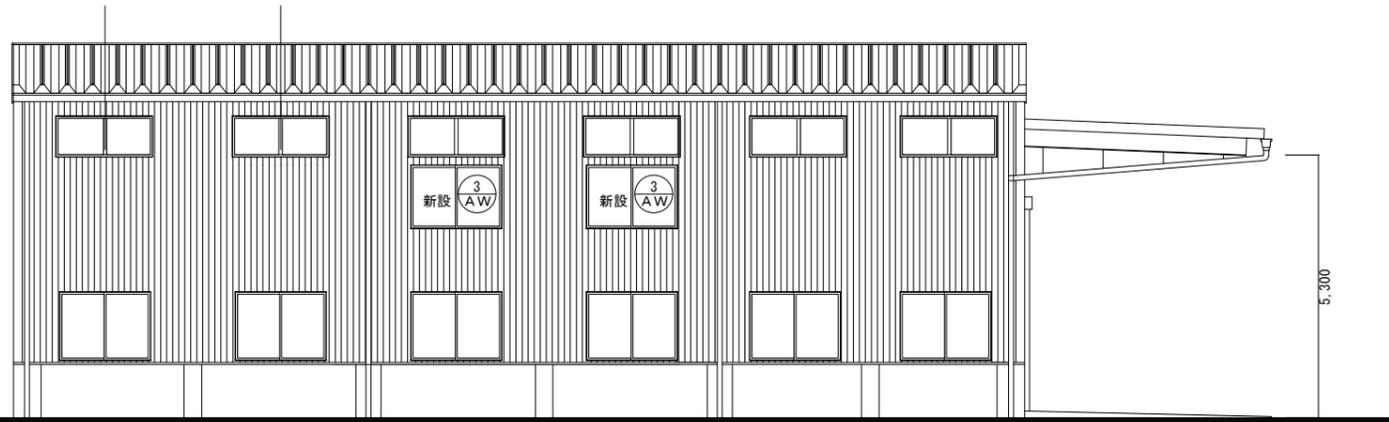
現況・撤去 西立面図 1 / 100



現況・撤去 北立面図 1 / 100



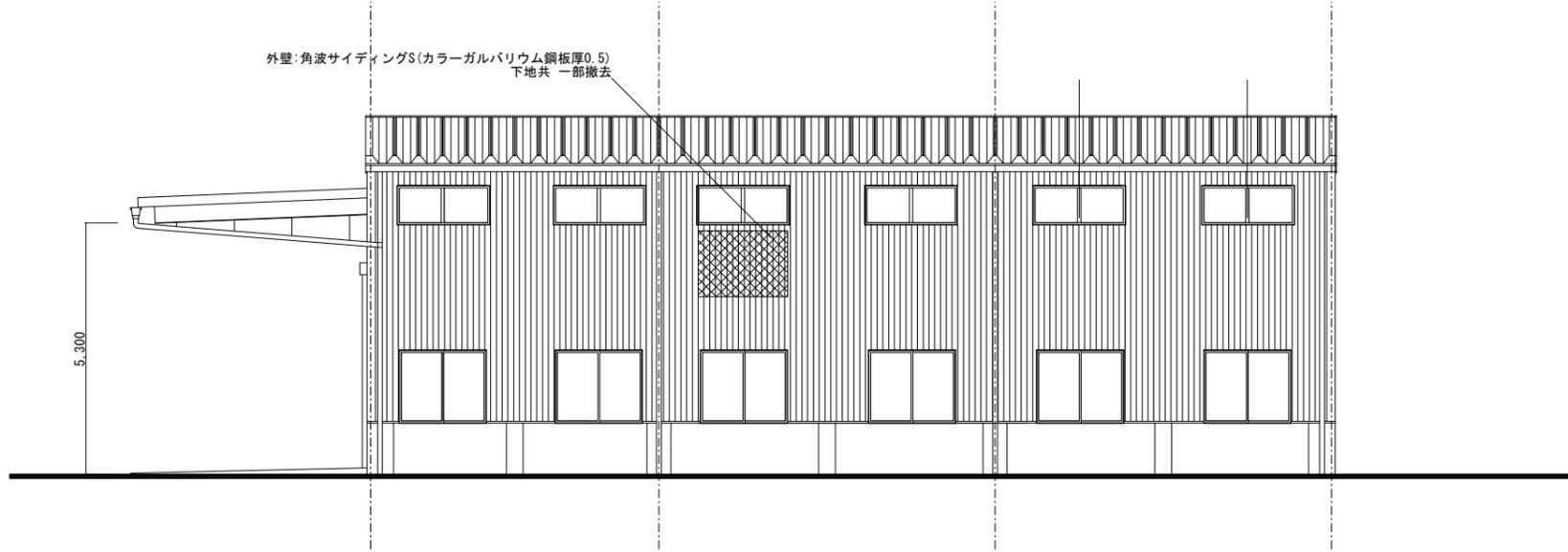
改修後 西立面図 1 / 100



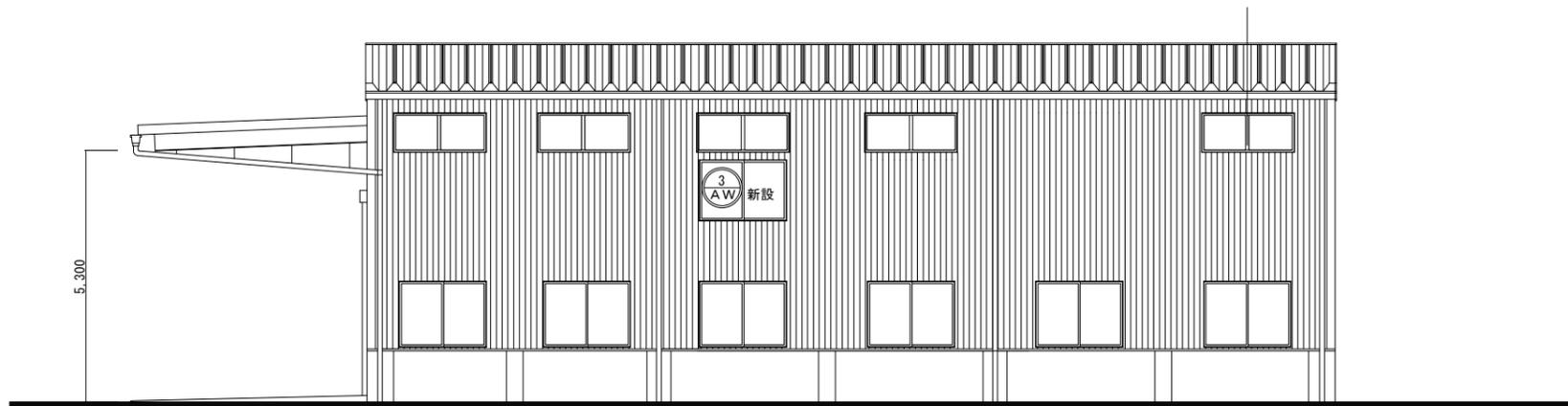
改修後 北立面図 1 / 100

TITLE	DATE	NO
鳴門市役所東側付風機改修工事		A-38a
NAME	SCALE	
倉庫棟 立面図(1)	1/100	
株式会社 川建設計	1級建築士登録 第126265	川端壮一郎

外壁:角波サイディングS(カラーガルバリウム鋼板厚0.5)
下地共 一部撤去

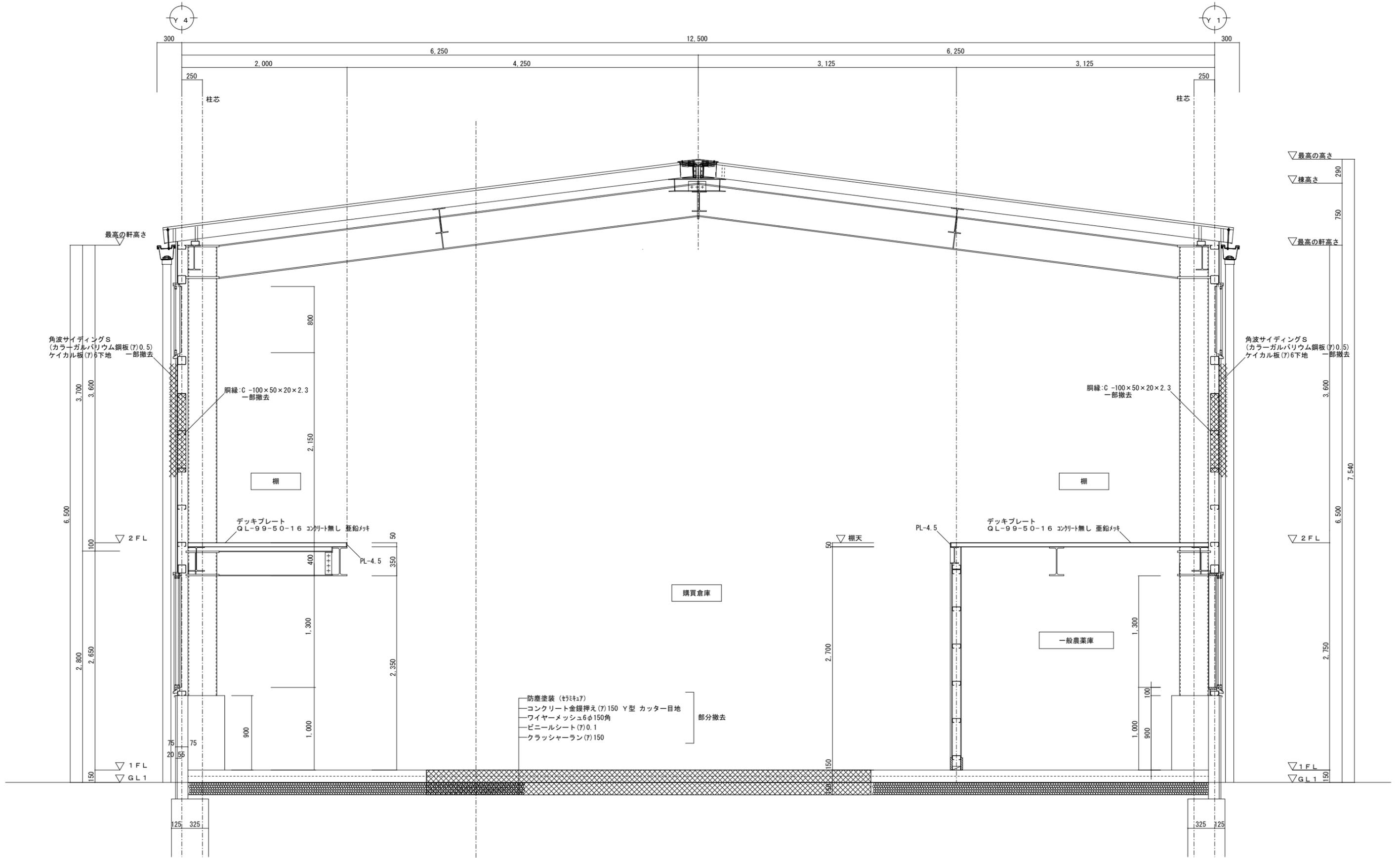


1 / 100 南立面図	現況・撤去
--------------	-------



1 / 100 南立面図	改修後
--------------	-----

TITLE	DATE	NO
鳴門市役所東側付風棟改修工事		A-38b
NAME	SCALE	
倉庫棟 立面図(2)	1/100	
株式会社 川建設	1級建築士登録 第126265	川端壮一郎

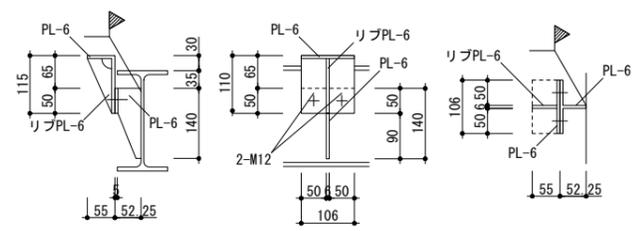


- 防塵塗装 (セキキア)
- コンクリート金網押え (7) 150 Y型 カッター目地
 - ワイヤーマッシュ 6φ 150角
 - ビニールシート (7) 0.1
 - クラッシュラン (7) 150
- 部分撤去

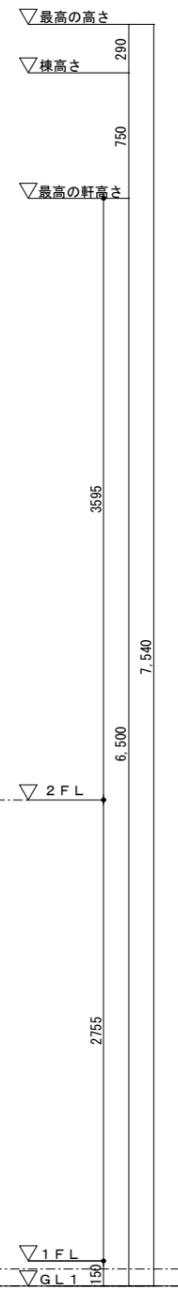
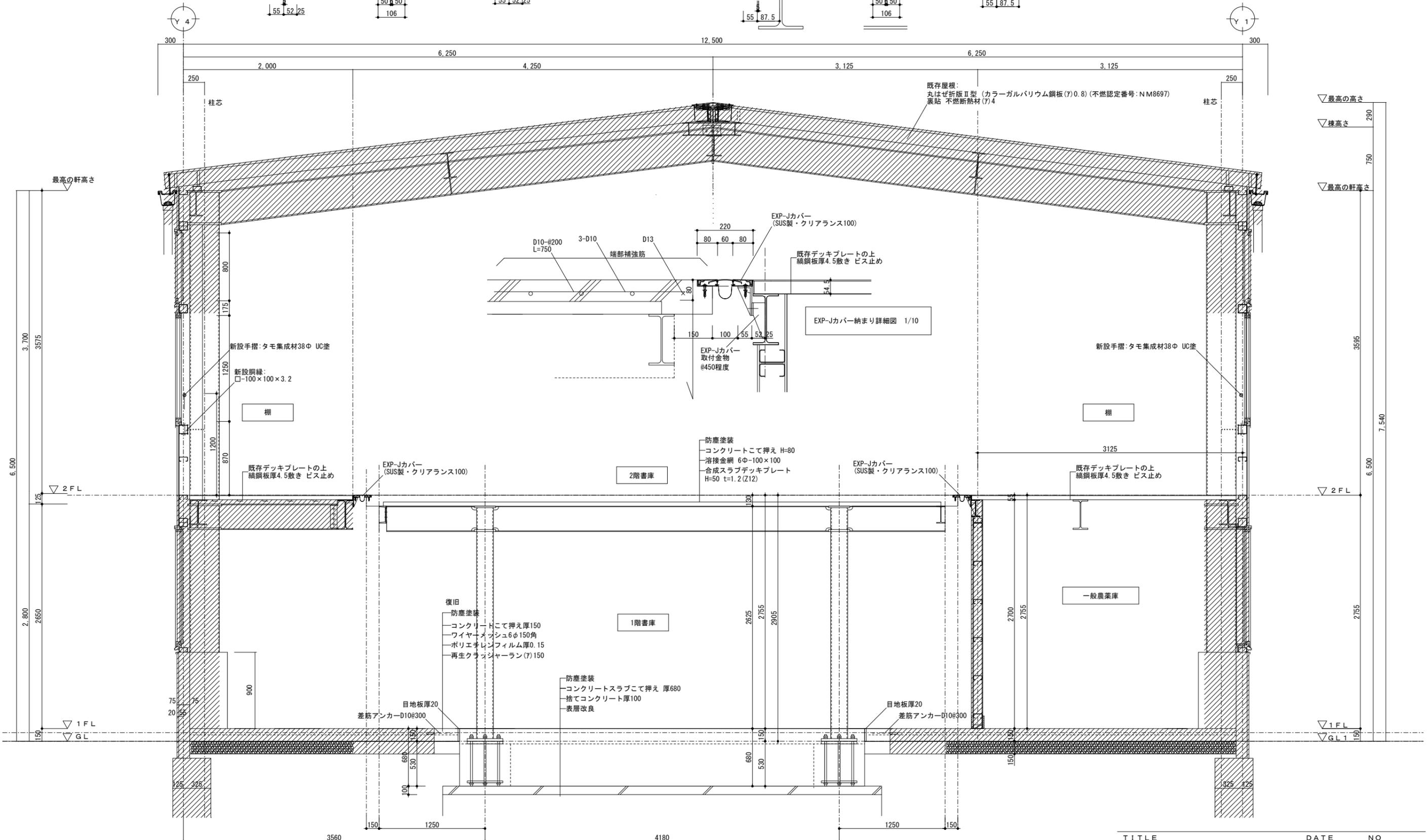
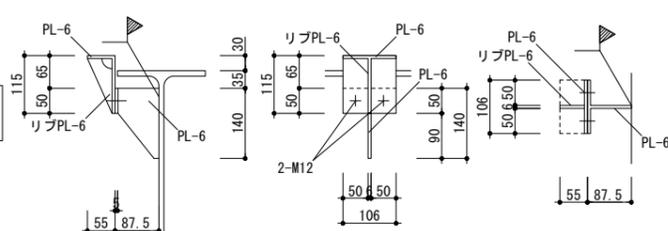
 : 撤去範囲を示す

TITLE	DATE	NO
鳴門市役所東側付風機改修工事		A-39
NAME	SCALE	
倉庫棟 現況・撤去 矩計図(1)		1/30
株式会社 川建設	1級建築士登録 第126265	川端壮一郎

EXP-Jカバー取付金物詳細図 1/10
(既存H-200×100×5.5×8 取付部)

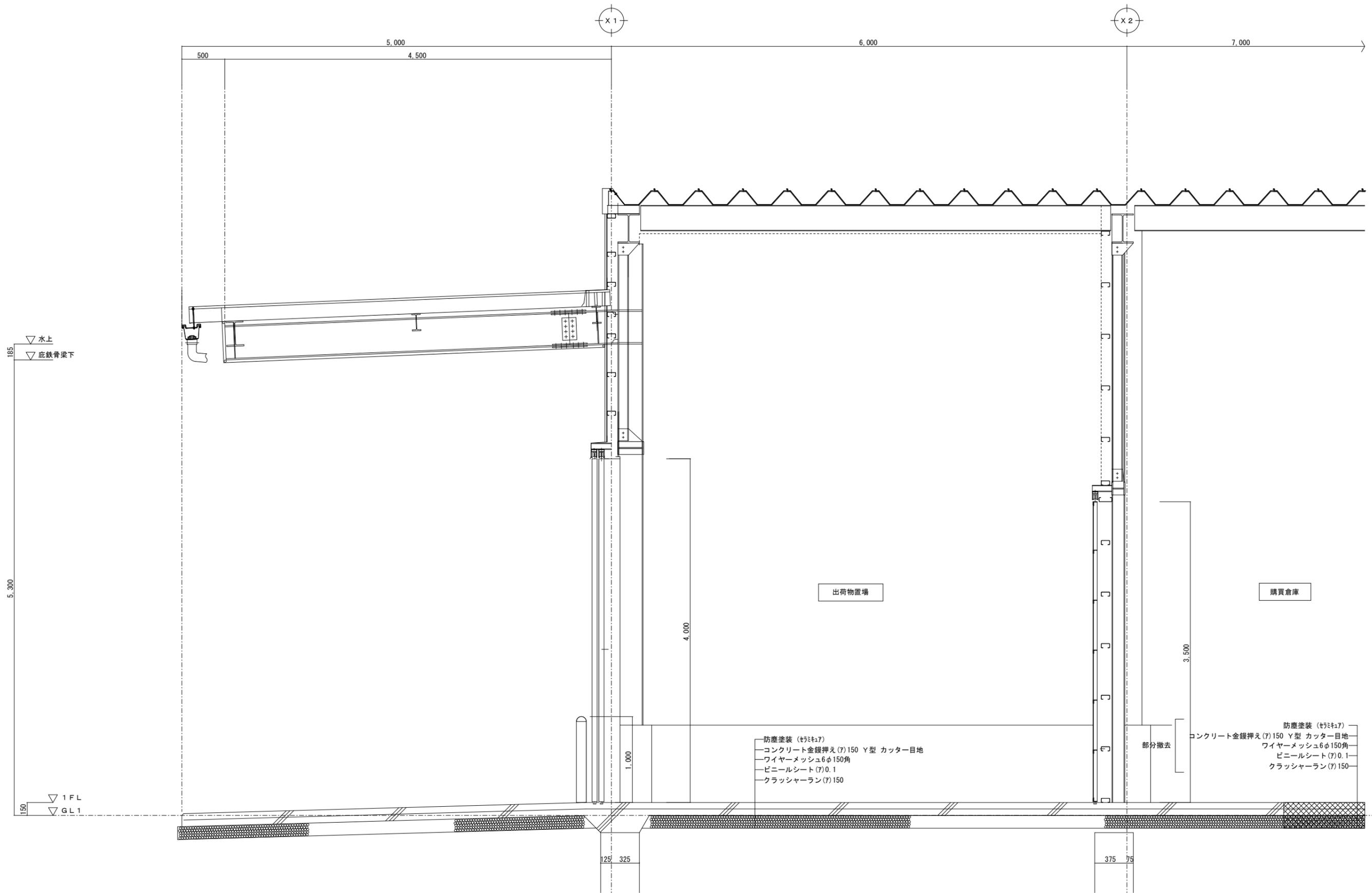


EXP-Jカバー取付金物詳細図 1/10
(既存H-350×175×7.0×11 取付部)



TITLE	鳴門市役所東側付風機改修工事	DATE		NO	A-40
NAME	倉庫棟 改修後 矩計図(1)	SCALE			1/30, 1/10
株式会社	川建設	1級建築士登録 第126265		川端壮一郎	

： 現況のまま

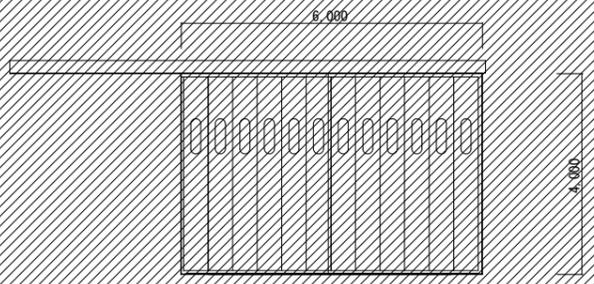
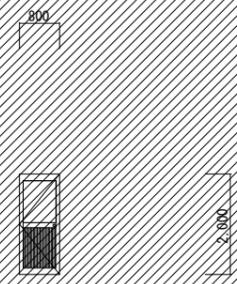
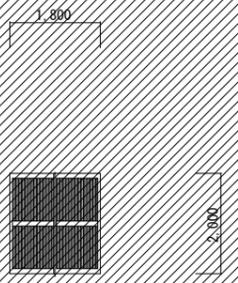
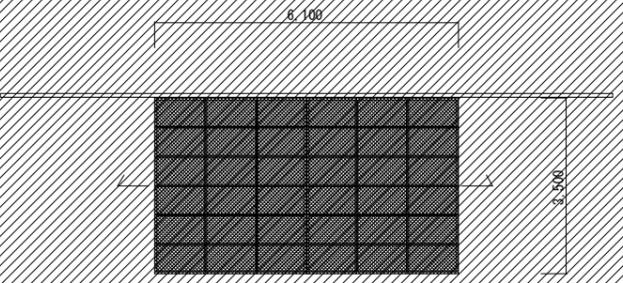
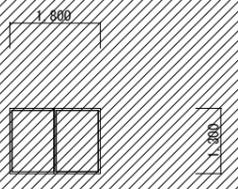
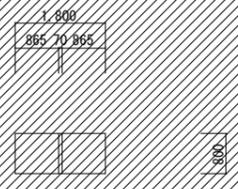
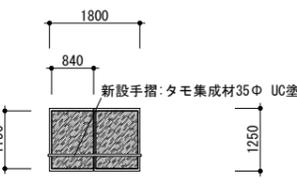


- 防塵塗装 (セメント)
- コンクリート金線押え (7) 150 Y型 カッター目地
- ワイヤーマッシュφ150角
- ビニールシート (7) 0.1
- クラッシャーラン (7) 150

- 防塵塗装 (セメント)
- コンクリート金線押え (7) 150 Y型 カッター目地
- ワイヤーマッシュφ150角
- ビニールシート (7) 0.1
- クラッシャーラン (7) 150

: 撤去範囲を示す

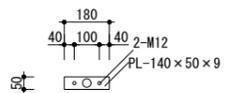
TITLE	DATE	NO
鳴門市役所東側付風機改修工事		A-41
NAME	SCALE	1/30
倉庫棟 現況・撤去 断面詳細図		
株式会社 川建設	1級建築士登録 第126265	川端壮一郎

符号	型式	① (H/D) 両引きハンガー戸 (既存のまま)		① (A/D) 片開き戸 (既存のまま)			
型式	寸法						
ヶ数	見込	1		1	70		
仕様		SPハド-17 9L樹脂付塗装		7F5 (シボ)			
硝子		明窓 1-143		網入型 板6.8 覆7F5H-4			
金物		附属金物一式 内部掛金 施錠		施錠 トリプル 附属金物一式			
備考		5L樹脂付ハド 9L樹脂付ハド 枠PL-1.6 9L樹脂付塗装		1F5番横リ 7F5縦線			
符号	型式	① (A/D) 引き違い戸 (既存のまま)		① (A/D) 引き分けハンガー戸 (既存のまま)			
型式	寸法						
ヶ数	見込	1	70	1			
仕様		7F5 (シボ)		9L樹脂付塗装			
硝子		7F5H-4		亜鉛付金網 3.2x50			
金物		施錠 附属金物一式		附属金物一式 施錠			
備考		1F5番横 7F5縦線		5L樹脂付ハド 9L樹脂付ハド 3F5枠 C-150x50x20x2.0 9L樹脂付塗装			
符号	型式	③ (A/W) 引き違い窓 (既存のまま)		② (A/W) FIX窓 (既存のまま)		③ (A/W) 引違い窓	
型式	寸法						
ヶ数	見込	11	70	14	70	3	70
仕様		7F5 (シボ)		7F5 (シボ)		7F5 (シボ)	
硝子		網入型 板6.8		網入型 板6.8		網入型ガラス厚6.8	
金物		カレット 附属金物一式		附属金物一式		カレット、戸車、アルミ水切り、他一式	
備考		7.5インチ 33所		7.5インチ 41所			

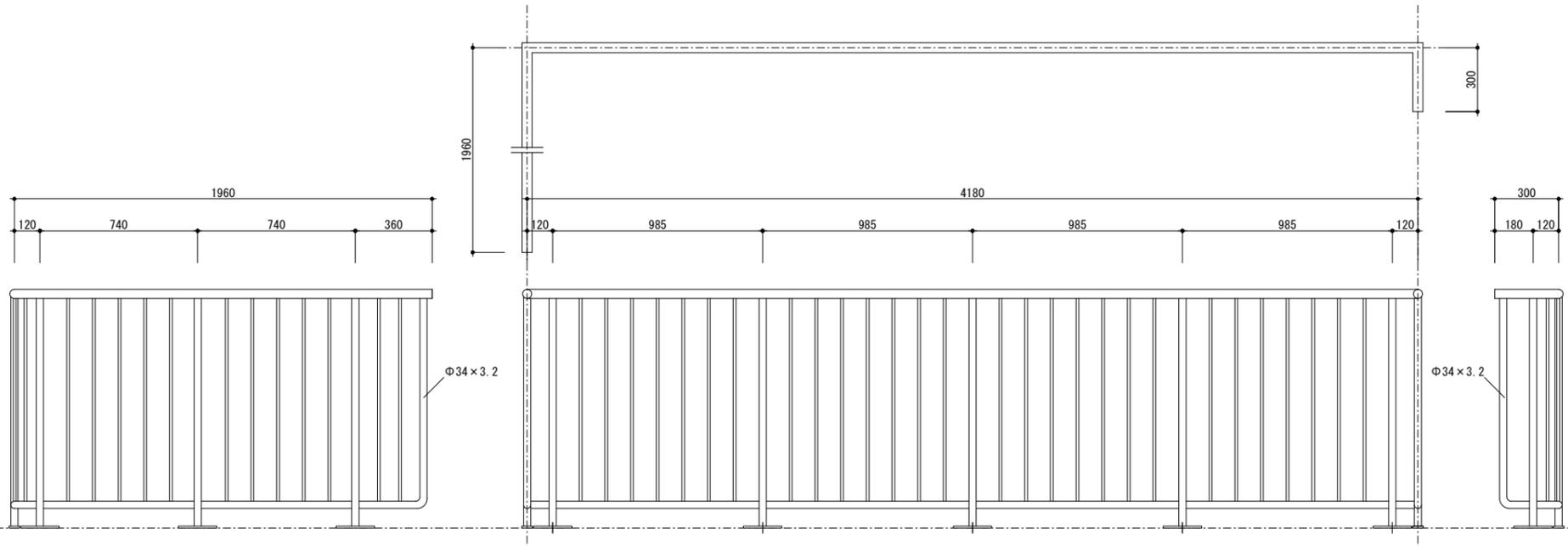
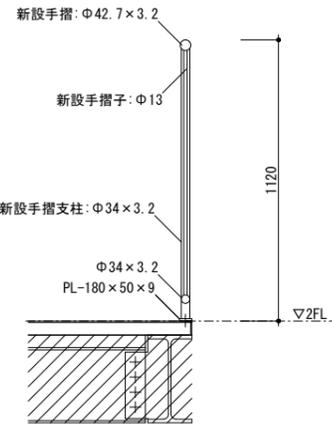
消防無窓階判定の有効な開口部の大きさ
0.84 × 1.15 × 2 = 1.932 (m²) / 建具1箇所あたり
1.932 × 3 = 5.796 (m²)
2階床面積: 164.05 (m²) × 1/30 = 5.468 (m²)
5.796 (m²) > 5.468 (m²) OK

手摺 共通 1/20 ○ 鉄部SOP塗

新設手摺1 1/20



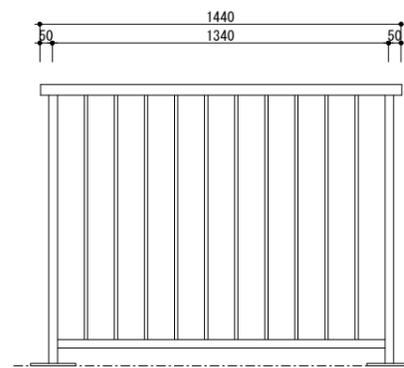
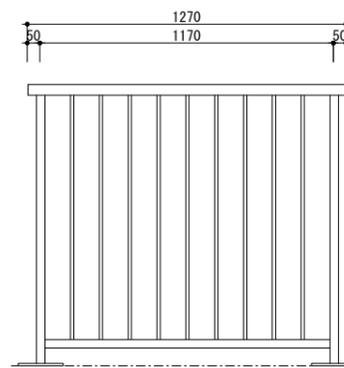
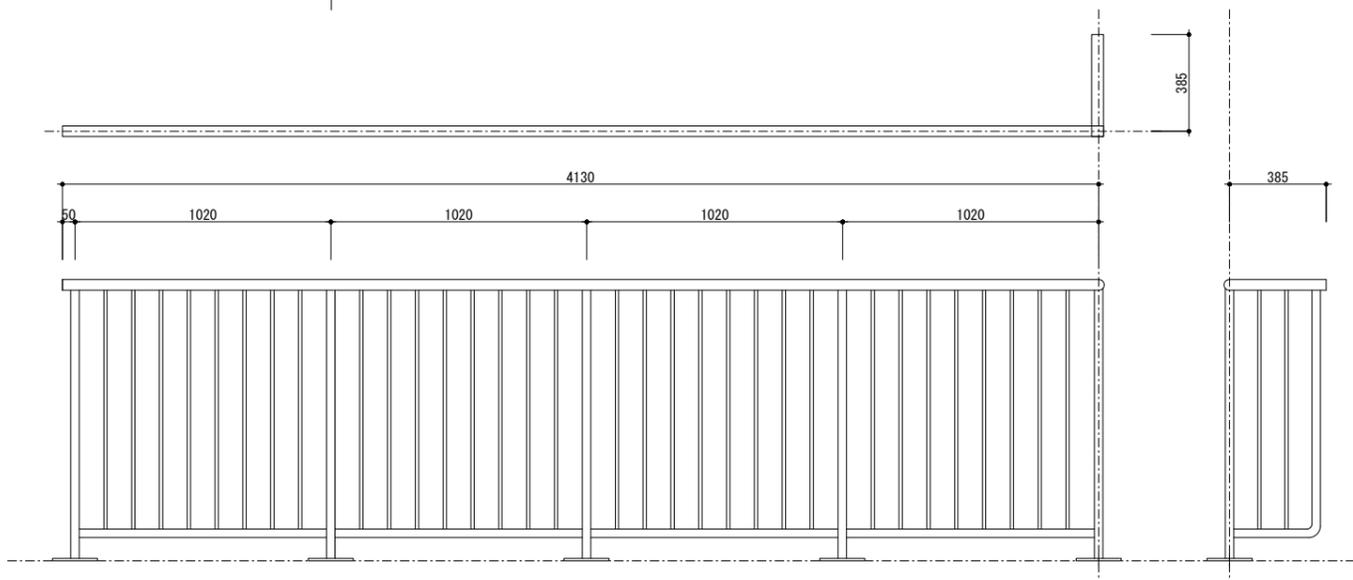
手摺支柱据付図 1/10



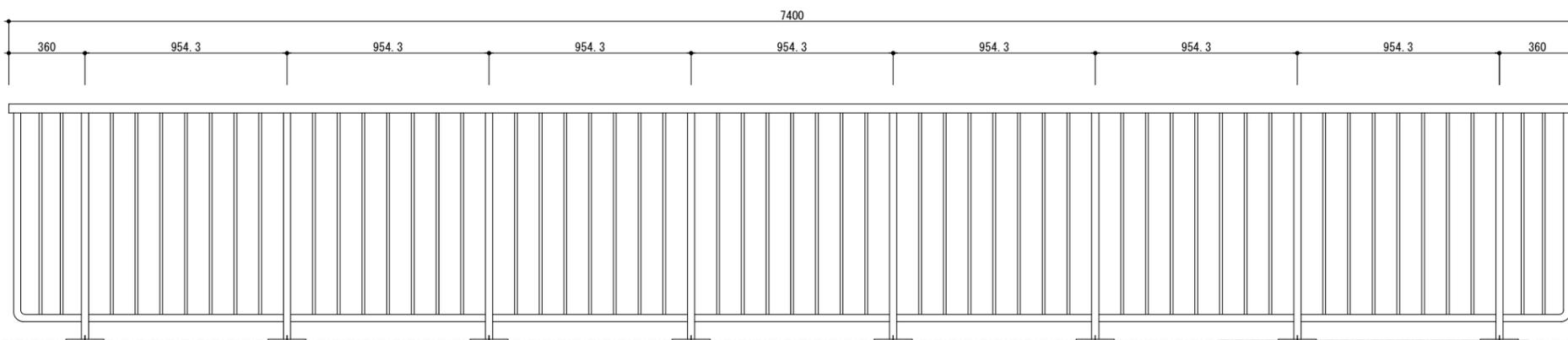
新設手摺2 1/20

新設手摺3 1/20

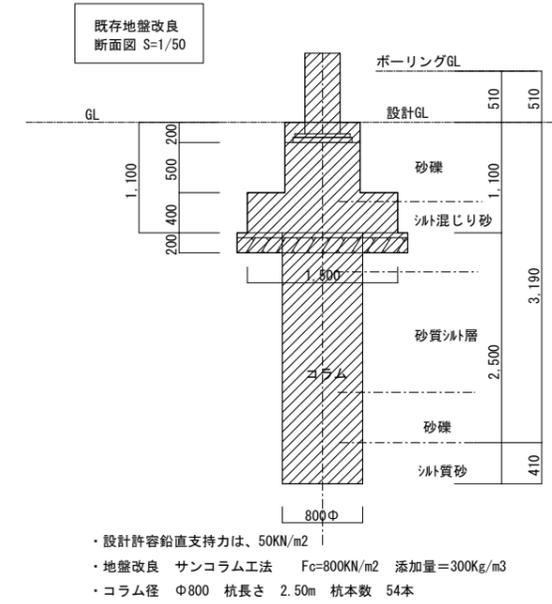
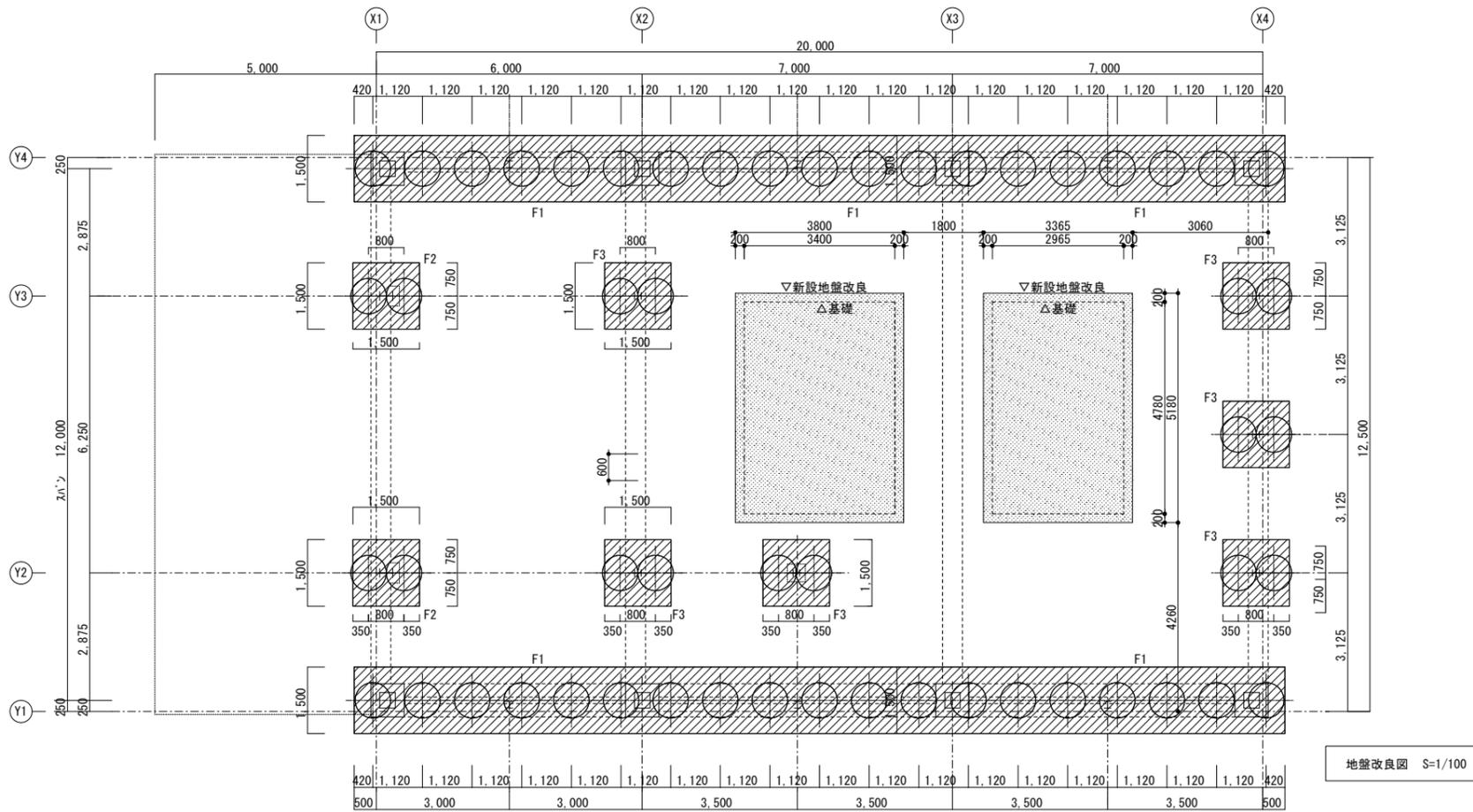
新設手摺4 1/20



新設手摺5 1/20



TITLE	DATE	NO
鳴門市役所東側付風機改修工事		A-44
NAME	SCALE	1/20
倉庫棟 部分詳細図		
株式会社 川建設	1級建築士登録 第126265	川端壮一郎



- ・設計許容鉛直支持力は、50KN/m²
- ・地盤改良 サンコラム工法 F_c=800KN/m² 添加量=300Kg/m³
- ・コラム径 φ800 杭長さ 2.50m 杭本数 54本

新設 地盤改良：浅層混合処理工法

- ・設計基準強度：F_c=210 kN/m²
- ・改良厚：2.87 m
- ・改良範囲
 - 中央部：3.800×5.180=19.684
 - 右側部：3.365×5.180=17.4307
 - 計：37.1147≒38(m²)

特記仕様書

1. 工事概要

本工事は、セメントおよびセメント系固化材を用いた浅層混合処理工法による地盤改良地業である。
本工法は、セメントおよびセメント系固化材を、粉砕した原地盤と混合攪拌し、締固めを行うことにより原地盤を安定処理し、土質の安定と支持力を増強させる地盤改良である。
2. 一般事項

本地業は、特記仕様書によるほか（財）日本建築センター改訂版「建築物のための改良地盤の設計及び品質管理指針」による。
本工事は既存建物内の施工であることから、既存建物の変位のないように十分注意し、施工すること。
3. 特記事項

改良体の形状、寸法、及び配置は、設計図書による。ただし土質や地盤の状況により設計仕様を変更した方が適切と判断される場合は、監督員の承認を受けて変更することができる。

 - ・長期設計地耐力：LFe=70 k N/m³
 - ・設計基準強度（F_c）：210 k N/m²
 - ・固化材の添加量：暫定100 k g/m³(配合試験による)
 - ・供試体の採取方法：地上充填型モールドコア1箇所3本(50×100)
 - ・施工業者：本工法の施工技術に精通した者
 - ・六価クロム溶出試験：基準値未滿を確認

4. 施工計画

工事に先立ち下記事項を記載した施工計画書を監督員に提出し承諾を受ける。

 - (1) 工事概要
 - (2) 配合計画
 - (3) 配合管理
 - (4) 施工管理
 - (5) 品質管理
 - (6) 使用材料
 - (7) 使用機材一覧
 - (8) 施工手順
 - (9) 施工報告書
 - (10) 管理体制
 - (11) 写真管理
 - (12) 安全・衛生管理
 - (13) 施工図面
 - (14) 使用機材仕様書

5. 配合計画

試料採取
現地より強度発現の低いと予想される地層より20 k g 程度採取する。
室内配合試験

 - (1) 固化材：セメントもしくはセメント系固化材
 - (2) 添加形態：粉体
 - (3) 配合量：50 (k g/m³)、100 (k g/m³)、150 (k g/m³)
 - (4) 試料数：1試料

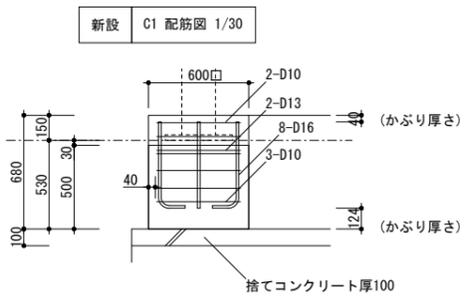
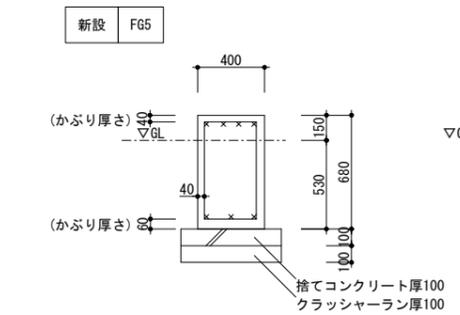
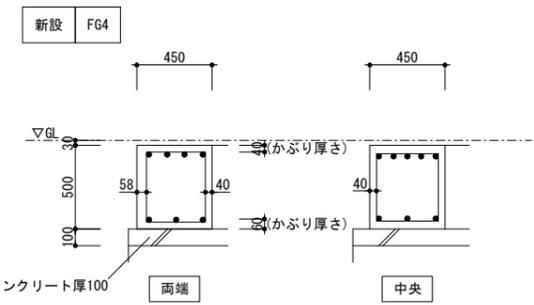
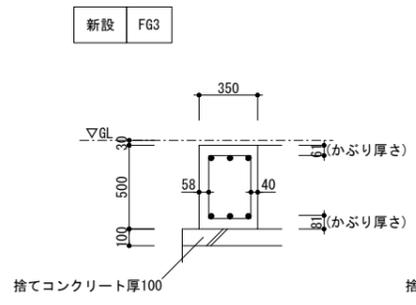
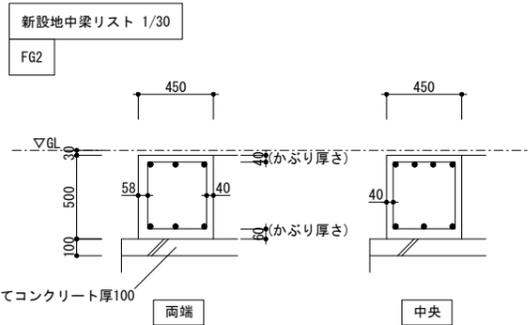
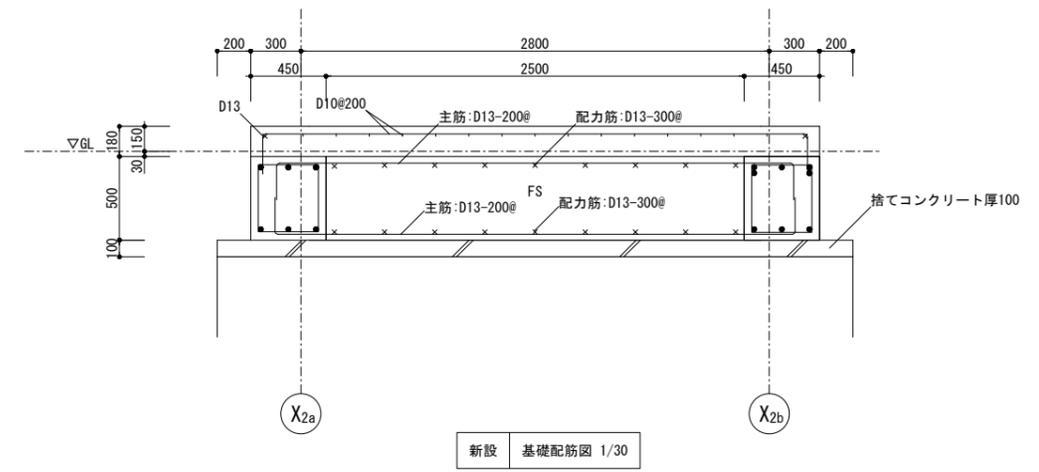
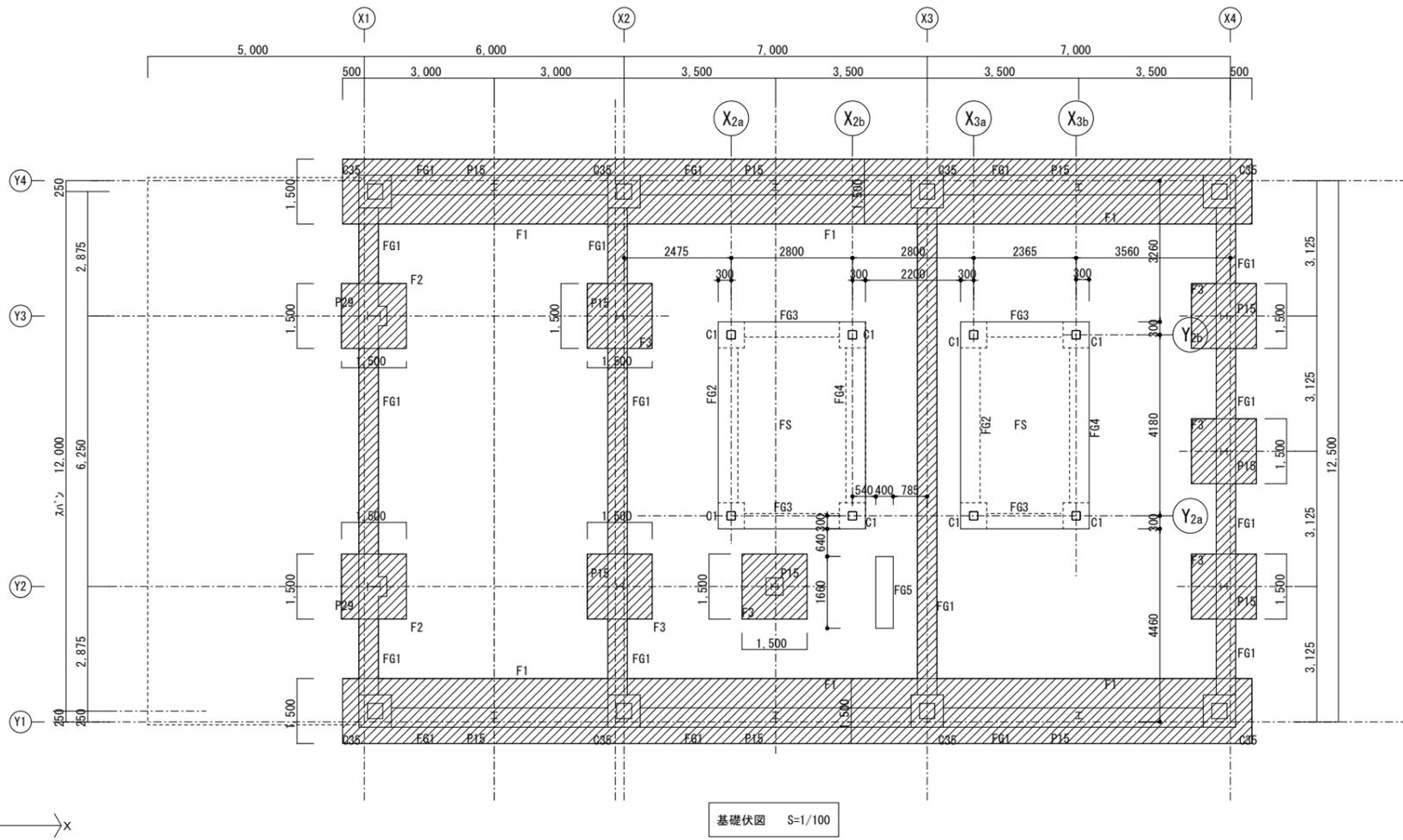
6. 施工要領
 - (1) 改良範囲：改良範囲を石灰・スプレー等で明記する。
 - (2) 固化材：対象土に定められた数量の固化材を散布する。
 - (3) 混合攪拌：バックホウにより固化材と対象土を色むらがなくなるまで混合攪拌を行う。
 - (4) 造成：重機キャタ、ローラーにて転圧する。
 - (5) 改良天端成型：レベルを確認しながら人力もしくはバックホウにて改良天端を成型する。
 - (6) 完工・機材撤出：敷地内の整地・清掃を行った後、撤収する。

7. 施工管理
 - (1) 改良範囲の確認
 - (2) 固化材の計量
 - (3) 改良厚の確認
 - (4) 混合攪拌状況の目視確認
 - (5) 改良天端レベルの確認
8. 品質管理

強度確認の為、一軸圧縮試験用供試体を作成する。
本施工では3箇所材令7日にて設計基準強度（F_c）を上回っていることを確認する。

：現況のまま

TITLE	DATE	NO
鳴門市役所東側付風機改修工事		S-01
NAME	SCALE	
倉庫棟 地盤改良図	1/100	
株式会社 川建設	1級建築士登録 第126265	川端壮一郎



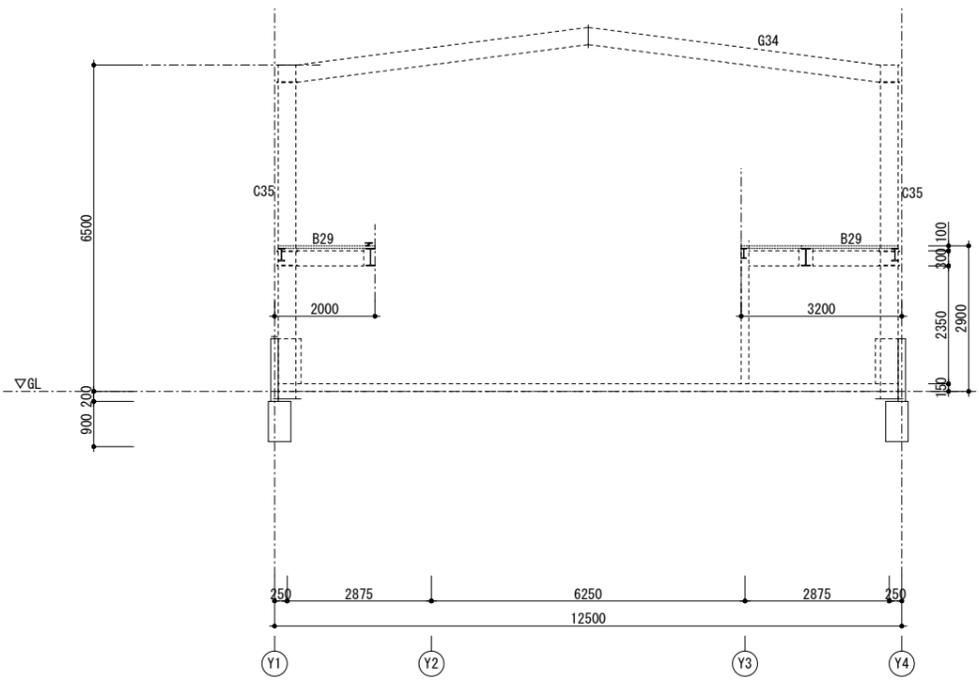
符号	F2	
寸法	450 × 500	450 × 500
上端筋	3-D19	4-D19
下端筋	3-D19	3-D19
スラップ	D10@150	D10@150
スラップ	中央上端部のカットオフ筋はL=3000とする	

符号	FG3	
寸法	350 × 500	
上端筋	3-D19	
下端筋	3-D19	
スラップ	D10@200	

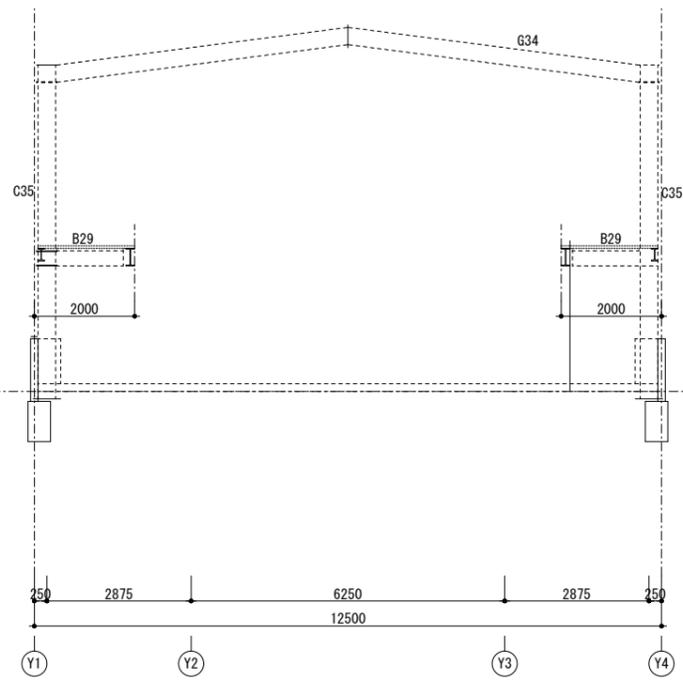
符号	FG4	
寸法	450 × 500	
上端筋	4-D19	5-D19
下端筋	3-D19	3-D19
スラップ	D10@150	D10@150
備考	中央上端部のカットオフ筋はL=3000とする	

符号	FG5	
寸法	400 × 680	
上端筋	4-D13	
下端筋	3-D13	
スラップ	D10@200	

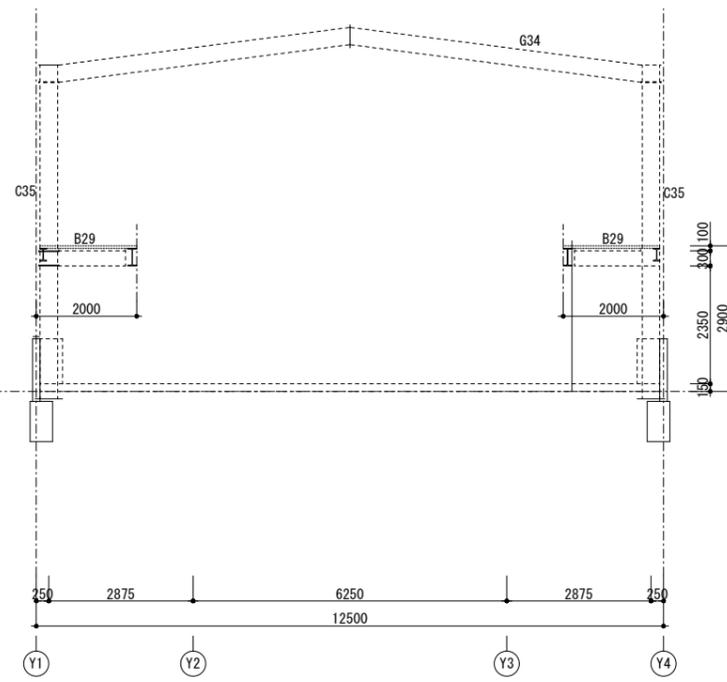




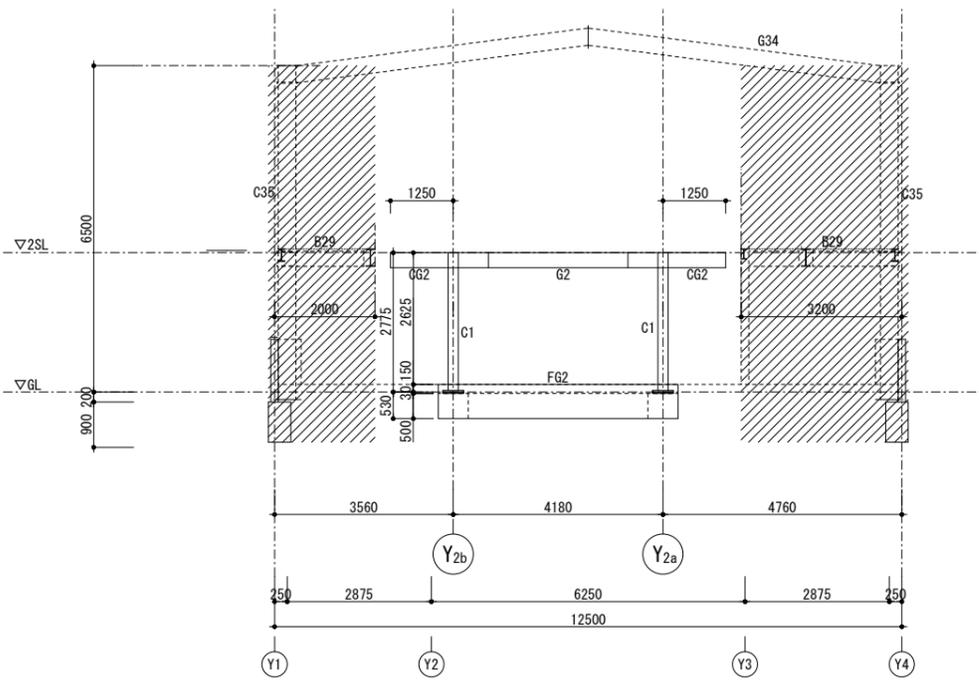
現況 X2a通り軸組図 S=1/100



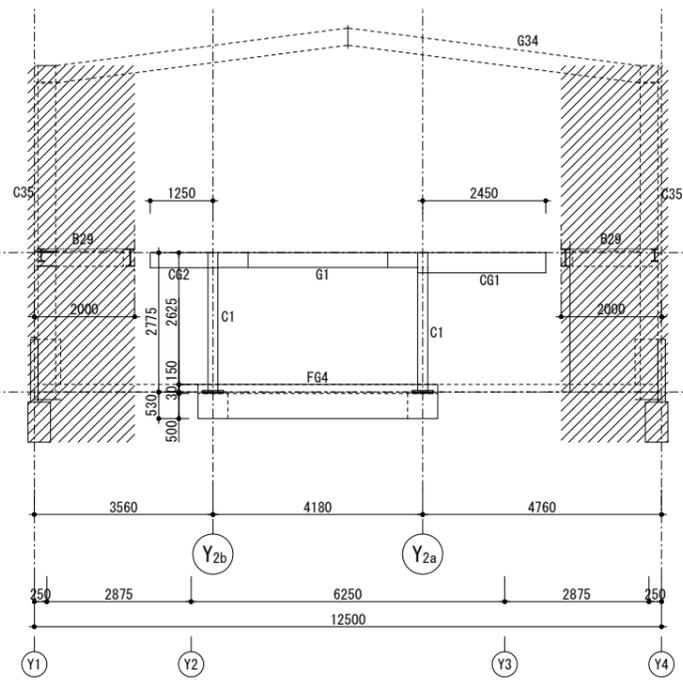
現況 X2b通り軸組図 S=1/100



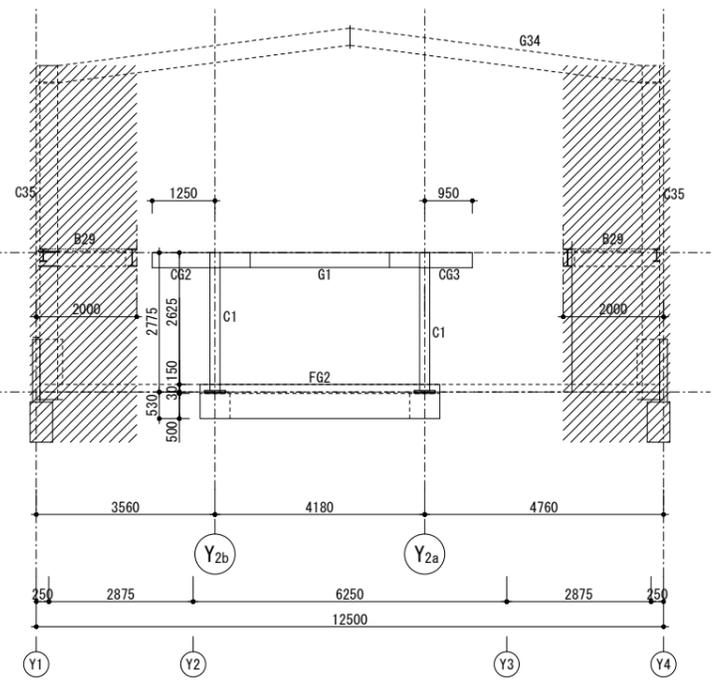
現況 X3a通り軸組図 S=1/100



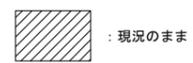
改修後 X2a通り軸組図 S=1/100



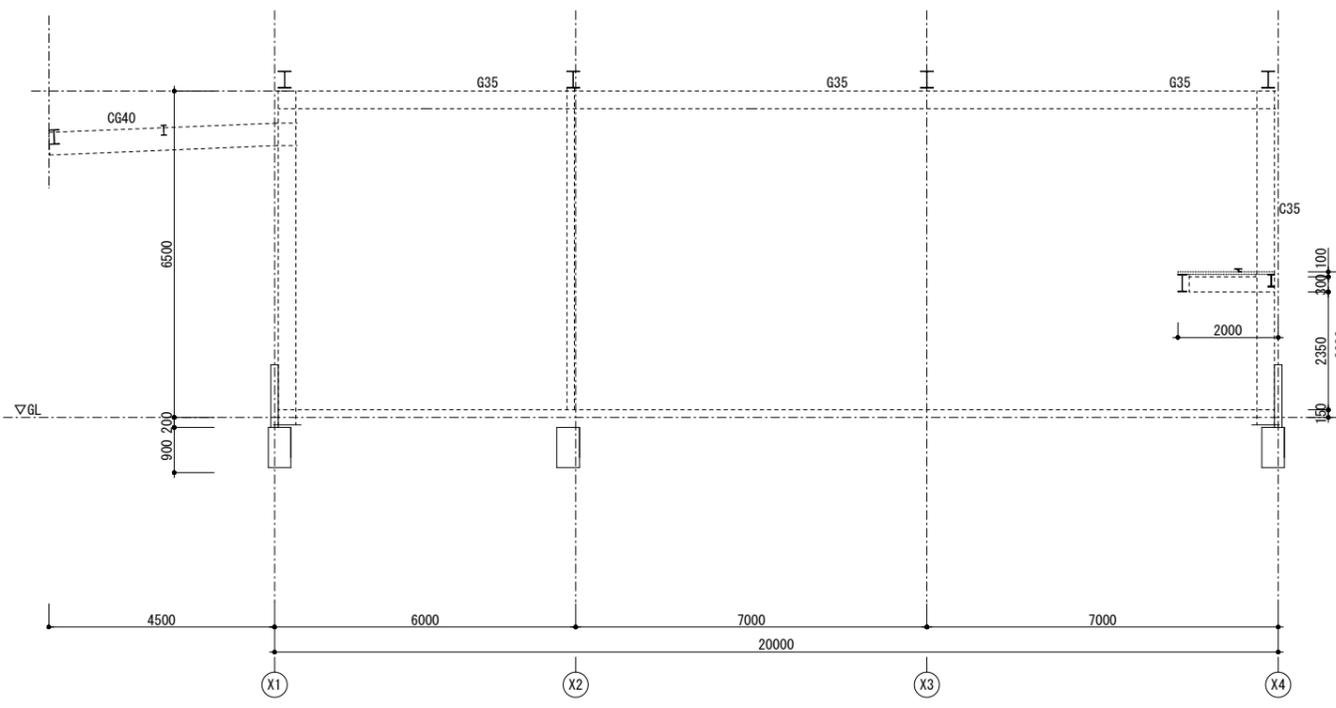
改修後 X2b、X3b通り軸組図 S=1/100



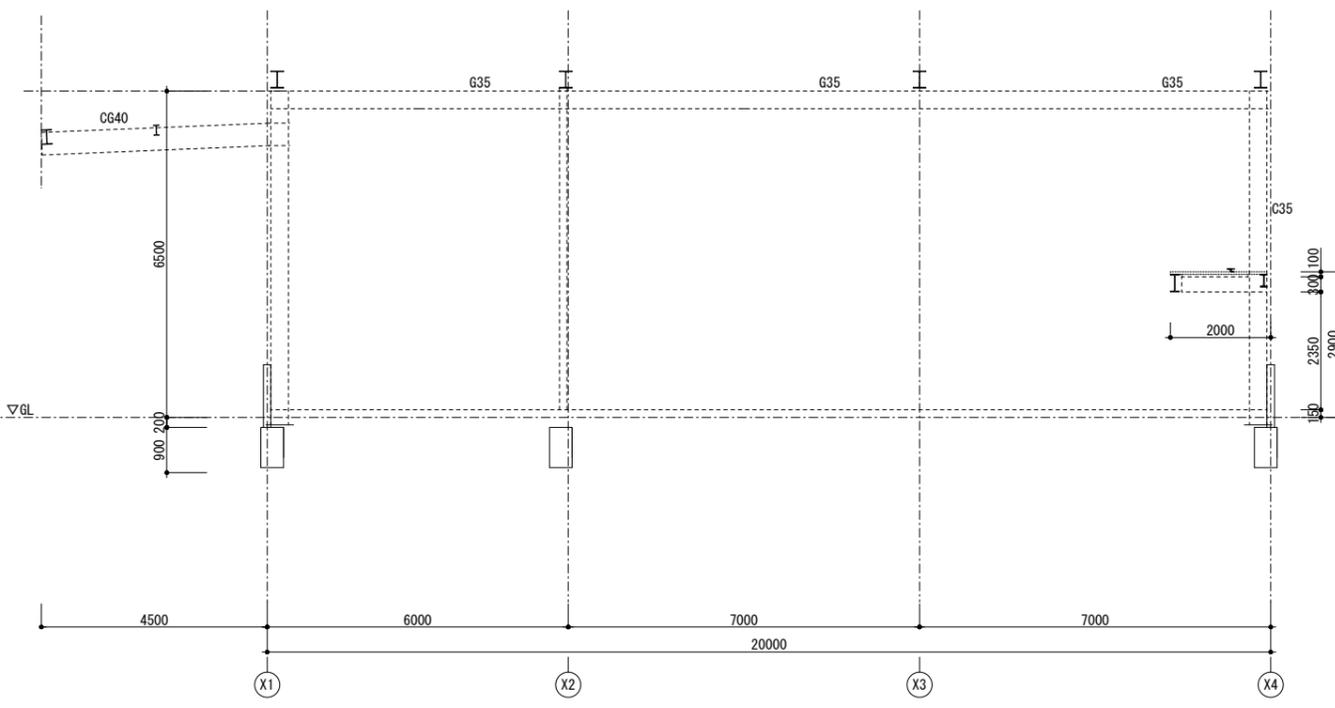
改修後 X3a通り軸組図 S=1/100



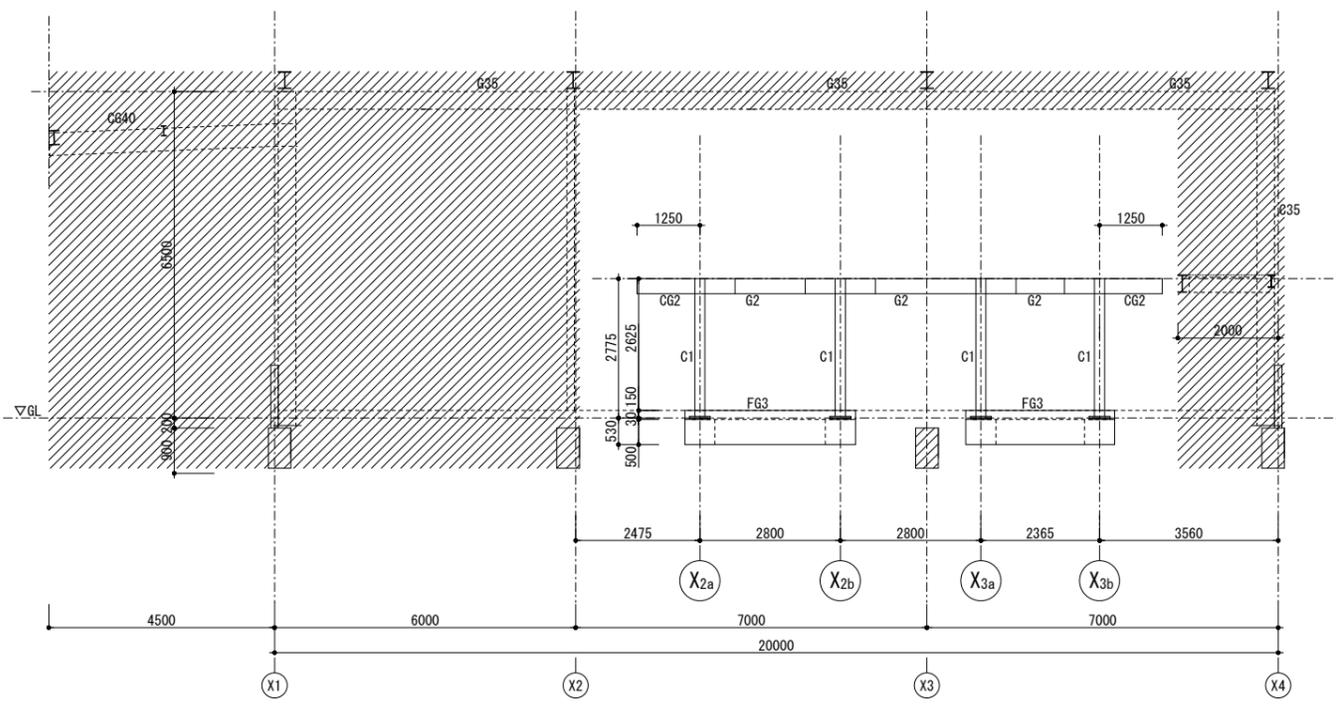
TITLE	DATE	NO
鳴門市役所東側付風機改修工事		S-04
NAME	SCALE	
倉庫棟 軸組図(1)		1/100
株式会社 川建設	1級建築士登録 第126265	川端壮一郎



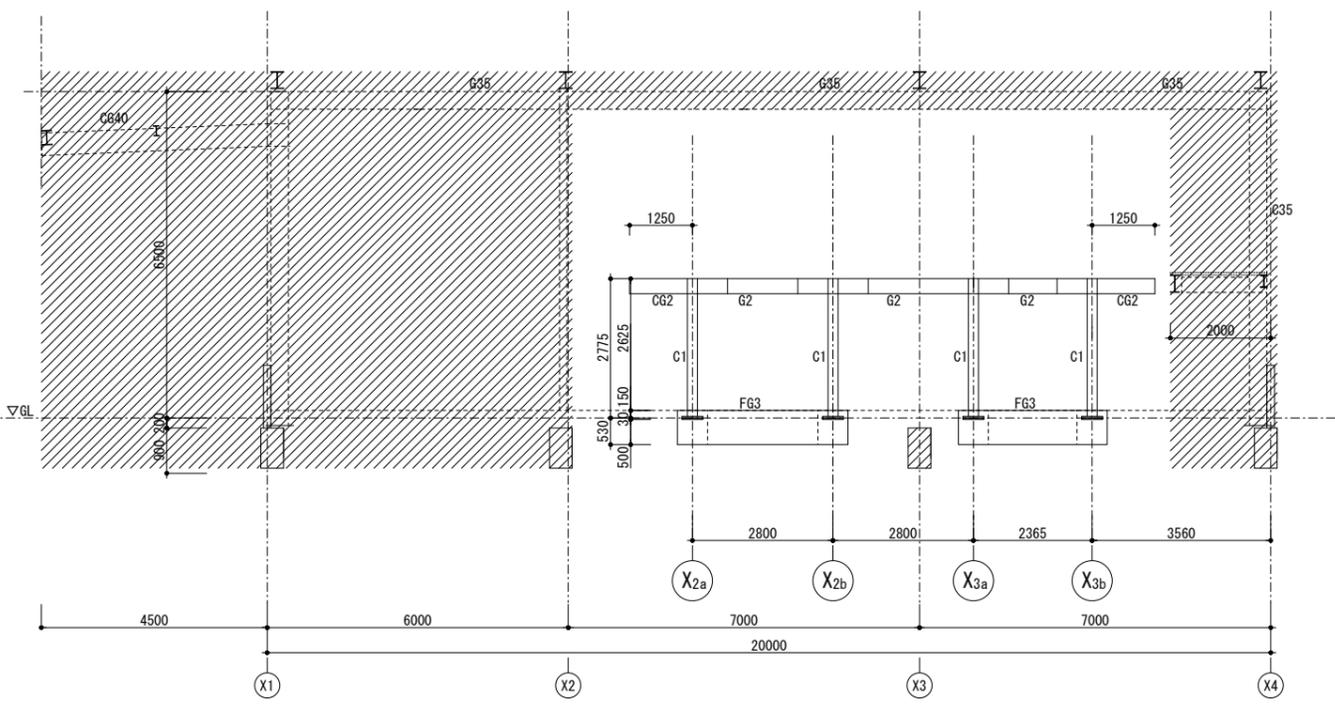
現況 Y3通り軸組図 S=1/100



現況 Y3通り軸組図 S=1/100



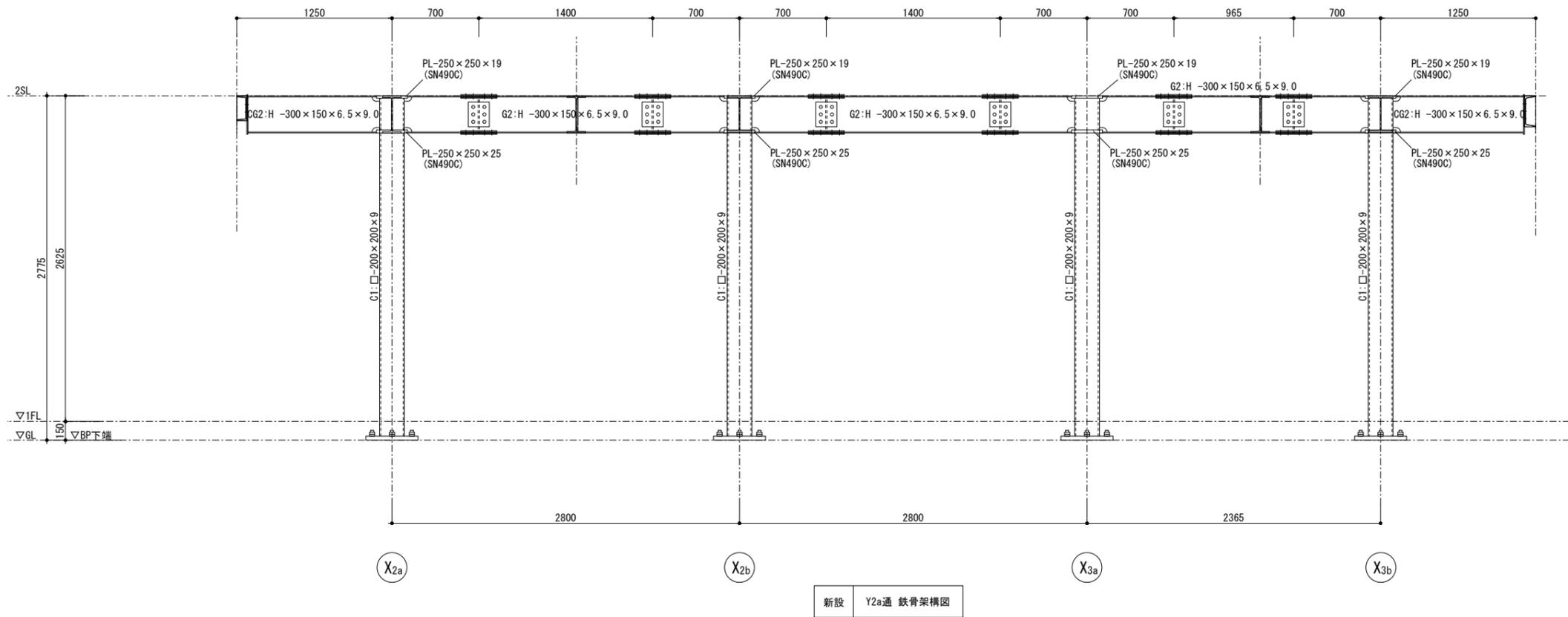
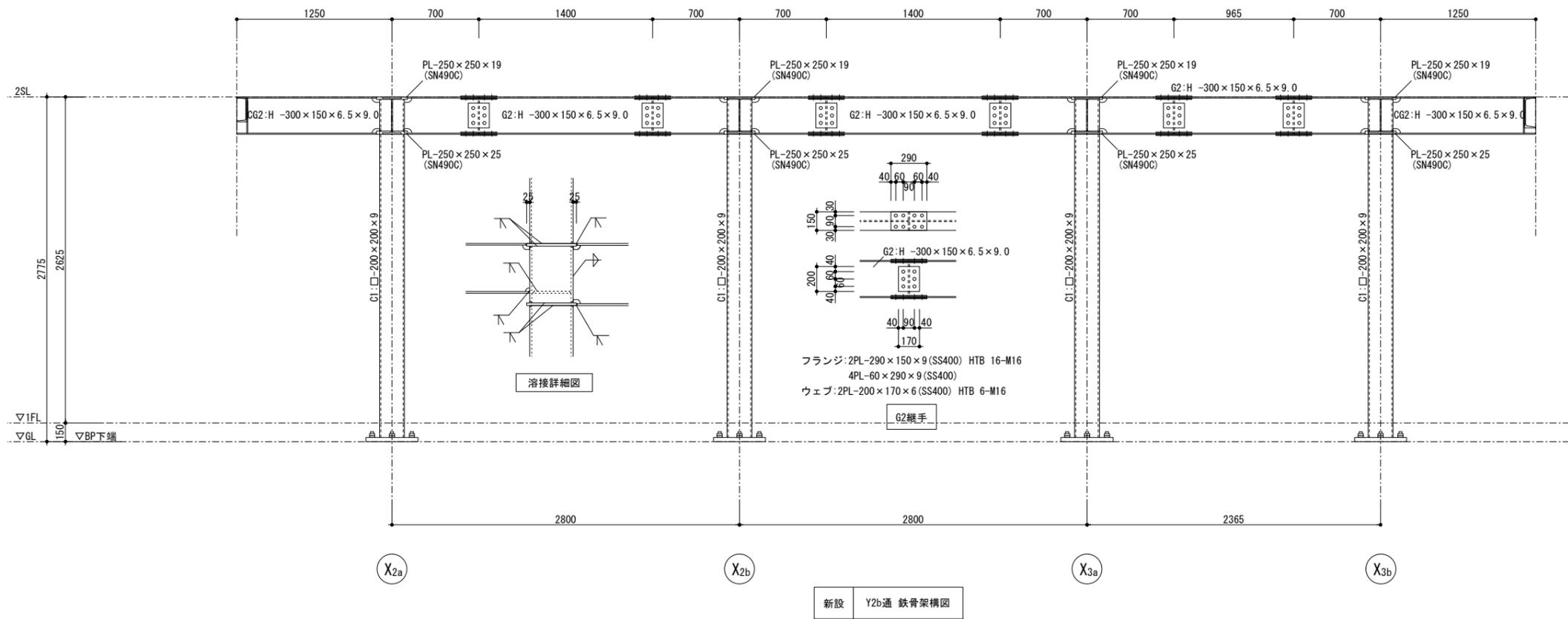
改修後 Y2b通り軸組図 S=1/100



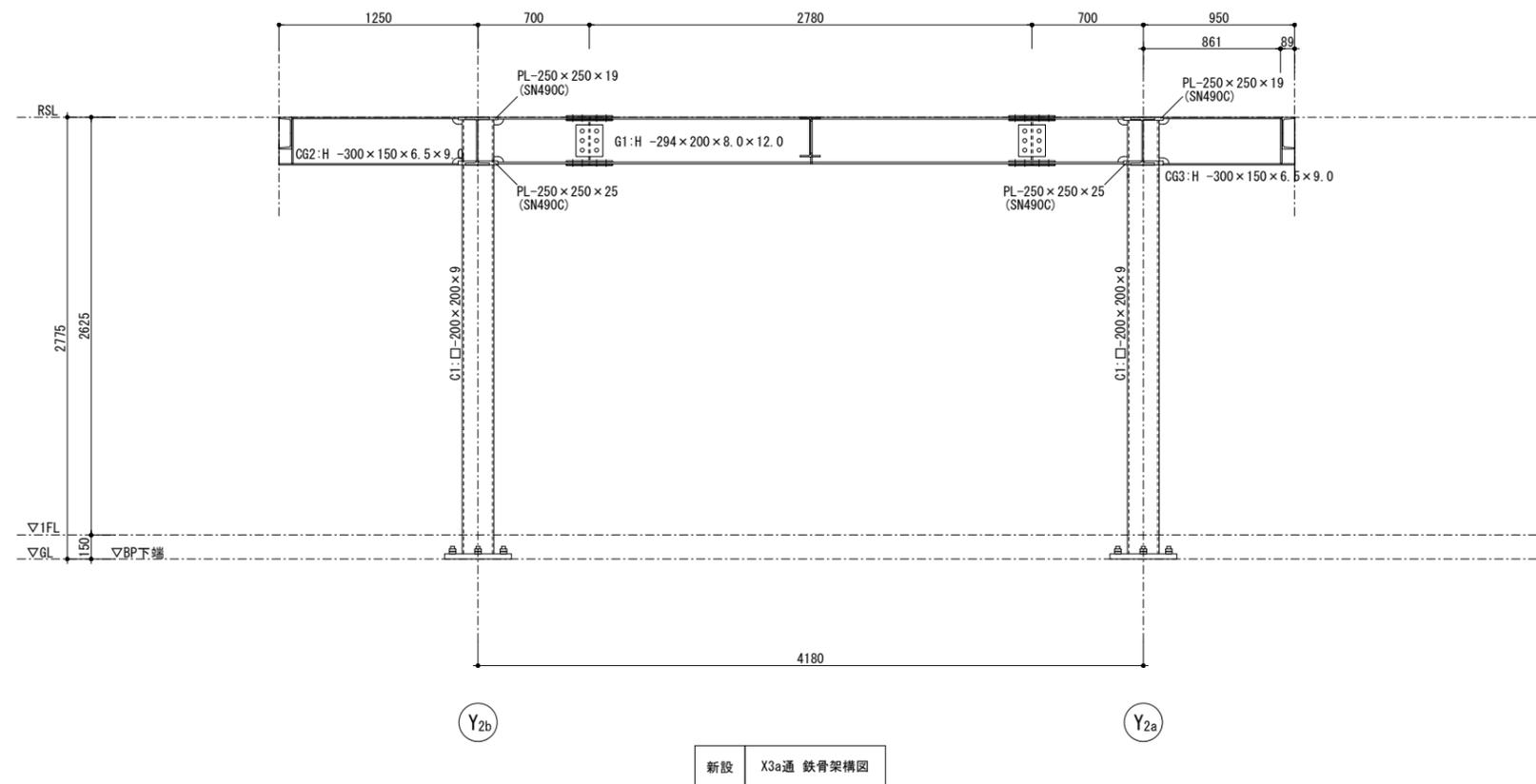
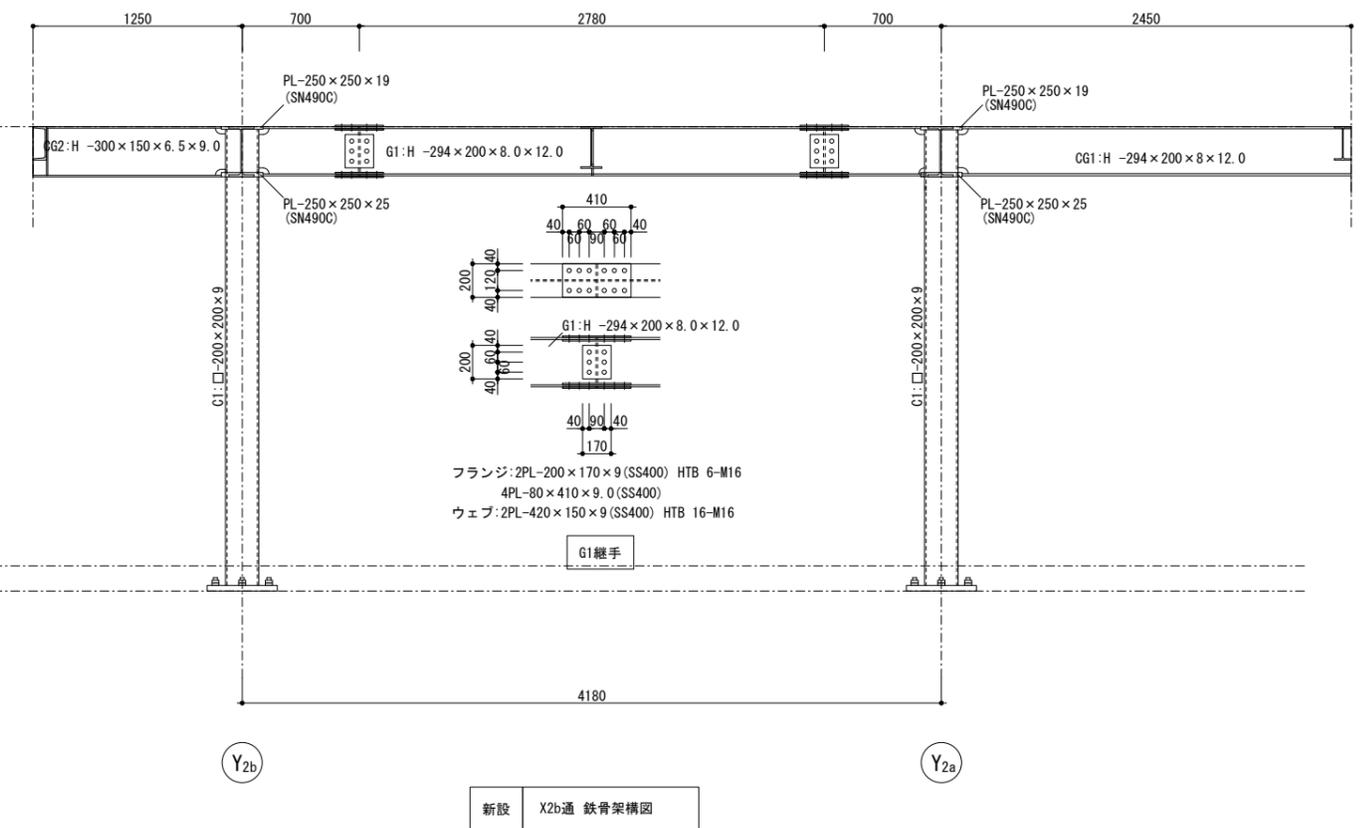
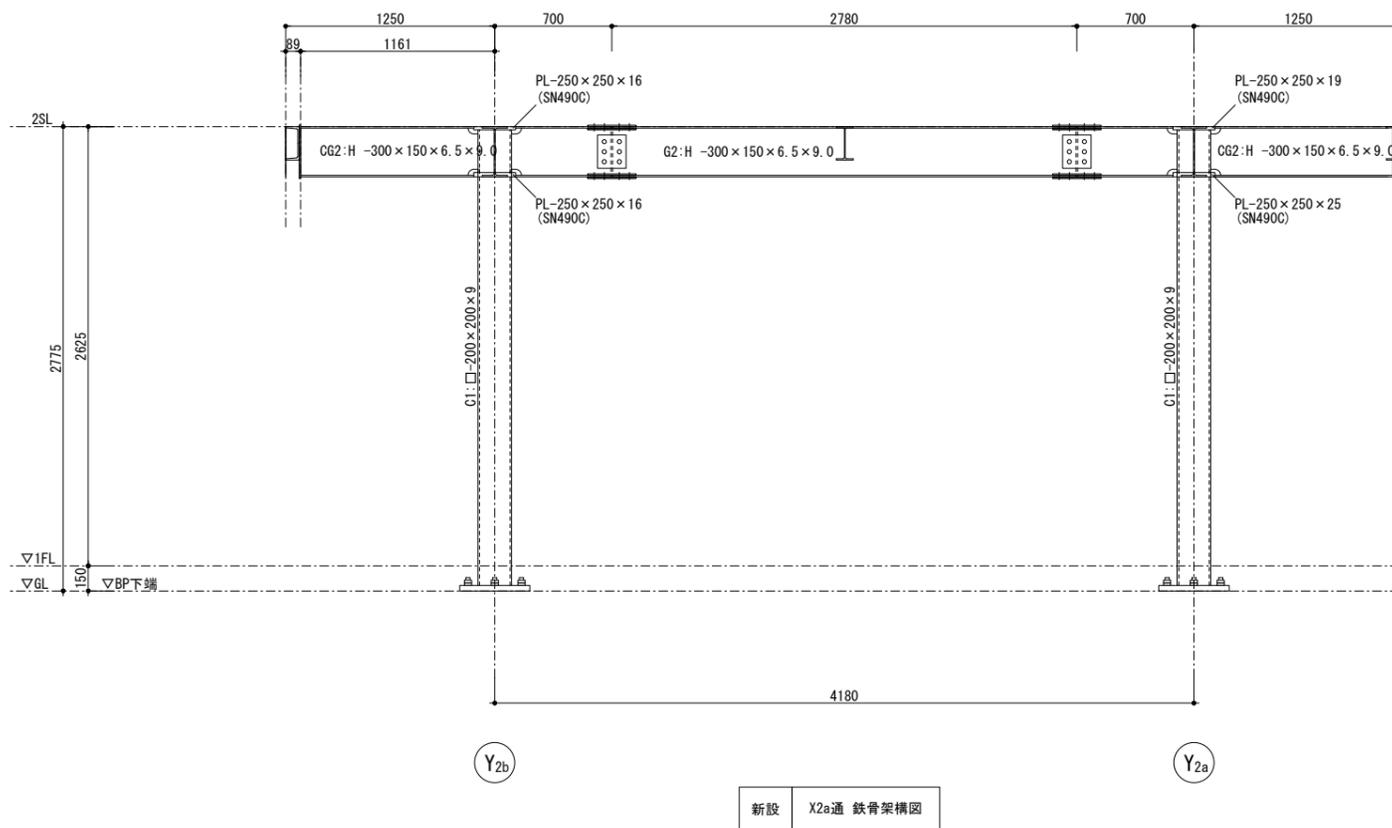
改修後 Y2a通り軸組図 S=1/100

 : 現況のまま

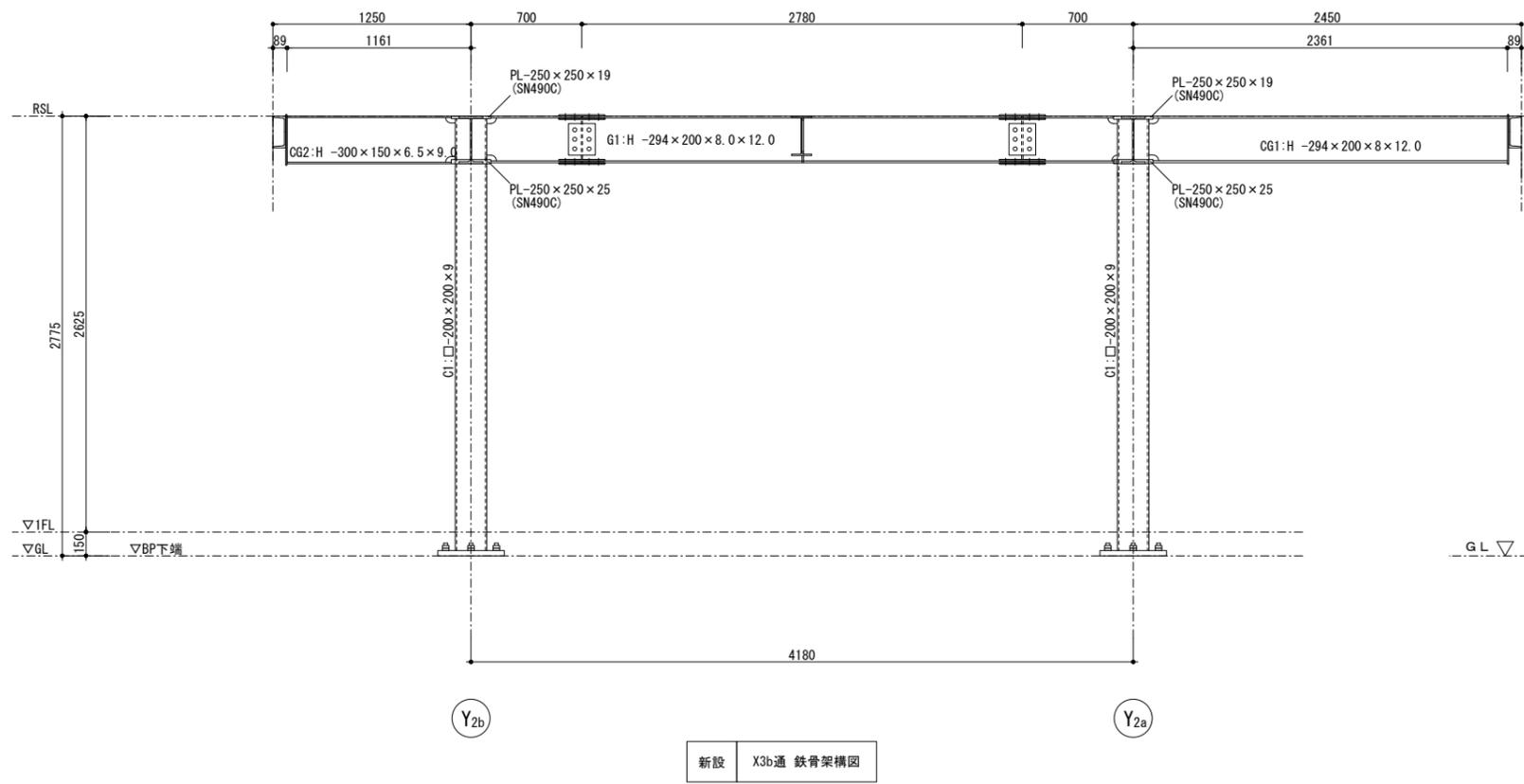
TITLE	DATE	NO
鳴門市役所東側付風機改修工事		S-05
NAME	SCALE	
倉庫棟 軸組図(2)		1/100
株式会社 川建設	1級建築士登録 第126265	川端壮一郎



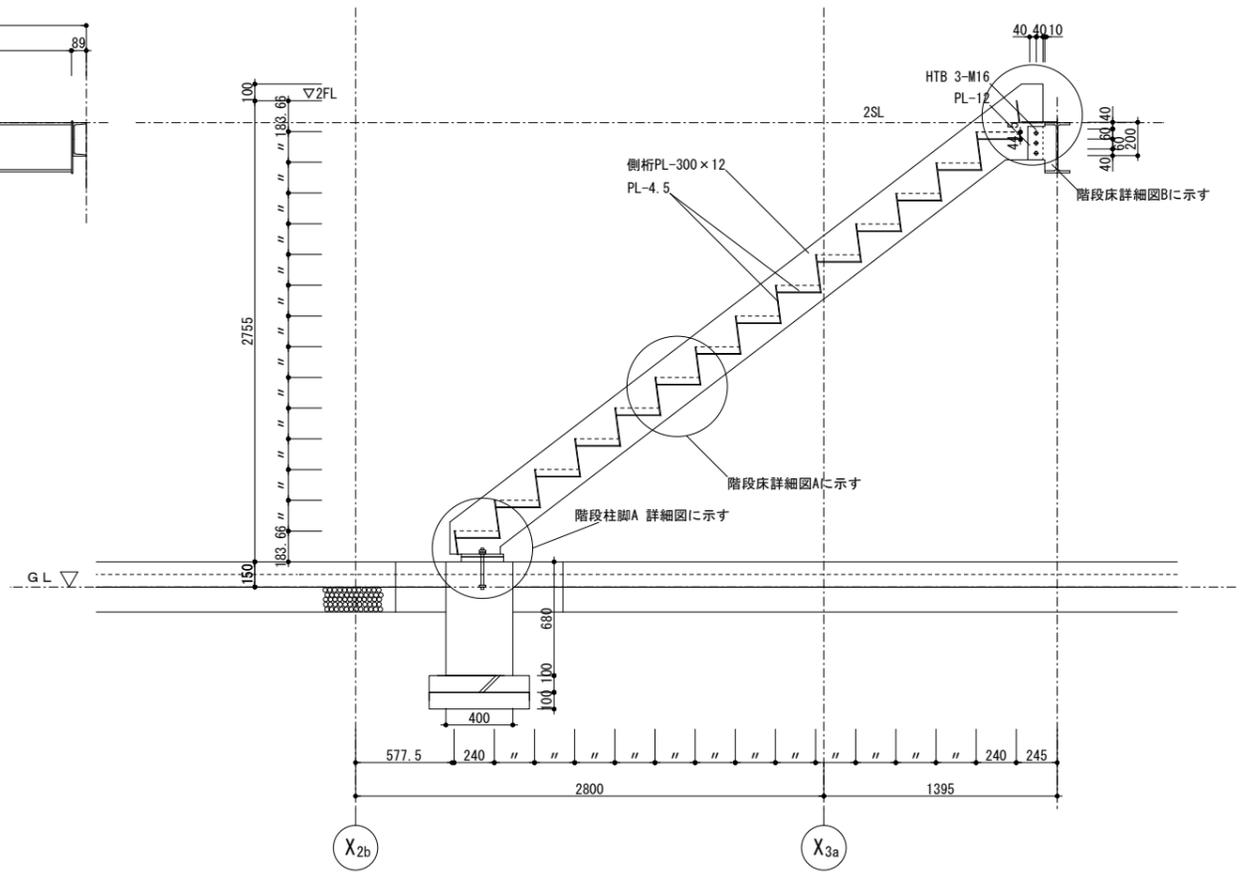
TITLE	DATE	NO
鳴門市役所東側付風棟改修工事		S-06
NAME	SCALE	
倉庫棟 鉄骨架構図(1)		1/100
株式会社 川建設	1級建築士登録 第126265	川端壮一郎



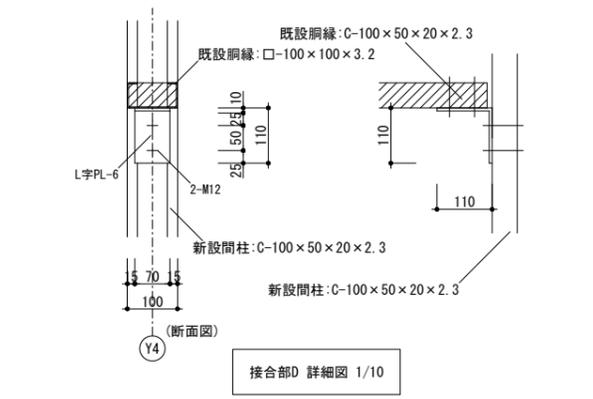
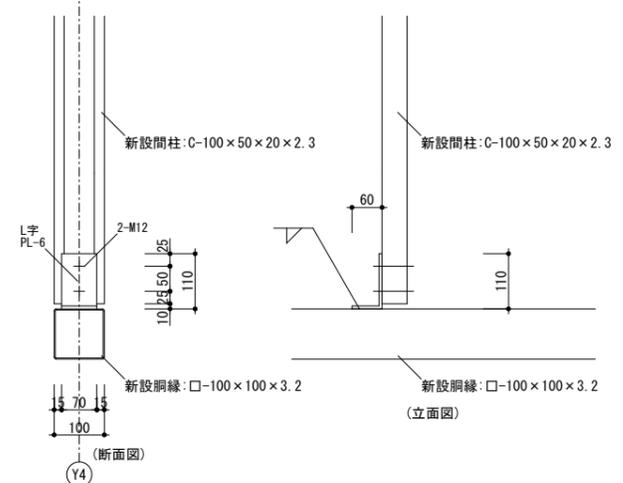
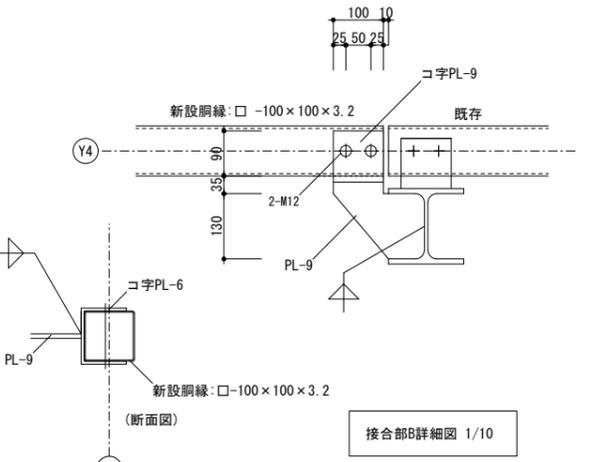
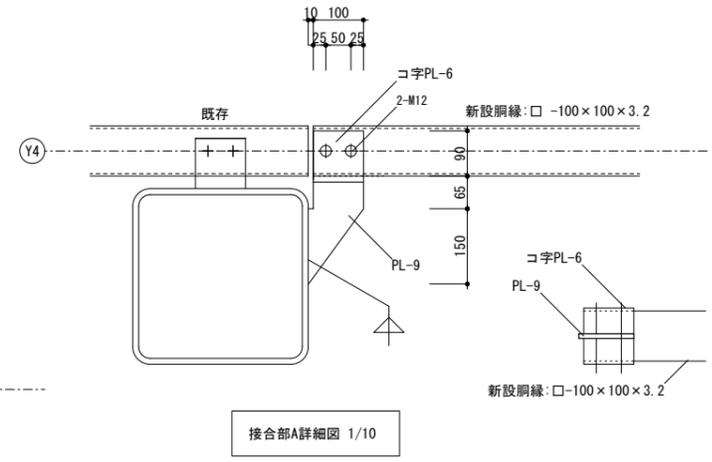
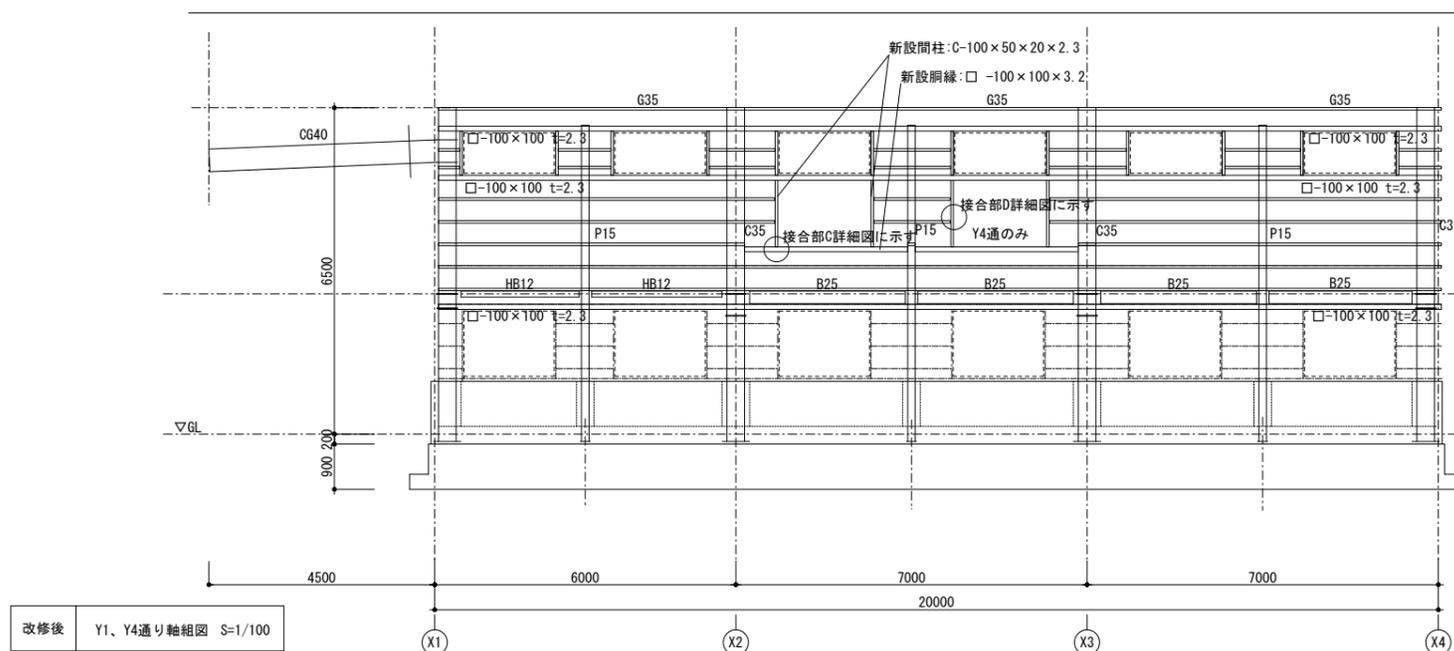
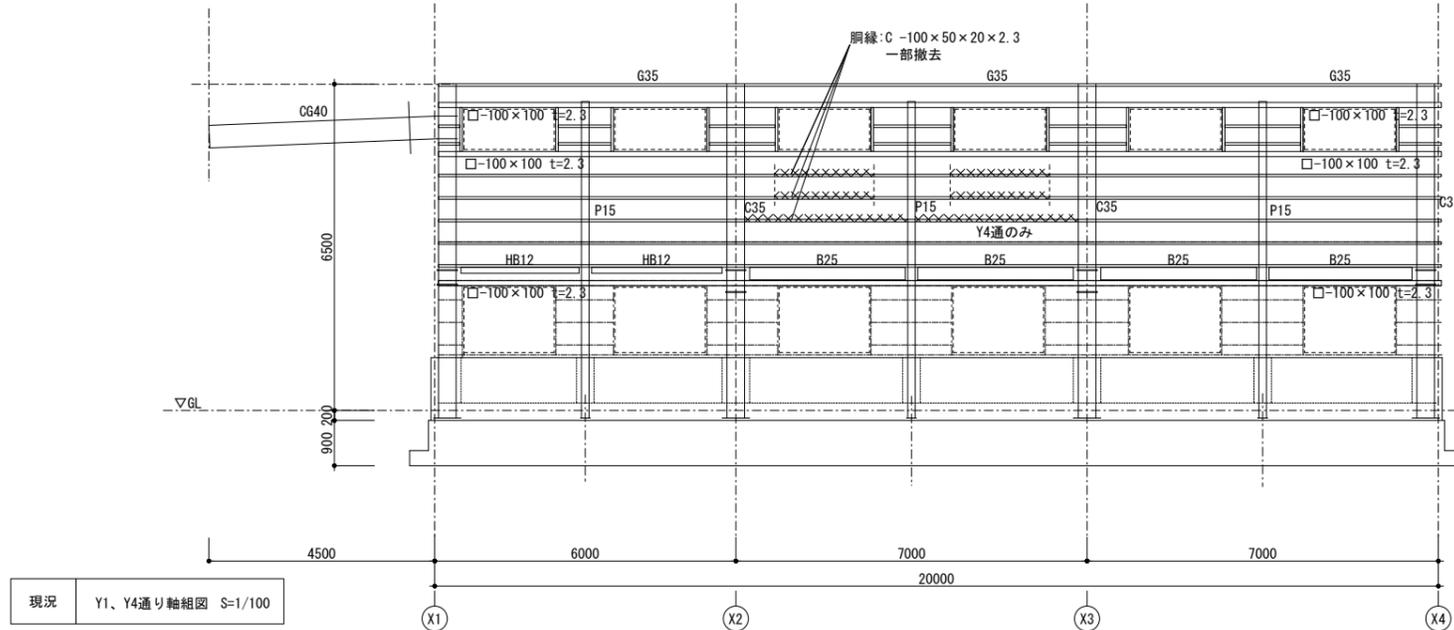
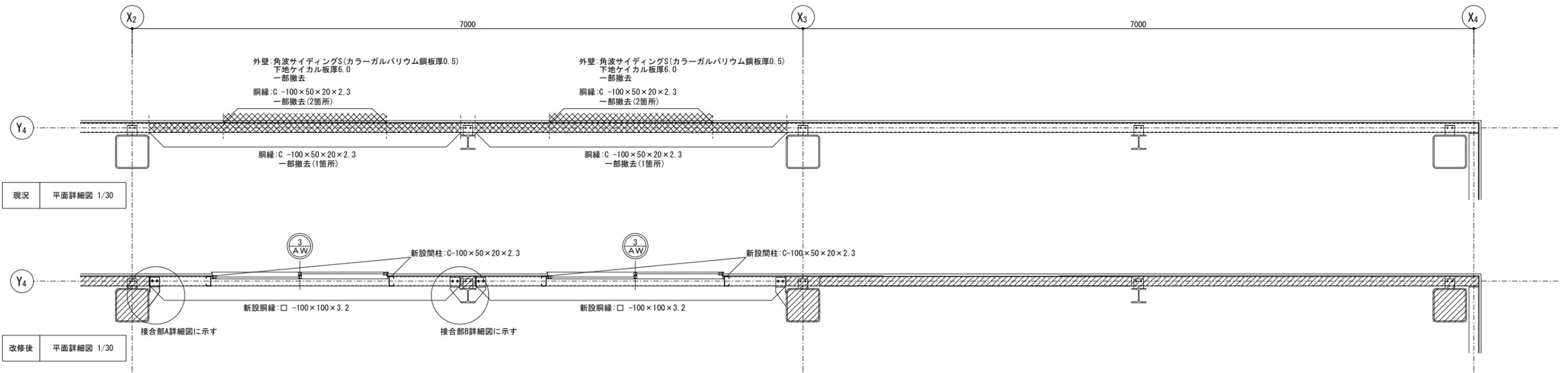
TITLE	DATE	NO
鳴門市役所東側付風棟改修工事		S-07
NAME	SCALE	
倉庫棟 鉄骨架構図(2)		1/100
株式会社 川建設	1級建築士登録 第126265	川端壮一郎



新設 X3b通 鉄骨架構図



TITLE	DATE	NO
鳴門市役所東側付風棟改修工事		S-08
NAME	SCALE	
倉庫棟 鉄骨架構図(3)		1/100
株式会社 川建設	1級建築士登録 第126265	川端壮一郎



: 現況のまま
 : 撤去範囲を示す

TITLE	鳴門市役所東側付風棟改修工事	DATE		NO	S-09
NAME	倉庫棟 開口部廻り軸組図ほか	SCALE			1/100
株式会社	川建設	1級建築士登録	川端壮一郎	第126265	

鉄骨構造基準図 7-1 (基礎配筋基準図)

I. 構造設計概要

1. 建築物の構造内容

- (1) 建築場所 鳴門市撫養町南浜
- (2) 工事種別 新築 増築 増改築 改築
- (3) 構造設計一級建築士の関与 必要 必要としない
 - 法第20条第一号 (高さ60m超)
 - 法第20条第二号 (RC造高さ20m超 S造4階建以上 木造高さ13m超 その他)
- 注(3) 構造設計一級建築士の関与が義務づけられる建築物については解説書等を参照して確認すること。
- (4) 階数
 - 地下 階
 - 地上 2階
 - 塔屋 階
- (5) 主要用途 倉庫
- (6) 増築計画 有 () 無
- (7) 構造計算ルート X方向ルート 1- (1) Y方向ルート 1- (1)
- (8) 鉄筋の継手及び定義

建築基準法施工令第36条及び73条による仕様規定に準ずる事。

X・Y両方向共ルート 3 及び限界耐力計算の場合は、政令第73条の仕様規定によらずJASS(2009)、鉄筋コンクリート造配筋指針・同解説及びRC基準2010とすることができる。

2. 使用建築材料表・使用構造材料一覧表

- (1) コンクリート (レディミクストコンクリート JIS Q 1001, JIS Q 1011, JIA A 5308)

適用箇所	種類	設計基準強度 F _c =N/mm ²	品質基準強度 F _q =N/mm ²	スランブ c(mm)	種類
捨てコンクリート	<input checked="" type="checkbox"/> 普通	18		15	
土間コンクリート	<input checked="" type="checkbox"/> 普通	18		15	
基礎・基礎梁	<input checked="" type="checkbox"/> 普通	21		18	

単位水量は185kg/m³以下、単位セメント量は270kg/m³以上とする。

種類	径	使用箇所	継手工法	
			種類	径
異形鉄筋 (JIS G 3112)	<input checked="" type="checkbox"/> SD295 A	D10-D13-D16	基礎スラブ	<input checked="" type="checkbox"/> 重ね継手 D16以下
	<input type="checkbox"/> SD295 B			<input checked="" type="checkbox"/> ガス圧継手 D19以上
	<input checked="" type="checkbox"/> SD345	D19	基礎	<input type="checkbox"/> 溶接継手
	<input type="checkbox"/> SD390			<input type="checkbox"/> 機械式継手
高強度せん断補強筋	<input type="checkbox"/> 材種			
	<input type="checkbox"/> 大臣認定番号 MSRB-			
丸鋼 (JIS G 3112)	<input type="checkbox"/> SR235			
溶接金網 (JIS G 3551)	<input type="checkbox"/>			

種類	使用箇所	現場溶接	備考
<input checked="" type="checkbox"/> SS400 <input type="checkbox"/> SM400 <input checked="" type="checkbox"/> SN400A, B, C	柱, 梁, 間柱, BPL	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	JIS G3101
<input type="checkbox"/> STKR400 <input type="checkbox"/> STKR490	柱	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	
<input checked="" type="checkbox"/> BCR295 <input type="checkbox"/> BCP235	柱	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	MSTL-0141
<input type="checkbox"/> SM490A <input type="checkbox"/> SM490B <input checked="" type="checkbox"/> SN490C	ダイヤフラム	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	JIS G3136
<input checked="" type="checkbox"/> SSC400 <input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	JIS G3350

ボルト 使用箇所の詳細については別添図示とする。

- 高力ボルト
 - 普通: F10T 特殊: S10T 認定品 (M12 M16 M20 M22 24)
 - 溶融亜鉛メッキ高力ボルトF8T

- 中ボルト
 - M 12 M
- アンカーボルト
 - SS400 M
 - SS490 M
 - ABR400 M
 - ABR490 M
 - ABM400 M
 - ABM490 M
 - 大臣認定柱脚 (メーカー仕様による)

頭付キスタッドボルト

φ = L = mm 使用箇所 (柱 大梁 小梁)

φ = L = mm 使用箇所 (柱 大梁 小梁)

3. 地盤

- (1) 地盤調査資料と調査計画
 - 有 (敷地内 近隣) 無 (調査計画 有 無)

規格番号	資料有り	調査計画	資料有り	調査計画	資料有り	調査計画
ボーリング調査		<input type="checkbox"/>				
水平地盤反力係数の測定						
試験掘 (支持層の確定)						
エーゼン式ウエディング						

注) 上記表中の資料が有るものに○を記入する。

4. 地業工事

- (1) 直接基礎 ベタ基礎 布基礎 独立基礎 試験堀 有 無
 - 深さ GL- m、支持層-、長期許容支持力度 kN/m² 載荷試験 有 無
- (2) 地盤改良 浅層混合処理工法 深層混合処理工法布基礎
 - 深さ GL- m、長期許容支持力度 70 kN/m² 載荷試験 有 無
- 注) 「建築物のための改良地盤の設計及び品質管理指針：日本建築センター2002」を参考とする
- (3) 杭基礎 支持層-

杭種	材料	施工法	備考
<input type="checkbox"/> RC <input type="checkbox"/> PHC <input type="checkbox"/> 鋼管 <input type="checkbox"/> SC杭	PRC (<input type="checkbox"/> I種 <input type="checkbox"/> II種 <input type="checkbox"/> III種) PHC (<input type="checkbox"/> A種 <input type="checkbox"/> B種 <input type="checkbox"/> C種) 鋼材 <input type="checkbox"/> SS400 <input type="checkbox"/> SKK400 <input type="checkbox"/> JIS	<input type="checkbox"/> 打ち込み <input type="checkbox"/> 埋込み (セメントミルク工法) <input type="checkbox"/>	評定第 号 年 月 日
<input type="checkbox"/> 場所打ち コンクリート杭	コンクリート F _c N/mm ² スランブ cm以下 セメント量 kg/m ³ 単位水量 kg/m ³ 鉄筋主筋 SD HOOP SD	<input type="checkbox"/> オールケーシング <input type="checkbox"/> 底底杭 <input type="checkbox"/> リパササーキュレーション <input type="checkbox"/> アースドリル <input type="checkbox"/> ミニアース <input type="checkbox"/> BH <input type="checkbox"/> 深礎 <input type="checkbox"/> 手掘 <input type="checkbox"/> 機械掘	評定第 号 年 月 日

杭仕様 施工計画書承認 杭施工結果報告書
試験杭 (有・無) (打ち込み・載荷・孔壁測定) 本

杭径(mm)	設計支持力(kN)	杭の先端の深さ(m)	本数	特記事項

5. 設備関係

- ・ 建築設備の構造は、構造耐力上安全な構造方法を用いるものとする。
- ・ 建築設備の支持構造部および緊結金物には、錆止め等、防腐のための有効な措置を講ずること。
- ・ 建築物に設ける屋上からの突出する水槽・煙突・その他これらに類するものは、風圧・地震力等に対して構造耐力上主要な部分に緊結され、安全であること。
- ・ 煙突は、鉄筋に対するコンクリートのかぶり厚さを5cm以上とした鉄筋コンクリート造とすること。
- ・ 設備配管は、地震時等の建物変形に追従できること。また、地震力等に対して適切に支持されていること。
- ・ 設備機器の架台及び基礎については、風圧・地震力等に対して構造耐力上安全であること。
- ・ エレベーターの駆動装置等は、構造体に安全に緊結されていること。
- ・ 特記以外の梁貫通孔は原則として設けない。
- ・ 床スラブ内に設備配管等を埋込む場合はスラブ厚さの1/3以下とし管の間隔を管径の3倍以上かつ5cm以上を原則とする。

6. その他

- ・ 諸官庁への届出書類は遅滞なく提出すること。
- ・ 各試験の供試体は第3章試験機関にて試験を行い工事監理者に報告すること。
- ・ 必要に応じて記録写真を撮り保管すること。
- ・ 本構造配筋基準図は、設計者の責任において使用すること。

II. 配筋基準図

1. 鉄筋の材料

鉄筋は表1により、種類の記号は特記による。

表1 鉄筋

規格番号	規格名称	種類の記号
JIS G3112	鉄筋コンクリート用棒鋼	SR235 SR295 SD295A SD295B SD345 SD390

溶接金網はJIS G3551 (溶接金網及び鉄筋格子) により、網目の形状、寸法及び鉄線の径は特記による。

2. 鉄筋の表示記号

鉄筋径	異形鉄筋	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32
表示記号	●	×	○	●	○	●	○	○	○

3. 鉄筋の最小かぶり厚さ及び間隔

- (a) 鉄筋及び溶接金網の最小かぶり厚さは下表による。ただし、柱及び梁の主筋にD29以上を使用する場合は、主筋のかぶり厚さを径の1.5倍以上確保するように最小かぶり厚さを定める。

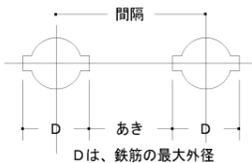
構造部分の種類	最小かぶり厚さ (mm)	
	普通コンクリート	軽量コンクリート
土に接しない部分	スラブ、耐力壁以外の壁	20
	柱、梁、耐力壁	30
	屋内	30
	屋外	40
土に接する部分	擁壁、耐圧スラブ	40
	柱、梁、スラブ、壁基礎、擁壁、耐圧スラブ	60
煙突等高温を受ける部分		60

- (注) 1. *印のかぶり厚さは、普通コンクリートに適用し、軽量コンクリートの場合は、特記による。
2. 「仕上げあり」とは、モルタル塗り等の仕上げのあるものとし、仕上塗材、吹付け又は塗装等の鉄筋の耐久上有効でない仕上げのものを除く。
3. スラブ、梁、基礎及び擁壁で、直接土に接する部分のかぶり厚さには、均しコンクリートの厚さを含まない。
4. 杭基礎の場合のかぶり厚さは、杭先端からとする。
5. 塩害を受けるおそれのある部分等、耐久性上不利な箇所は、特記による。

- (b) 柱、梁等の鉄筋の加工に用いるかぶり厚さは、最小かぶり厚さに10mmを加えた数値を標準とする。
- (c) 鉄筋組立後のかぶり厚さは、最小かぶり厚さ以上とする。

- (d) 鉄筋相互のあきは、下記のうち最大のもの以上とする。ただし、特殊な鉄筋継手の場合は、特記による。

- (1) 粗骨材の最大寸法の1.25倍
 - (2) 25mm
 - (3) 隣り合う鉄筋の平均径の1.5倍
- (e) 鉄骨鉄筋コンクリート造の場合、主筋と平行する鉄骨とのあきは(d)による。
- (f) 貫通孔に接する鉄筋のかぶり厚さは、(c)による。



4. 鉄筋の末端部

- 鉄筋の末端部には、次の場合にフックをつける。
- (1) 根巻き柱脚の主筋で末端部が頂部にあるもの。
- (2) 杭基礎のベース筋。
- (3) 帯筋、あばら筋及び幅止め筋。

表4.1 鉄筋の折曲げ

折曲げ角度	折曲げ図	SD295A SD345	SD295B	SD390
		D16以下	D19~D38	D19~D38
180°		D	3d以上	4d以上
135°		D	3d以上	4d以上
90°		D	3d以上	4d以上
135°及び90° (幅止め筋)		D	3d以上	4d以上

5. 鉄筋の継手

- (a) 鉄筋の継手は重ね継手、ガス圧継手又は特殊な鉄筋継手とし、通用は特記による。
- (b) 鉄筋の継手位置は、特記による。
- (c) 鉄筋の重ね継手は、次による。
 - なお、径が異なる鉄筋の重ね継手の長さは、細い鉄筋の径による。
 - (1) 主筋及び耐力壁の鉄筋の重ね継手の長さは、特記による。特記がなければ、40d (軽量コンクリートの場合は50d) と表5.1の重ね継手長さのうち大きい値とする。
 - (2) (1) 以外の鉄筋の重ね継手の長さは、表5.1による。
 - (3) 隣り合う継手の位置は、表5.2にいる。ただし、壁の場合及びスラブ筋でD16以下の場合は除く。
 - なお、先組工法等で、柱、梁の主筋の継手を同一箇所に設ける場合は、特記による。

表5.1 鉄筋の重ね継手の長さ

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 (F _c) (N/mm ²)	L1 (フックなし)		L1h (フックあり)	
		最小	最大	最小	最大
SD295A SD295B	18	45d	35d	35d	35d
	21	40d	30d	30d	30d
	24, 27	35d	25d	25d	25d
SD345	18	50d	35d	35d	35d
	21	45d	30d	30d	30d
	24, 27	40d	30d	30d	30d
SD390	18	50d	35d	35d	35d
	21	45d	30d	30d	30d
	24, 27	40d	30d	30d	30d

- (注) 1. L1、L1h: 重ね継手の長さ及びフックあり重ね継手の長さ
2. フックありの場合のL1hは、図5.1に示すようにフック部分を含まない。
3. 軽量コンクリートの場合は、表の値に5dを加えたものとする。



図5.1 フックありの場合の重ね継手の長さ

表5.2 隣合う継手の位置

継手の種類	隣り合う継手の位置
フックありの場合	
フックなしの場合	
圧接継手の場合	
機械式継手の場合	

TITLE DATE NO

鳴門市役所東側付風機改修工事 S-10

NAME SCALE

鉄骨構造基準図7-1

株式会社 川建設 1級建築士登録 川端壮一郎 重126265

鉄骨構造基準図 7-2 (基礎配筋基準図)

6. 鉄筋の定着

- (a) 柱に取り付ける梁の引張り鉄筋の定着の長さは、特記による。特記がなければ、40d (軽量コンクリートの場合は50d) 表6. 1の定着長さのうち大きい値とする。
- (b) (a) 以外の鉄筋の定着の長さは、表6. 1による。

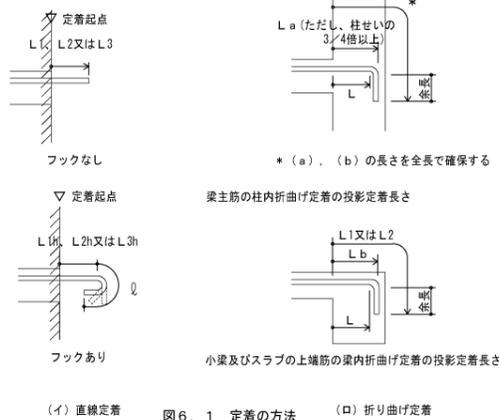
表6. 1 鉄筋の定着の長さ

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 (Fc) (N/mm ²)	フックなし				フックあり			
		L1	L2	L3		L1h	L2h	L3h	
				小梁	スラブ			小梁	スラブ
SD295A SD295B	18	45d	40d	20d	10d かつ 150mm 以上	35d	30d	10d	—
	21	40d	35d			30d	25d		
	24, 27	35d	30d			25d	20d		
	30, 33, 36	35d	30d			25d	20d		
SD345	18	50d	40d	20d	10d かつ 150mm 以上	35d	30d	10d	—
	21	45d	35d			30d	25d		
	24, 27	40d	35d			30d	25d		
	30, 33, 36	35d	30d			25d	20d		
SD390	21	50d	40d	20d	10d かつ 150mm 以上	35d	30d	10d	—
	24, 27	45d	40d			35d	30d		
	30, 33, 36	40d	35d			30d	25d		

- (注) 1. L1, L1h: (b) 以外の直線定着の長さ及びフックあり定着の長さ
 2. L2, L2h: 割裂破壊のおそれのない箇所への直線定着長さ及びフックあり定着の長さ
 3. L3: 小梁及びスラブの下端筋の直線定着長さ。ただし、基礎耐力スラブ及びこれを受ける小梁を除く。
 4. L3h: 小梁の下端筋のフックあり定着の長さ
 5. フックあり定着の場合は、図6. 1に示すようにフック部分 ϕ を含まない。また中間部での折り曲げは行わない。
 6. 軽量コンクリートの場合は、表の値に5dを加えたものとする。

(c) 定着の方法は、図6. 1による。

なお、仕口内に縦に折り曲げて定着する鉄筋の定着長さLが、表6. 1のフックあり定着の長さを確保できない場合は、全長を表6. 1に示す直線定着の長さとし、かつ、余長を8d、仕口面から鉄筋外面までの投影定着長さを表6. 2に示す長さ (かつ、梁主筋の柱内定着においては、原則として、柱せいの3/4倍以上) をのみ込ませる。



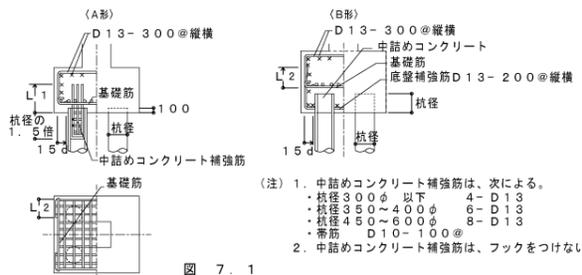
- (注) 1. La: 梁主筋の柱内折曲げ定着の投影定着長さ (基礎梁、片持ち梁及び片持ちスラブを含む。)
 2. Lb: 小梁及びスラブの上端筋の梁内折曲げ定着の投影定着長さ (片持ち小梁及び片持ちスラブを除く。)
 3. 軽量コンクリートの場合は、表の値に5dを加えたものとする。

表6. 2 投影定着長さ

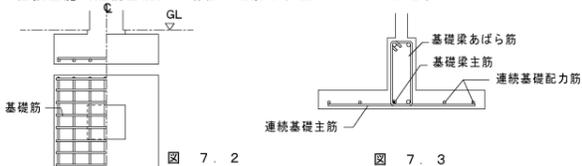
鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 (Fc) (N/mm ²)	La	Lb
SD295A SD295B	18	20d	15d
	21	15d	15d
	24, 27	15d	15d
	30, 33, 36	15d	15d
SD345	18	20d	20d
	21	20d	20d
	24, 27	20d	15d
	30, 33, 36	15d	15d
SD390	21	20d	20d
	24, 27	20d	20d
	30, 33, 36	20d	15d

7. 基礎

- A. 杭基礎の場合
 既製コンクリート杭の杭頭補強の方法は、図7. 1のA形又はB形とし、適用は特記による。特記がなければB形とする。
 なお、中詰めコンクリートは、基礎のコンクリートと同じ調合のコンクリートを使用する。
 下図以外の場合は、特記による。



- B. 直接基礎 (独立基礎) の場合の配筋は、図7. 2による。
 C. 直接基礎 (連続基礎) の場合の配筋は、図7. 3による。

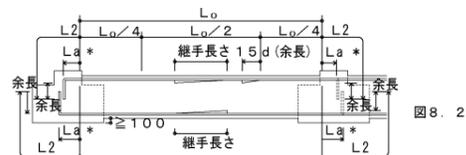


8. 基礎梁

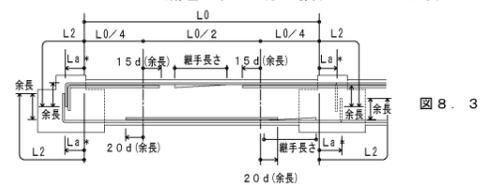
- A. 一般事項
 (1) 梁筋は、原則として柱をまたいで引き通すものとし、引き通すことができない場合は、柱内に定着する。ただし、やむを得ず梁内に定着する場合は、図8. 1による。
 (2) 梁筋を柱内に定着する場合は次による。
 ① 梁主筋のみ込み長さは、柱せいの3/4以上とする。
 ② 上端筋: 曲げ降ろす。
 ③ 下端筋: 曲げ上げる。ただし、やむを得ない場合は、監督員の承諾を受けて、曲げ降ろすことができる。
 ④ 定着の方法は、6. (c) による。



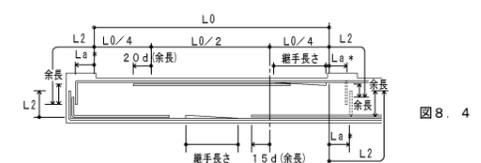
- B. 独立基礎で基礎梁にスラブが付かない場合の主筋の継手、定着及び余長



- C. 独立基礎で基礎梁にスラブが付く場合の主筋の継手、定着及び余長 (耐圧スラブが付く場合は D. による)

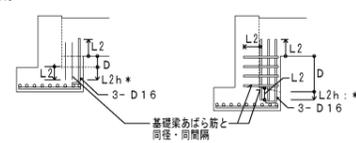


- D. 連続基礎及びべた基礎の場合の主筋の継手、定着及び余長



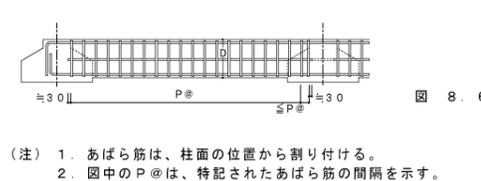
- (注) 1. 印は、継手及び余長を示す。
 2. 破線は、柱内定着の場合を示す。
 3. Laの数値は、原則として、柱せいの3/4倍以上とする。

- E. 基礎接合部の補強

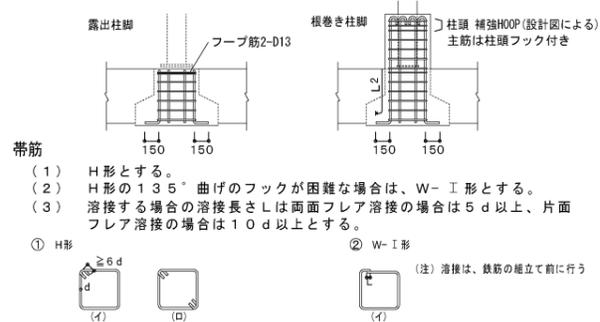


- (注) 1. L2hを確保できない場合は、6. (c) によることができる。

- F. あばら筋の割り付け



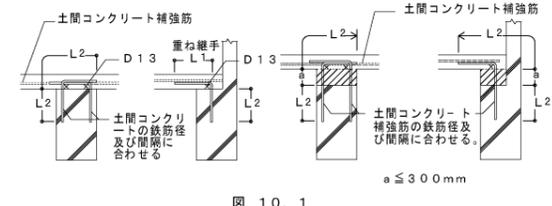
9. 基礎柱



- (注) 採用する配筋については、特記による。大臣認定による既製品を使用する場合は、すべて認定内容による。

10. 土間コンクリートの補強

- A. 土間コンクリートの補強
 土間コンクリートの補強筋は、特記による。
 なお、基礎梁との接合部は、図10. 1による。



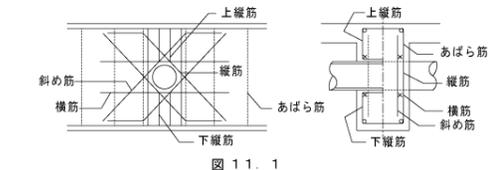
11. 梁貫通孔補強

- (1) H形配筋

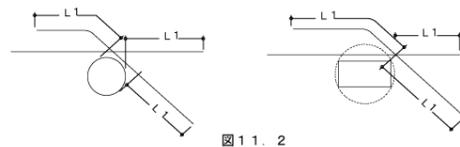
配筋種類	斜め筋	縦筋	横筋	上下縦筋	配筋図
H1	なし	なし	なし	なし	
H2	2-2-D13	なし	なし	なし	
H3	4-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	
H4	4-2-D16	2-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	
H5	4-2-D16	4-2-D13	2-2-D13	3-2-D13	
H6	4-2-D19	4-2-D13	2-2-D13	3-2-D13	
H7	4-2-D22	4-2-D13	2-2-D13	3-2-D13	

- (注) 破線は、一般部分のあばら筋を示す。

1. 梁貫通孔補強筋の名称などは図11. 1による。



2. 孔の径は、梁せいの1/3以下とし、孔が円形でない場合はこの外接円とする。
 3. 孔の上下方向の位置は、梁せい中心付近とし、梁中央部下端は、梁下端より1/3Dの範囲に設けてはならない。
 4. 孔の中心位置の限度は、柱及び直交する梁 (小梁) の面から原則として1.5D (Dは梁せい) 以上離す。ただし、基礎梁、壁付帯梁は除く。
 5. 孔が並列する場合の中心間隔は、孔の径の平均値の3倍以上とする。
 6. 縦筋及び上下縦筋は、あばら筋の形に配筋する。
 7. 補強筋は、主筋の内側とする。また、鉄筋の定着長さは図11. 2による。
 8. 孔の径が梁せいの1/10以下、かつ、150mm未満のものは、鉄筋を緩やかに曲げるにより、開口部を避けて配筋できる場合は、補強を省略することができる。
 9. 溶接金網の余長は1格子以上とし、突出しは10mm以上とする。
 10. 溶接金網の貫通孔部分には、鉄筋1-13φのリング筋を取り付ける。なお、リング筋は、溶接金網に4箇所以上溶接する。
 11. 溶接金網の割り付け始点は、横筋ではあばら筋の下側とし、縦筋では貫通孔の中心とする。

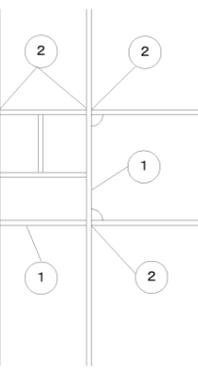


- (注) 採用する配筋については、特記による。大臣認定による既製品を使用する場合は、すべて認定内容による。

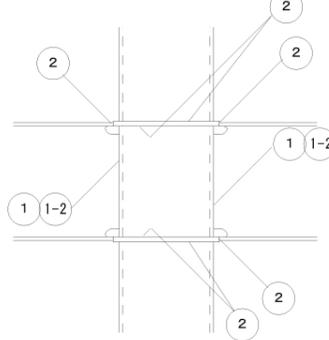
鉄骨構造基準図 7-3 (溶接A)

6 仕口部溶接図示例

柱H形鋼の場合



柱角形鋼管の場合



特記事項

1 適用範囲

- 1 本基準図は「溶接作業基準・同解説、Iアーケ溶接、IVサブマージアーケ自動溶接、IVガスシールド半自動溶接：日本建築学会」に従い、工場溶接を行う場合に適用する。
- 2 特に設計者の指示がある場合はそれに従う。
- 3 本図によらない場合は、設計者の承認を受ける。
- 4 本構造基準図は、設計者の責任において使用すること。

2 適用鋼材

溶接法	鋼材の記号	板厚 (mm)
M	SS400, SSC400, STKR400, STK400, STK490	2.3~6
M	SS400, SM490YA, STKR400, STK490	6~25
M	SM400A, SM490YB, SN400B・C, SN490B・C	6~32
NG	SM490A, SM520B, SN400B・C, SN490B・C	6~38
G	SN400B・C, BCR295, BCP235, BCP295	6~45
S	SN400B・C, SN490B・C	6~45
	SM400B, SM400C, SM520C, SM570	6~50

予熱は、鉄骨工事技術指針に従うものとする。技術指針に該当しない鋼材については、必要な試験を行った上、適切な熱管理のもとで準用してよい。

3 適用溶接法と記号

- M アーク手溶接
- NG ノンガスシールドアーク半自動溶接
- G ガスシールドアーク半自動溶接
- S サブマージアーク自動溶接
- C 突合せ溶接
- P 部分溶け込み溶接
- F すみ肉溶接
- T T継ぎ手
- L 角継ぎ手
- B 突合せ継ぎ手
- I I形
- V V形
- L レ形
- K K形
- X X形
- B 裏あて金
- 1 片面溶接
- 2 両面溶接 MC, NGC, GC は、表はつりをする。
(例) MC-TL-B1=アーク手溶接突合せレ形T継ぎ手
表あて金付片面溶接

4 溶接姿勢

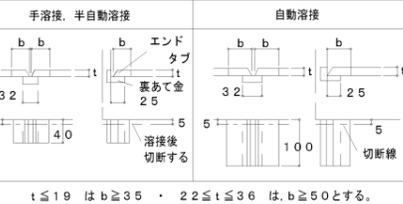
- F 下向き姿勢
 - H 水平又は、横向姿勢
 - V 立向き姿勢
 - O 上向き姿勢
- 手溶接における姿勢は、特記あるものを除き、原則として下向きとする。

5 その他

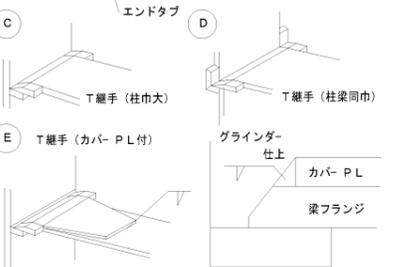
- 1 使用板厚は半自動、自動溶接の場合は6mm以上とする。
- 2 手溶接において、1層目の溶接を行う棒径は4mm以下とする。
- 3 寸法の許容誤差で図示したもの以外は、下記による。
 - a 開先角度は、 -3° 、 $+5^\circ$ とする。
 - b 裏あて金のすきまは0とし許容誤差は、 -0 、 $+1$ とする。
 - c 重ね継ぎ手のすきまは0とし許容誤差は、 -0 、 $+2$ とする。
 - d グルーブ溶接部の相互の目違いは0とし、許容誤差は、 -1 、 $+1$ とする。
 - e 突合せ溶接および部分溶け込み溶接の余盛の高さは、特記なき場合は、右記詳細図によるものとする。

7 エンドタブ、裏あて金、補強すみ肉、スカラップ

- 突合せ溶接の両端にはエンドタブを取付け、アークの開始および終了点とする。寸法は下図による。
- 裏あて金の厚さは、母材の厚さ6mmの場合6mm・2.5mmまでは、9mm・2.5mm以上は、12mmとする。
- スチール製エンドタブに替えてフラックスタブ・セラミックスタブを監督員の承認を得て使用することができる。

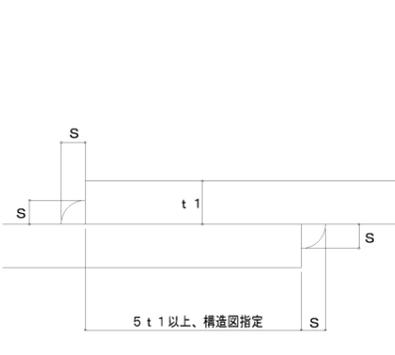


- (A) 板突合せ継ぎ手
- (B) 仕口フランジ突合せ継ぎ手
- (C) T継手 (カバーPL付)
- (D) T継手 (柱梁同巾)
- (E) T継手 (カバーPL付)



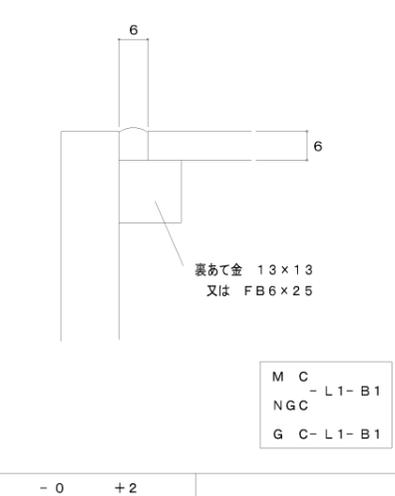
- T継手、角継ぎ手には補強すみ肉を行う。
- スカラップ
- 本図中、各溝の下段、左側はルート間隔、右側はルート面の許容誤差寸法を示す。

1-4 重ねすみ肉溶接

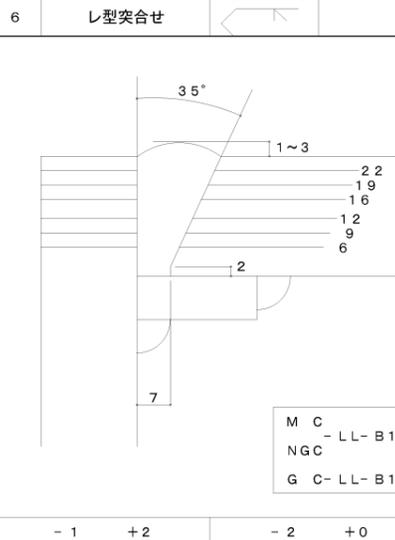
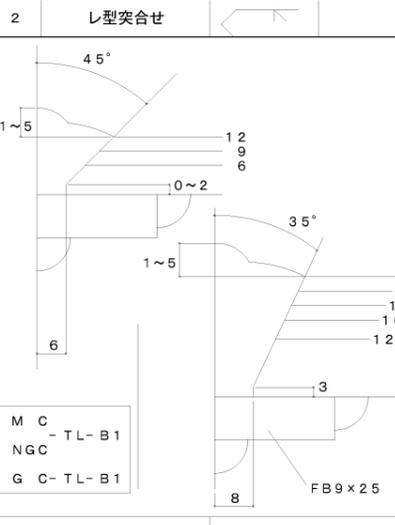
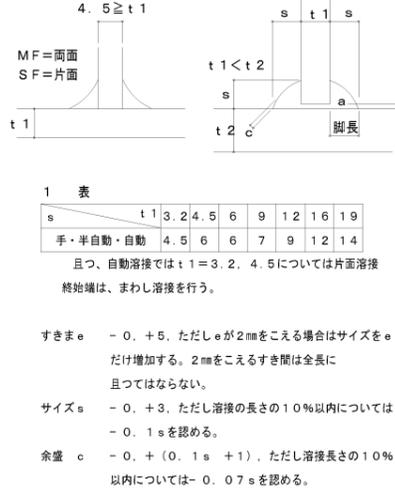


- Sは1表による。
- 許容誤差 すきま $e = -0$ 、 $+2$ mm s, a, cは1に同じ

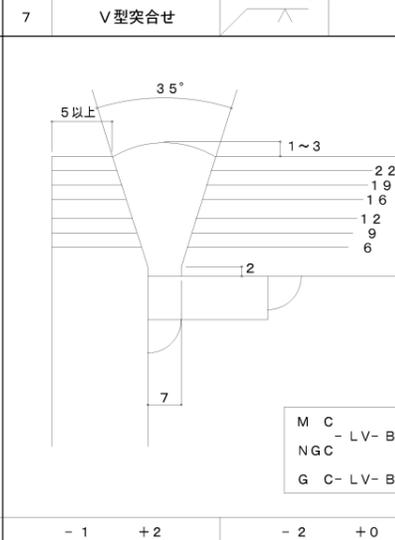
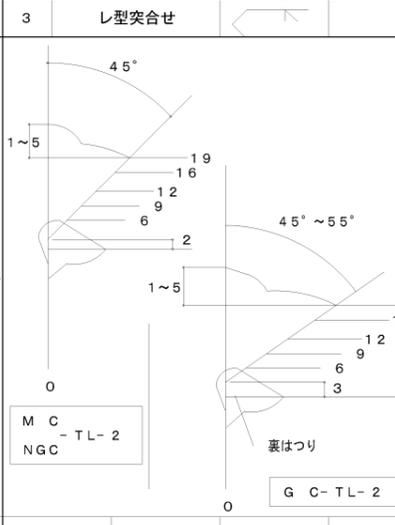
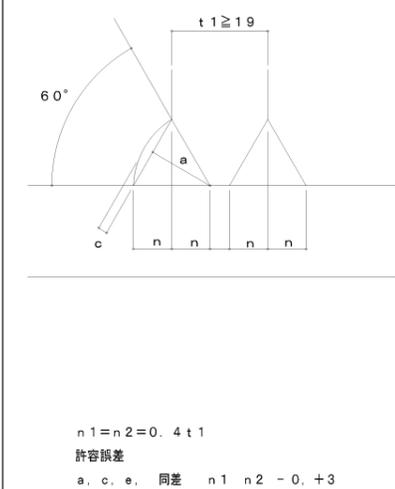
5 I型突合せ



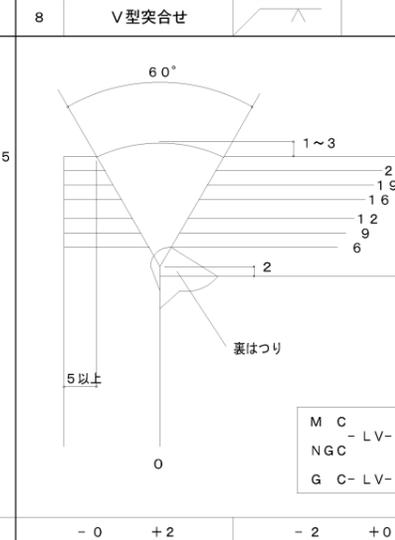
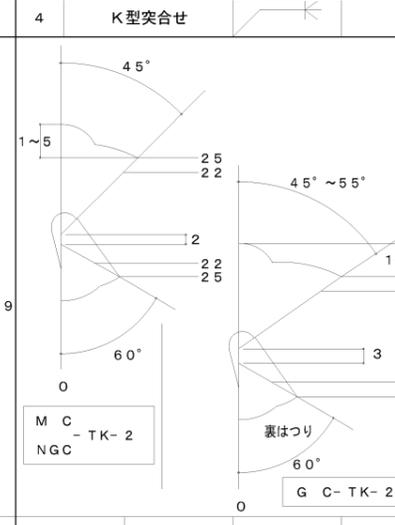
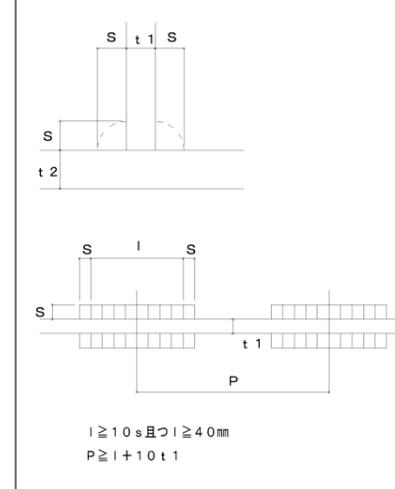
1 すみ肉溶接



1-2 K型すみ肉溶接



1-3 断続すみ肉溶接



TITLE	DATE	NO
鳴門市役所東側付風機改修工事		S-12
NAME	SCALE	
鉄骨構造基準図7-3		
株式会社 川建設	1級建築士登録 川端壮一郎	
委員 126265		

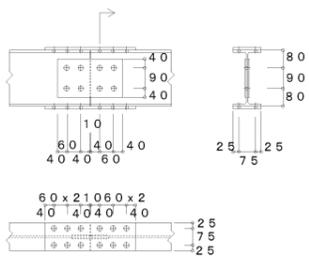
鉄骨構造基準図 7-4 (接合部)

H型鋼標準接合部

特記事項

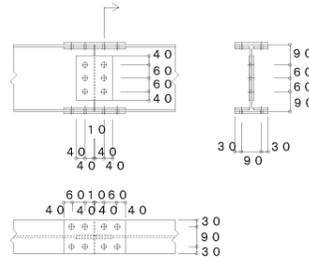
1. 許容耐力設計において、存在応力が本基準図の許容耐力以内であることを確認すること。
2. 当基準図は保有力接合を示す基準図である。
3. 孔径はボルト軸径+2mm以内とする。
4. 鋼材の材質は SS400 SN400A・B・Cとする。
5. 高力ボルトは、S10T・F10Tとする。
6. 亜鉛メッキを施した場合には本表は使用できない。
7. 大梁の内法長さが本表に示す最小長さ以下の場合せん断耐力が不足するため本表は使用出来ない。
8. 別途設計をした場合本基準図は使用しなくても良い。
9. 継手部添板の切断はガス手動切断・シャア切断をしてはならない。

H- 250 x 125 x 6 x 9



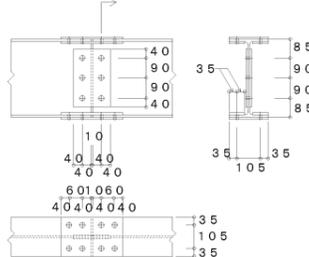
	高力ボルト		母材と同等品				使用可能な梁の最小長さ
	全数量 (本)	径 (mm)	数量 (枚)	厚さ (mm)	幅 (mm)	長さ (mm)	
フランジ	24	M16	2	12	125	410	0.80m
ウェブ	8	M16	2	6	290	170	

◎ H- 300 x 150 x 6.5 x 9



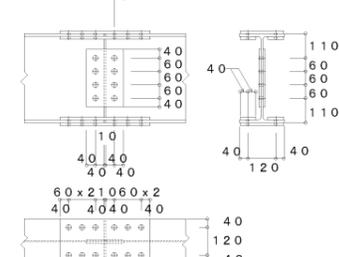
	高力ボルト		母材と同等品				使用可能な梁の最小長さ
	全数量 (本)	径 (mm)	数量 (枚)	厚さ (mm)	幅 (mm)	長さ (mm)	
フランジ	16	M16	2	9	150	290	0.97m
ウェブ	6	M16	2	6	170	200	

H- 350 x 175 x 7 x 11



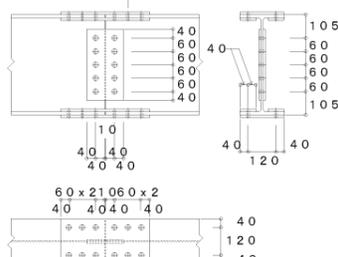
	高力ボルト		母材と同等品				使用可能な梁の最小長さ
	全数量 (本)	径 (mm)	数量 (枚)	厚さ (mm)	幅 (mm)	長さ (mm)	
フランジ	16	M20	2	9	175	290	1.25m
ウェブ	6	M20	2	9	170	260	

H- 400 x 200 x 8 x 13



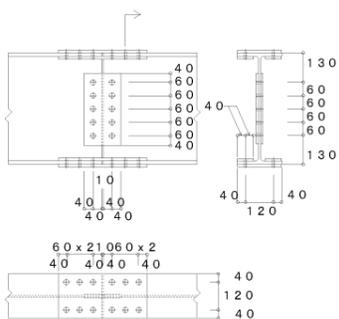
	高力ボルト		母材と同等品				使用可能な梁の最小長さ
	全数量 (本)	径 (mm)	数量 (枚)	厚さ (mm)	幅 (mm)	長さ (mm)	
フランジ	24	M20	2	9	200	410	1.52m
ウェブ	8	M20	2	9	170	260	

H- 450 x 200 x 9 x 14



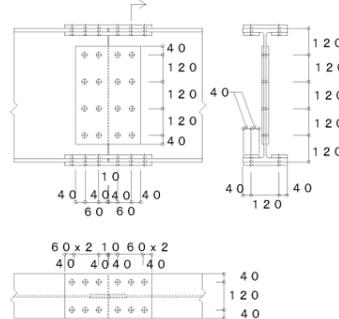
	高力ボルト		母材と同等品				使用可能な梁の最小長さ
	全数量 (本)	径 (mm)	数量 (枚)	厚さ (mm)	幅 (mm)	長さ (mm)	
フランジ	24	M20	2	12	200	410	1.56m
ウェブ	10	M20	2	9	170	320	

H- 500 x 200 x 10 x 16



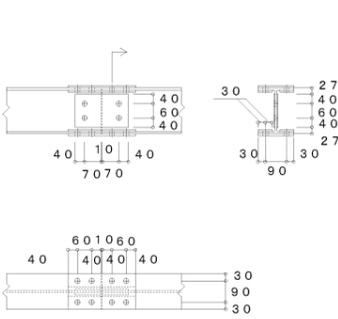
	高力ボルト		母材と同等品				使用可能な梁の最小長さ
	全数量 (本)	径 (mm)	数量 (枚)	厚さ (mm)	幅 (mm)	長さ (mm)	
フランジ	24	M20	2	12	200	410	1.57m
ウェブ	10	M20	2	9	170	320	

H- 600 x 200 x 11 x 17



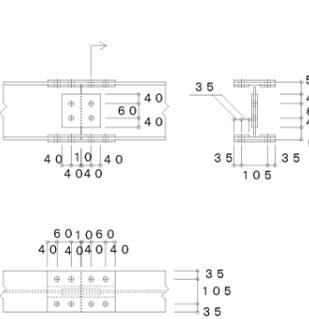
	高力ボルト		母材と同等品				使用可能な梁の最小長さ
	全数量 (本)	径 (mm)	数量 (枚)	厚さ (mm)	幅 (mm)	長さ (mm)	
フランジ	24	M20	2	12	200	410	1.46m
ウェブ	16	M20	2	9	290	440	

H- 194 x 150 x 6 x 9



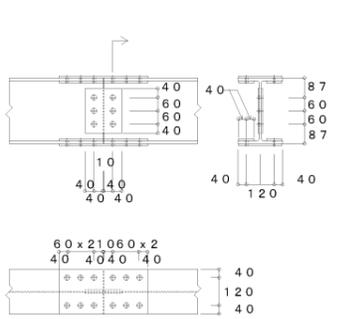
	高力ボルト		母材と同等品				使用可能な梁の最小長さ
	全数量 (本)	径 (mm)	数量 (枚)	厚さ (mm)	幅 (mm)	長さ (mm)	
フランジ	16	M20	2	9	150	290	1.01m
ウェブ	4	M20	2	6	230	140	

H- 244 x 175 x 7 x 11



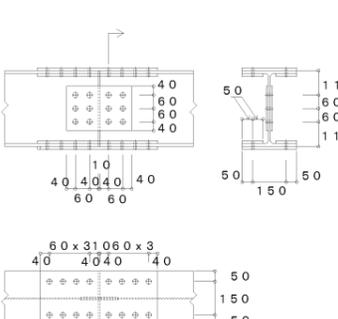
	高力ボルト		母材と同等品				使用可能な梁の最小長さ
	全数量 (本)	径 (mm)	数量 (枚)	厚さ (mm)	幅 (mm)	長さ (mm)	
フランジ	16	M20	2	9	175	290	1.17m
ウェブ	4	M20	2	9	170	140	

◎ H- 294 x 200 x 8 x 12



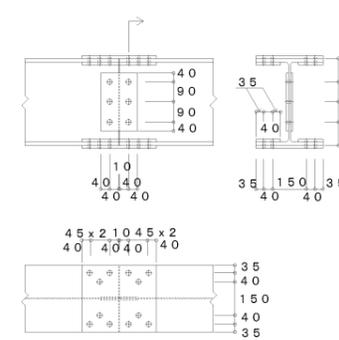
	高力ボルト		母材と同等品				使用可能な梁の最小長さ
	全数量 (本)	径 (mm)	数量 (枚)	厚さ (mm)	幅 (mm)	長さ (mm)	
フランジ	24	M20	2	9	200	410	1.36m
ウェブ	6	M20	2	9	170	200	

H- 340 x 250 x 9 x 14



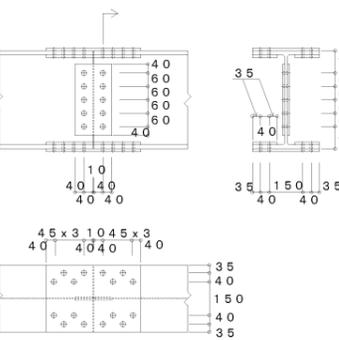
	高力ボルト		母材と同等品				使用可能な梁の最小長さ
	全数量 (本)	径 (mm)	数量 (枚)	厚さ (mm)	幅 (mm)	長さ (mm)	
フランジ	32	M20	2	12	250	530	1.65m
ウェブ	12	M20	2	9	290	200	

H- 390 x 300 x 10 x 16



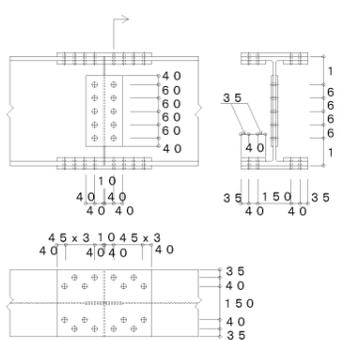
	高力ボルト		母材と同等品				使用可能な梁の最小長さ
	全数量 (本)	径 (mm)	数量 (枚)	厚さ (mm)	幅 (mm)	長さ (mm)	
フランジ	24	M22	2	12	300	350	1.98m
ウェブ	6	M22	2	9	170	260	

H- 440 x 300 x 11 x 18



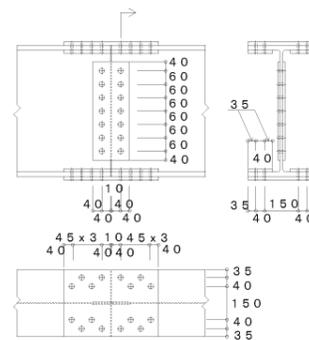
	高力ボルト		母材と同等品				使用可能な梁の最小長さ
	全数量 (本)	径 (mm)	数量 (枚)	厚さ (mm)	幅 (mm)	長さ (mm)	
フランジ	32	M22	2	12	300	440	2.33m
ウェブ	10	M22	2	9	170	320	

H- 488 x 300 x 11 x 18



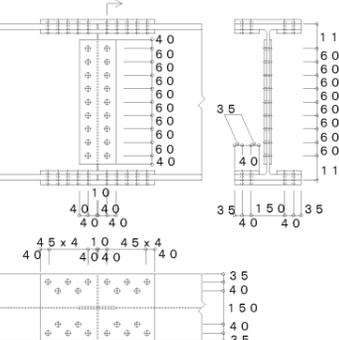
	高力ボルト		母材と同等品				使用可能な梁の最小長さ
	全数量 (本)	径 (mm)	数量 (枚)	厚さ (mm)	幅 (mm)	長さ (mm)	
フランジ	32	M22	2	12	300	440	2.27m
ウェブ	10	M22	2	12	170	320	

H- 588 x 300 x 12 x 20



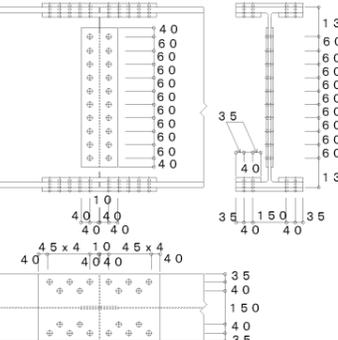
	高力ボルト		母材と同等品				使用可能な梁の最小長さ
	全数量 (本)	径 (mm)	数量 (枚)	厚さ (mm)	幅 (mm)	長さ (mm)	
フランジ	32	M22	2	12	300	440	2.52m
ウェブ	14	M22	2	9	170	440	

H- 700 x 300 x 13 x 24



	高力ボルト		母材と同等品				使用可能な梁の最小長さ
	全数量 (本)	径 (mm)	数量 (枚)	厚さ (mm)	幅 (mm)	長さ (mm)	
フランジ	40	M22	2	19	300	530	2.95m
ウェブ	18	M22	2	9	170	560	

H- 800 x 300 x 14 x 26



	高力ボルト		母材と同等品				使用可能な梁の最小長さ
	全数量 (本)	径 (mm)	数量 (枚)	厚さ (mm)	幅 (mm)	長さ (mm)	
フランジ	40	M22	2	19	300	530	3.01m
ウェブ	20	M22	2	12	170	620	

TITLE DATE NO

鳴門市役所東側付風機改修工事

S-13

NAME SCALE

鉄骨構造基準図 7-4

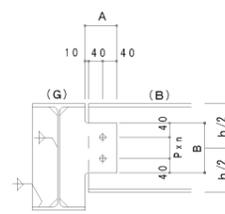
株式会社 川建設 1級建築士登録 川端壮一郎 重126265

鉄骨構造基準図 7-5

(小梁接合部)

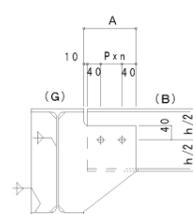
特記事項

1. 鋼材材質はSS400 SN400A・B・Cとする。
2. ガセットプレートの材質は、大梁と同じものとする。
3. 高力ボルトはS10T及びF10Tとする。
4. 大梁の横補剛材として使用する場合は別途計算の上決定する必要がある。
5. 本基準図小梁の接合を示すものであるが、別途設計を行う場合は本図を用いなくてよい。
6. 本基準図に記載されている耐力は参考値であって、本図を用いる場合は、耐力の確認を行うこと。
7. ボルト孔明けは、ドリル明けとする。
8. 小梁の、たわみ量は算定していません。



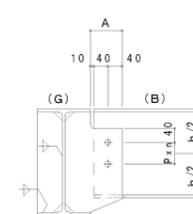
H-200×100
H-194×150 以上の場合

タイプ
A



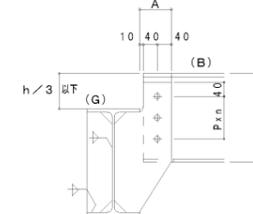
H-175×90
H-148×100 以下の場合

タイプ
B

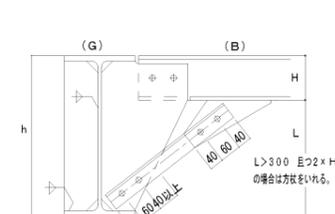


H-200×100
H-194×150 以上の場合

タイプ
C



タイプ
D



方材材 $\theta = 45^\circ$
2Ls-65×65×6
HTB 4-M16
b材取り付けはA-Eによる。

タイプ
E

耐力の単位は、kN

記号	タイプ	中継シリーズ	小梁 (B)	許容せん断耐力	大梁 (G)	HTB			G, P			記号	タイプ	中継シリーズ	小梁 (B)	許容せん断耐力	大梁 (G)	HTB			G, P		
						N×径	許容せん断耐力	t	許容せん断耐力	P×n	A×B							N×径	許容せん断耐力	t	許容せん断耐力	P×n	A×B
BJ01		H-100×50×5×7		*[30.80]	H-298×149 H-244×175 以下	2-M16	[59.23]	6.0	[39.13]	60×1	150×80	BJ51		H-148×100×6×9		[60.88]	H-298×149 H-244×175 以下	2-M16	[59.23]	6.0	*[33.70]	60×1	150×80
BJ02				H-300×150 H-294×200 以上	2-M16	[59.23]	9.0	[58.70]	60×1	150×80	BJ52		H-300×150 H-294×200 以上			2-M16	[59.23]	9.0	*[50.55]	60×1	150×80		
BJ03		H-125×60×6×8		[49.46]	H-298×149 H-244×175 以下	2-M16	[59.23]	6.0	*[45.93]	60×1	150×80	BJ53		H-194×150×6×9		[76.10]	H-298×149 H-244×175 以下	2-M16	[59.23]	6.0	*[56.53]	60×1	90×140
BJ04				H-300×150 H-294×200 以上	2-M16	[59.23]	9.0	[68.89]	60×1	150×80	BJ54		H-300×150 H-294×200 以上			2-M16	*[59.23]	9.0	[84.79]	60×1	90×140		
BJ05		H-150×75×5×7		[53.45]	H-298×149 H-244×175 以下	2-M16	[59.23]	6.0	*[52.72]	60×1	150×80	BJ55		H-244×175×7×11		[112.88]	H-298×149 H-244×175 以下	2-M20	[92.38]	6.0	*[52.18]	60×1	90×140
BJ06				H-300×150 H-294×200 以上	2-M16	[59.23]	9.0	[79.09]	60×1	150×80	BJ56		H-300×150 H-294×200 以上			2-M20	[92.38]	9.0	*[78.27]	60×1	90×140		
BJ07		H-175×90×5×8		[63.87]	H-298×149 H-244×175 以下	2-M16	*[59.23]	6.0	[59.52]	60×1	150×80	BJ57		H-294×200×8×12		[147.84]	H-300×150 H-294×200 以上	3-M20	[138.57]	9.0	*[109.25]	60×2	90×200
BJ08				H-300×150 H-294×200 以上	2-M16	*[59.23]	9.0	[89.29]	60×1	150×80	BJ58		H-350×175 H-340×250 以上			4-M20	[184.76]	9.0	*[140.23]	60×3	90×260		
BJ09		H-200×100×5.5×8		[73.74]	H-298×149 H-244×175 以下	2-M16	[59.23]	6.0	*[56.53]	60×1	90×140	BJ59		H-390×300×10×13		[242.78]	H-400×200 H-390×300 以上	4-M22	[223.59]	12.0	*[178.28]	60×3	90×260
BJ10	○			H-300×150 H-294×200 以上	2-M16	*[59.23]	9.0	[84.79]	60×1	90×140	BJ60		H-450×200 H-440×300 以上			5-M22	[279.48]	12.0	*[217.42]	60×4	90×320		
BJ11		H-248×124×5×8		*[75.19]	H-298×149 H-244×175 以下	3-M16	[88.85]	6.0	[79.35]	60×2	90×200	BJ61		H-482×300×11×15		[306.92]	H-500×200 H-482×300 以上	6-M22	[335.38]	12.0	*[256.55]	60×5	90×380
BJ12				H-300×150 H-294×200 以上	3-M16	[88.85]	9.0	[119.03]	60×2	90×200	BJ62		H-500×200 H-482×300 以上			6-M22	[335.38]	12.0	*[256.55]	60×5	90×380		
BJ13		H-250×125×6×9		[90.23]	H-298×149 H-244×175 以下	3-M16	[88.85]	6.0	*[79.35]	60×2	90×200	BJ63		H-582×300×12×17		[413.09]	H-600×200 H-582×300 以上	7-M22	[391.28]	12.0	*[295.69]	60×6	90×440
BJ14	○			H-300×150 H-294×200 以上	3-M16	*[88.85]	9.0	[119.03]	60×2	90×200	BJ64		H-600×200 H-582×300 以上			7-M22	[391.28]	12.0	*[295.69]	60×6	90×440		
BJ15		H-298×149×5.5×8		*[107.62]	H-298×149 H-294×200 以上	3-M20	[138.57]	9.0	[109.25]	60×2	90×200	BJ65		H-692×300×13×20		[513.46]	H-700×300 H-692×300 以上	9-M22	[503.08]	16.0	*[498.61]	60×8	90×560
BJ16		H-300×150×6.5×9		[127.19]	H-300×150 H-294×200 以上	3-M20	[138.57]	9.0	*[109.25]	60×2	90×200	BJ66				H-700×300 H-692×300 以上	9-M22	[503.08]	16.0	*[498.61]	60×8	90×560	
BJ17		H-346×174×6×9		*[130.45]	H-346×174 H-340×250 以上	4-M20	[184.76]	9.0	[140.23]	60×3	90×260	BJ67		H-792×300×14×22		[613.84]	H-800×300 H-792×300 以上	11-M22	[614.87]	16.0	*[602.97]	60×10	90×680
BJ18		H-350×175×7×11		[152.19]	H-350×175 H-340×250 以上	4-M20	[184.76]	9.0	*[140.23]	60×3	90×260	BJ68				H-800×300 H-792×300 以上	11-M22	[614.88]	16.0	*[602.97]	60×10	90×680	
BJ19		H-396×199×7×11		*[167.41]	H-396×199 H-390×300 以上	5-M20	[230.95]	9.0	[171.22]	60×4	90×320	BJ69		H-890×299×15×23		[755.52]	H-900×300 H-890×300 以上	12-M22	*[670.77]	19.0	[777.99]	60×11	90×740
BJ20		H-400×200×8×13		[191.33]	H-400×200 H-390×300 以上	5-M20	[230.95]	9.0	*[171.22]	60×4	90×320	BJ70				H-900×300 H-890×300 以上	12-M22	*[670.77]	19.0	[777.99]	60×11	90×740	
BJ21		H-446×199×8×12		[226.11]	H-446×199 H-440×300 以上	5-M20	[230.95]	9.0	*[171.22]	60×4	90×320												
BJ22		H-450×200×9×14		[254.38]	H-450×200 H-440×300 以上	5-M20	[230.95]	12.0	*[228.29]	60×4	90×320												
BJ23		H-496×199×9×14		[273.94]	H-496×199 H-482×300 以上	6-M20	[277.14]	12.0	*[269.60]	60×5	90×380												
BJ24		H-500×200×10×16		[304.38]	H-500×200 H-482×300 以上	6-M20	[277.14]	12.0	*[269.60]	60×5	90×380												
BJ25		H-600×200×11×17		[389.23]	H-600×200 H-582×300 以上	8-M20	[277.14]	12.0	*[269.60]	60×7	90×500												

注: 1 小梁に小梁(二次小梁)が取りつく場合は大梁(G)を小梁と読みかえる。
 注: 2 図中 [] 内の数値は参考許容せん断耐力とし *印は最低値を示す。
 注: 3 H-100×50, H-125×60, H-150×75, H-175×90, H-148×100 の取付方法は、Bタイプ又はEタイプとする。

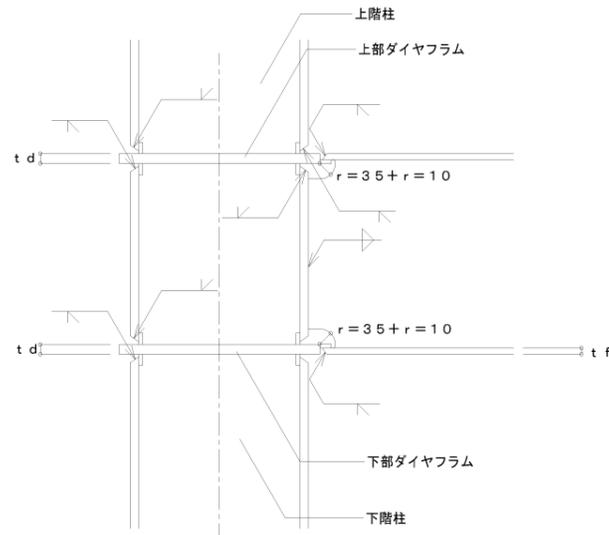
TITLE	DATE	NO
鳴門市役所東側付風機改修工事		S-14
NAME	SCALE	
鉄骨構造基準図7-5		
株式会社 川建設	1級建築士登録 第126265	川端壮一郎

鉄骨構造基準図 7-6 (角形鋼管柱仕口)

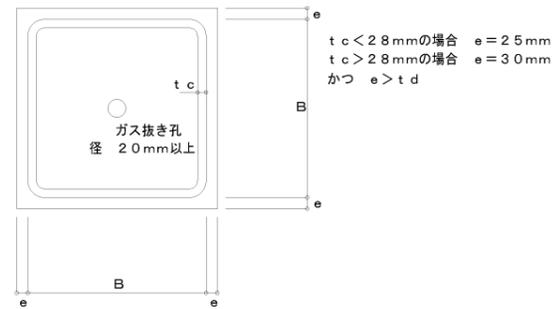
特記事項

- 本基準図は、冷間（熱間）成形角形鋼管を柱として使用した場合の基準を示す。
- 次項に記載する鋼材を使用しない場合は、別途設計による。
- 使用する鋼材の材質
 - 角形鋼管柱 材質・ SM400 ・ SS400 ◎ SN400 B
・ SM490A ・ SS490 ・ SN490 B・C
 - 製造方法
・ 冷間プレス成形角形鋼管 ・ BCP235 (SN400BC)
・ 冷間プレス成形角形鋼管 ・ BCP325 (SN490BC)
・ 冷間ロール成形角形鋼管 ◎ BCR295 (SN400B)
・ 熱間成形角形鋼管 ・ SHC400B・C (SN400級)
・ 熱間成形角形鋼管 ・ SHC490B・C (SN490級)
・ 冷間成形角形鋼管 ・ STKR400 ・ STKR490
 - ベースプレート等
・ ハイベース BOX- アンカーボルト 径
・ ベースバック □- アンカーボルト 径
・ NCベース □- アンカーボルト 径
・ その他 ・ 根巻き柱脚 ・ 埋込み柱脚 ◎ 露出柱脚
- ダイヤフラム等
 - 使用材質
・ SS400 ・ SN400 (B・C)
・ SM490A ◎ SN490 (B・◎)
 - 加工方法 ◎ 工場製作 ・ 鋳造製ダイヤフラム
- JIS規格等
 - 冷間プレス成形角形鋼管 (BCP) 建築センター評価品
◎ 冷間ロール成形角形鋼管 (BCR) 建設大臣認定品
・ 熱間成形角形鋼管 建築センター評価品
・ 冷間成形角形鋼管 (STKR) JIS G 3466
・ ハイベース 建築センター評価品 BCJ-S1499
・ ベースバック 建築センター評価品 BCJ-S1582
・ NCベース 建築センター評価品 BCJ-S1488
- ベースプレート等の設置
 - アンカーボルトの設置は、指定各社の施工基準に基づき正確に設置すること。
 - 鋼管柱とベースプレートとの接合は、各社の施工基準に基づき入念な施工を行うものとする。
 - アンカーボルトの設置は、特記なき限りA種先付け工法とする。
 - アンカーボルトの設置は主請け業者の責任施工とする。
 - ベースプレートとコンクリートの空隙部は、特記なき限り無収縮グラウト注入とする。
 - 露出型固定柱脚は、メーカー毎で、剛性・強度が異なるため変更の際に注意すること。
- STKR・BCP・BCRには互換性がないので注意すること。
- 溶接部は全て製作所（社内検査）におけるUT検査を行うこと。
- 鋼材の使用区分について（参考）
 - 角形鋼管柱を使用した鉄骨造架構（通しダイヤフラム方式）
柱材・梁材・接合用板材 SN400B SN490B
ダイヤフラム・ベースプレート SN400C SN490C
小梁・間柱・根太母屋材 SN400A SN490A
 - 角形鋼管柱を使用した鉄骨造架構（内ダイヤフラム方式）
梁材・柱材・接合用板材・ダイヤフラム SN400B SN490B
ベースプレート SN400C SN490C
小梁・間柱・根太母屋材 SN400A SN490A

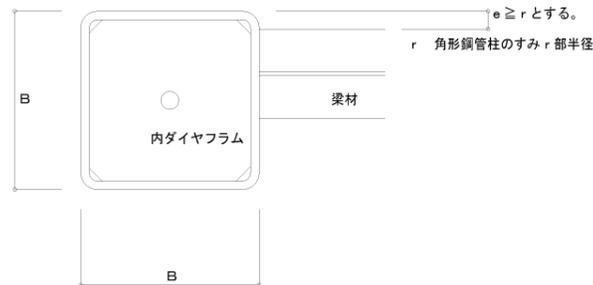
柱頭部（ダイヤフラムに段差のない場合）詳細図



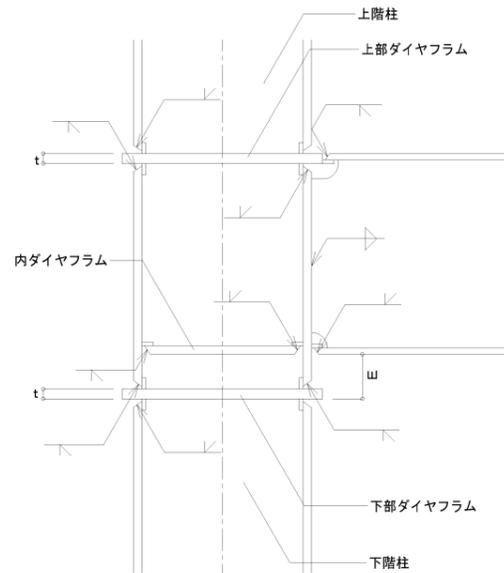
- ダイヤフラムに使用する鋼板は、SN400C・SM490Aを使用するのが望ましい。
- t > 取り付く大梁フランジの最大厚さを超える厚さかつ柱板厚以上



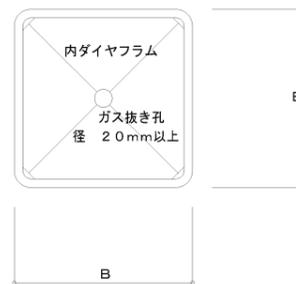
角形鋼管柱・梁仕口詳細図



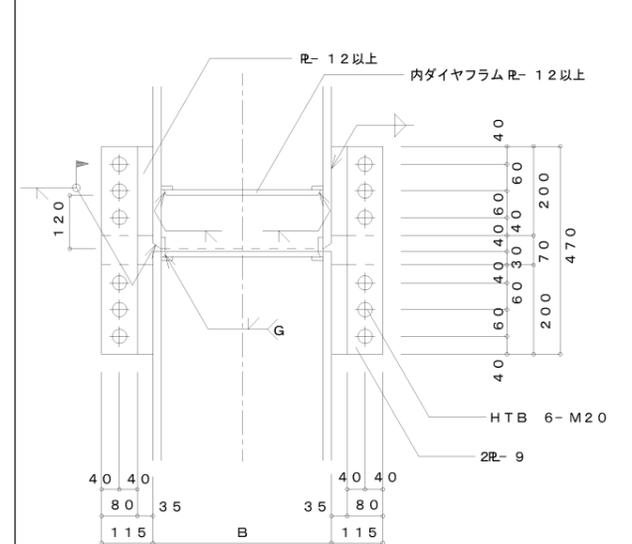
柱頭部（ダイヤフラムに段差のある場合）詳細図



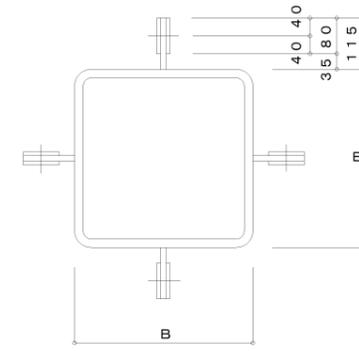
- E = 100mm未満の場合は、2段ダイヤフラム方式は採用しない。
- ダイヤフラムに使用する鋼板は、SN400C・SM490Aを使用するのが望ましい。
- t は取り付く大梁フランジの最大厚さを超える厚さかつ柱板厚以上。



柱現場継手詳細図



- 注 板厚・ボルト数は最低量を示したものであり、組立てる部材の重量を考慮して設計して下さい。
- 当仮設継手は、8.0 x 8.0スパンで4階までは可能である。



TITLE	DATE	NO
鳴門市役所東側付風機改修工事		S-15
NAME	SCALE	
鉄骨構造基準図7-6		
株式会社 川建設計	1級建築士登録 第126265	川端壮一郎

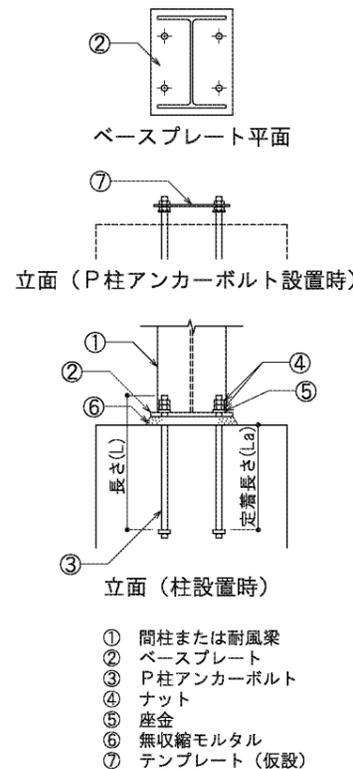
P柱アンカーボルト 標準図

・P柱アンカーボルトの設計・施工は、「建築鉄骨構造技術評価概要報告書（SASST 技術評価 第15-02号）
鉄骨間柱・耐風梁等用アンカーボルト（通称 P柱アンカーボルト）（2016年改訂版）」による。

株式会社 アキテック
TEL : 048-995-3281

1. 概要

・P柱アンカーボルトは、ボルト部と定着部を熱間鍛造により一体製造したアンカーボルトである。

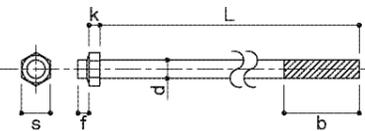


・P柱アンカーボルトの先端から定着部上端までの寸法を「P柱アンカーボルトの長さ(L)」という。
・コンクリート天端からP柱アンカーボルトの定着部上端までの寸法を「定着長さ(La)」という。
・定着長さ(La)は、ネジの呼び×8以上とする。

2. 構成部材・寸法

2.1 P柱アンカーボルト

・ねじ下径に精密圧延された棒鋼を用いた軸細タイプと、ねじの呼び径と同径の棒鋼を用いてねじ部のみねじ加工する軸太タイプがある。

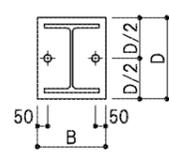


呼び	材質	最小L (mm)	d (mm)		b (mm)	s (mm)	k (mm)	f (mm)
			軸細	軸太				
M12	SNR400B	180	10.70	—	60	23.0	6.5	6
M16	SNR400B SNR490B	221	14.54	16.00	80	34.0	10	7
M20	SNR400B SNR490B	262	18.20	20.00	100	36.6	13	8
M22	SNR400B SNR490B	283	20.20	22.00	100	39.0	13	9
M24	SNR400B SNR490B	304	21.85	24.00	100	41.5	15	9
M27	SNR400B SNR490B	334	24.85	27.00	110	43.5	16	10

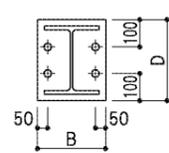
2.2 ベースプレート

・ベースプレートの厚さは間柱または耐風梁のフランジ厚以上とする。

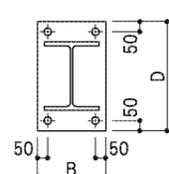
Aタイプ



Bタイプ

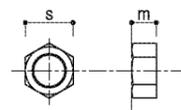


Cタイプ



2.3 ナット

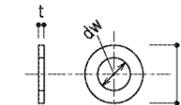
・アンカーボルトの材質がSNR400Bの場合、JIS B 1181 六角ナット付属書1（強度区分4T）を用いる。
・アンカーボルトの材質がSNR490Bの場合、JIS B 1220 構造用転造両ねじアンカーボルトセット付属書B（強度区分5J）を用いる。



呼び	ねじピッチ	m (mm)	s (mm)
M12	1.75	10	19
M16	2	13	24
M20	2.5	16	30
M22	2.5	18	32
M24	3	19	36
M27	3	22	41

2.4 座金

・アンカーボルトの材質がSNR400Bの場合、JIS B 1256 平座金 並型 部品等級A（硬さ区分140H）を用いる。
・アンカーボルトの材質がSNR490Bの場合、JIS B 1220 構造用転造両ねじアンカーボルトセット付属書C（硬さ区分200J）を用いる。

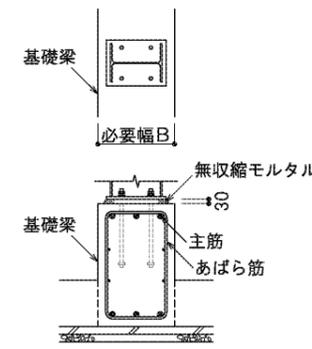


呼び	dw (mm)	D (mm)	t (mm)
M12	13	24	2.5
M16	17	30	3
M20	21	37	3
M22	23	39	3
M24	25	44	4
M27	28	50	4

3. 基礎梁・基礎柱

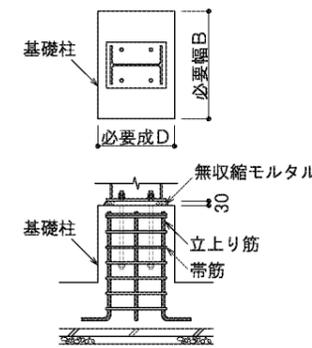
3.1 基礎梁に定着する場合

・P柱アンカーボルトは基礎梁の外側主筋の内側に配置する。
・基礎梁の設計コンクリート強度(Fc)は18N/mm²以上とする。
・無収縮モルタルの厚さは30mm以上とする。



3.2 基礎柱に定着する場合

・P柱アンカーボルトは基礎柱の立上り筋の内側に配置する。
・基礎柱の最上段の帯筋はダブル配筋とする。
・基礎柱の設計コンクリート強度(Fc)は21N/mm²以上とする。
・無収縮モルタルの厚さは30mm以上とする。



4. 施工要領

4.1 墨の確認

・柱芯の墨を型枠又は鉄筋上に明示する。

4.2 納まり確認

・墨に合わせてテンプレートを仮置きし、納まりを確認する。
(テンプレートはt=3.2以上推奨、ボルト孔径はねじの呼び+2mm)
・P柱アンカーボルト位置に鉄筋がある場合、打合せ後配筋位置修正を行い、P柱アンカーボルトと鉄筋の干渉を解決させる。

4.3 桟木取付

・型枠上にテンプレートが乗る様に桟木等を渡し、ビス・釘等で固定する。

4.4 テンプレート固定

・桟木等にテンプレートを仮置きし、下げ振り等を用いてテンプレートが正規位置になるように調整し、桟木等にビス・釘等を用いて固定する。

【管理値】 X・Y平面方向共±3.0mm

4.5 P柱アンカーボルトの仮組

・P柱アンカーボルトをテンプレートに仮止めする。

4.6 レベル調整

・各アンカーボルト天端を図面表記のレベルに合わせて調整し固定する。

【管理値】 上下方向=0~+3.0mm

4.7 P柱アンカーボルトの養生

・ねじ山にコンクリートが付着しない様に養生を行う。

4.8 コンクリート打設 (別途)

4.9 鉄骨建方 (別途)

・コンクリート硬化後、テンプレートを外し、レベル調整モルタルを敷設し鉄骨建方を行う。

4.10 アンカーボルトの本締め (オプション)

・1次締め付けトルクは右表の通りとする。

呼び	標準トルク(Nm)
M12	40
M16	70
M20	70
M22	70
M24	100
M27	100

4.11 無収縮モルタル注入 (オプション)

・ベースプレート外側に型枠を設置し、無収縮モルタルをベースプレート下より10mm以上注入する。

採用	間柱または耐風梁		アンカーボルト			ベースプレート			基礎梁	基礎柱			
	断面寸法	部材長 (mm)	材質	本数-呼び	長さL [※] (mm)	材質(一例)	タイプ	B (mm)	D (mm)	厚さt (mm)	必要幅B (mm)	必要幅B (mm)	必要成D (mm)
	H-150×75×5×7	3.5~4.0	SNR400B	2-M16	221	SN400A	A	190	200	12	300	300	300
	H-175×90×5×8	3.5~5.0	SNR400B	2-M16	221	SN400A	A	190	225	12	325	300	325
	H-198×99×4.5×7	3.5~6.0	SNR400B	2-M16	221	SN400A	A	190	250	12	350	275	350
	H-200×100×5.5×8	3.5~6.0	SNR400B	2-M16	221	SN400A	A	190	250	12	350	275	350
	H-248×124×5×8	4.0~7.0	SNR400B	2-M20	262	SN400A	A	190	300	12	400	375	400
	H-250×125×6×9	4.0~7.0	SNR400B	2-M20	262	SN400A	A	190	300	12	400	375	400
	H-298×149×5.5×8	5.0~7.0	SNR400B	2-M22	283	SN400A	A	200	350	12	450	400	450
	H-300×150×6.5×9	5.0~7.0	SNR400B	2-M22	283	SN400A	A	200	350	12	450	400	450
	H-346×174×6×9	5.0~7.0	SNR400B	4-M20	262	SN400A	B	225	400	12	500	575	500
	H-350×175×7×11	5.0~7.0	SNR400B	4-M20	262	SN400A	B	225	400	12	500	575	500
	H-396×199×7×11	6.0~7.0	SNR400B	4-M20	262	SN400A	B	250	450	12	550	525	550
	H-400×200×8×13	6.0~7.0	SNR400B	4-M22	283	SN400A	B	250	450	12	550	625	550

・間柱または耐風梁の材質は400N級とする。
・アンカーボルトは「軸細 軸太」タイプを用いる（〔 〕内いずれかを○で囲む）。
※無収縮モルタルが30mmでない場合はアンカーボルト長さLを調整する。

採用	間柱または耐風梁		アンカーボルト			ベースプレート			基礎梁	基礎柱			
	断面寸法	部材長 (mm)	材質	本数-呼び	長さL [※] (mm)	材質(一例)	タイプ	B (mm)	D (mm)	厚さt (mm)	必要幅B (mm)	必要幅B (mm)	必要成D (mm)
	H-148×100×6×9	3.5~4.0	SNR400B	2-M16	221	SN400A	A	200	200	12	300	300	300
	H-194×150×6×9	3.5~6.0	SNR400B	2-M20	262	SN400A	A	200	245	12	350	425	350
	H-244×175×7×11	5.0~7.0	SNR400B	2-M20	262	SN400A	A	225	295	16	400	375	400
	H-294×200×8×12	6.0~7.0	SNR400B	2-M24	304	SN400A	A	250	345	16	450	450	450
	H-298×201×9×14	6.0~7.0	SNR400B	2-M27	334	SN400A	A	255	350	16	450	575	450
	H-336×249×8×12	6.0~7.0	SNR400B	4-M22	283	SN400A	B	300	390	16	500	700	500
	H-340×250×9×14	6.0~7.0	SNR400B	4-M22	283	SN400A	B	300	390	16	500	700	500
	H-150×150×7×10	3.5~4.0	SNR400B	2-M16	221	SN400A	A	200	200	12	300	300	300
	H-175×175×7.5×11	3.5~5.0	SNR400B	2-M20	262	SN400A	A	225	225	16	325	450	325
	H-200×200×8×12	4.0~6.0	SNR400B	2-M22	283	SN400A	A	250	250	16	350	500	350
	H-248×249×8×13	5.0~7.0	SNR400B	2-M27	334	SN400A	A	300	300	16	400	650	400
	H-250×250×9×14	5.0~7.0	SNR400B	2-M27	334	SN400A	A	300	300	16	400	650	400

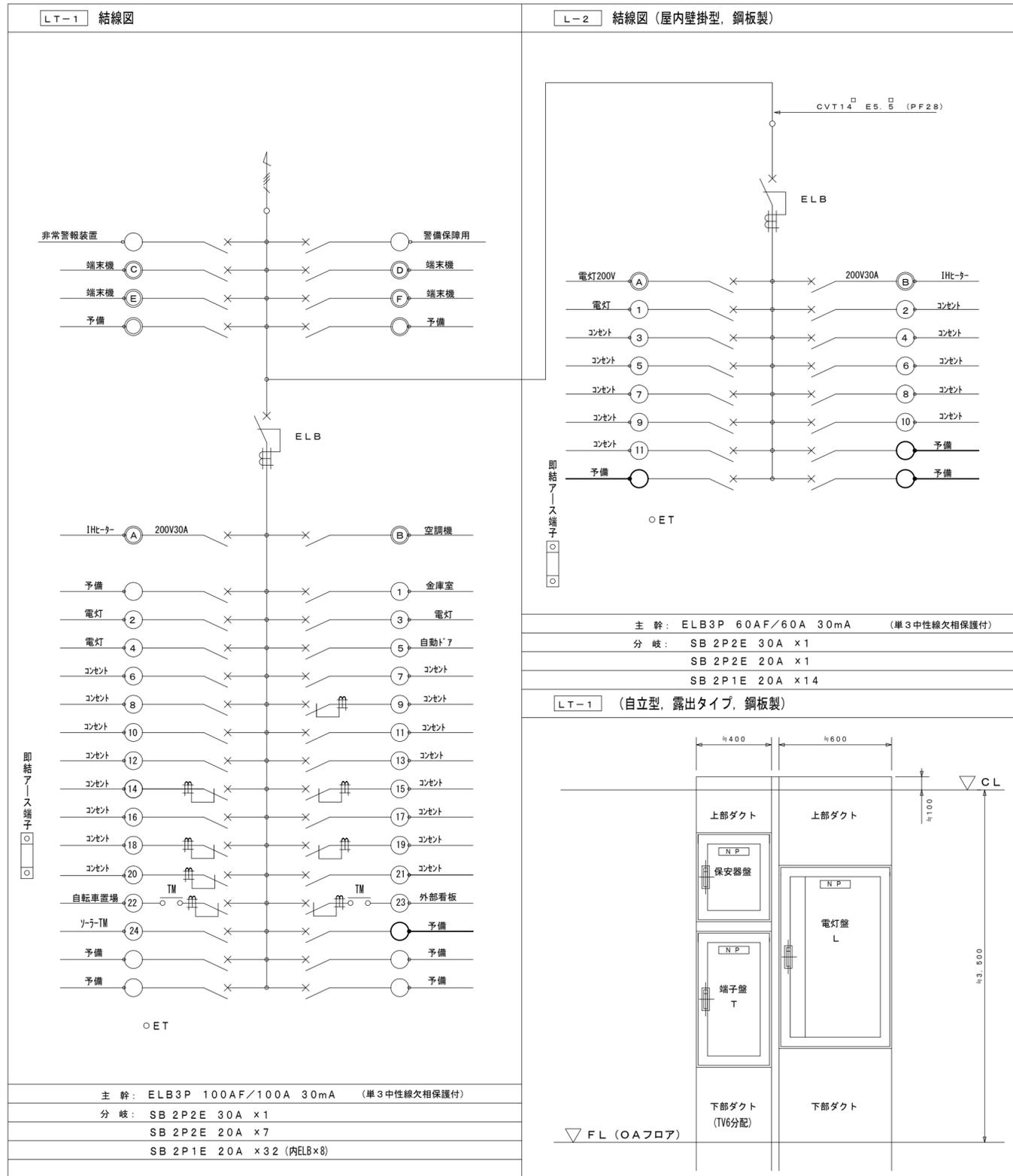
2017.05.25

特記仕様書（電気）																																				
1 工事名称	鳴門市役所東側付属棟改修工事																																			
2 工事場所																																				
3 一般事項	<p>(1) 特記仕様書及び図面に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の「公共建築工事標準仕様書(電気設備工事編) (令和4年版) 」(ただし、改修工事の場合は「公共建築改修工事標準仕様書(電気設備工事編) (令和4年版) 」)及び「公共建築設備工事標準図(電気設備工事編) (令和4年版) 」による。なお、本工事が建築工事又は機械設備工事を含む場合は、それぞれの工事に係る標準仕様書による。また、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の「電気設備工事監理指針 (令和4年版) 」を参考とする</p> <p>(2) 本工事に必要な工事用仮設電力、水などの費用並びに、官公署への諸手続などの費用は請負者の負担とする。</p> <p>(3) 工事完成後には竣工図作成し、二つ折り製本原図版二部、縮小版一部を提出すること。</p> <p>(4) 軽微な変更等で、工事完成上当然必要と思われるものについては係員と協議のうえ無償にて施工すること。</p> <p>(5) 本工事の施工に当たっては、各工事に係る職種の技能士を努めて活用すること。</p> <p>(6) 本工事の施工及び管理に当たり法規上必要となる有資格者については、工事着手前に名簿を提出し、確認を受けること。 又、各工事との関連を考慮のうえ、工事着手前に施工図を作成し、係員の承認を受けた後着工すること。</p> <p>(7) 本工事の一部について下請業者を使用する場合は、その工事の施工に十分な能力と経験を有した者であること。</p> <p>(8) 機器類は、図示する形状及び配管などの取出し位置により、特定製造者の特定の製品を指示・限定しない。</p> <p>(9) 発生材のうち引渡しを要しないものは、全て構外に搬出し、廃棄物の処理及び清掃に関する法律及び関係法令に従い適切に処理し、監督員に報告する。</p> <p>(10) 本工事に伴う諸官公署への各種申請は請負業者が行うものとし費用(完了検査手数料など)については請負業者の負担とする</p>																																			
4 工事項目	<table border="0"> <tr> <td>● 高圧受変電設備工事</td> <td>○ 情報配管設備工事</td> <td>○ 撤去工事</td> </tr> <tr> <td>● 幹線動力設備工事</td> <td>● インターホン設備工事</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ 電灯設備工事</td> <td>● 放送設備工事</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ コンセント設備工事</td> <td>● 電気錠設備工事</td> <td></td> </tr> <tr> <td>● 非常灯・誘導灯設備工事</td> <td>○ テレビ共同受信設備工事</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ 電話配管設備工事</td> <td>● 自動火災報知設備工事</td> <td>○ 印を適用する</td> </tr> </table>	● 高圧受変電設備工事	○ 情報配管設備工事	○ 撤去工事	● 幹線動力設備工事	● インターホン設備工事		○ 電灯設備工事	● 放送設備工事		○ コンセント設備工事	● 電気錠設備工事		● 非常灯・誘導灯設備工事	○ テレビ共同受信設備工事		○ 電話配管設備工事	● 自動火災報知設備工事	○ 印を適用する																	
● 高圧受変電設備工事	○ 情報配管設備工事	○ 撤去工事																																		
● 幹線動力設備工事	● インターホン設備工事																																			
○ 電灯設備工事	● 放送設備工事																																			
○ コンセント設備工事	● 電気錠設備工事																																			
● 非常灯・誘導灯設備工事	○ テレビ共同受信設備工事																																			
○ 電話配管設備工事	● 自動火災報知設備工事	○ 印を適用する																																		
5 特記事項	<p>1 薄鋼電線管（19、25・・・）は、表示されているものと同一外径のねじなし電線管（E19、E25・・・）を使用しても良い。</p> <p>2 長さ1m以上の入線しない電線管には1.2mm以上のビニル被覆鉄線を挿入する。</p> <p>3 配線器具は大角埋込型とし、フラッシュプレートは材質は新金属製とする。</p> <p>4 蛍光灯器具の直管形又は環形ランプのうち20形以上のものは、低消費ランプ（LW形ランプ）とする。（但し、車庫・倉庫等冬期に室温が10℃以下となる場所に設置する器具及び防災用器具の場合を除く）</p> <p>5 幹線の要所（プルボックス内、ハンドホール内等）には、合成樹脂等の表示札により回路の種別、行先、サイズを表示する。また、プルボックス蓋、カバープレート等の表面には、シール等により用途別表示をする。</p> <p>6 フロアプレートは水平高低調節付（空転防止リング付）とする。</p> <p>7 屋外防水型プルボックス（埋込部を除く）はメラミン焼付塗装とする。なお、材質については、ステンレスとする場合は図面特記による。</p>																																			
6 工事区分	<table border="1"> <thead> <tr> <th>工事内容</th> <th>電気工事</th> <th>建築工事</th> <th>管工事</th> <th>空調工事</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>梁、壁、床貫通部のスリーブ</td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>同上補強工事</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>盤・便器等の箱入れ</td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>同上補強工事</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>天井埋込個所の天井材の切込み</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>同上補強工事</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	工事内容	電気工事	建築工事	管工事	空調工事	梁、壁、床貫通部のスリーブ	○		○	○	同上補強工事		○			盤・便器等の箱入れ	○		○	○	同上補強工事		○			天井埋込個所の天井材の切込み		○			同上補強工事		○		
工事内容	電気工事	建築工事	管工事	空調工事																																
梁、壁、床貫通部のスリーブ	○		○	○																																
同上補強工事		○																																		
盤・便器等の箱入れ	○		○	○																																
同上補強工事		○																																		
天井埋込個所の天井材の切込み		○																																		
同上補強工事		○																																		
7 メーカーリスト	<p>本工事に使用する機材の製造メーカーは下記同等品以上とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 電線管・付属品 JISマーク表示品 電線・ケーブル JISマーク表示品 耐火・耐熱ケーブル 耐火・耐熱電線認定業務委員会（(社)日本電線工業会）の認定を受けている旨の表示をしたもの。 配線器具 JISマーク表示品 配分電盤類 一光電機 川崎電気 香東電機 パナソニック 河村電器 日東工業 照明器具 パナソニック 三菱電機 大光電機 岩崎電気 日立照明 東芝ライテック 換気扇 三菱電機 パナソニック 東芝 日立製作所 拡声装置 TOA パナソニック ビクター 東芝ライテック 火災報知器 日本消防検定協会の検定合格書が貼付されたもの。 ハンドホール ガイドレ 関西精工 大和重工 福西物産 長谷川精工 ・マンホール蓋 																																			

TITLE	DATE	NO
鳴門市役所東側付属棟改修工事		E-01
NAME	SCALE	NON
電気設備工事 特記仕様書		
株式会社 川建設計	1級建築士登録 第126265	川端壮一郎

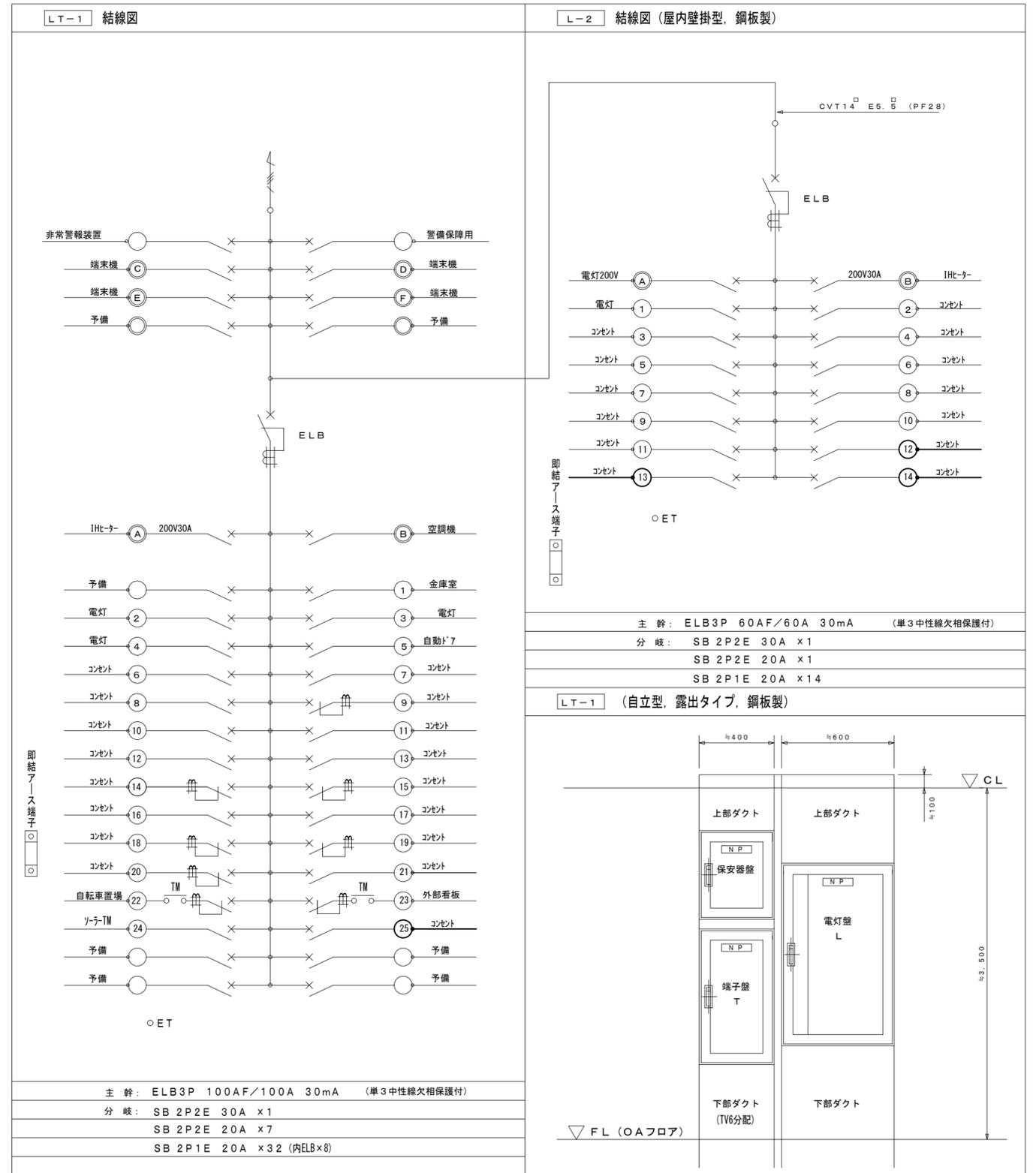
【改修前】

既設電灯分電盤



【改修後】

既設電灯分電盤



凡例

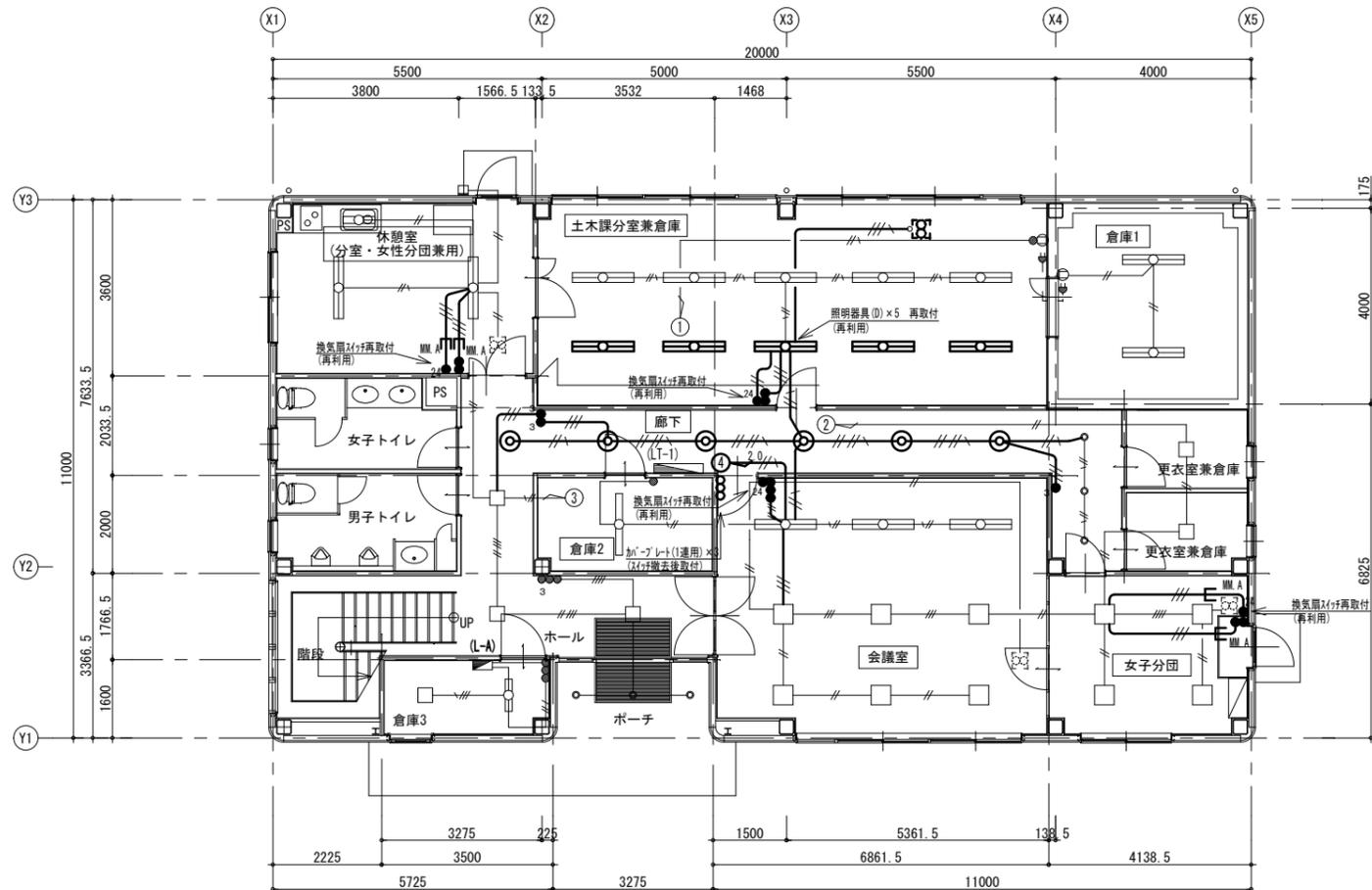
記号	名称	仕様
	動力盤	詳細図参照
	電灯盤	詳細図参照
	弱電盤	詳細図参照
	照明器具	直付け又は埋込 詳細図参照
	"	ダウンライト 詳細図参照
	"	ブラケット 詳細図参照
	埋込スイッチ (片切)	1P15A100V 大角型埋込配線器具 (新金属プレート)
	" (PL)	1P15A100V "
	" (3路)	3W15A100V "
	自動点滅器	端子式バイメタル、金具付、遮光フード付、3A100V
	埋込コンセント	2P15A125V x 2 大角型埋込配線器具 (新金属プレート)
	"	2P15A125V x 2 E極付 "
	"	2P15A125V x 2 ET付 "
	フロアコンセント	2P15A125V x 2 "
	情報用モジュージャック	モジュージャック8極8芯
	電話用モジュージャック	モジュージャック6極2芯
	テレビ直列ユニット	端末用 CATV対応品
	カメラ付玄関子機	
	モニター親機	
	24時間換気用コントローラスイッチ	
	換気扇位置	
	電灯盤回路番号	1φ100V
	電灯盤回路番号	1φ200V
	接地工事	接地埋設標共 屋外は防水型
	プルボックス	
	天井隠ぺい配管配線	
	コンクリート内打込配管	
	配管配線立上げ引下げ	

照明器具姿図 (既設)									
<A>	FHF32W×2 直付下面開放 (環境配慮型)		FHP23W×3 埋込下面ルーバ (環境配慮型)	<C>	FHP23W×4 埋込下面ルーバ (環境配慮型)	<D>	FHF32W×2 埋込下面ルーバ (環境配慮型)	<E>	FHF32W×1 直付下面開放 (環境配慮型)
	パナソニック電工 FSA42500A		パナソニック電工 NHU23701A		パナソニック電工 NHU24701A		パナソニック電工 フリーXF323CBA		パナソニック電工 FSA41500A
ボルトフリー (100~242V)		ボルトフリー (100~242V)		PF9・PJ9:初期照度補正機能付		ボルトフリー (100~242V)		PF9:初期照度補正機能付	
埋込穴150×1235 埋込高H=65		ルーバ:アルミ (ホワイト)		ルーバ:アルミ (ホワイト)		ボルトフリー (100~242V) [PD除く]		埋込穴220×1235 埋込高H=80	
PF9:初期照度補正機能付		埋込穴口275 埋込高H=121		埋込穴口350 埋込高H=120		遮光角 横方向15度/縦方向15度			
PF9:初期照度補正機能付		遮光角 横方向15度/縦方向15度		遮光角 横方向15度/縦方向15度					
<F>	FHF32W×2 埋込下面開放 (環境配慮型)	<G>	FL20W×1 キッチンライト	<H>	FHP23W×2 埋込下面ルーバ (環境配慮型)	<I>	LED17.5W ダウンライト	<J>	FL20W×1 富士型
	パナソニック電工 埋込XF328BA		パナソニック電工 HW2817C		パナソニック電工 NHU22702A		パナソニック電工 NNN21115K		パナソニック電工 JF21060
ボルトフリー (100~242V)		低誘虫UVカット仕様		ボルトフリー (100~242V)		白色LED (8個) 高出カタイプ・拡散タイプ		低誘虫仕様	
埋込穴150×1235 埋込高H=65		カバー:アクリル (乳白)		ルーバ:アルミ (ホワイト)		反射板:アルミ (銀色仕上)			
PF9:初期照度補正機能付				埋込穴口275 埋込高H=121		下面パネル:強化処理ガラス (透明仕上)			
				遮光角 横方向15度/縦方向15度		埋込穴φ100 光束:490lm			
<K>	FHF16W×1 ブラケット	<L>	IL40W×1 ダウンライト	<M>	EFD25W×2 ペンダント	<N>	LED24.3W ライトアップ照明器具	<O>	LED6.9W ダウンライト
	パナソニック電工 FSS21122		パナソニック電工 LBC74275Z		パナソニック電工 HGD1031W		パナソニック電工 NNY24250		パナソニック電工 NNN21947
低誘虫仕様・防雨型		ON/OFF型		電球色 φ350		白色LED (27個) 防雨型 中角タイプ		白色LED (6個) 高出カタイプ・拡散タイプ	
パネル:アクリル (乳白・低誘虫仕様)		枠 (オフホワイトつや消し)		カバー:アクリル (乳白つや消し)		アーム:ステンレス (ミディアムグレーメタリック)		反射板:プラスチック (高反射ホワイト)	
熱線センサ・E.Eセンサ付 (100%-30%段階調光)		熱線センサ・明るさセンサ付				光束維持率70%推定4000時間		下面パネル:アクリル (透明マット仕上)	
本体:ステンレス (オフブラックレーザーサテン仕上)		埋込穴φ150 埋込高H=103				枠:アルミダイカスト (ミディアムグレーメタリック)		埋込穴φ100 光束:350lm	

照明器具 (新設)

1	ダウンライト 100形
<p>LED内蔵<ワンコア (ひと粒) タイプ>、電源ユニット内蔵、一般光色タイプ 5000K、Ra85、拡散タイプ 光源発光角15度、光源寿命40000時間 (光束維持率85%) 器具光束:1035lm、消費電力:7W、電圧:100-242V 反射板 (上部):プラスチック (ホワイト) 反射板 (下部):銅板 (ホワイトつや消し仕上) 枠:銅板 (ホワイトつや消し仕上)、埋込穴φ100</p> <p>パナソニック ダウンライトXND1039WNLE9 相当品</p>	

TITLE	DATE	NO
鳴門市役所東側付属棟改修工事		E-04
NAME	SCALE	NON
照明器具姿図 改修前後		
株式会社 川建設	1級建築士登録 第126265	川端壮一郎



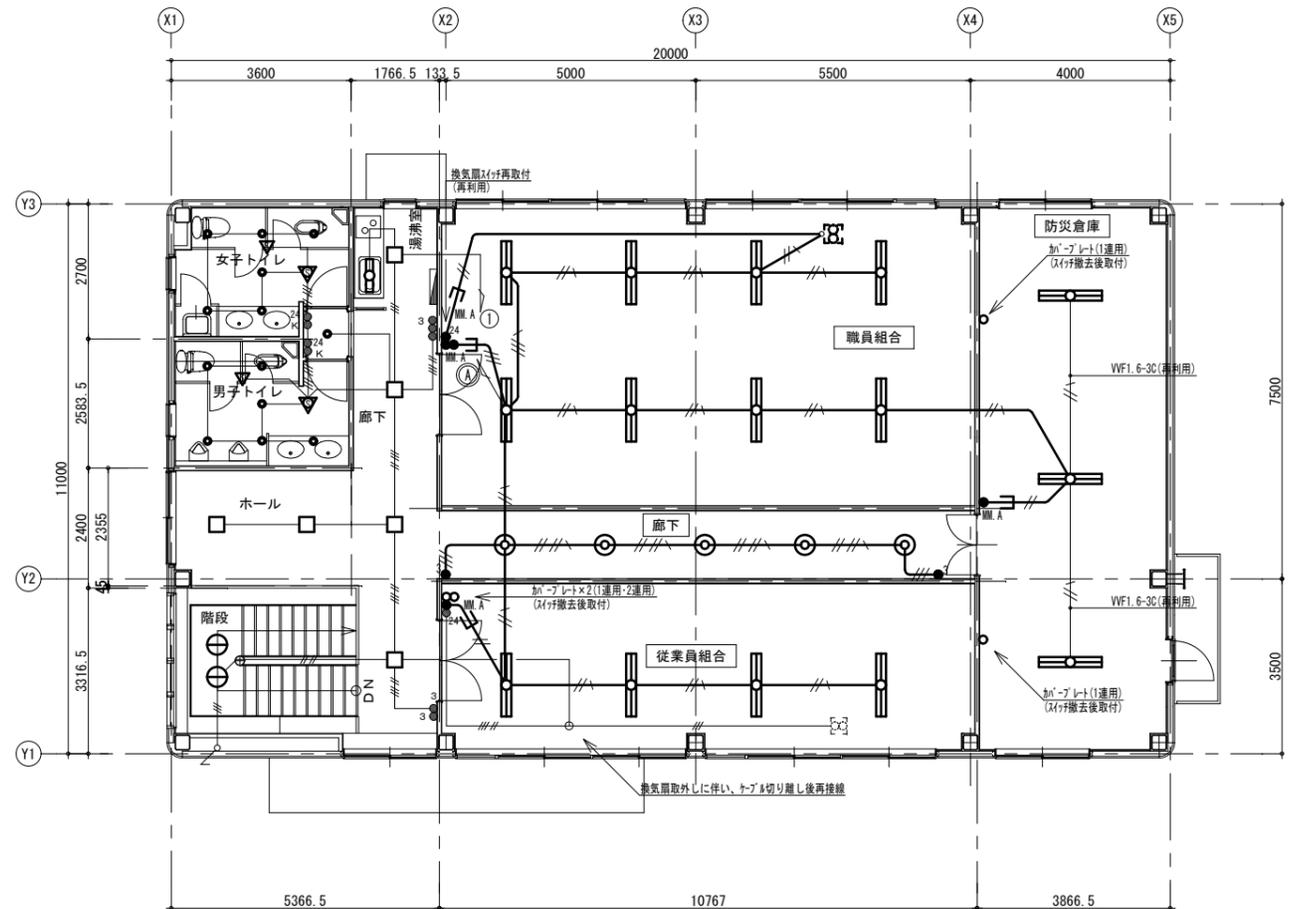
1階平面図

照明器具

倉庫(1)	<A>	× 2	
女子分団	<C>	× 4	
土木課分室兼倉庫	<D>	× 10	(取外し移設、再取付)
会議室	<D>	× 3	
	<C>	× 6	
倉庫(2)	<E>	× 1	
休憩室	<A>	× 2	
"	<G>	× 1	
倉庫(3)		× 1	
"	<J>	× 1	
廊下	<O>	× 3	
"	<I>	× 6	(新設)

図中明記なき配管・配線は下記とする。

電灯回路	
2.0	EM-EFF 2.0-30(天井)
1.6	EM-EFF 1.6-20(天井)
1.6	EM-EFF 1.6-30(天井)
1.6	EM-EFF 1.6-20×2(天井)
1.6	EM-EFF 1.6-20×30(天井)
二重天井内は「フタ切」配線とする	
立ち上がり部はP管にて保護とする。	



2階平面図

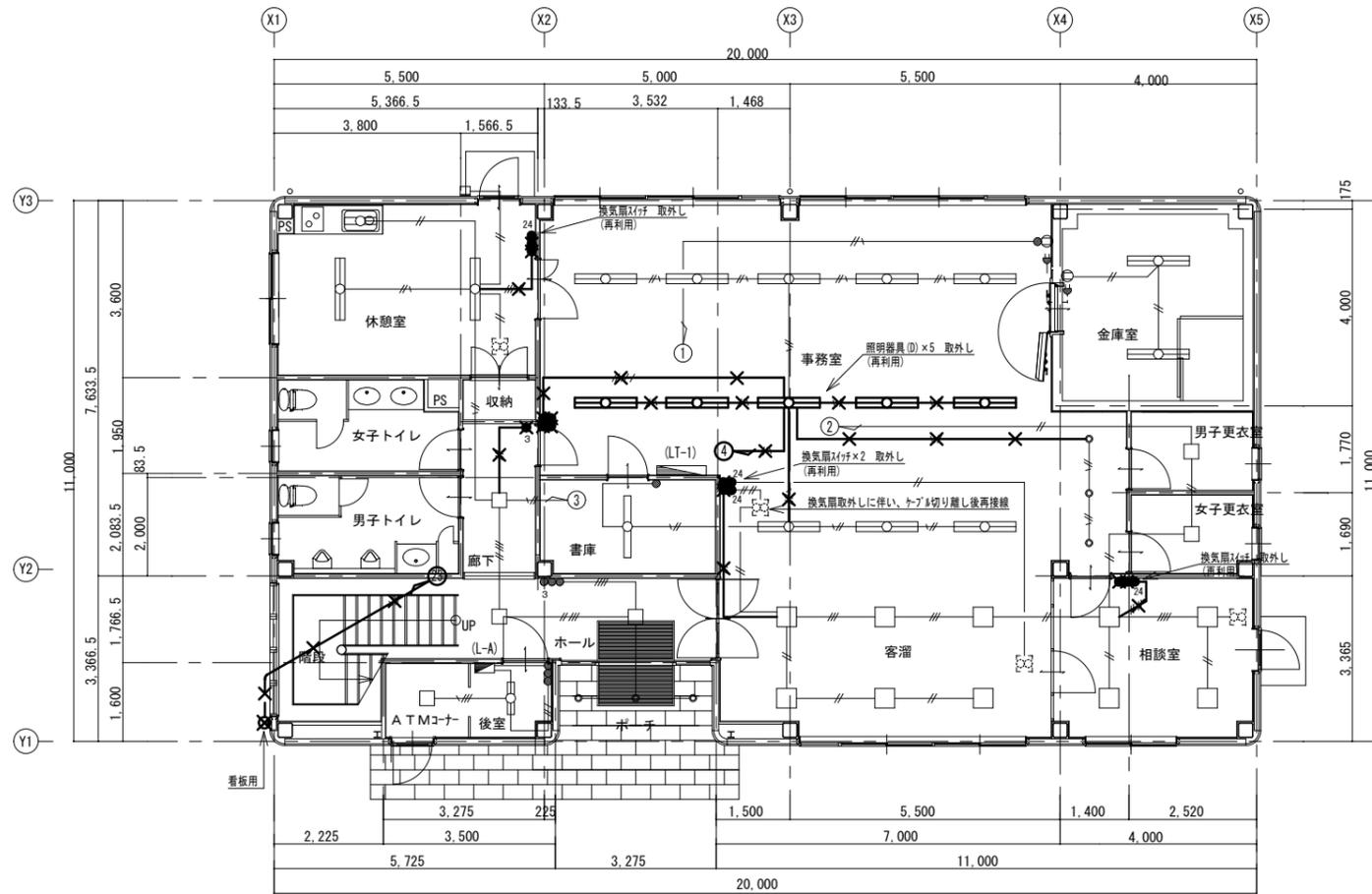
照明器具

防災倉庫	<A>	× 3	
職員組合	<F>	× 8	
従業員組合	<F>	× 4	
廊下	<I>	× 5	(新設)
女子トイレ	<O>	× 5	
男子トイレ	<O>	× 5	
廊下ホール		× 5	
"	<L>	× 1	
湯沸室	<H>	× 1	
"	<G>	× 1	
階段	<M>	× 2	

注記 1) 天井改修に伴い、照明器具は取外し再取付のこと
2) 照明器具は鋼材(建築工事)より支持のこと

/// : 改修範囲外

TITLE	DATE	NO
鳴門市役所東側付風棟改修工事		E-05
NAME	SCALE	
電灯設備 改修後		1/100



1階 平面図

注記 1) X印は、撤去を示す

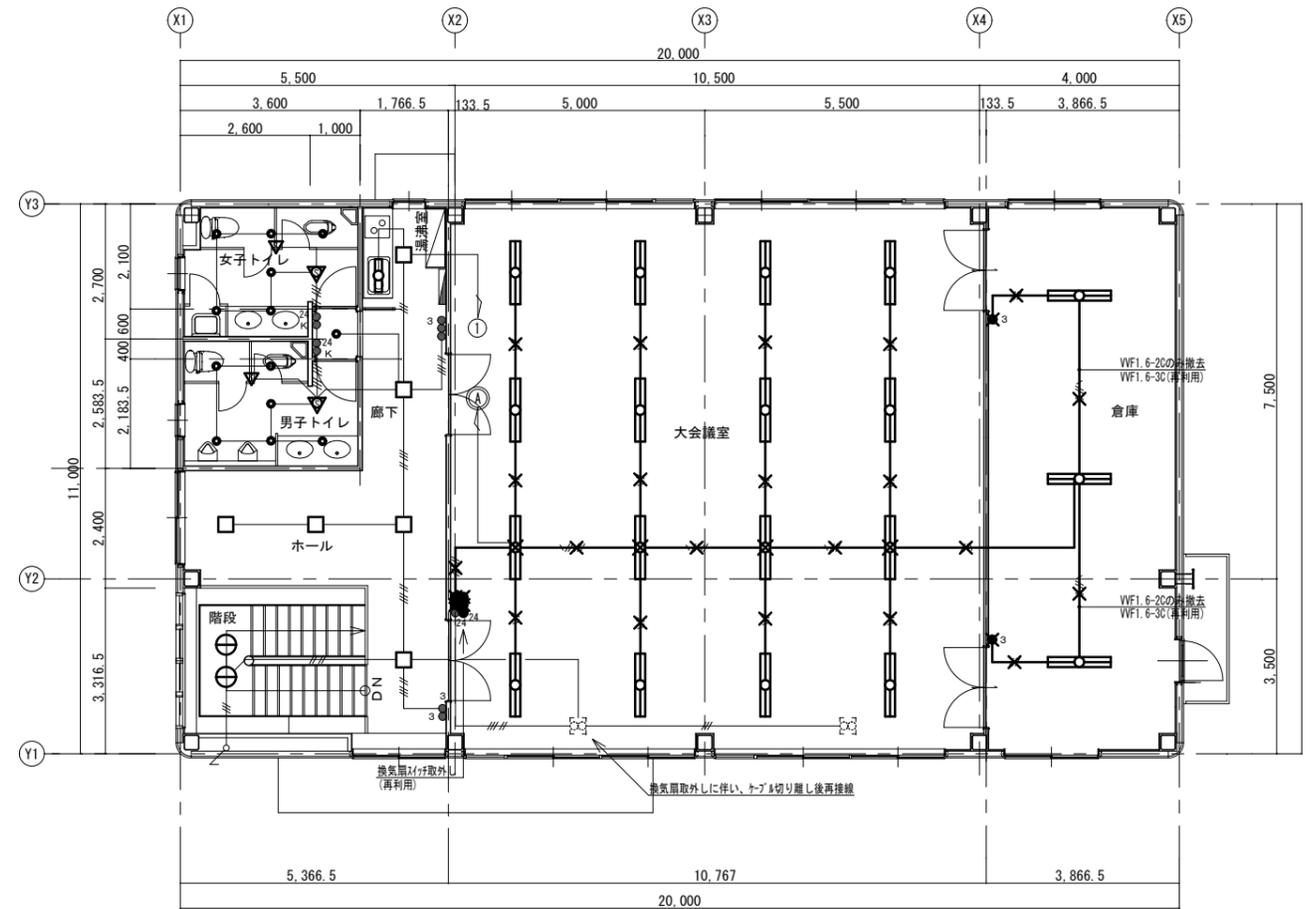
照明器具

金庫室	<A>	× 2
男子更衣室		× 1
女子更衣室		× 1
相談室	<C>	× 4
"	<K>	× 1
客溜	<C>	× 6
事務室	<D>	× 13
	<O>	× 3
廊下ホール		× 3
書庫	<E>	× 1
休憩室	<A>	× 2
"	<G>	× 1
裏口	<K>	× 1
男子トイレ	<O>	× 5
女子トイレ	<O>	× 5
ホーチ	<I>	× 3
ATM		× 1
"	<J>	× 1

明示無き配線・配管は下記による

———	VVF1.6mm-2C
———	VVF1.6mm-3C
———	VVF1.6mm-2C×2
———	VVF1.6mm-2C・3C
———	VVF1.6mm-3C 7-ス
———	VVF1.6mm-2C×2 7-ス
———	VVF1.6mm-2C・3C 7-ス
———	VVF1.6mm-3C×2 7-ス

盤より第1器具までは2.0mmとする



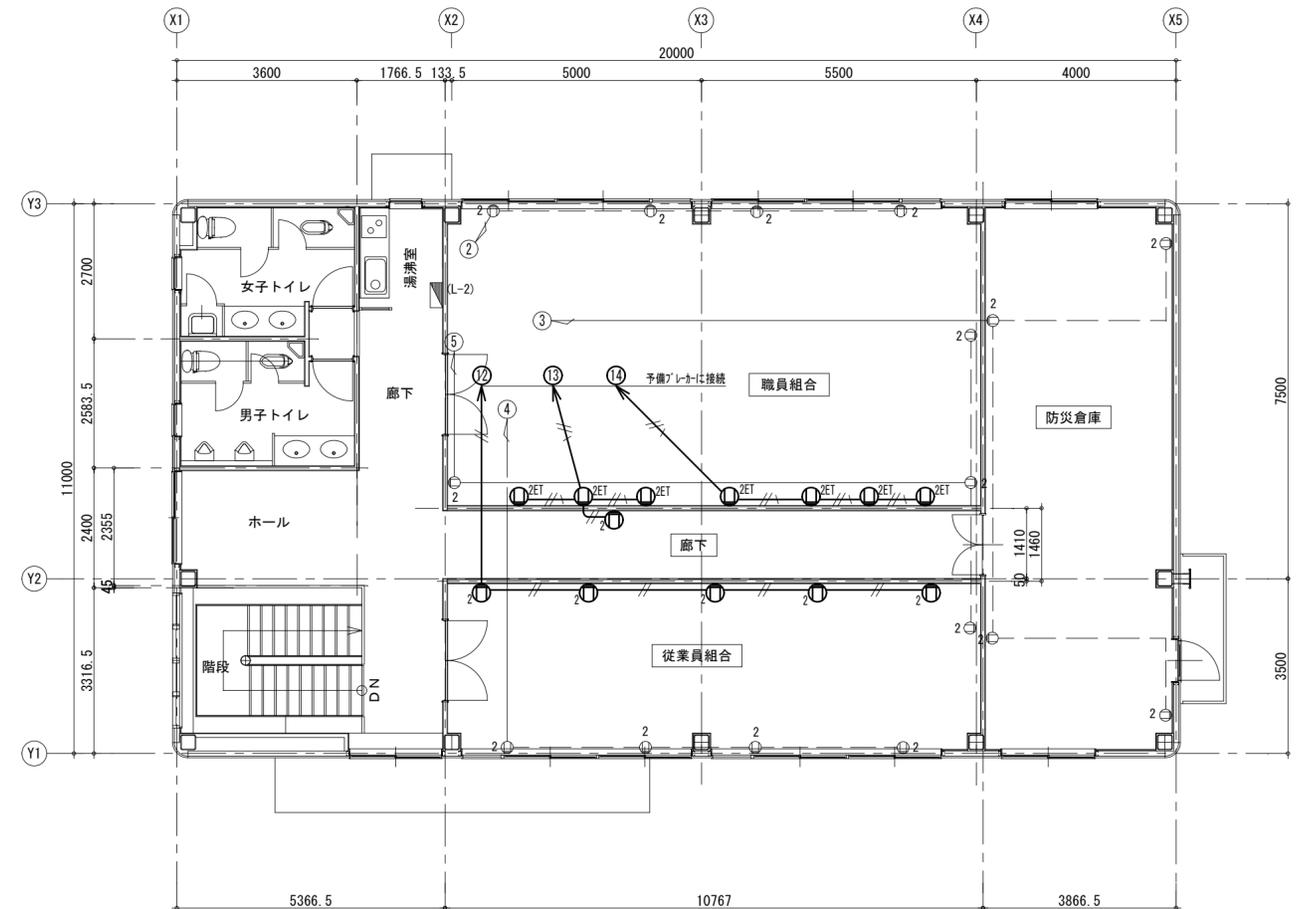
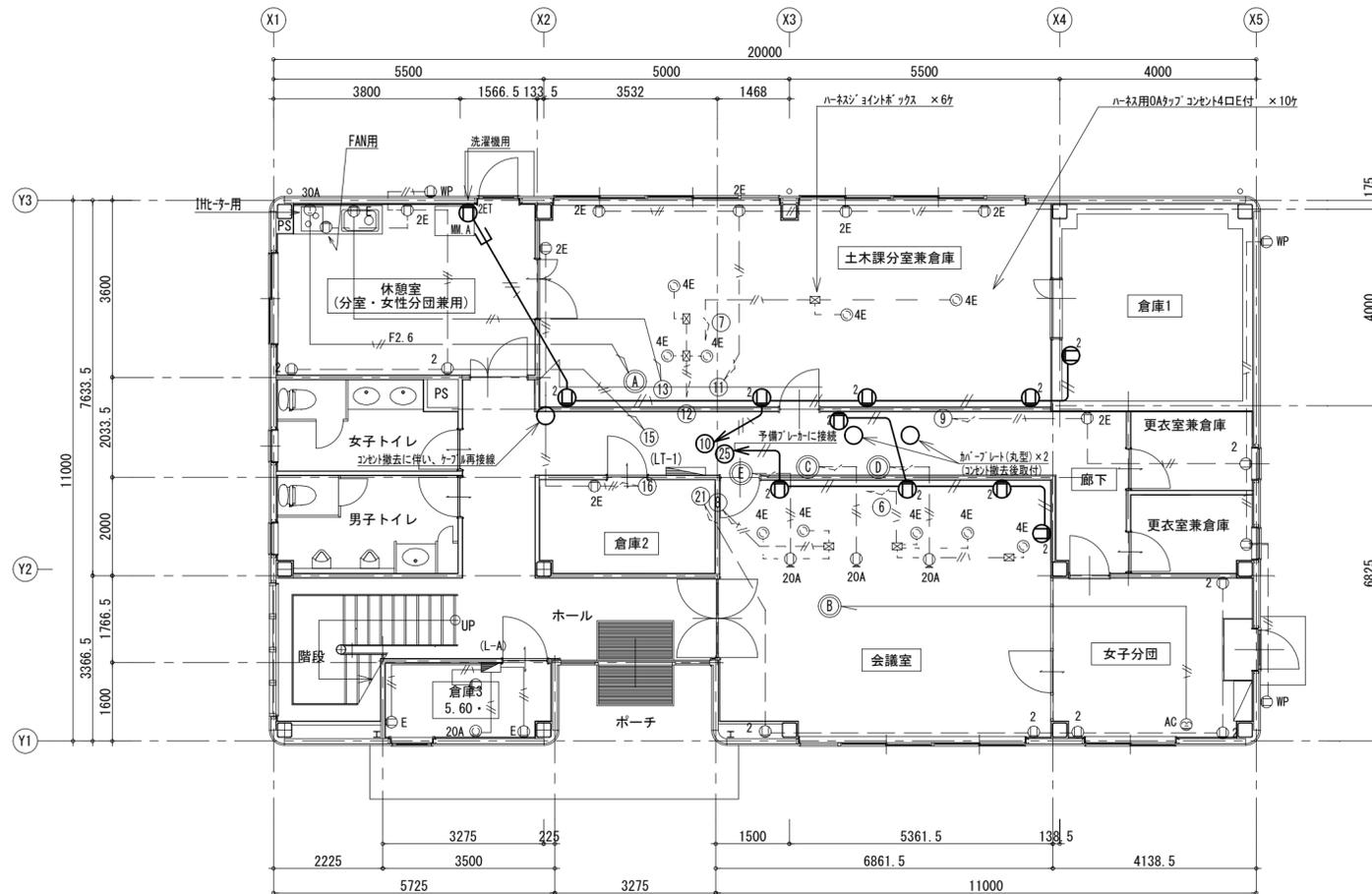
2階 平面図

注記 1) X印は、撤去を示す
2) 天井改修に伴い、照明器具は取外し再取付のこと

照明器具

倉庫	<A>	× 3
大会議室	<F>	× 16
女子トイレ	<O>	× 5
男子トイレ	<O>	× 5
廊下ホール		× 5
"	<L>	× 1
湯沸室	<H>	× 1
"	<G>	× 1
階段	<M>	× 2

/// : 改修範囲外

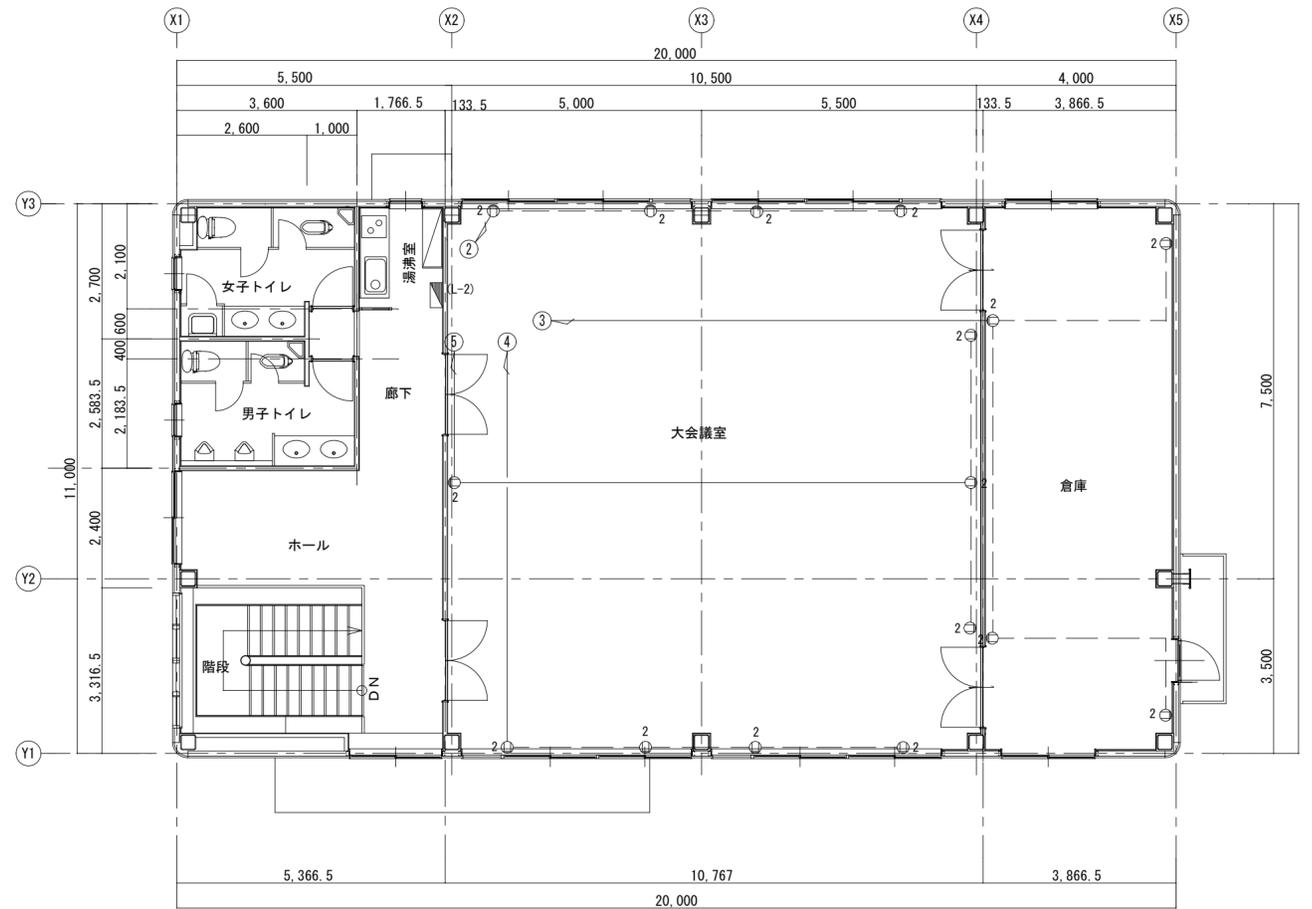
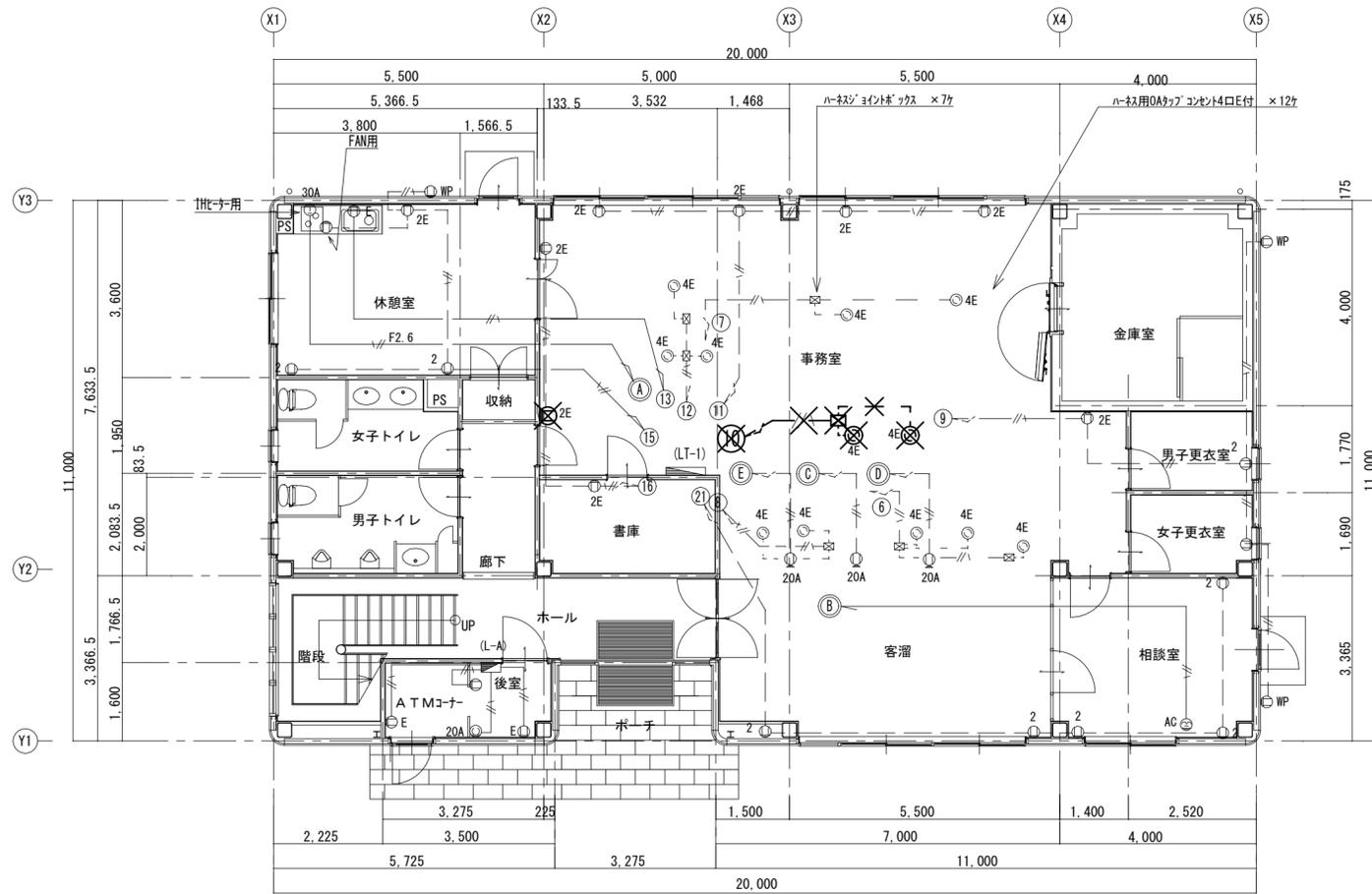


図中明記なき配管・配線は下記とする。

(コネクタ)回路	
——//——	EM-EEF 2.0-20(床下)
——//——	EM-EEF 2.0-30(床下)
立ち上がり部はP管にて保護とする。	

/// : 改修範囲外

TITLE	DATE	NO
鳴門市役所東側付属棟改修工事		E-07
NAME	SCALE	
コネクタ設備 改修後		1/100

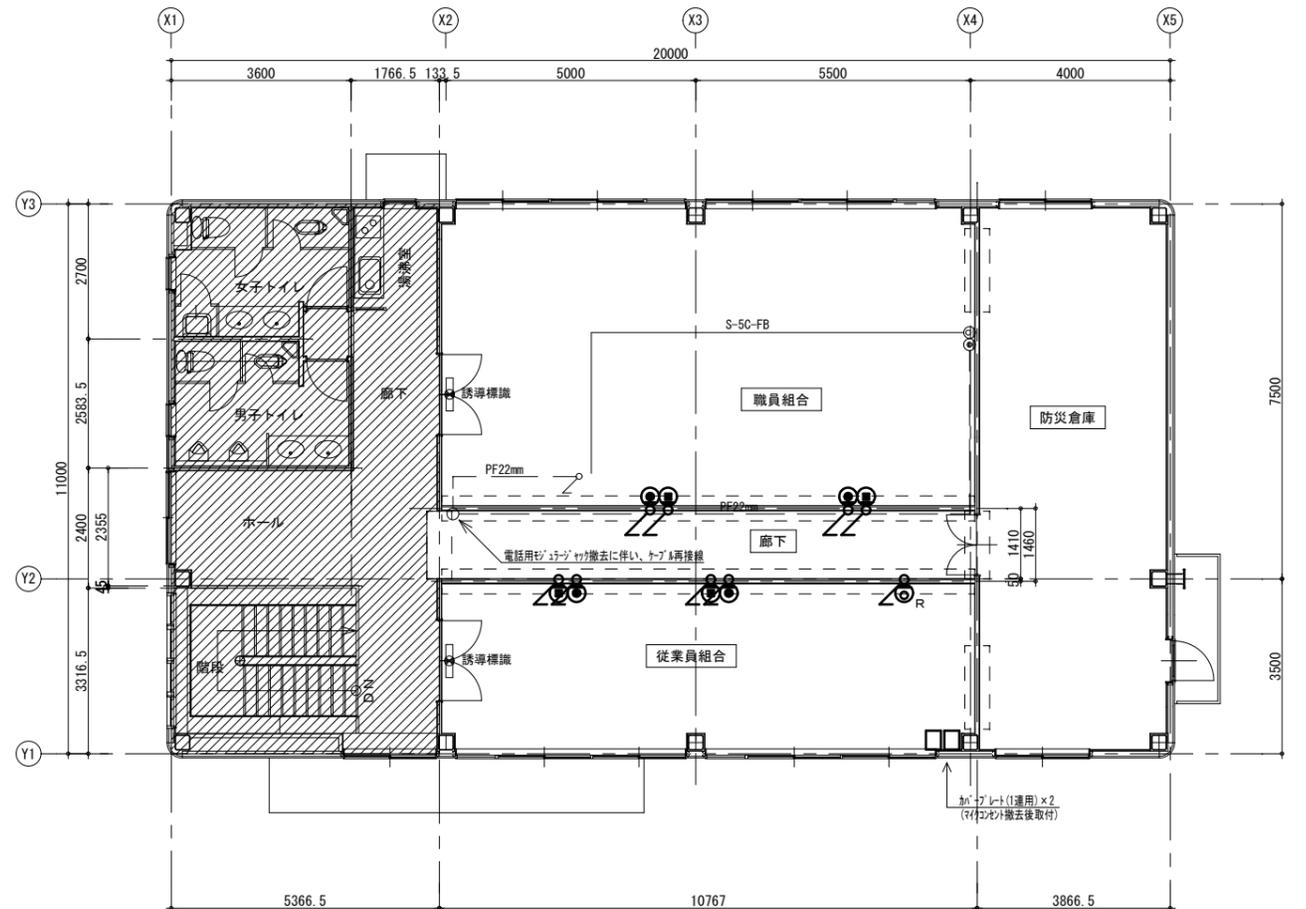
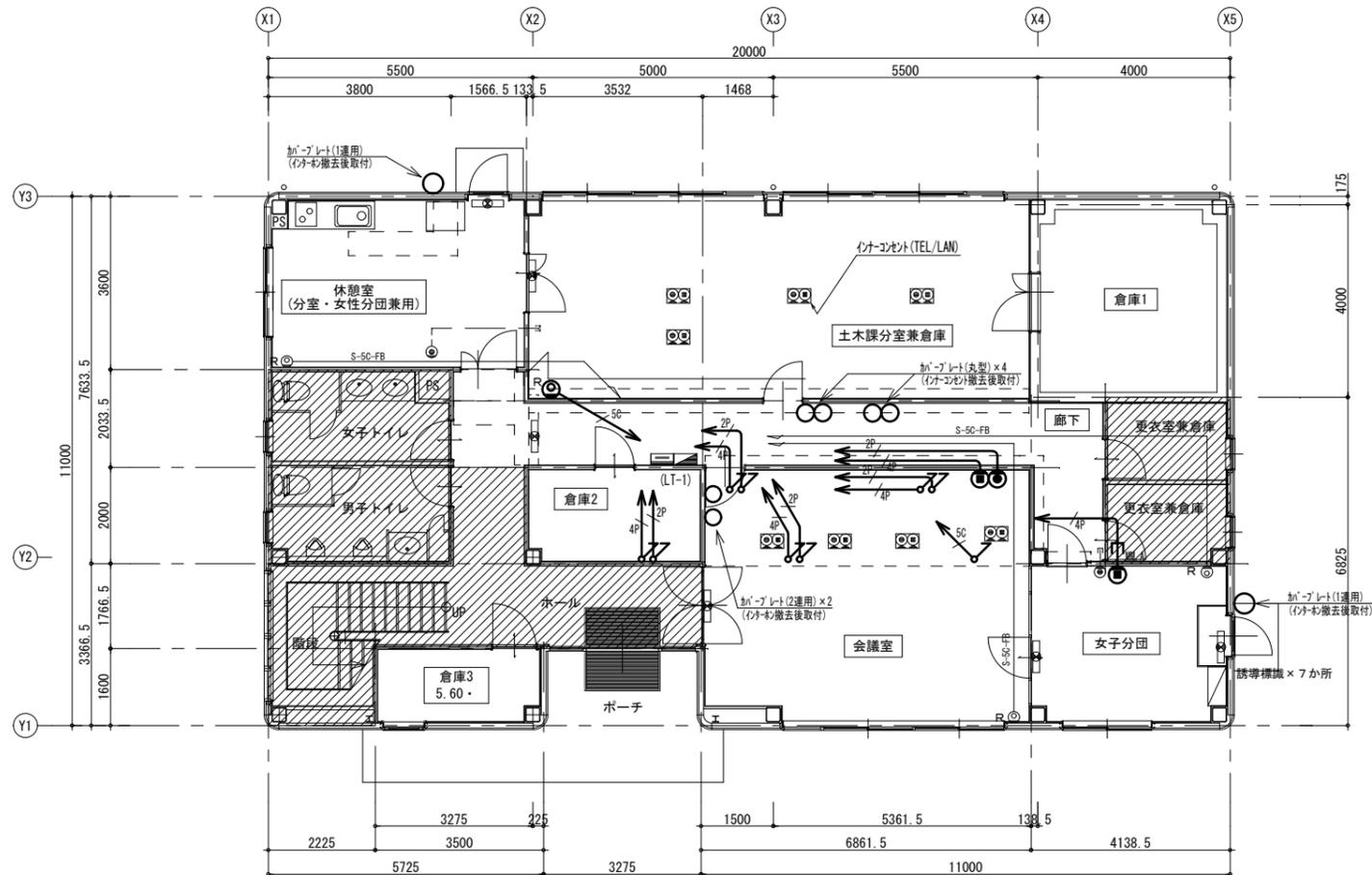


注記 1) ×印は、撤去を示す

明示無き配線・配管は下記による	
—//—	VVF2.0mm-2C
—//—	VVF2.0mm-3C(1本7-ス)
—//—	

/// : 改修範囲外

TITLE	DATE	NO
鳴門市役所東側付属棟改修工事		E-08
NAME	SCALE	
コンテナ設備 改修前		1/100
株式会社 川建設計	1級建築士登録 第126265	川端壮一郎



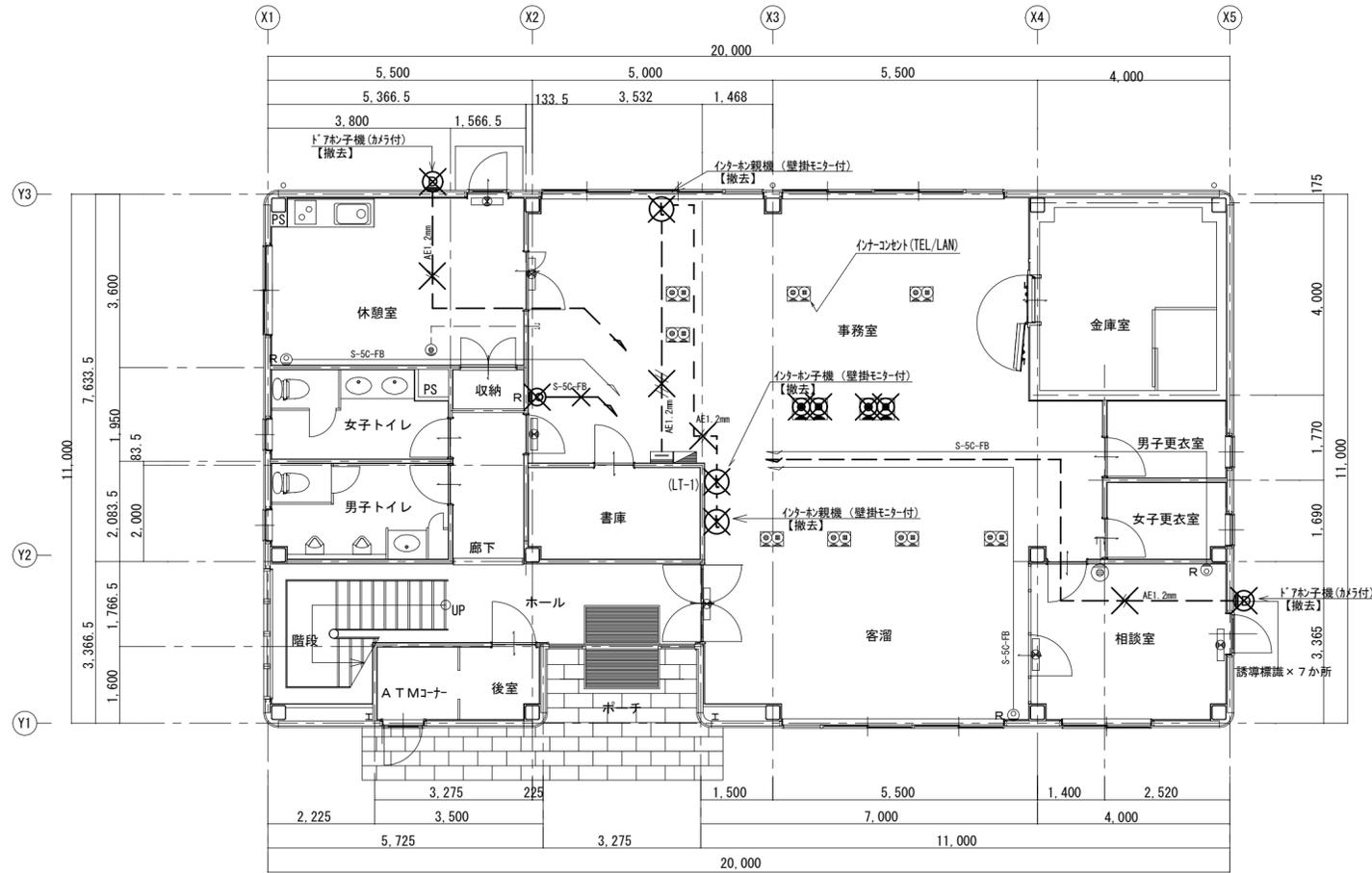
図中明記なき配管・配線は下記とする。

（弱電回路）		
5C	EM-S-5C-FB (天井)	TV
4P	EM-CAT5e-4P (天井)	LAN
2P	EM-CPEED-9-2P (天井)	TEL

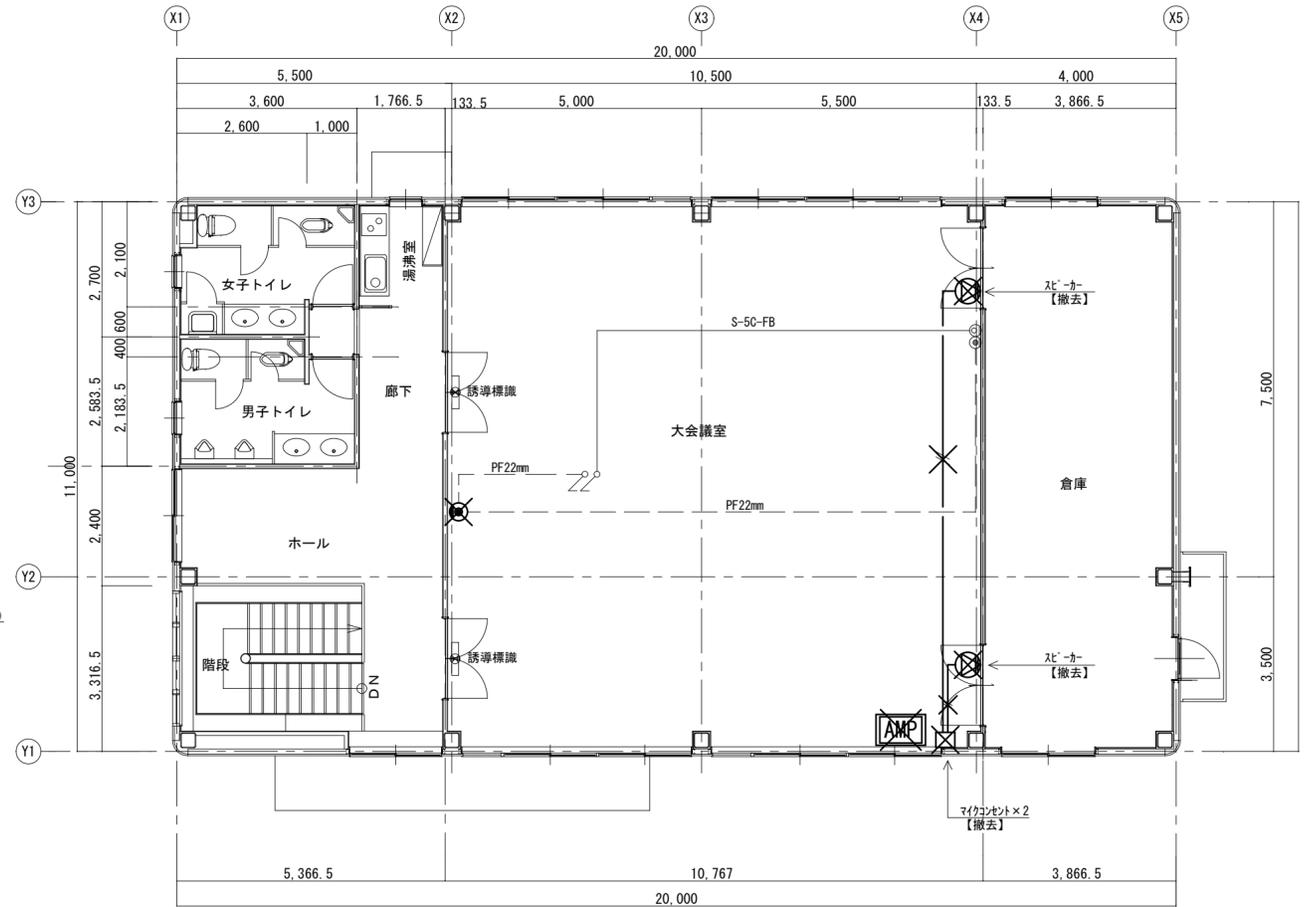
立ち上がり部はPF管にて保護とする。

/// : 改修範囲外

TITLE	DATE	NO
鳴門市役所東側付風棟改修工事		E-09
NAME	SCALE	
弱電設備 改修後		1/100
株式会社 川建設	1級建築士登録 第126265	川端壮一郎



1階 平面図

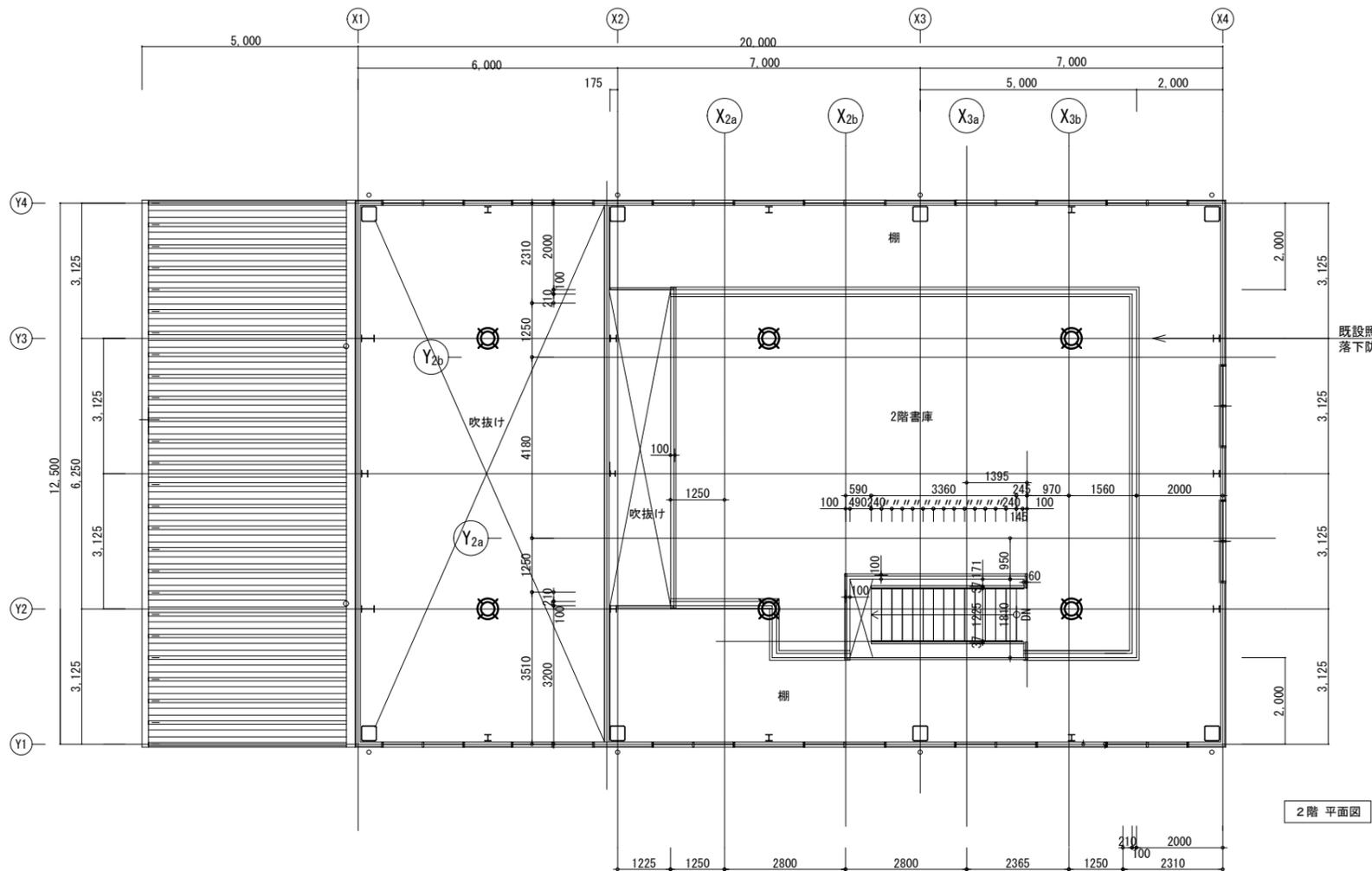


2階 平面図

注記 1) X印は、撤去を示す

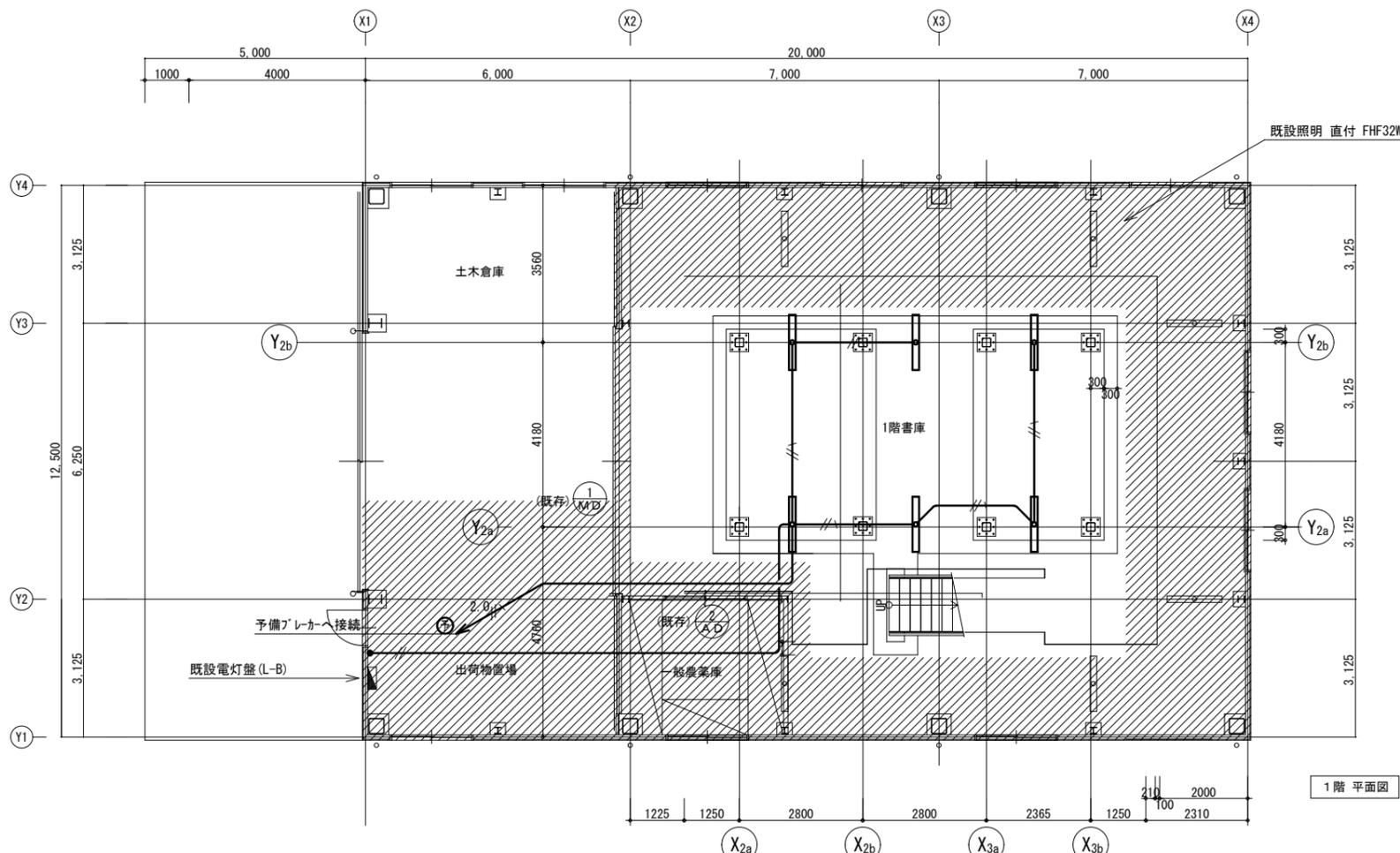
/// : 改修範囲外

TITLE	DATE	NO
鳴門市役所東側付属棟改修工事		E-10
NAME	SCALE	
弱电設備 改修前		1/100



既設照明 無電極ランプ 240W×1 直付 (エーライトXY5501Z) ×6
 落下防止金物取付 (型番: NK31017) ×6

2階 平面図



既設照明 直付 FHF32W×1 (FSA41030F) ×6

1階 平面図

照明器具 (新設)

A	直付型 40形 iスタイル
---	---------------

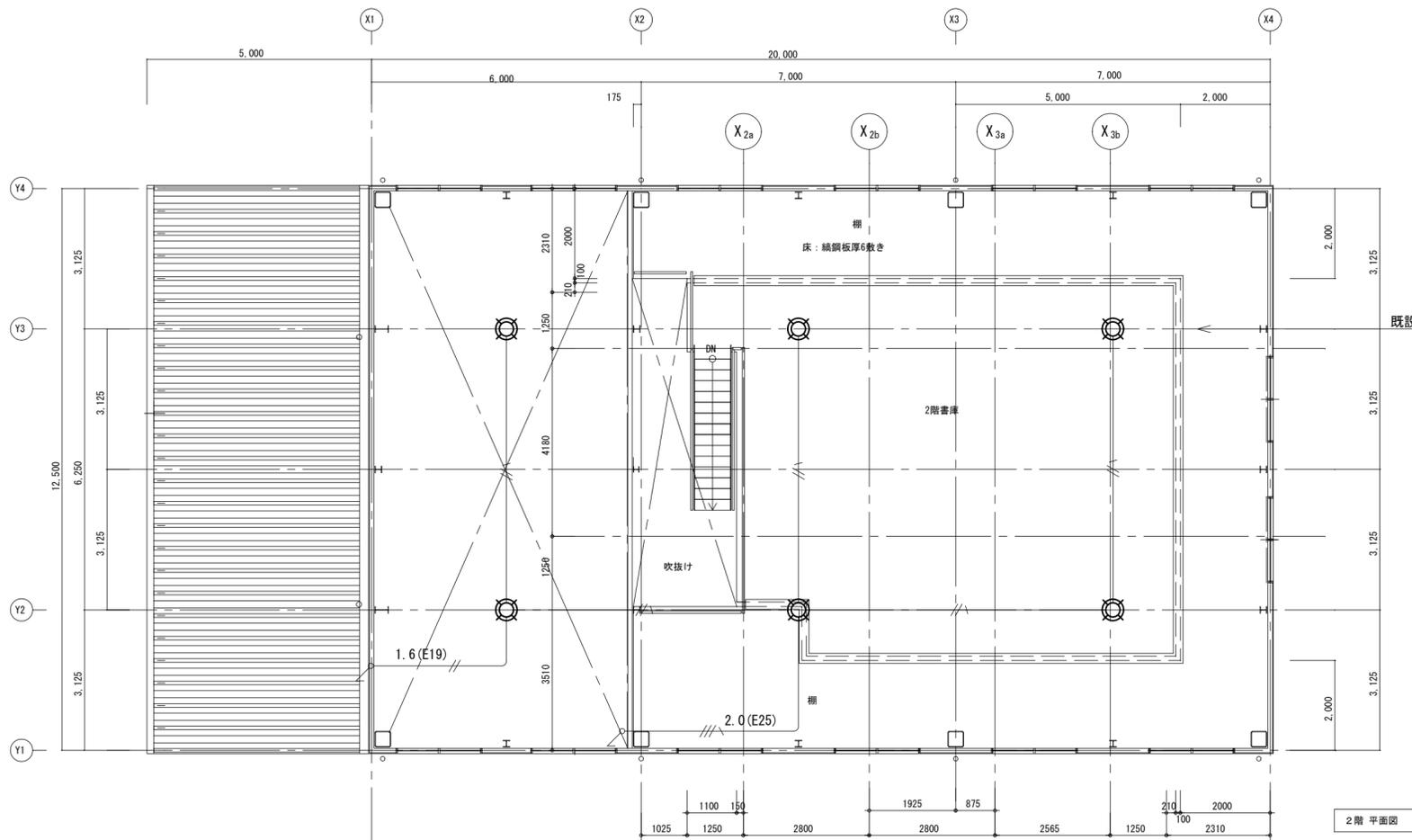
一般タイプ、5200lmタイプ
 消費電力31.9W、定格出力型、電圧100~242V
 本体：鋼板（白色粉体塗装）
 ライトカバー（カバー）：ポリカーボネート（乳白）
 光源寿命4000時間（光束維持率85%）
 昼白色（5000K）、Ra83
 電源装置はライトカバー側に内蔵

パナソニック 直付XLX450NENPLE9 相当品

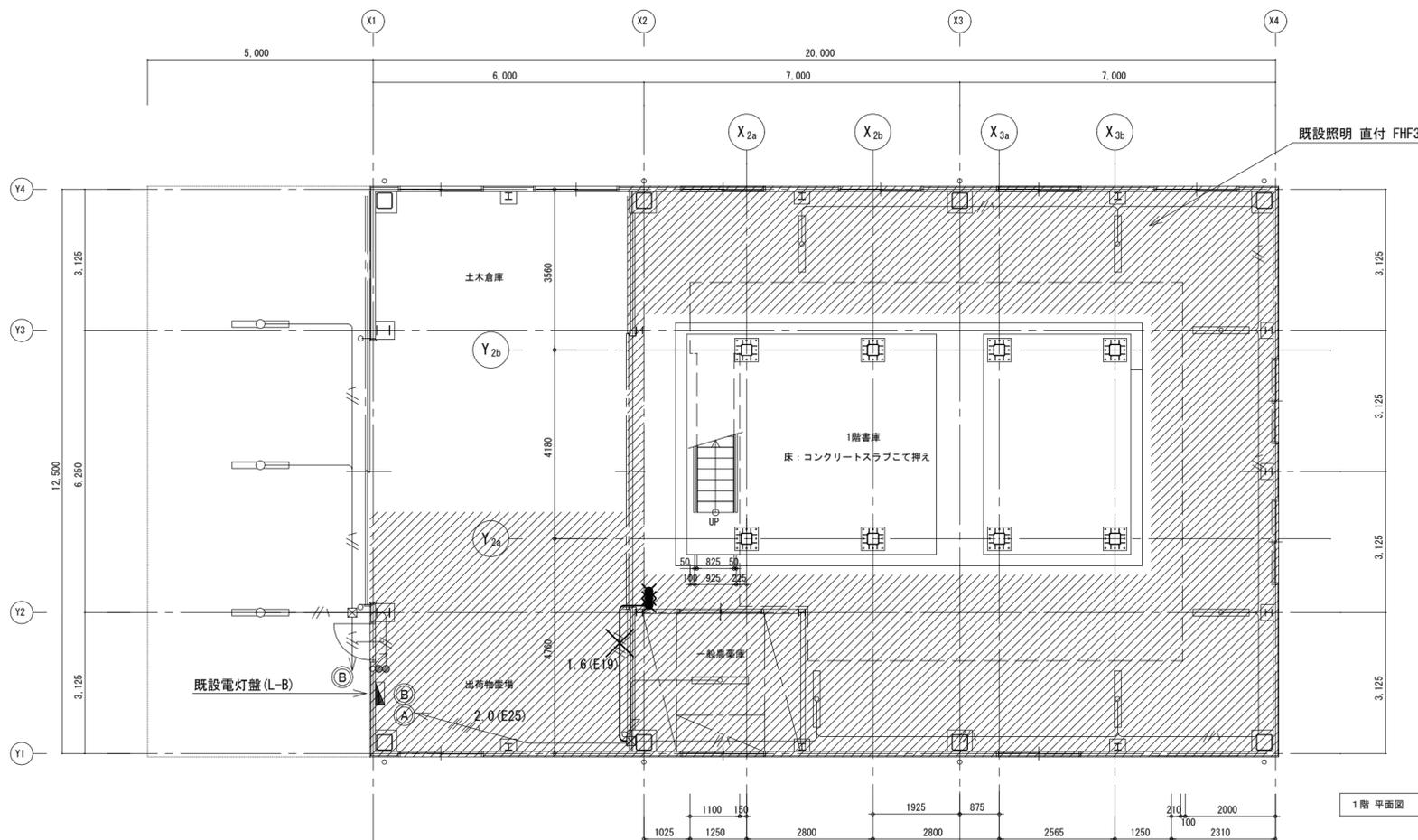
図中明記なき配管・配線は下記とする。

〈電灯回路〉		
2.0	EM-EFF 2.0-30 (E19)	
//	EM-EFF 1.6-20 (E19)	
//	EM-EFF 1.6-30 (E19)	

※2.0の部分は1階使用のこと



2階 平面図



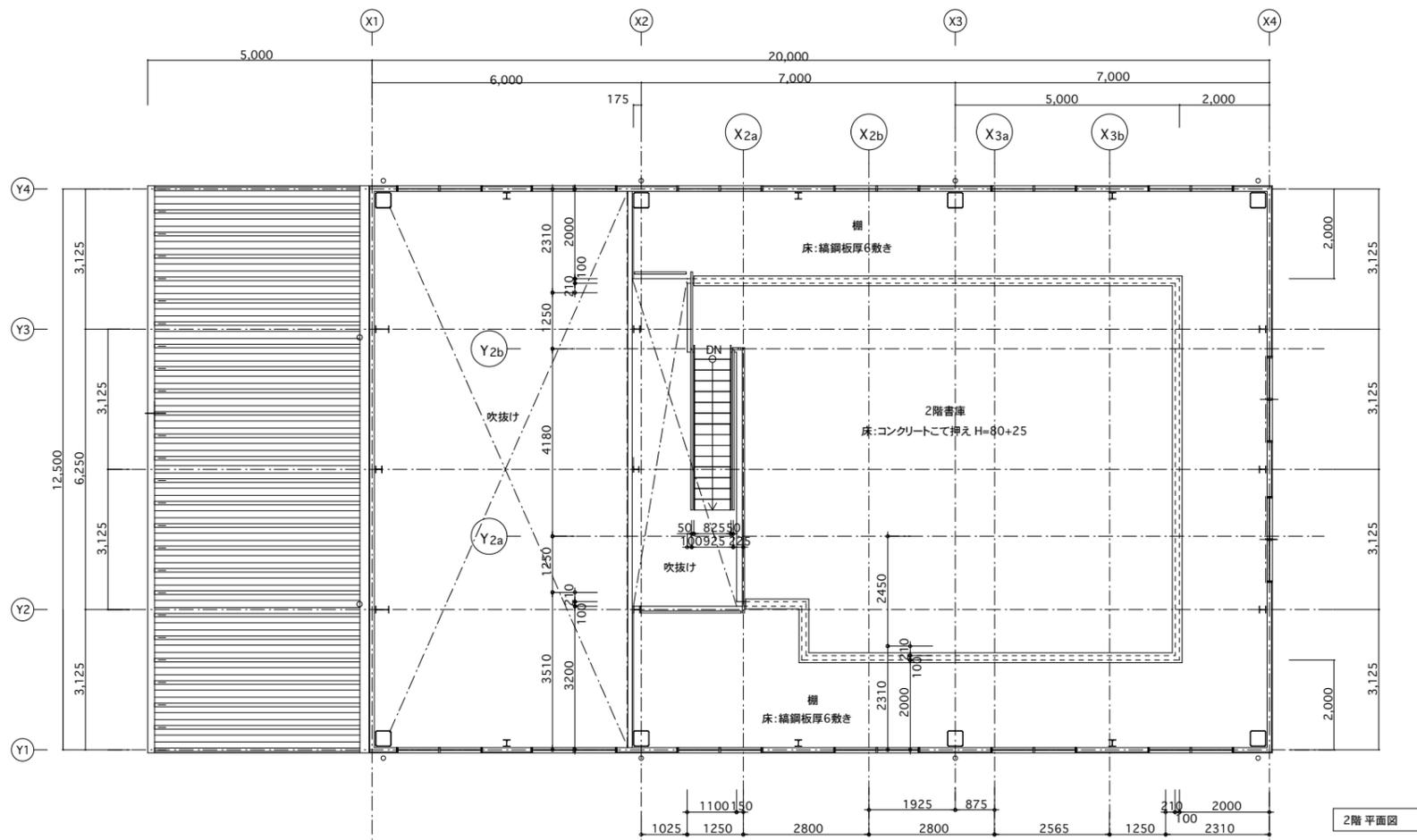
1階 平面図

注記 1) X印は、撤去を示す

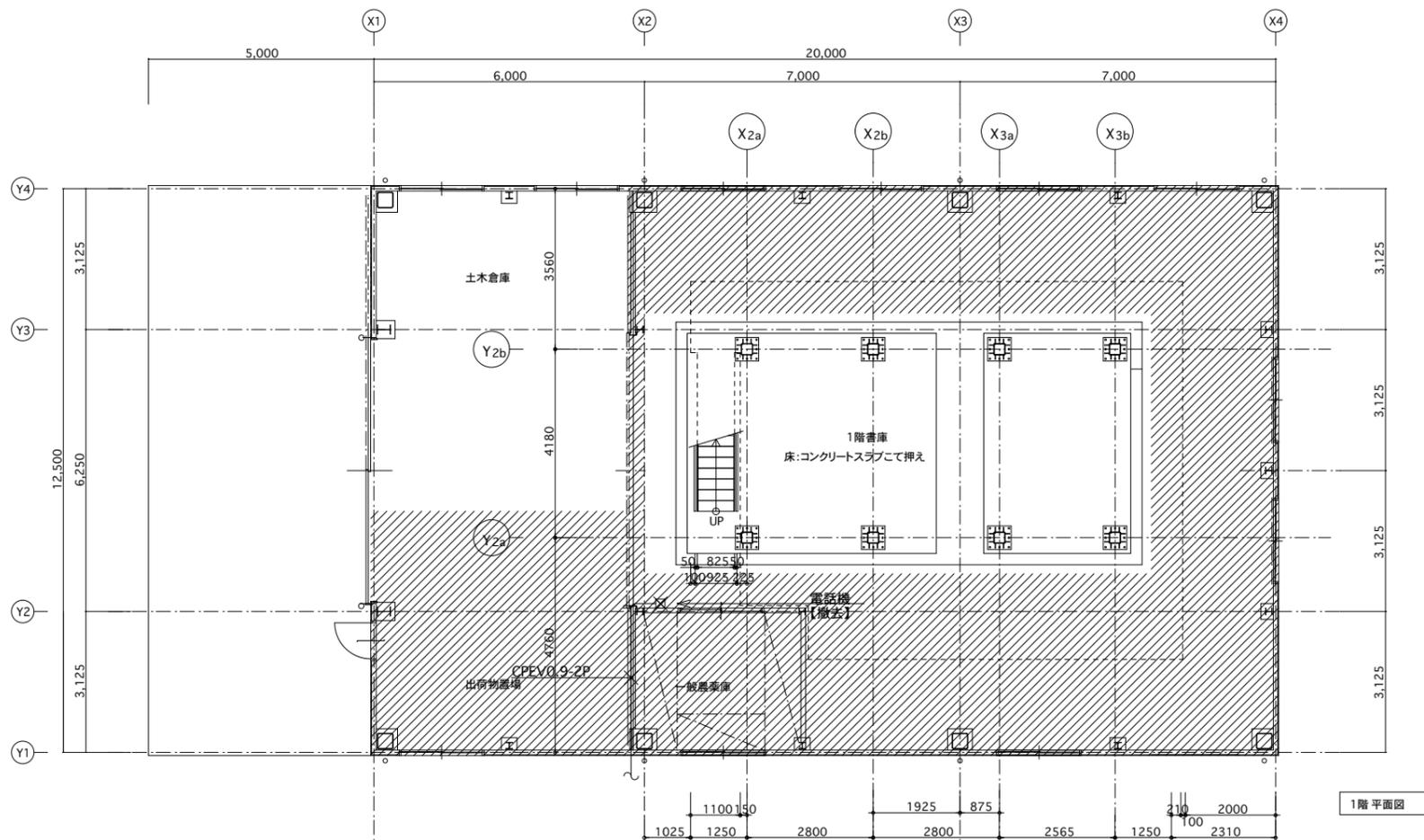
※図中特記なき配線配管は下記による。
 〰 ⅠV 2.0mm x 2E 2.0 (E19)

/// : 改修範囲外

TITLE	DATE	NO
鳴門市役所東側付属棟改修工事		E-12
NAME	SCALE	
(倉庫)電灯設備 改修前		1/100
株式会社 川建設	1級建築士登録 第126265	川端壮一郎



2階平面図



1階平面図

注記 1) 印※、撤去を示す

TITLE	DATE	NO
鳴門市役所東側付風機改修工事		E-13
NAME	SCALE	
(倉庫) 弱電設備 改修前	1/100	
株式会社 川建設	1級建築士登録 第126265	川端壮一郎

管工事特記仕様書

1 工事名称	鳴門市役所東側付属棟改修工事
2 工事場所	
3 建物概要	鉄骨造 2階建て
4 一般事項	<p>1 特記仕様書及び図面に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の「公共建築工事標準仕様書(機械設備工事編)(令和4年版)」(ただし、改修工事の場合は「公共建築改修工事標準仕様書(機械設備工事編)(令和4年版)」)及び「公共建築設備工事標準図(機械設備工事編)(令和4年版)」による。なお、本工事が建築工事又は電気設備工事を含む場合は、それぞれの工事に係る標準仕様書による。また、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の「機械設備工事監理指針(令和4年版)」を参考とする</p> <p>2 本工事に必要な関係官庁への手続きは請負者が代行し、これに伴う費用は請負人の負担とする。</p> <p>3 本工事施工に当り着工前に必ず施工図及び承認図を提出し、係員の承認を経て着工すること。</p> <p>4 本工事施工にあたり既存部分を損傷または汚染した場合は既成にならい補修のこと。</p> <p>5 本工事にて使用する仮設、工事用電源、水道等の費用は工事請負人の負担とする。</p> <p>6 本工事施工にあたり、建築工事と施工方法や工程打ち合わせを充分おこない完全に施工のこと。</p> <p>7 本工事施工にあたり、図中明記なくとも本工事施工上必要な既存設備の移設、仮設、及び調整工事等も全て本工事範囲に含む。</p> <p>8 本工事に伴う諸官公署への各種申請は請負業者が行うものとし費用(完了検査手数料など)については請負業者の負担とする。</p> <p>9 工事完成後には竣工図作成し、二つ折り製本原図版二部、縮小版一部を提出すること。</p>
5 工事範囲	<p>下記工事項目を本工事の範囲とする。</p> <p>1 衛生器具 設備工事</p> <p>2 給水 設備工事</p> <p>3 排水 設備工事</p> <p>4 冷暖房 設備工事</p> <p>5 換気 設備工事</p>
6 メーカー指定	<p>下記メーカーリストを本工事に適用する。</p> <p>1 管材 JIS規格品 JWVA規格品</p> <p>2 弁類</p> <p>3 衛生器具 LIXIL TOTO</p> <p>4 排水金物 ダイドレ 相当品</p> <p>5 給湯機器 パナソニック ハーマン リナイ ノリタ 日立アライアンス</p> <p>6 消火機器 ヤマト 立売堀 横井製作所 ニッサン 能美防災</p> <p>7 ポンプ類 川本 エバラ 日立 鶴見</p> <p>8 小口径樹 アロン化成 積水化学工業 前澤化成工業 タボタン アイ</p> <p>9 浄化槽 アムズ ダイキアタニス フジタリン ニッコ 前澤化成工業 タボタ</p> <p>10 空調機 日立アプライアンス パナソニック 三菱電機 東芝キヤリヤ ダイキン工業 三菱重工</p> <p>11 換気扇 日立アプライアンス パナソニック 三菱電機 東芝キヤリヤ ダイキン工業</p>
7 特記事項	<p>1 水道加入金、公道取付費は、別途とする。</p> <p>2 弁類において、直圧部は10kg/cm²、その他は、5kg/cm²とする。</p> <p>3 排水管(ビニール管)を土中埋設する場合は、「共仕」の当該事項に従い、根切り底の突き止めを行う。</p> <p>4 管を土中埋設する場合は、管の保護のため山砂の類にて、管の周囲を埋め戻し、『共仕』に従い地中埋設表示(埋設表示テープ及び埋設標)を行う。</p> <p>5 衛生器具などの色は、製造業者の標準色を原則とするが、詳細は担当係員と協議して決定する。</p> <p>6 保温工事は、『標準仕様書』に基づき施工するもので、主要材料は、グラスウール保温材とする。 屋外露出部分は、ステンレスラッキングとする。</p>

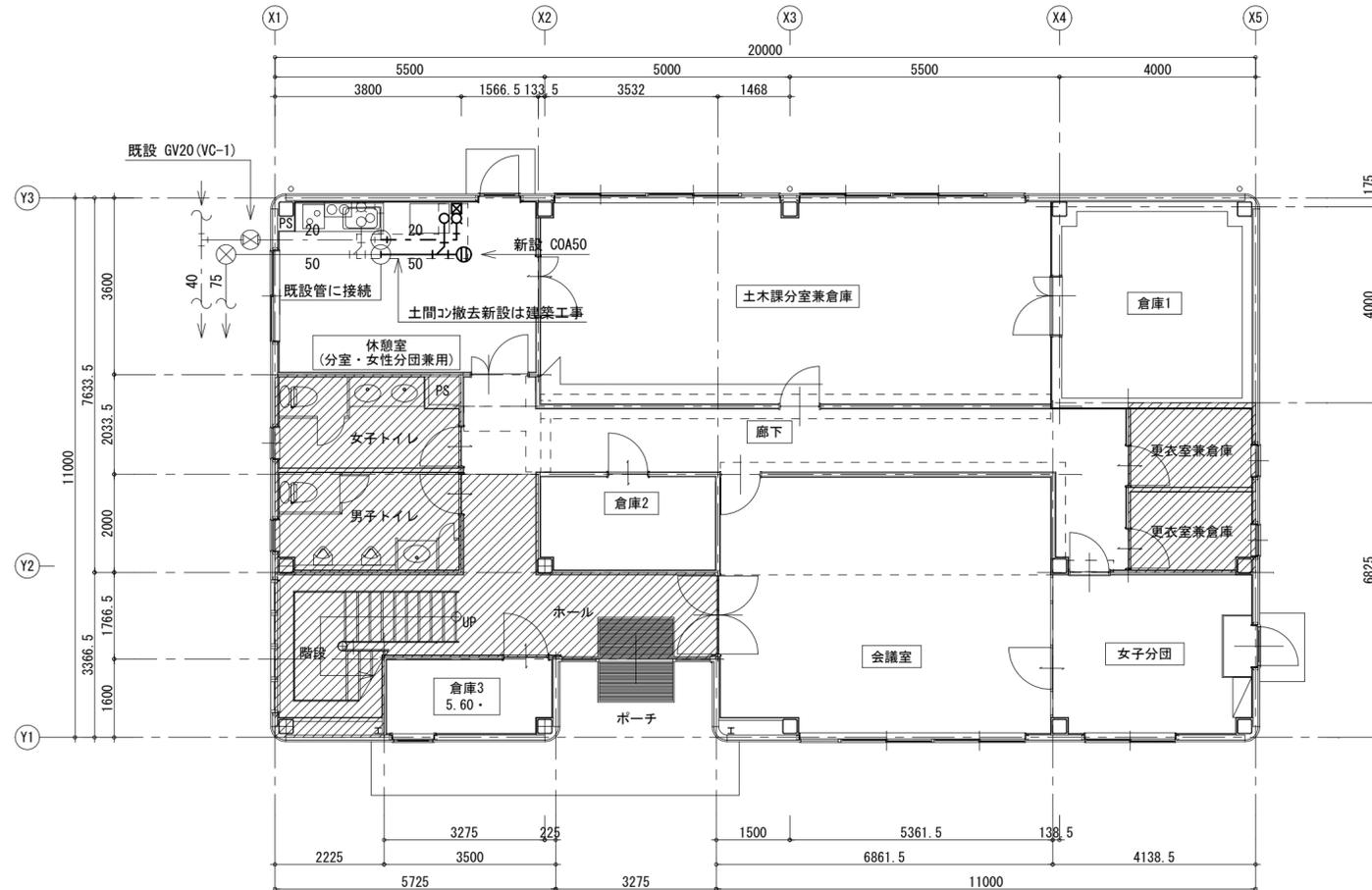
凡 例

シンボル	適用	名称	規格等
	○	給水管	耐衝撃性硬質塩化ビニール管 H I V P
		井水管	水道用硬質塩化ビニール管 V P (屋外散水系統のみ)
		給湯管	耐熱性硬質塩化ビニールライニング鋼管 H T L P
	○	排水管	硬質塩ビ管 V P 第1会所まで
		通気管	硬質塩ビ管 V P
		屋外排水管	硬質塩ビ管 V U
		消火管	水道用硬質塩化ビニールライニング鋼管 S G P - V A (管端防食継手)
		消火管	水道用硬質塩化ビニールライニング鋼管 S G P - V D (管端防食継手) 埋設部
		ガス管	配管用炭素鋼鋼管 S G P (白)
		ガス管	ポリエチレン被覆鋼管 (地中・コンクリート埋設部)
	○	冷媒管	冷媒管用断熱材被服鋼管
	○	ドレン管	硬質塩ビ管 V P
	○	給水栓	
		散水栓	ボックス共
	○	水栓柱	人造珪出水栓柱共
		混合水栓	
		ガスメーター	ガス供給者側工事
	○	仕切弁	水道直圧部 J I S 1 0 K その他 J I S 5 K
		逆止弁	J I S 1 0 K
		量水器	ボックス共 (m / m) 副止水栓
		ボールタップ	
		Y型ストレーナー	
		安全弁	
		床排水金物	
	○	床上掃除口	
		通気金物	
		消火器	
樹 類 (樹 リ ス ト 参 照)			
		汚水樹	(詳細は樹リスト参照)
		雨水樹	(詳細は樹リスト参照)
<p>特 記 ※ 防火区画及び防火上主要な間仕切り壁を貫通する配管、配線は国土交通省認定(1時間耐火性能を有する)の工法により施工のこと。</p> <p>※ 配管の保温・塗装・吊り及び支持は「標準仕様書」及び「標準図」に従い(床下土中配管含)施工のこと。</p> <p>※ 管を土中埋設する場合は、管の保護のため山砂類にて管の周囲を埋戻し「標準仕様書」に従い地中埋設表示を行う。</p> <p>※ 鋼管類の支持金物接触部は全て防食テープ巻きのこと。(R○接触部共)</p> <p>※ 屋外露出配管は全て指定色塗装のこと。(S U Sラッキング部は除く)</p> <p>※ 冷媒配管の保温は、架橋ポリエチレンカバー(30倍発砲、肉厚20mm)を原則とし、仕上げの隠ペイ部分はビニールテープ巻き、屋内外露出部分は、図中記入とする。</p> <p>※ パッケージエアコン室内外機1次側電源送りは、電気工事とし、室内外の渡り配線、個別リモコンの配管配線工事は、本工事とする。</p> <p>※ パッケージエアコンの2次側配線、操作スイッチ及び渡り配線の太さ、本数については、各メーカーに合致すること。</p> <p>※ 換気設備において、延焼ラインにかかる恐れのあるベントキャップはF D付とする。</p> <p>※ 既存のコンクリート床、壁等の配管貫通部の穴明けは、原則としてダイヤモンドカッターによる。梁、スラブ等の構造体貫通の場合は、その施工方法について、監督員の承認を受けた後に施工のこと。</p> <p>※ 工事の施工に伴い、既存部分を汚染、又は損傷した場合は、既成にならい補修すること。</p> <p>※ 発生材のうち、引き渡しを要しないものは、すべて場外に搬出し、廃棄物の処理及び清掃に関する法律等の関係法令に従い、適切に処理し、監督員に報告すること。</p> <p>※ 図中以外で、建築物に利害等を及ぼすような設備があれば、速やかに監督員に報告し、対処すること。</p>			

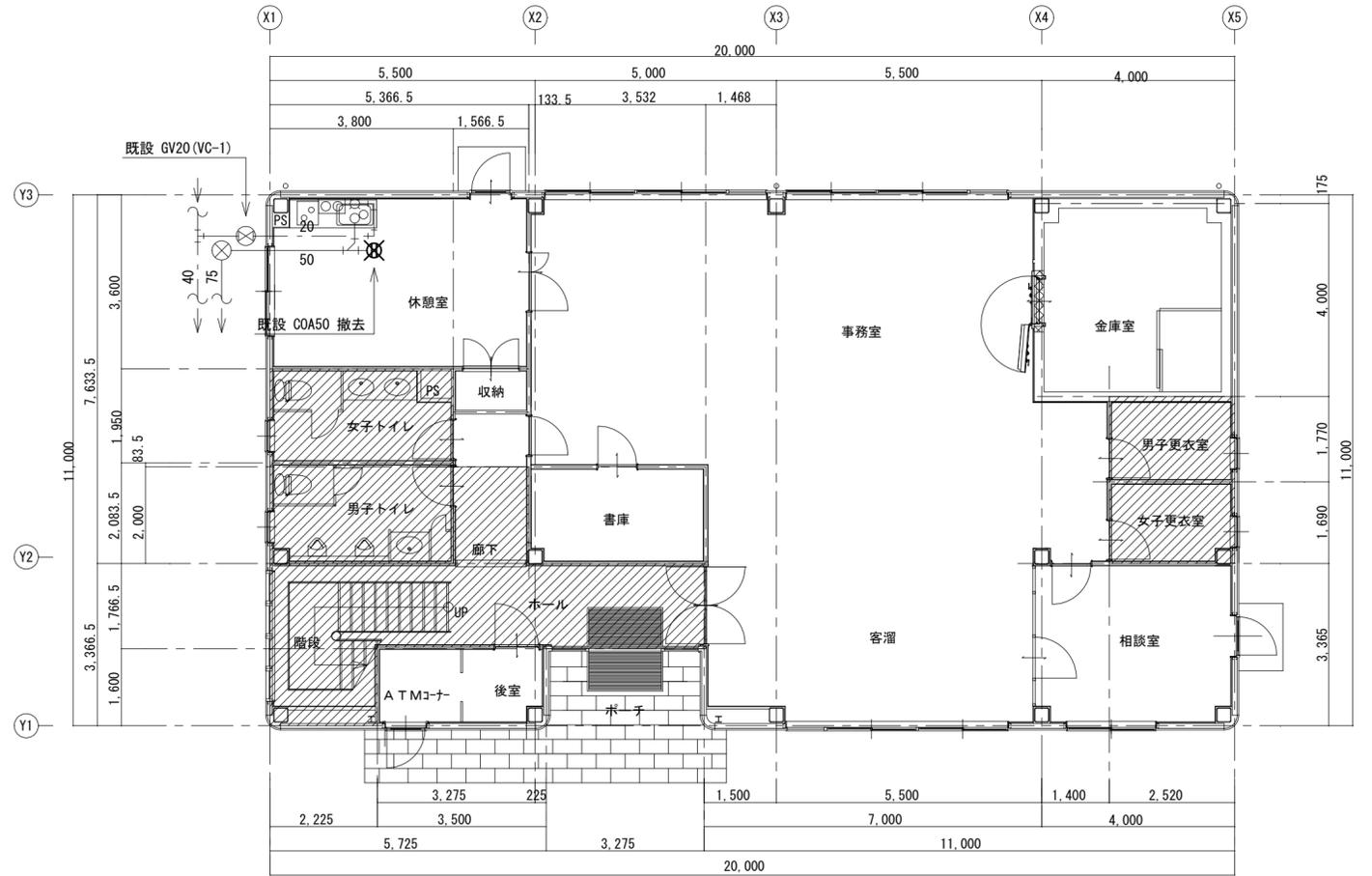
T I T L E	D A T E	N O
鳴門市役所東側付属棟改修工事		W-01
N A M E	S C A L E	
管工事 特記仕様書		NON
株式会社 川建設計	1級建築士登録 第126265	川端壮一郎

改修後

改修前



1階平面図



1階平面図

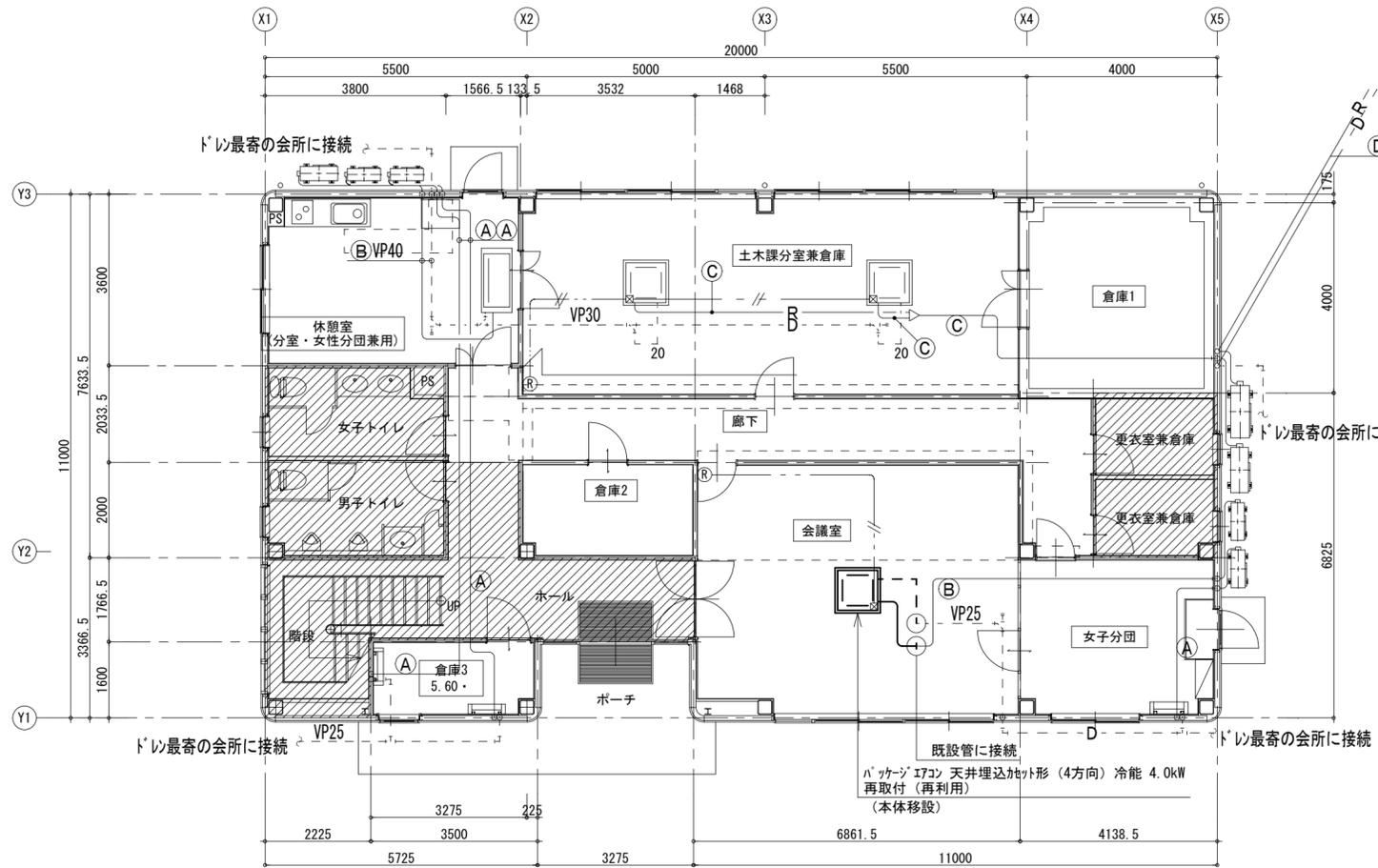
器具表

名称	品番	付属品及び備考	数量
休憩室			
洗濯機パン	PWSP80H2W	ABS樹脂製横引トラップ共	1
洗濯機用水栓	TW11R		1
水栓柱		合成樹脂製水栓柱 (L=1200)	1

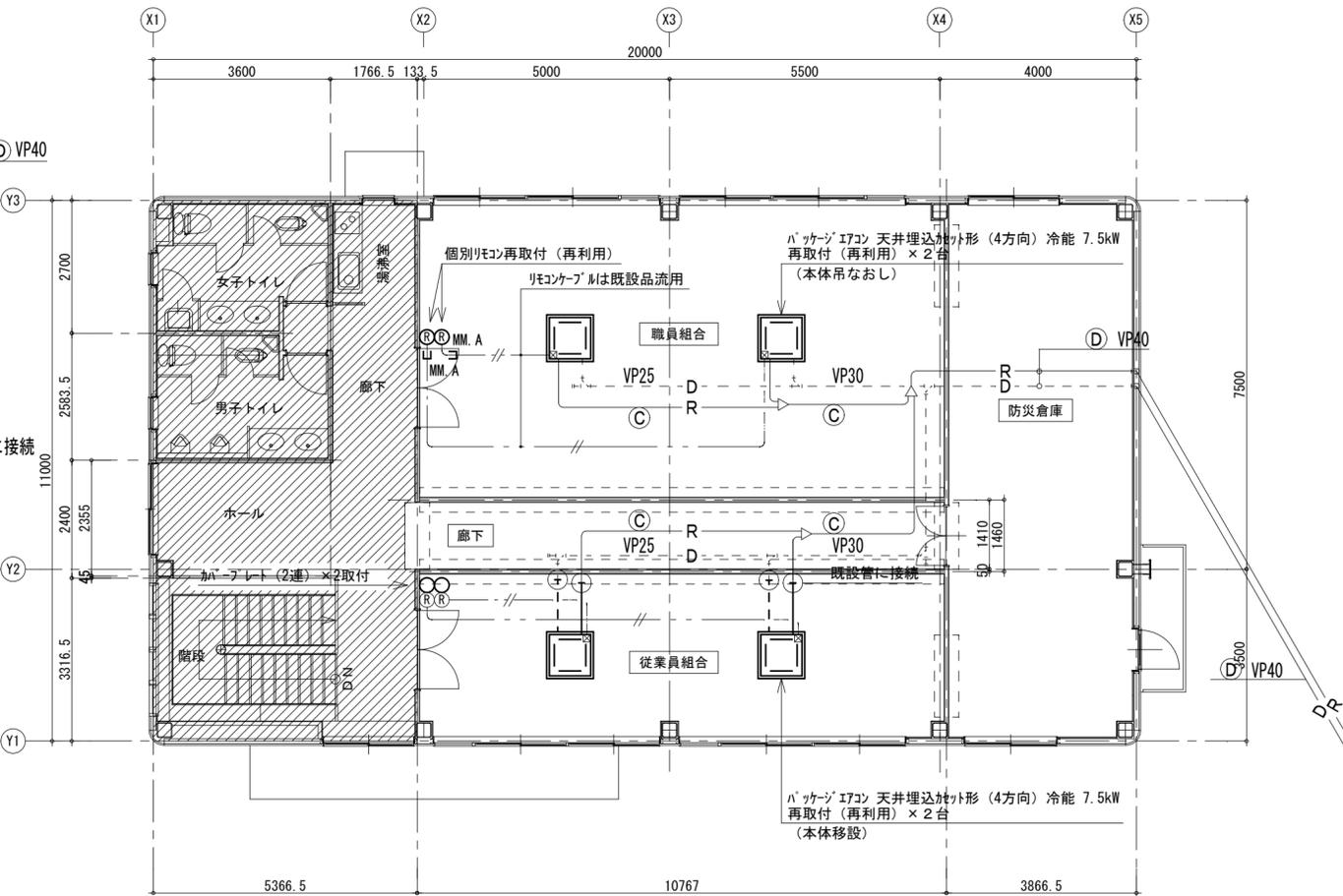
注記 1) × 撤去を示す

/// : 改修範囲外

TITLE	DATE	NO
鳴門市役所東側付属棟改修工事		W-02
NAME	SCALE	
給排水衛生設備 1階 改修前後		1/100
株式会社 川建設	1級建築士登録 第126265	川端壮一郎



1階 平面図



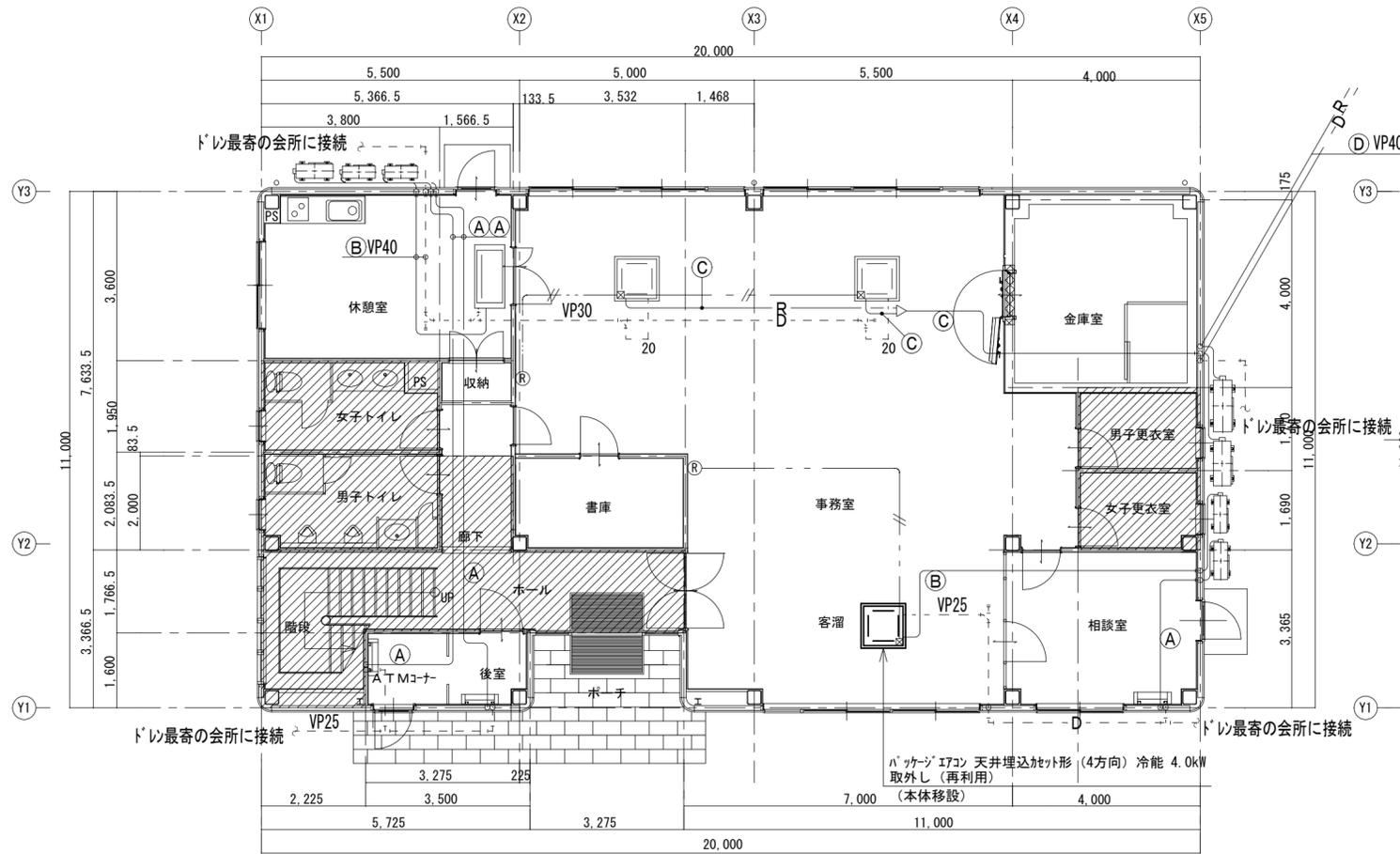
2階 平面図

冷媒管サイズ表	
記号	冷媒管
(A)	6.4φ × 9.5φ
(B)	6.4φ × 12.7φ
(C)	9.5φ × 15.9φ
(D)	25.4φ × 12.7φ

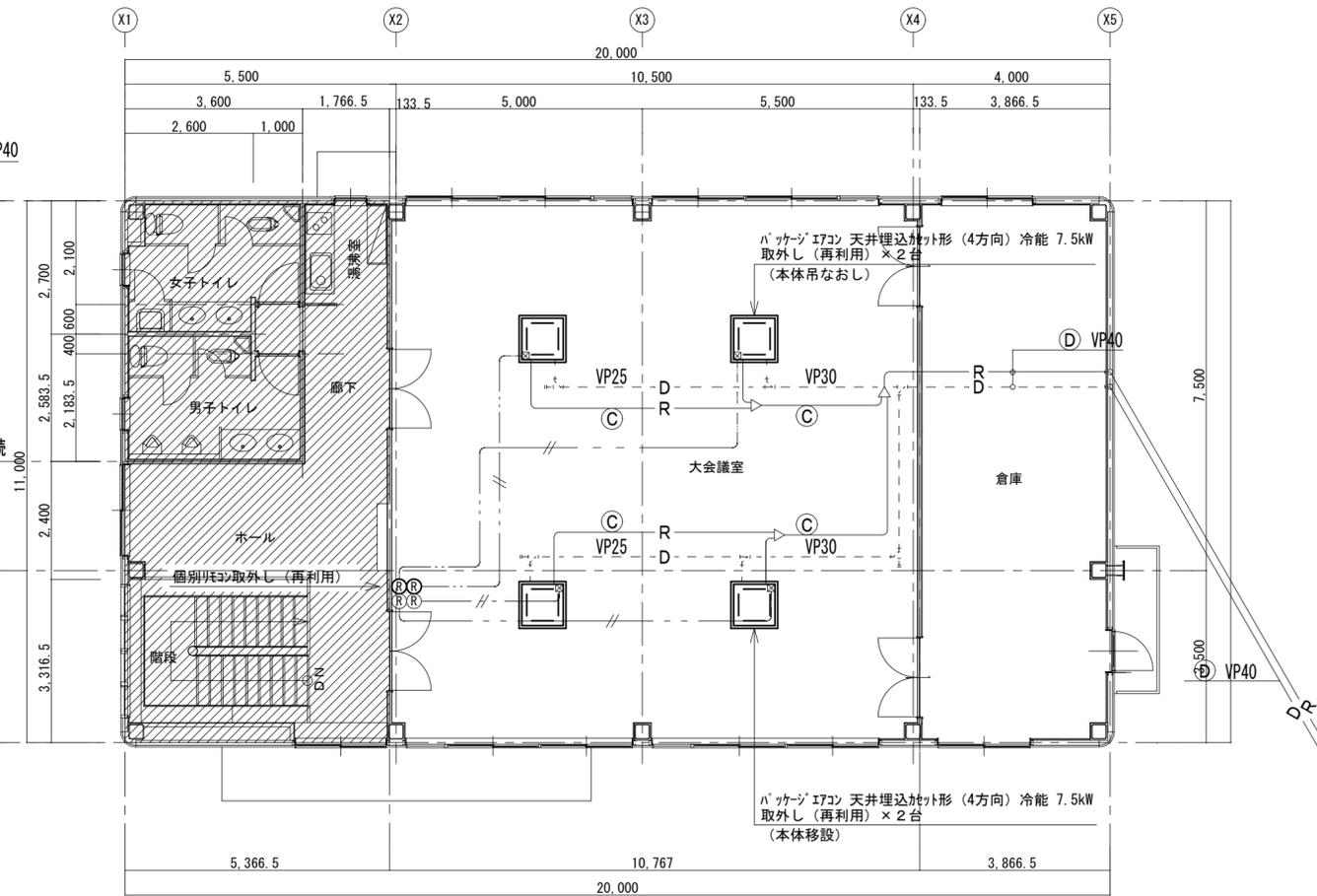
注記 1) 2階天井改修に伴い、器具は取外し再取付のこと
 2) 器具は鋼材（建築工事）より支持のこと

/// : 改修範囲外

TITLE	DATE	NO
鳴門市役所東側付風棟改修工事		W-03
NAME	SCALE	
冷暖房設備 改修後	1/100	
株式会社 川建設	1級建築士登録 第126265	川端壮一郎



1階 平面図



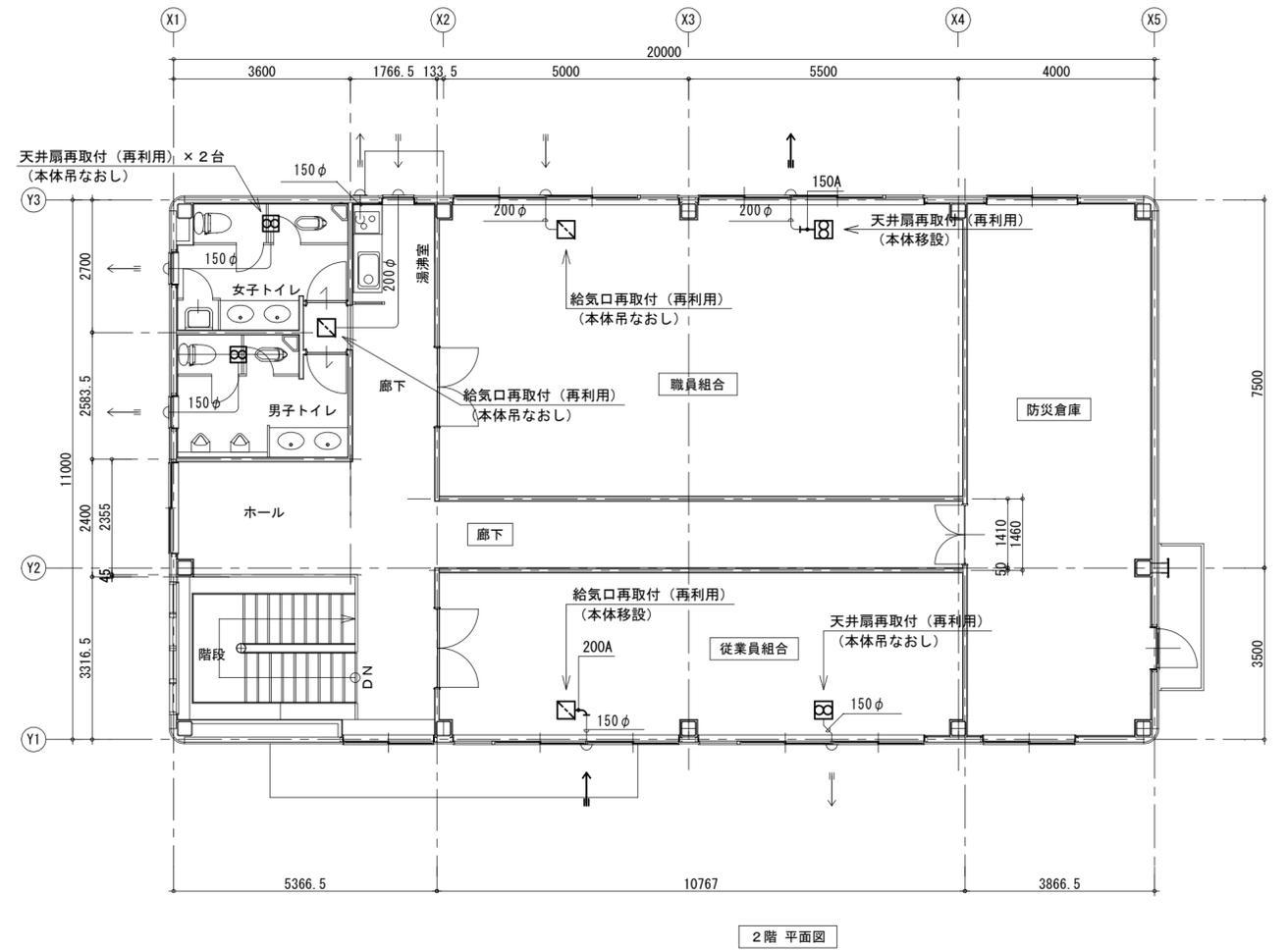
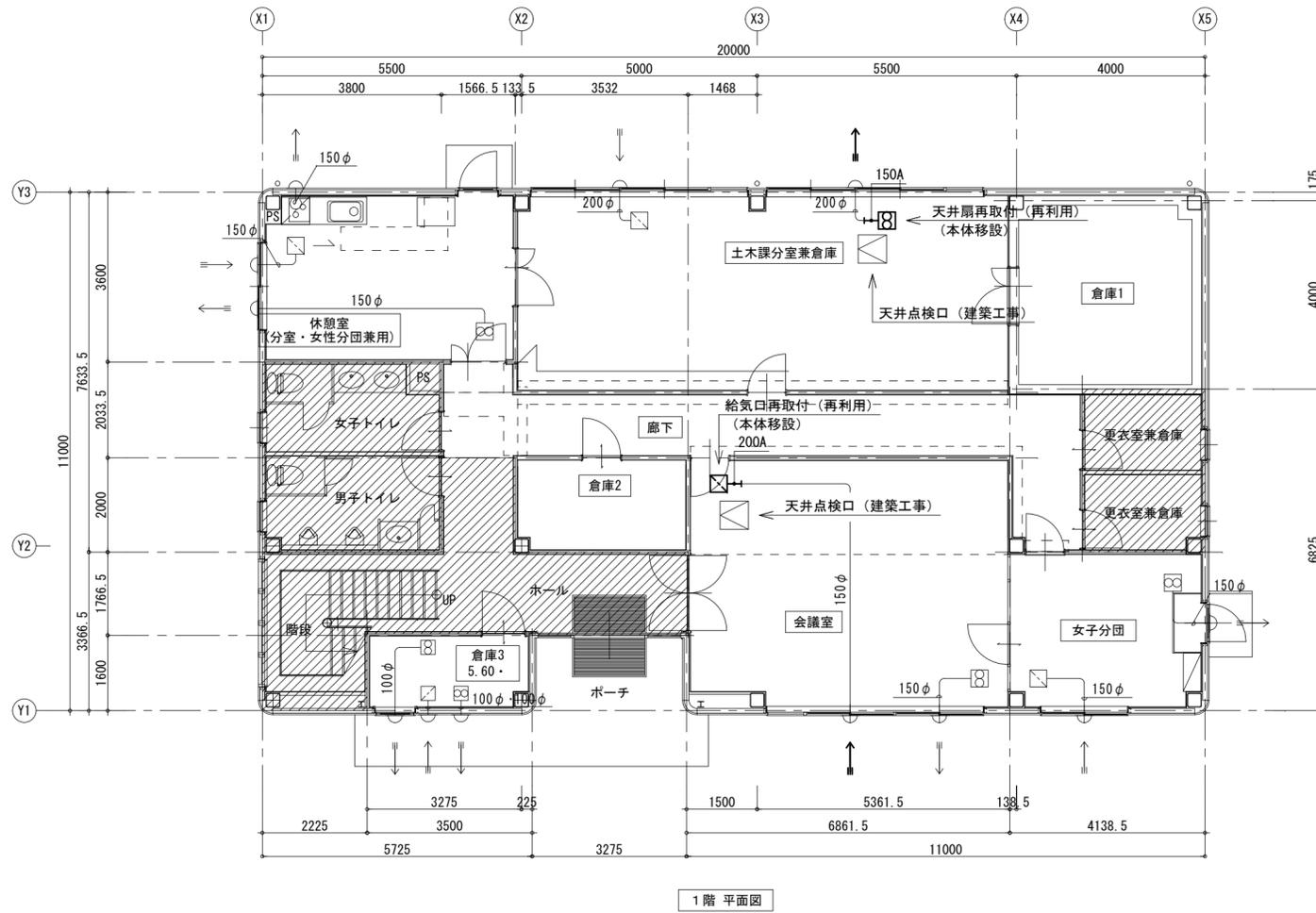
2階 平面図

冷媒管サイズ表	
記号	冷媒管
(A)	6.4φ × 9.5φ
(B)	6.4φ × 12.7φ
(C)	9.5φ × 15.9φ
(D)	25.4φ × 12.7φ

注記 1) × 撤去を示す
 2) 2階天井改修に伴い、器具は取外し再取付のこと

/// : 改修範囲外

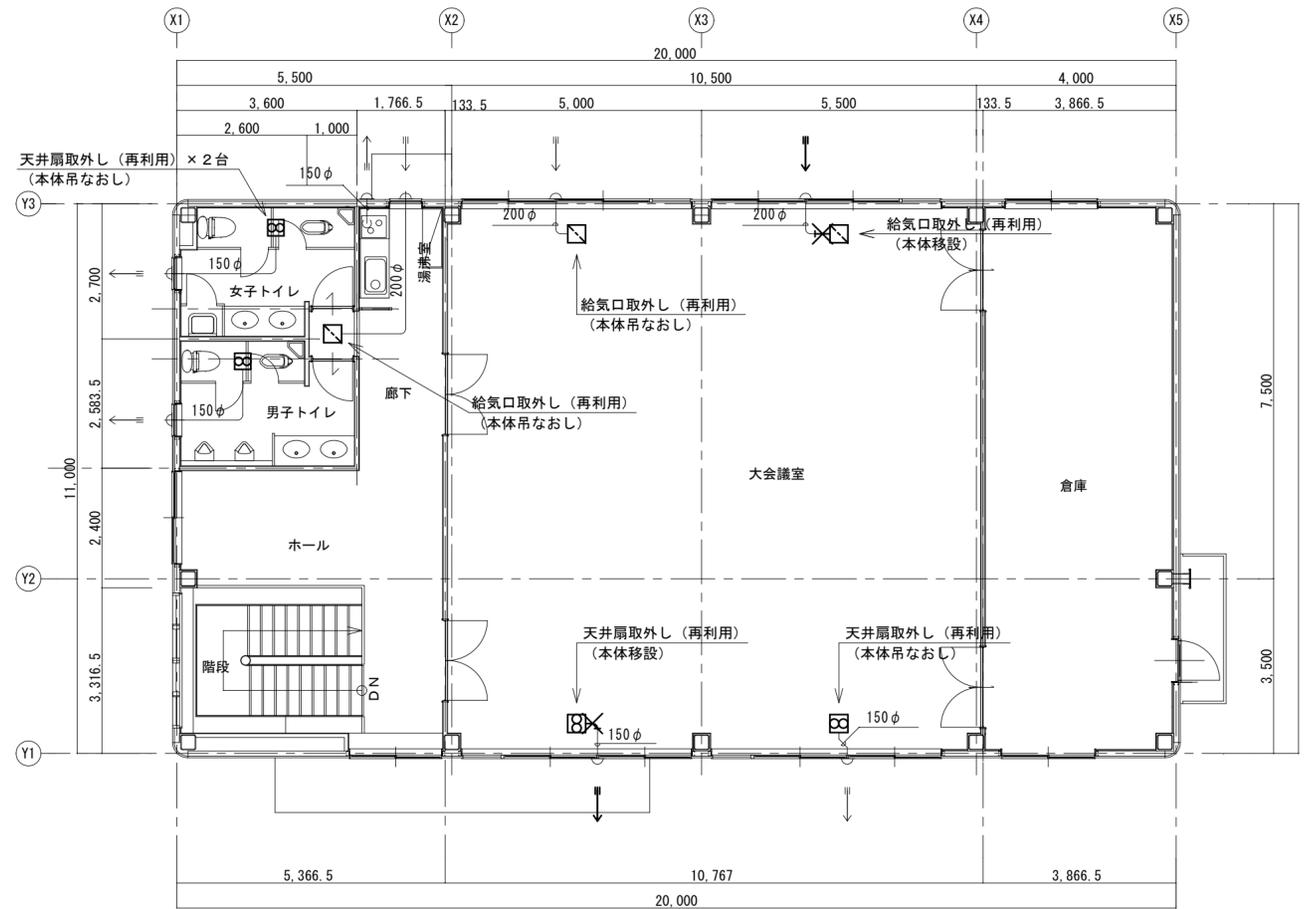
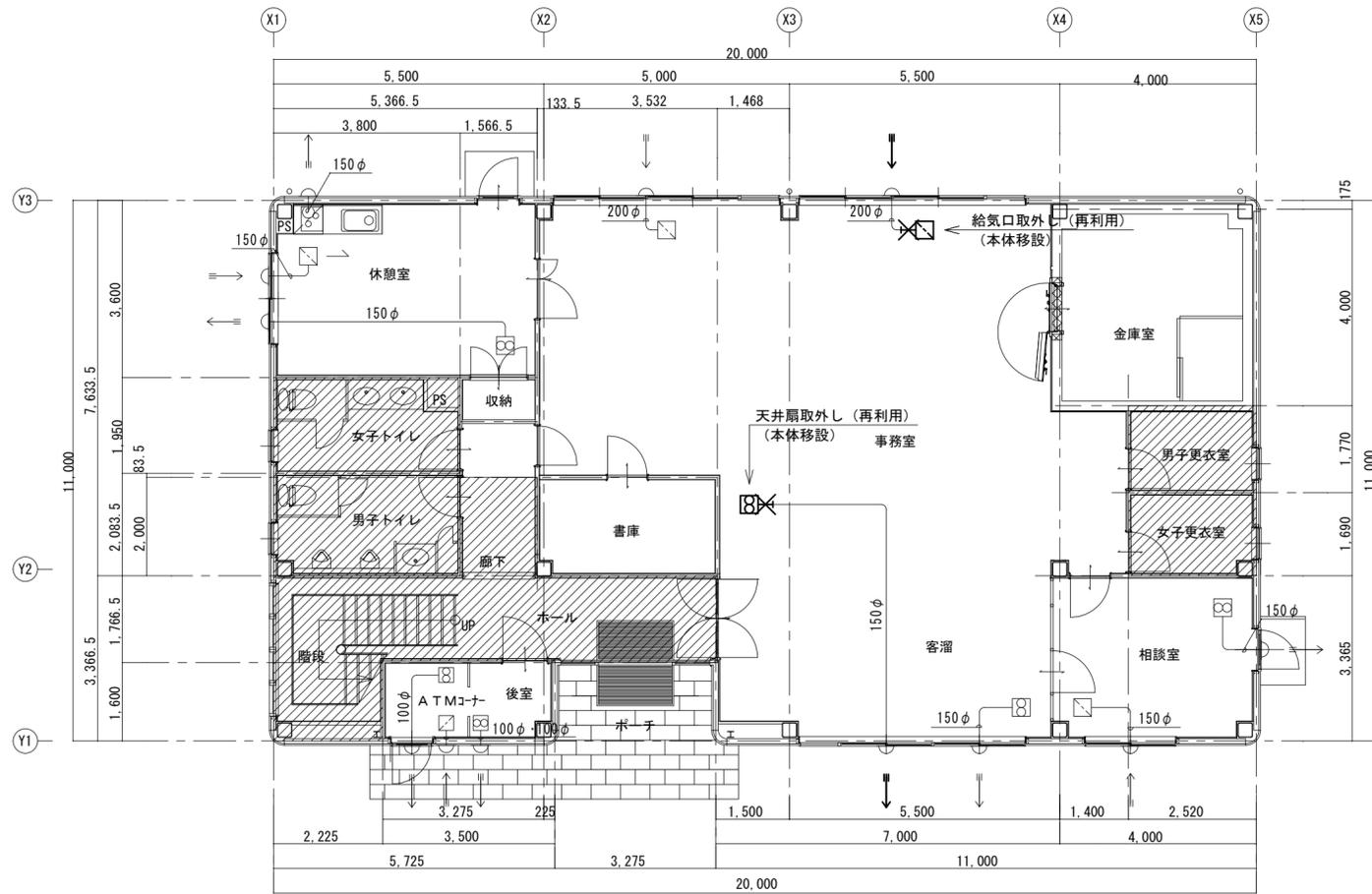
TITLE	DATE	NO
鳴門市役所東側付属棟改修工事		W-04
NAME	SCALE	
冷暖房設備 改修前		1/100
株式会社 川建設	1級建築士登録 第126265	川端壮一郎



注記 1) 2階天井改修に伴い、器具は取外し再取付のこと
 2) 器具は鋼材（建築工事）より支持のこと

/// : 改修範囲外

TITLE	DATE	NO
鳴門市役所東側付属棟改修工事		W-05
NAME	SCALE	
換気設備 改修後		1/100
株式会社 川建設計	1級建築士登録 第126265	川端壮一郎



- 注記 1) × 撤去を示す
 2) 2階天井改修に伴い、器具は取外し再取付のこと

/// : 改修範囲外

TITLE	DATE	NO
鳴門市役所東側付属棟改修工事		W-06
NAME	SCALE	
換気設備 改修前		1/100
株式会社 川建設計	1級建築士登録 第126265	川端壮一郎